

※ポリシーとの関連性 上級情報処理士資格取得のための必修科目です。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アカデミック・セミナー	後期	土1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前半：島村麗、後半：伊佐常利	3年	授業前または終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>情報専門職として活躍する講師(伊佐先生)の指導の下でより高度なマルチメディア処理を学ぶとともに、高校英語講師の経験を持つ講師(島村先生)の指導の下で英語字幕を加えたデジタル紙芝居を制作し、インターネットを通じて世界に発信するとともに、手製の絵本づくり・県内図書館・学校等への配布を通して、地域文化の蓄積と発信の意義、研究の手法についての理解をさらに深める。</p>	<p>毎回の授業での学び、授業外の課題の積み重ねを通して、より高いスキルの習得を目指しますので、他の資格科目と同様の学習態度で授業にのぞみましょう。 前提科目「児童文化論」で制作した、沖縄の昔話を題材とするソフトウェア(アニメーション)の素材を活用します。</p>
到達目標	以下のアカデミックスキルの修得を目指す。	
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 フォトショップ・イラストレーターを用いた高度な画像(イラスト)処理能力</li> <li>2 DTP(デジタル書籍編集)の基礎知識、本の仕組みに関する知識、製本技術</li> <li>3 グループワークに求められるコーディネート能力・課題解決能力・コミュニケーション能力</li> </ol>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・グループ作り・スケジュールの確認、英訳の注意点(島村)	英語翻訳
	2	グループワーク① 英語字幕の作成1 翻訳のポイント解説・昔話でよく使う表現(島村)	英語翻訳
	3	グループワーク② 英語字幕の作成2 下訳作業(島村)	英語翻訳・仮提出
	4	グループワーク③ 英語字幕の作成3 よくある間違い・ややこしい表現(島村)	英語翻訳・本提出
	5	グループワーク④ 英語字幕の作成4 最終チェック(島村)	英語翻訳・修正
	6	DTP実習 パソコンを使った書籍編集方法 ページ入れ替え、テキスト流し込み(自習)	絵本データ作成
	7	イラスト作成方法① Photoshopを利用したイラスト作成(伊佐)	イラスト作成練習
	8	イラスト作成方法② Photoshopを利用したイラスト作成(伊佐)	イラスト作成練習
	9	イラスト作成方法③ Illustratorを利用したイラスト作成(伊佐)	イラスト作成練習
	10	イラスト作成方法④ Illustratorを利用したイラスト作成(伊佐)	イラスト作成練習
	11	グループワーク① 素材イラストの準備(伊佐)	イラストの素材収集
	12	グループワーク② 素材イラストの準備(伊佐)	イラスト課題の作成
	13	アニメーション作成①(伊佐)	アニメーション課題の作成
14	アニメーション作成②(伊佐)	YOUTUBEへのアップロード	
15	絵本づくり① 糸かがり綴じ、表紙布の作成、製本・仕上げ(島村)	絵本製本	
16	絵本づくり② 絵本の完成・授業のまとめ(島村)	絵本製本・配布	
	テキスト・参考文献・資料など		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリントを配布、もしくはデータで提供する。</li> <li>・2GB以上を保存できるUSBフラッシュメモリを各自で準備すること。</li> </ul>		
	学びの手立て		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目は「児童文化論」を受講し、単位を得た学生が受講できます。「児童文化論」との同時受講はできません。</li> <li>・「児童文化論」と同じグループで、英語翻訳、製本作業を行います。</li> </ul>		
	評価		
	<p>グループワークでの取り組み(英語翻訳作業、展示作業、製本作業、図書館・学校等への寄贈も含む)と、ソフトウェア・絵本の完成度を総合的に評価する。</p> <p>平常点 25点(グループワークの参加状況、学習態度、積極性などを評価) レポート点1 50点(イラスト課題・アニメーション課題の完成度を評価) レポート点2 25点(英語字幕入りアニメーション課題の完成度を評価)</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>日本文化学科が専門科目として開講している上級情報処理士科目「地域文化情報論」「エリアスタディ演習」「図書館情報技術論」などを中心に、共通科目の情報科目も積極的に受講し、情報処理スキルをさらに高めていきましょう。</p>

※ポリシーとの関連性 上級情報処理士資格取得のための必修科目です。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アカデミック・セミナー	後期	土1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前半：伊佐常利、後半：島村麗	3年	授業前、または終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>情報専門職として活躍する講師(伊佐先生)の指導の下でより高度なマルチメディア処理を学ぶとともに、高校英語講師の経験を持つ講師(島村先生)の指導の下で英語字幕を加えたデジタル紙芝居を制作し、インターネットを通じて世界に発信するとともに、手製の絵本づくり・県内図書館・学校等への配布を通して、地域文化の蓄積と発信の意義、研究の手法についての理解をさらに深める。</p>	<p>毎回の授業での学び、授業外の課題の積み重ねを通して、より高いスキルの習得を目指しますので、他の資格科目と同様の学習態度で授業にのぞみましょう。 前提科目「児童文化論」で制作した、沖縄の昔話を題材とするソフトウェア(アニメーション)の素材を活用します。</p>
到達目標	以下のアカデミックスキルの修得を目指す。	
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 フォトショップ・イラストレーターを用いた高度な画像(イラスト)処理能力</li> <li>2 DTP(デジタル書籍編集)の基礎知識、本の仕組みに関する知識、製本技術</li> <li>3 グループワークに求められるコーディネート能力・課題解決能力・コミュニケーション能力</li> </ol>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・グループ作り・スケジュールの確認、英訳の注意点(島村)	英語翻訳
	2	グループワーク① 英語字幕の作成1 翻訳のポイント解説・昔話でよく使う表現(島村)	英語翻訳
	3	グループワーク② 英語字幕の作成2 下訳作業(島村)	英語翻訳・仮提出
	4	グループワーク③ 英語字幕の作成3 よくある間違い・ややこしい表現(島村)	英語翻訳・本提出
	5	グループワーク④ 英語字幕の作成4 最終チェック(島村)	英語翻訳・修正
	6	DTP実習 パソコンを使った書籍編集方法 ページ入れ替え、テキスト流し込み(自習)	絵本データ作成
	7	イラスト作成方法① Photoshopを利用したイラスト作成(伊佐)	イラスト作成練習
	8	イラスト作成方法② Photoshopを利用したイラスト作成(伊佐)	イラスト作成練習
	9	イラスト作成方法③ Illustratorを利用したイラスト作成(伊佐)	イラスト作成練習
	10	イラスト作成方法④ Illustratorを利用したイラスト作成(伊佐)	イラスト作成練習
	11	グループワーク① 素材イラストの準備(伊佐)	イラストの素材収集
	12	グループワーク② 素材イラストの準備(伊佐)	イラスト課題の作成
	13	アニメーション作成①(伊佐)	アニメーション課題の作成
	14	アニメーション作成②(伊佐)	YOUTUBEへのアップロード
15	絵本づくり① 糸かがり綴じ、表紙布の作成、製本・仕上げ(島村)	絵本製本	
16	絵本づくり② 絵本の完成・授業のまとめ(島村)	絵本製本・配布	

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プリントを配布、もしくはデータで提供する。</li> <li>・2GB以上を保存できるUSBフラッシュメモリを各自で準備すること。</li> </ul>
-------	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目は「児童文化論」を受講し、単位を得た学生が受講できます。「児童文化論」との同時受講はできません。</li> <li>・「児童文化論」と同じグループで、英語翻訳、製本作業を行います。受講者は特別な事情がない限り、同一の年度内で受講してください。</li> </ul>
--------	---

評価	<p>グループワークでの取り組み(英語翻訳作業、展示作業、製本作業、図書館・学校等への寄贈も含む)と、ソフトウェア・絵本の完成度を総合的に評価する。</p> <p>平常点 25点(グループワークの参加状況、学習態度、積極性などを評価) レポート点1 50点(イラスト課題・アニメーション課題の完成度を評価) レポート点2 25点(英語字幕入りアニメーション課題の完成度を評価)</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>日本文化学科が専門科目として開講している上級情報処理士科目「地域文化情報論」「エリアスタディ演習」「図書館情報技術論」などを中心に、共通科目の情報科目も積極的に受講し、情報処理スキルをさらに高めていきましょう。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性 学科のカリキュラムポリシー1（専門分野を学ぶ上で前提となる能力を修得するための「基礎科目」を設置）に関連する。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名 アカデミック・ライティング	期別	曜日・時限	単位
	担当者 奥山 貴之	前期	月 2	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	授業後の教室。eメール、t.okuyama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業では「リテラシー入門Ⅰ・Ⅱ」での学びをさらに発展させ、次の3領域について、より高度なアカデミックスキルの習得を目指す。 (1) 卒業論文の執筆に必要な文章表現力 (2) 卒業論文など学術的な文章の基本構成 (3) 卒業研究に必要な基本的なソフトウェアの操作能力の習得	メッセージ 1年次に修得した、リテラシーの能力を更に発展させた科目である。日本文化学科の学生として、大学の研究や論文作成に必要な、高度な能力の基礎を身に付けてほしい。その基礎的なスキルをもとに、研究テーマを絞り込み、所属ゼミを選択することになる。3年次のゼミでは、論文の書き方は習得済みとして、文献やデータから考察を深めることを念頭において授業を受けてほしい。
	到達目標 ①論理的な思考法にもとづくライティング能力を身に付け、実際に論理的な文章が書けるようになる。 ②卒業研究に求められるレポート・論文作成能力、情報処理スキルを用いたデータの集計・分析・プレゼンテーション能力の習得を目指すし、3年次から始まるゼミナールにおいて、論文作成の基礎を身につける。 ③グループワークに求められるコーディネート能力・課題解決能力を高め、協同で課題を見つけ、解決することができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	・オリエンテーション ・アカデミックライティングとは	テキスト：1章 はじめに
	2	・アカデミックワードと日常語	テキスト：2章の2.1
	3	・読点の付け方 ・見やすい表記＝視覚的な工夫	テキスト：2章の2.2、2.3
	4	・あいまいな文の回避 ・わかりやすい語順	テキスト：3章の3.1、3.2
	5	・長い文を分ける ・文のねじれの解消	テキスト：3章の3.3、3.4
	6	・「事実」と「意見」の区別 ・意見を支える「根拠」を集める	テキスト：4章の4.1、4.2
	7	・引用の方法	テキスト：4章の4.3
	8	・論文の基本的な構成	テキスト：5章の5.1
	9	・研究の問いを立てる	テキスト：5章の5.2
	10	・先行研究を探す ・先行研究をまとめる	テキスト：5章の5.3
	11	・調査方法のタイプ	テキスト：5章の5.4
	12	・アウトラインを考える	テキスト：6章の6.1
	13	・パラグラフ・ライティング	テキスト：6章の6.2
	14	・参考文献の書き方 ・注、図表について ・提出前の最終確認 ・excelの活用①	テキスト：7章の7.1～7.3
	15	・excelの活用② ・夏休みの課題について	テキスト：付録
	16	(予備日)	
	テキスト・参考文献・資料など		
	・学科のオリジナルテキストを使用します(初回授業時配布) ・参考文献： 安部朋世・福嶋健伸・橋本修編著(2013)『大学生のための日本語表現トレーニング ドリル編』三省堂 戸田山和久(2012)『新版 論文の教室ーレポートから卒論まで』NHK出版 石黒圭(2012b)『この1冊でちゃんと書ける！論文・レポートの基本』日本実業出版社 他		
	学びの手立て		
	【履修の心構え】 ①無断欠席をしないこと。 ②使用するテキストの保持および保管は各自の責任において為すこと。		
	評価		
	「夏休みの課題」50%、「別紙の課題」30%、平常点20% ①欠席が1/3を超える者には単位は認定しない。 ②「別紙の課題」は提出状況および内容で評価する。 ③「夏休みの課題」が未提出の場合は「不可」となるので注意。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目【上位科目】ゼミナール入門(2年次・後期)ゼミ(3年次から) (2) 次のステージ 後期ゼミナール入門で、自分の専門とする領域を決める。ゼミの決定にあたり、希望調査票と研究計画書(＋文献リスト)を作成する。カリキュラムポリシー4の、論理的・批判的思考力や課題探究力を養ってほしい
-------	---

※ポリシーとの関連性 学科のカリキュラムポリシー1（専門分野を学ぶ上で前提となる能力を修得するための「基礎科目」を設置）に関連する。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アカデミック・ライティング	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 千英子	2年	kshimoji@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	ゼミナールでの研究活動に必要なアカデミックスキルを習得することを目的として、文章表現法やアンケート調査の計画・実施、パソコンを用いた分析方法等を学習し、レポート報告を行う。	1年次に修得した、リテラシーの能力を更に発展させた科目である。日本文化学科の学生として、大学の研究や論文作成に必要な、高度な能力の基礎を身に付けてほしい。その基礎的なスキルをもとに、研究テーマを絞り込み、所属ゼミを選択することになる。3年次のゼミでは、論文の書き方は習得済みとして、文献やデータから考察を深めることを念頭において授業を受けてほしい。
到達目標	本授業を通して、①論理的な思考法にもとづくライティング能力を身に付け、実際に論理的な文章が書けるようになる。②情報処理スキルを用いたデータの集計、分析、プレゼンテーション能力を育み、量的研究分析と発表力を身に付けることができる。③グループワークに求められるコーディネート能力・課題解決能力を高め、協同で課題を見つけ、解決することができるようになる。④卒業研究に求められるレポート・論文作成能力の習得を目指し、3年次から始まるゼミナールにおいて、論文作成の基礎をみにつけることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	アカデミックワードと日常語の違い	演習問題（アカデミックワード）
	2	句読点の付け方・見やすい表記	演習問題（見やすい表記）
	3	曖昧な文の回避・分かりやすい語順	演習問題（分かりやすい語順）
	4	文の適切な長さや接続表現・文のねじれの解消	演習問題（ねじれの種類）
	5	結論を先に述べる・事実と意見の区別・データの解釈	演習問題（結論を先に書く）
	6	レポート・論文の構成・見出しの付け方・先行研究の整理	演習問題（文献情報の記載）
	7	調査計画の立て方・アンケート用紙の作成(グループワーク①)	グループ課題（調査項目を考える）
8	アンケート結果の集計・データのクリーニング(グループワーク②)	グループ課題（アンケート作成）	
9	データの解釈・仮説の検証	グループ課題（データ結合）	
10	結論と序論の書き方・夏休みの課題	レポート課題	
11	Excel表計算活用術 高度な関数を自在に操る	関数演習問題	
12	Excel活用術 3-D集計／統合機能	演習問題1／演習問題2	
13	Excel活用術 自動集計機能／フィルタオプション	演習問題3／演習問題4	
14	Excel活用術 ピボットテーブルの作成と活用	ピボットテーブル演習問題	
15	Excel活用術 マクロ機能 成績評価テスト	マクロ演習問題	
16	マクロ演習問題	夏休み課題・復習	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	テキスト・・・オリジナル資料 参考文献・・・安部朋世・福岡健伸・橋本修 編著、『大学生のための日本語表現トレーニング ドリル編』、三省堂、2013.1、本体1,900円+税		
	学びの手立て		
	①在学生オリエンテーションで、本授業の履修方法、クラス分けを説明する。必ず出席すること。 ②無断欠席をしないこと。 ③レジュメ等プリント類を多く使うが、保持および保管は学生の責任において為すこと。余分に刷らない。 ④本学図書館でのレポートライティングサポートを積極的に利用し、ライティングスキルを高めること。		
	評価		
	レポート80%、平常点20% ①欠席が1/3を超える者には単位は認定しない。 ②毎回の課題及び最終レポートの内容を評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目【上位科目】ゼミナール入門（2年次・後期）ゼミ（3年次から） (2) 次のステージ 後期ゼミナール入門で、自分の専門とする領域を決める。ゼミの決定にあたり、希望調査票と研究計画書(＋文献リスト)を作成する。カリキュラムポリシー4の、論理的・批判的思考力や課題探究力を養ってほしい。
-------	--

※ポリシーとの関連性 学科のカリキュラムポリシー1（専門分野を学ぶ上で前提となる能力を修得するための「基礎科目」を設置）に関連する。

[ /演習]

科目基本情報	科目名 アカデミック・ライティング	期別	曜日・時限	単位
	担当者 葛綿 正一	前期	月 2	2
		対象年次 2年	授業に関する問い合わせ h. gabu@okiu. ac. jp（2年次のアカデミック・アドバイザーとなります。）	

学びの準備	ねらい ゼミナールでの研究活動に必要なアカデミックスキルを習得することを目的として、文章表現法やアンケート調査の計画・実施、パソコンを用いた分析方法等を学習し、レポート報告を行う。	メッセージ 1年次に修得した、リテラシーの能力を更に発展させた科目である。日本文化学科の学生として、大学の研究や論文作成に必要な、高度な能力の基礎を身に付けてほしい。その基礎的なスキルをもとに、研究テーマを絞り込み、所属ゼミを選択することになる。3年次のゼミでは、論文の書き方は習得済みとして、文献やデータから考察を深めることを念頭において授業を受けてほしい。
	到達目標 本授業を通して、①論理的な思考法にもとづくライティング能力を身に付け、実際に論理的な文章が書けるようになる。②情報処理スキルを用いたデータの集計、分析、プレゼンテーション能力を育み、量的研究分析と発表力を身に付けることができる。③グループワークに求められるコーディネート能力・課題解決能力を高め、協同で課題を見つけ、解決することができるようになる。④卒業研究に求められるレポート・論文作成能力の習得を目指し、3年次から始まるゼミナールにおいて、論文作成の基礎をみにつけることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	
	1	アカデミックワードと日常語の違い	
	2	句読点の付け方・見やすい表記	
		時間外学習の内容	
	3	曖昧な文の回避・分かりやすい語順	演習問題（アカデミックワード）
	4	文の適切な長さや接続表現・文のねじれの解消	演習問題（見やすい表記）
	5	結論を先に述べる・事実と意見の区別・データの解釈	演習問題（分かりやすい語順）
	6	レポート・論文の構成・見出しの付け方・先行研究の整理	演習問題（ねじれの種類）
	7	調査計画の立て方・アンケート用紙の作成(グループワーク①)	演習問題（結論を先に書く）
	8	アンケート結果の集計・データのクリーニング(グループワーク②)	演習問題（文献情報の記載）
	9	データの解釈・仮説の検証	グループ課題（調査項目を考える）
	10	結論と序論の書き方・夏休みの課題	グループ課題（アンケート作成）
	11	Excel表計算活用術 高度な関数を自在に操る	グループ課題（データ結合）
	12	Excel活用術 3-D集計／統合機能	レポート課題
	13	Excel活用術 自動集計機能／フィルタオプション	関数演習問題
	14	Excel活用術 ピボットテーブルの作成と活用	演習問題1／演習問題2
	15	Excel活用術 マクロ機能 成績評価テスト	演習問題3／演習問題4
	16	マクロ演習問題	ピボットテーブル演習問題
			マクロ演習問題
			夏休み課題・復習
	テキスト・参考文献・資料など テキスト・・・オリジナル資料 参考文献・・・安部朋世・福嶋健伸・橋本修 編著、『大学生のための日本語表現トレーニング ドリル編』、三省堂、2013.1、本体1,900円+税		
	学びの手立て ①在学生オリエンテーションで、本授業の履修方法、クラス分けを説明する。必ず出席すること。 ②無断欠席をしないこと。 ③レジュメ等プリント類を多く使うが、保持および保管は学生の責任において為すこと。余分に刷らない。 ④本学図書館でのレポートライティングサポートを積極的に利用し、ライティングスキルを高めること。		
	評価 レポート80%、平常点20% ①欠席が1／3を超える者には単位は認定しない。 ②毎回の課題及び最終レポートの内容を評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目【上位科目】ゼミナール入門（2年次・後期）ゼミ（3年次から） (2) 次のステージ 後期ゼミナール入門で、自分の専門とする領域を決める。ゼミの決定にあたり、希望調査票と研究計画書(＋文献リスト)を作成する。カリキュラムポリシー4の、論理的・批判的思考力や課題探究力を養ってほしい。
-------	--

※ポリシーとの関連性 広い領域の知識に興味・関心を持ち、変化し続ける国際社会に適用できる思考力を培う。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジア太平洋文化論	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安 志那	2年	9-605(研究室)、ahn@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 現代社会における日本を含むアジア太平洋諸国の大衆文化を概観する。各国の大衆文化がどのように影響を与え合い、変容し続けているのかを理解し、これからの国際社会の変化に適用する力を育てる。	メッセージ 本講義は、日本を含むアジア太平洋諸国の文化接触、変容に関する知識の習得と分析を目指します。積極的にグループワークに取り組み、意見を交換することで多様な知識・文化現象への興味と関心を発見してください。
	到達目標 アジア太平洋地域文化における共通性と「差異」を理解し、それを自分のことばで説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスの確認
	2	文化と大衆	講義内容の復習
	3	大衆文学の越境	講義内容の復習
	4	大衆文化としてのバレエ	講義内容の復習
	5	女性歌劇とジェンダー	講義内容の復習
	6	アジアという商品	講義内容の復習
	7	韓ドラの系譜	講義内容の復習
	8	「武侠」の世界観	講義内容の復習
	9	インド映画の世界	講義内容の復習
	10	東南アジアとスポーツ	講義内容の復習
	11	メディアミックスと文化産業	講義内容の復習
	12	オンラインとサブカルチャー	講義内容の復習
	13	プレゼンテーションとディスカッション①	発表の準備とディスカッション
	14	プレゼンテーションとディスカッション②	発表の準備とディスカッション
	15	プレゼンテーションとディスカッション③	発表の準備とディスカッション
	16	まとめ	講義全体の復習及び質疑応答
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて指示する。		
	学びの手立て グループワークとディスカッションに積極的に参加することが望ましい。基本的に対面授業であるが、オンラインに切り替わる際には担当教員からの連絡に注意すること。		
	評価 プレゼンテーション（30%）、授業参加度（30%）、期末レポート（40%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 アジア太平洋地域文化、大衆文化に関する科目を継続して履修し、興味を深めていくこと。
-------	--

※ポリシーとの関連性 「5. 各専門分野で学んだ知識・技能を総合的・実践的に活用する力を養うための「プロジェクト科目」を設置します。」

[ / ]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	インターンシップ I	その他	その他	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	学科インターンシップ運営委員 (田場・桃原) 田場 裕規	3年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄国際大学インターンシップは各学科の専門教育科目として、県内の企業や公官庁で実施しています。その目的は学生が実社会での体験学修を通して、大学教育では得難い実践的知識と技能の習得、社会人としての適性を見定め、職業観を養うことにあります。参加にあたっては、社会人基礎力を大学生活での取り組みに置き換え、全プログラムを通して意識的に実行することが求められます。</p>	<p>事前ガイダンスではインターンシップに必要な心構えやビジネスマナー、社会人に必要なスキル等を学ぶことで、安心して実習に参加できます。さらに、事後ガイダンスや報告会の参加、報告書作成を通して、自らの学びを言語化することで「働く価値観」をより明確にします。本プログラムを通して、働くとはどういうことか具体的に考える機会にしましょう。</p>
到達目標	<p>①社会人としてのマナーを修得する。 ②職業観を養い、自らの適性を見定める。 ③組織の構造と機能を理解する。 ④企業・組織の基本理念と将来ビジョンの理解に努め、効率的な組織の仕組みを考える。 ⑤組織における自らの役割を理解した上で、思考し行動する力を修得する。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1回オリエンテーション (募集説明会) ※欠席不可	面接資料作成 (申込手続き後)
	2	各学科担当教員による面接および学内選考	面接担当者へ面接日の事前確認
	3	第2回オリエンテーション (実習生の顔合わせ、リーダー決定、今後の説明等) ※欠席不可	実習先に関する情報収集
	4	事前ガイダンス1 インターンシップの意義・目的	ガイダンスの振り返り
	5	事前ガイダンス2 ビジネススキル①	社会人に必要なマナー習得
	6	事前ガイダンス3 ビジネススキル②	実習先へ電話によるご挨拶
	7	事前ガイダンス4 インターンシップに必要な企業研究	実習先業界の情報収集 (新聞等)
	8	事前ガイダンス5 インターンシップの目標設定	社会人基礎力ベースの目標設定
	9	第3回オリエンテーション (実習前後の注意事項、学科報告会の実行委員決定等) ※欠席不可	実習と報告会に向けて準備
	10	インターンシップ実習 (夏期休業中の2or3週間) ※実習時間数により単位数が異なる	出勤簿・日報へ押印・記入し振り返り
	11	インターンシップ実習 (夏期休業中の2or3週間) ※実習時間数により単位数が異なる	実習先での座学 (業種、業界研究)
	12	インターンシップ実習 (夏期休業中の2or3週間) ※実習時間数により単位数が異なる	実習先での業務体験 (接客、事務)
	13	インターンシップ実習 (夏期休業中の2or3週間) ※実習時間数により単位数が異なる	実習録日報まとめ (実習振り返り)
	14	事後ガイダンス1 インターンシップを通して考えるキャリア形成	ガイダンス内容を元に報告書作成
15	事後ガイダンス2 学科報告会での担当別研修 (発表者、司会、その他)	学科実習生全員で報告会運営準備	
16	学科報告会 (実習で得た学びを発表し、全体で共有する)	全体を通して学びの振り返り	

テキスト・参考文献・資料など

実習生へ実習録を配布しますので、ガイダンス時の記録や実習中の出勤簿・日報などを記載してください。それらの記録をもとに、最終的に報告書作成や報告会の準備を行ってください。  
また、ガイダンス時に資料を配布しますので、あとで振り返りできるように整理してください。

学びの手立て

【応募資格】 ①各学科で受講可能となっている年次の学生 (履修ガイドの学科選択科目を各自で確認すること) ②連続して2週間または3週間のインターンシップを意欲的に行える者 ③第1回オリエンテーション (募集説明会) から報告会まで、年間スケジュールと内容を理解して意欲的に臨める者  
【注意事項】 ①各学科担当教員による面接を受けること ②全3回のオリエンテーションに参加すること (欠席不可) ③事前・事後ガイダンスを受講すること (他講義と重ならないよう確認すること) ④報告会を運営・参加すること ⑤連絡事項は、沖国大ポータル「学内連絡」、メールアドレス (学籍番号) へ連絡するので見落としがないよう確認すること

評価

【出席について】 出席は単位習得の前提条件ですので、各オリエンテーションやガイダンス、報告会への出欠を毎回確認します。アルバイト等による欠席は認められません。出席状況が著しく悪い場合は、実習取り消しや不可となります。【評価方法・割合】 ①実習先による学生評価調査 20% ②インターンシップ実習録 (各ガイダンスの記録や課題、勤務状況、日報などから学びの状況を確認) 60% ③インターンシップ報告書 (実習先に関する理解度、インターンシップを通して得られたこと等について確認) 20%

学びの継続

次のステージ・関連科目

本インターンシッププログラムを通して気づいた自身の強みはさらに伸ばし、足りないと感じた部分は残りの学生生活で改善できるように取り組んでほしい。  
また、得られた職業観は今後のキャリアを考える際に役立ててほしい。

※ポリシーとの関連性

「5. 各専門分野で学んだ知識・技能を総合的・実践的に活用する力を養うための「プロジェクト科目」を設置します。」

[ / ]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	インターンシップⅡ	その他	その他	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	学科インターンシップ運営委員（田場・桃原） 田場 裕規	3年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄国際大学インターンシップは各学科の専門教育科目として、県内の企業や公官庁で実施しています。その目的は学生が実社会での体験学修を通して、大学教育では得難い実践的知識と技能の習得、社会人としての適性を見定め、職業観を養うことにあります。参加にあたっては、社会人基礎力を大学生活での取り組みに置き換え、全プログラムを通して意識的に実行することが求められます。</p>	<p>事前ガイダンスではインターンシップに必要な心構えやビジネスマナー、社会人に必要なスキル等を学ぶことで、安心して実習に参加できます。さらに、事後ガイダンスや報告会の参加、報告書作成を通して、自らの学びを言語化することで「働く価値観」をより明確にします。本プログラムを通して、働くとはどういうことか具体的に考える経験にしませんか。</p>
到達目標	<p>①社会人としてのマナーを修得する。 ②職業観を養い、自らの適性を見定める。 ③組織の構造と機能を理解する。 ④企業・組織の基本理念と将来ビジョンの理解に努め、効率的な組織の仕組みを考える。 ⑤組織における自らの役割を理解した上で、思考し行動する力を修得する。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1回オリエンテーション（募集説明会） ※欠席不可	面接資料作成（申込手続き後）
	2	各学科担当教員による面接および学内選考	面接担当者へ面接日の事前確認
	3	第2回オリエンテーション（実習生の顔合わせ、リーダー決定、今後の説明等） ※欠席不可	実習先に関する情報収集
	4	事前ガイダンス1 インターンシップの意義・目的	ガイダンスの振り返り
	5	事前ガイダンス2 ビジネススキル①	社会人に必要なマナー習得
	6	事前ガイダンス3 ビジネススキル②	実習先へ電話によるご挨拶
	7	事前ガイダンス4 インターンシップに必要な企業研究	実習先業界の情報収集（新聞等）
	8	事前ガイダンス5 インターンシップの目標設定	社会人基礎力ベースの目標設定
	9	第3回オリエンテーション（実習前後の注意事項、学科報告会の実行委員決定等） ※欠席不可	実習と報告会に向けて準備
	10	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	出勤簿・日報へ押印・記入し振り返り
	11	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	実習先での座学（業種、業界研究）
	12	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	実習先での業務体験（接客、事務）
	13	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	実習録日報まとめ（実習振り返り）
	14	事後ガイダンス1 インターンシップを通して考えるキャリア形成	ガイダンス内容を元に報告書作成
15	事後ガイダンス2 学科報告会での担当別研修（発表者、司会、その他）	学科実習生全員で報告会運営準備	
16	学科報告会（実習で得た学びを発表し、全体で共有する）	全体を通して学びの振り返り	

テキスト・参考文献・資料など

実習生へ実習録を配布しますので、ガイダンス時の記録や実習中の出勤簿・日報などを記載してください。それらの記録をもとに、最終的に報告書作成や報告会の準備を行ってください。また、ガイダンス時に資料を配布しますので、あとで振り返りできるように整理してください。

学びの手立て

【応募資格】 ①各学科で受講可能となっている年次の学生（履修ガイドの学科選択科目を各自で確認すること） ②連続して2週間または3週間のインターンシップを意欲的に行える者 ③第1回オリエンテーション（募集説明会）から報告会まで、年間スケジュールと内容を理解して意欲的に臨める者

【注意事項】 ①各学科担当教員による面接を受けること ②全3回のオリエンテーションに参加すること（欠席不可） ③事前・事後ガイダンスを受講すること（他講義と重ならないよう確認すること） ④報告会を運営・参加すること ⑤連絡事項は、沖国大ポータルの「学内連絡」、メールアドレス（学籍番号）へ連絡するので見落としがないよう確認すること

評価

【出席について】 出席は単位習得の前提条件ですので、各オリエンテーションやガイダンス、報告会への欠席を毎回確認します。アルバイト等による欠席は認められません。出席状況が著しく悪い場合は、実習取り消しや不可となります。【評価方法・割合】 ①実習先による学生評価調書20% ②インターンシップ実習録（各ガイダンスの記録や課題、勤務状況、日報などから学びの状況を確認）60% ③インターンシップ報告書（実習先に関する理解度、インターンシップを通して得られたこと等について確認）20%

学びの継続

次のステージ・関連科目

本インターンシッププログラムを通して気づいた自身の強みはさらに伸ばし、足りないと感じた部分は残りの学生生活で改善できるように取り組んでほしい。また、得られた職業観は今後のキャリアを考える際に役立ててほしい。



※ポリシーとの関連性 上級情報処理士資格を取得するための選択必修科目です。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	エリアスタディ演習	後期	土3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-伊佐 常利	3年	授業終了後に受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	沖縄・琉球文化を世界に向けて広く発信していくにはICTは最適にツールである。本科目は、ICTを用いた文化発信のスキルを実践的に身に付ける為の専門科目と位置づけ、Google Web Designerを用いた琉球語や沖縄の伝統文化を題材とするクイズ形式の学習ソフトウェアを作成する。	毎回の授業や授業外の課題の積み重ねを通して、より高いスキルの習得を目指します。アニメーション作成だけでなくイラスト作成や音声処理なども行い、情報処理および情報発信技術がより深く学べます。

到達目標
① Google Web Designerを用いてアニメーションを作成することができる
② アニメーション作成に必要な音声情報、画像情報を適切に処理できる
③ プログラムを用いて条件分岐型の簡易ゲームを作成することができる

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	アニメーションの制作①：Web Designerの基本（環境構築、描画ツールとHTML）	図形描画の復習
	2	アニメーションの制作②：Web Designerの基本（アニメーション設定①）	アニメーションの復習
	3	アニメーションの制作③：Web Designerの基本（アニメーション設定②、モーションガイド）	課題の為の素材を準備
	4	アニメーションの制作④：Web Designerの基本（画像および音声の追加、パブリッシュ）	イラスト作成
	5	アニメーションの制作⑤：イラスト作成（ペイント系ソフトの使い方）	音声の準備
	6	プログラム基礎① プログラムの概念と基本記述/フレーム操作	課題（簡易ゲーム）作成の為の準備
	7	プログラム基礎② 変数/テキスト/プロパティ	課題（簡易ゲーム）作成の為の準備
	8	プログラム基礎③ 関数/イベント	課題（簡易ゲーム）作成の為の準備
	9	プログラム基礎④ 条件分岐（if文）	課題（簡易ゲーム）作成の為の準備
	10	プログラム基礎⑤ プログラムまとめ/課題（簡易ゲーム）作成の準備	課題（簡易ゲーム）作成の為の準備
	11	音声情報処理 フリーソフトを用いたWAVファイルの編集、音声の変換、音声ファイル収集	音声の変換練習、音声の素材収集
	12	プログラム応用① 簡易ゲームの作成①	課題（簡易ゲーム）の作成
	13	プログラム応用② 簡易ゲームの作成②	課題（簡易ゲーム）の作成
	14	プログラム応用③ 簡易ゲームの作成③	課題（簡易ゲーム）の作成
15	課題発表および提出		
16			

テキスト・参考文献・資料など
・プリントを配布する。
・2GB以上を保存できるUSBフラッシュメモリを各自で準備すること。

学びの手立て
・講義で配布したプリントを用意すること。
・データを保存できるUSBメモリを毎回用意すること。

評価
平常点 30点（单元ごとの課題提出状況、到達度を評価）
レポート点 70点（課題発表での完成度を評価）

学びの継続
次のステージ・関連科目
日本文化学科が専門科目として開講している上級情報処理士科目「地域文化情報論」「図書館情報技術論」などを中心に、共通科目の情報科目も積極的に受講し、情報処理スキルをさらに高めていきましょう。

※ポリシーとの関連性

規範的とされる標準語（共通語）と地方の言葉との違いを言語学的に確認する。また、自分の身の回りにある言語学的現象に気付く。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	応用言語学	前期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-仲間 恵子	2年	下記メールで受け付けます。ptt490@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 規範的な標準語を学ぶだけでなく、それを応用し、地方の言葉にもある言語学的な現象を見抜く力を身につける。また、伝統的な琉球諸語も学んだ人には、二つの言語が接触したときにおこる現象についての知識を手に入れる。日常的な言葉の使用実態をデータ化し、理論にもとづいた整理のしかたを学ぶ。	メッセージ アナウンサーが話すような標準語でもなく、祖父母世代が話す伝統的な方言でもなく、みなさん自身が日常使う言葉について考えます。耳にする音声、目にする文字すべてが研究対象であることを知ってください。
	到達目標 ねらいにもとづき、規範的な標準語と地方の言葉を区別できるようになる。また、接触言語についてかかれた論文、社会言語学と言語学の差異を理解する。日常の言語生活から研究材料を取り出し、データ化するトレーニングをする。そのため、講義の各回の内容ごとに、自身が気づいた、論文を読んで思いだした接触言語体験例をあげてもらい、出席カードとともに提出する。9回～10回ごろに、レポートの課題を提示し、データ数を指定して、主に文字資料から言語接触の例を取り出し、分析し、提出する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイドダンス・琉球列島の言語とは	
	2	日本語標準語・琉球列島の言葉に関する基本	
	3	接触言語における単語作り1・名詞編	テキストを事前に読む
	4	接触言語における単語作り2・動詞/形容詞編	テキストを事前に読む
	5	助詞にみられる言語接触1 主に格助詞	テキストを事前に読む
	6	助詞にみられる言語接触2 とりたて	テキストを事前に読む
	7	動詞における言語接触1 語幹	テキストを事前に読む
	8	動詞における言語接触2 活用・アスペクト・ムード	テキストを事前に読む
9	形容詞における言語接触1 語幹・意味 【レポート課題提示】	レポートに関する用例あつめ・分析	
10	形容詞における言語接触1 活用	レポートに関する用例あつめ・分析	
11	沖縄島北部・奄美諸島における言語接触	レポートに関する用例あつめ・分析	
12	宮古諸島・八重山諸島における言語接触	レポートに関する用例あつめ・分析	
13	動詞における言語接触3 受身・使役・可能 【レポート提出】	レポートに関する用例あつめ・分析	
14	データの収集と分析におけるモラルと作法	自身のレポートのやり方を省みる	
15	レポート解説・まとめ		
16			
実践	テキスト・参考文献・資料など 教科書は教員で用意する。配布日を除き、講義の進捗を考え、次回に進みそうな範囲は読んでおくこと。講義ではあえて何ページまでとは指定しない。日本語・琉球諸語以外の「接触言語」の研究書なども参考になる。		
	学びの手立て 身近にある郷土関係図書を読み、接触言語的表現がないか参考にする。国語、日本語、言語学の専門用語をもちいた説明がなぜ必要なのか考えながら受講する。		
	評価 各回の出席を兼ねた課題、内容、取組み具合40%。レポート60%とする。15回の講義のうち、6回以上の欠席は不可とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本語標準語、琉球諸語、接触言語に関連する分野。日常の言葉遣いに敏感になる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	漢文学Ⅰ	前期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	2年	授業終了後に教室で受け付けます。または、メールで受け付けます。ytaba@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 国語科教員としての資質、能力の一部である漢文学の知見を深め、漢字文化や中国文化について学修する。	メッセージ 白文を訓読する演習を多く行います。予習をして授業にのぞんでください。【実務経験】高等学校教諭だった現場経験を生かして、授業実践に関する視点も意識した指導を行います。
	到達目標 ①漢文の基本的な構造と句形を理解する。 ②漢文訓読法（訓点）の規則に従って、正確に訓読ができるようになる。 ③漢和辞典などを利用して、各々の漢字や単語の意味を調べることができる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス1 漢文訓読とは何か/文体としての位置づけ/書き下し文との共通点・相違点	特になし
	2	ガイダンス2 漢文訓読の基礎/段落/改行/句読点/旧字体/新字体/異体字/当て字/国字	前時の復習
	3	語彙について(1)漢文要素（漢語・訓読表現・典拠・漢文式表記）(2)和文要素（和語・国訓・和漢異議	資料の予習
	4	●発音について 音読み/訓読み ●漢文法、国文法について	資料の予習
	5	典型的な訓読表現	資料の予習
	6	白水素女	資料の予習
	7	枕中記	資料の予習
	8	鴻門之会	資料の予習
9	四面楚歌	資料の予習	
10	論語	資料の予習	
11	孟子	資料の予習	
12	盗智	資料の予習	
13	畏饅頭	資料の予習	
14	漢文教育の理論と実践	資料の予習	
15	漢文の学習指導	資料の予習	
16	期末考査	考査の振り返り	
	テキスト・参考文献・資料など 漢文資料は印刷し配布します。『新字源』『漢語林』など、辞典を必携すること。		
	学びの手立て 漢和辞典や漢文法のハンドブックを何度も活用して、漢文訓読に必要な知識や技能を身に付けてください。そのためには、白文を事前に視写したり、訓読文をノートにまとめたり、語句を調べたりする予習が重要です。		
	評価 小課題（30%）、考査（40%）、授業参加状況（30%）を総合的に評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 国語科教職課程受講者、さらに学びを深めたい方は「漢文学Ⅱ」も受講してください。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	漢文学Ⅱ	後期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	2年	授業終了後に教室で受け付けます。または、メールで受け付けます。ytaba@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 国語科教員としての資質、能力の一部である漢文学の知見を深め、漢字文化や中国文化について学修する。	メッセージ 白文を訓読する演習を多く行います。予習をして授業にのぞんでください。【実務経験】高等学校教諭だった現場経験を生かして、授業実践に関する視点も意識した指導を行います。
	到達目標 ①漢文の基本的な構造と句形を理解する。 ②漢文訓読法（訓点）の規則に従って、正確に訓読ができるようになる。 ③漢和辞典などを利用して、各々の漢字や単語の意味を調べることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス1 漢文を読むために（1）	特になし
	2	ガイダンス2 漢文を読むために（2）	前時の復習
	3	『遺老説伝』 訓読演習 1	資料の予習
	4	『遺老説伝』 訓読演習 2	資料の予習
	5	『遺老説伝』 訓読演習 3	資料の予習
	6	『遺老説伝』 訓読演習 4	資料の予習
	7	『遺老説伝』 訓読演習 5	資料の予習
	8	『遺老説伝』 訓読演習 6	資料の予習
	9	『遺老説伝』 訓読演習 7	資料の予習
	10	『遺老説伝』 訓読演習 8	資料の予習
	11	『遺老説伝』 訓読演習 9	資料の予習
	12	『遺老説伝』 訓読演習 10	資料の予習
	13	『遺老説伝』 訓読演習 11	資料の予習
	14	『遺老説伝』 訓読演習 12	資料の予習
	15	『遺老説伝』 訓読演習 13	資料の予習
	16	期末考査	考査の振り返り
	テキスト・参考文献・資料など 漢文資料は印刷し配布します。『新字源』『漢語林』など、辞典を必携すること。		
	学びの手立て レポーターを決めて、発表形式で授業を行います。レポーターは、所定の漢文資料の①翻字、②書き下し文、③語釈、④通釈、⑤関連資料を準備してください。レポーター以外の者も、①～④の作業を事前に済ませてから授業に参加するように。		
	評価 小課題（30%）、考査（30%）、授業参加状況・レジュメ（30%）、ノート・ポートフォリオ（10%）を総合的に評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「漢文学Ⅱ」で扱う『遺老説伝』は琉球の漢文資料として大変貴重なものです。近世琉球人は、中国語の習得とともに、日本の伝統的な訓法の習得にも努めました。その訓法に影響を与えたのは、「桂庵和尚家法倭點」などではないかと言われています。同書に関連付けた学びを継続してください。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外国語コミュニケーション演習	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-島村 麗	4年	ptt929@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	多様な文化を背景とした人々の効果的なコミュニケーションの方法を考えながら、自文化に関する知識や認識を英語という媒介語を用いて深めていく。そしてそれらを効果的に発信する方法を身につけ、国際社会に積極的に関わっていく基盤を整えていく。世界共通の言語となりつつある英語を道具として使い、グローバル時代に必要となる調整力を身につけていく。	自国の文化について、諸外国の人々に向け、特に伝えたいことや話し合ってみたいこと、意見を求めてみたいことなどを常日頃から考え、英語を用いて実際のコミュニケーションを楽しんでほしい。また将来の職業（日本語教師など）につなげていってほしい。
到達目標	伝えたい、継承したい、疑問に思う、一緒に考えたい、発展させたいと考える課題を見つける。それを世界共通語になりつつある英語で、わかりやすく伝える方法を学んでいく。ゲストとの交流や、メディア等も駆使して多様な人々に英語で伝えるという生の経験を重ね、多文化共生社会で生きていることを実感し、コミュニケーションの方法を磨いていく。	

学びの実践	学びのヒント	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	オリエンテーション(講義内容) /英語による講師自己紹介	シラバスを前もって読んでおく	
	2	英語による自己紹介の準備 (パワーポイント/その他を利用)	自己紹介文を作成する (英語)	
	3	プレゼンテーション No.1: 英語による自己紹介	自己紹介の練習 (英語)	
	4	Introducing Okinawa (沖縄の歴史と社会)	「History of Okinawa」予習	
	5	Talking about Japan (日本の人口/文字/その他)	Forms による復習問 (提出)	
	6	Talking about Japan (敬語/東京オリンピック/自動販売機)	Forms による復習問 (提出)	
	7	Talking about Japan (AKB48/ オタク/皇室/武士)	Forms による復習問題 (提出)	
	8	Talking about Japan (コンビニ/パチンコ/カラオケ/居酒屋)	Forms による復習問題 (提出)	
9	Talking about Japan (ラーメン/マンガ/アニメ)	Forms による復習問題 (提出)		
10	Talking about Japan (旅館/温泉/納豆/京都)	Forms による復習問題 (提出)		
11	Talking about Japan (方言/神社と寺/芸者)	Forms による復習問題 (提出)		
12	Talking about Japan (お好み焼き/たこ焼き/茶道)	Forms による復習問題 (提出)		
13	Talking about Japan (子供の日/お盆/成人の日)	Forms による復習問題 (提出)		
14	Talking about Japan (戸籍と住民票/学校制度/塾)	Forms による復習問題 (提出)		
15	プレゼンテーション 準備・作成: (沖縄/日本について)	Forms による復習問題 (提出)		
16	プレゼンテーション No.2 ( power point / 写真 / 絵画) 等を利用して発表	Forms によるまとめの問題 (提出)		
テキスト・参考文献・資料など	テキスト: 「日本のことを1分英語で話してみる」KADOKAWA出版: その他 (第1回目の授業にてテキストを紹介する。また、その他の資料を随時配布する)			
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的に、あるいは、社会やその他に、問題意識をもち、課題に取り組むこと。</li> <li>・英語によるコミュニケーション力をつけていくことにもなるので、地道に積み上げていこう。</li> <li>・伝えたい、コミュニケーションしたいという気持ちを大切にし、積極的に英語を話す努力をして欲しい。</li> </ul>			
評価	(1) 授業への参加・取り組み (ペアワーク・グループワーク) 10点 (2) Formsによる提出物: 12回x5点=60点 (3) プレゼンテーション: 2回x15点=30点 1以上 (1) (2) (3) の合計を100点満点として評価する。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 諸外国の人々と積極的に交わり、自国の事や他国の事情も英語を使って理解しあい、グローバル社会で生きる力を身につけるように、英検やTOEICなどの検定試験にも挑戦して、常に英語に対して積極的に学習して欲しい。
-------	---

※ポリシーとの関連性

学校図書館サービス論は、学校司書のモデルカリキュラム必修科目であり、日文専門科目の「資格科目」として位置づけられます

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名 学校図書館サービス論	期別 後期	曜日・時限 土3	単位 2
	担当者 -手登根 千津子	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ	
			授業後に教室で受け付けます。必要に応じメールで対応します	

学びの準備	ねらい 学校図書館サービス論では、学校図書館の機能を高め、児童生徒の学びの質を向上させ、健全な教養の育成に寄与するため知識・技能の習得を目指します。特に、学校図書館法に定められた「学校司書」の役割を中心におき、サービスの担い手としての必要な知識・技能の習得を基礎的な実習も取り入れつつ学びます	メッセージ 学校図書館は、教育・生涯学習に関わりを持つ誰もが関わる場です。学校図書館で働く場を目指す人にとっては、学校図書館の目的、機能、サービスなど学校図書館に必要な理論と実践を学ぶ場となります。また、教育現場である学校や生涯学習の場である公共図書館等で働く場を目指す人にとっては、その職務をより広げ深めるための学ぶ場になります。
	到達目標 1) 学校図書館の運営・管理に関する職務を理解し、基礎的な企画・立案が出来るとともに、児童生徒を支援するための基本的な知識・技能の習得ができ、利用者と資料を結びつけることができます。2) 学校で勤務する学校司書と司書教諭、その他の教職員、公共図書館で勤務する司書の役割についてそれぞれの特性と共通点を理解できる。3) 学校教育や社会教育に資する学校図書館のあり方を理解し、教諭、司書教諭と学校司書の協働、また、学校司書と公共図書館で勤務する司書と連携を図ることができるようにその必要性を理解できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス/学校教育と学校図書館の歴史	シラバスを読み、授業に備える
	2	法令等に見る学校図書館	授業の配布資料・指定図書を読む
	3	学校図書館の環境整備 (1) 図書館資料	授業の配布資料・指定図書を読む
	4	学校図書館の環境整備 (2) 施設・設備	ミニレポートの作成・提出①
	5	学校図書館の運営	授業の配布資料・指定図書を読む
	6	学校図書館利用のガイダンス	授業の配布資料・指定図書を読む
	7	資料・情報の提供	授業の配布資料・指定図書を読む
	8	児童生徒への学習支援と情報リテラシー	ミニレポートの作成・提出②
	9	児童生徒への読書支援 (1)	授業の配布資料・指定図書を読む
	10	児童生徒への読書支援 (2)	授業の配布資料・指定図書を読む
	11	特別なニーズを必要とする児童生徒への支援	授業の配布資料・指定図書を読む
	12	教職員への支援	ミニレポートの作成・提出③
	13	広報活動・渉外活動とその他の課題	授業の配布資料・指定図書を読む
	14	公共図書館と学校図書館の連携・ネットワーク	全授業の復習と試験に向けた対策
	15	試験・アンケート・研修 (講義)	授業の配布資料・指定図書を読む
16	試験解答・アンケート振り返り・意見交換	試験・授業を振り返りまとめる	

実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは、使用せず、授業では、毎回プリントを配布します。参考文献は、授業中に紹介するとともに、図書館に指定図書として配架します。授業は、進行状況により変更する場合があります。
----	--

学びの手立て	1) 実際に、図書館の施設、資料、司書、利用者を見学をする。それが、どのように運営されているか、学校司書の視点で見学し、良いところ改善したいところを分析してみることで、図書館運営の見聞を広げておくことをすすめます。 2) 児童生徒の読書や生活環境を理解するために、絵本や児童図書・ヤングアダルト図書など漫画も含め読んでおくことと、新聞に目を通しておくことをおすすめします。
--------	---

評価	個人・グループでの課題 (3回×10点=30%)、授業参加度20点=20%、試験50点=50% 原則として、出席回数が3分の2を超えることが、単位取得の条件になります。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 1) 学校司書モデルカリキュラムの独自科目として、「学校教育概論」は本科目の前に、「学校図書館情報サービス論」は後に受講することが望ましい。 2) 「図書館概論」「図書館情報資源概論」「図書館サービス概論」等の司書資格科目を受講し、図書館に関する基礎知識を習得していることが望ましい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	学校図書館情報サービス論	前期	火6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-望月 道浩	3年	fullmoon@edu.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>学校図書館における情報サービスの種類や各種情報源の特性の理解を図るとともに、各種情報源の比較と評価についてWeb上の教育コンテンツを中心に比較と評価を行い、児童生徒及び教職員からの相談・質問にも対応できる学校図書館Webサイトのあり方についての検討を通して、児童生徒に資料・情報を適切に提供できる能力の育成を図る。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 公共図書館の司書と学校図書館の司書の役割についてそれぞれの特性と共通点を理解できる。 2) 学校図書館での情報サービスに関する専門的用語を正しく理解できる。 3) 学校教育に資する情報サービスのあり方を理解し、多様な利用者と接するためのコミュニケーションスキルや情報検索のスキルを習得できる。</p>	<p>学校司書モデルカリキュラムの必修科目ですが、司書資格科目である「情報サービス論」と「情報サービス演習」で学修した内容についても振り返っておきましょう。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・本科目のねらいや到達目標の確認	テキスト第1-2章を読む。
	2	情報社会と学校図書館の情報サービス・情報サービスの種類	テキスト第3章を読む。
	3	レファレンスサービスの理論と実際①：定義・種類・機能・プロセス	テキスト第3章を読む。
	4	レファレンスサービスの理論と実際②：インタビューの理論と方法	テキスト第3章を読む。
	5	各種情報源の比較と評価①：情報サービスに活用できる各種情報源	テキスト第5章を読む。
	6	各種情報源の比較と評価②：文献調査に役立つ情報源の特性	テキスト第5章を読む。
	7	各種情報源の比較と評価③：事実調査に役立つ情報源の特性	テキスト第5章を読む。
	8	学校図書館Webサイトの実態把握と情報サービス	参考文献①・②を読む。
	9	学校図書館Webサイトの実態把握分析	分担する学校Webサイト調査
	10	情報サービスの環境整備①：コレクションの構築へ向けて	テキスト第6章を読む。
	11	情報サービスの環境整備②：LibraryNAVI紹介	テキスト第6章を読む。
	12	情報サービスの環境整備③：LibraryNAVIづくり	演習課題に取り組む。
	13	情報サービスの環境整備④：パスファインダー紹介	テキスト第6章を読む。
	14	情報サービスの環境整備⑤：パスファインダーづくり	演習課題に取り組む。
15	授業のまとめ・到達目標の確認	授業を振り返る。	
16			

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：山口真也ほか編著『情報サービス論：情報と人びとをつなぐ図書館員の専門性』ミネルヴァ書房、2020.3(第2刷)、又は、2021.11(第3刷)</p> <p>参考文献：以下、①・②の他、講義内で適宜紹介します。</p> <p>①金沢みどり、望月道浩ほか著「アメリカの学校図書館ホームページにおけるWeb版OPACの評価」『学校図書館学研究』4, pp. 35-42, 2002年。②金沢みどり、望月道浩ほか著「シーライ・コンテンツ・モデルとの比較によるアメリカの学校図書館ホームページの評価」『学校図書館学研究』3, pp. 19-27, 2001年。</p>
----	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館司書資格科目も同時に受講することが望ましい。</li> </ul>
--------	--

評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時間中の演習問題への取り組み（授業内容に関するリアクションペーパー／演習問題）...70%</li> <li>・授業への参加態度（平常点）...30%</li> </ul>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校司書モデルカリキュラムの独自科目「学校教育概論」「学校図書館情報サービス論」は、本科目の前に受講することが望ましい。本科目はモデルカリキュラムのまとめの科目として受講しよう。</li> <li>・学校司書モデルカリキュラムの受講を通して自身の学校司書としての適性を考え、将来目標を明確にしたうえで、採用試験に向けての勉強を本格的に開始しよう。</li> </ul>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	グローバルコミュニケーション論	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	奥山貴之、兼本敏、孫恵仁、島村麗、岡野薫	1年	授業後教室、またはメールで。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	多文化（異文化）を学習・理解し、多文化共生社会に適応できるコミュニケーション能力を身につけることを目標とする。	この授業では、自文化・他文化への理解を深めながら、色々な活動に取り組みます。クラス内でコミュニケーションを取りながら活動をするがありますが、そうした活動が苦手な人もまずは一歩踏み出してみましよう。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>韓国、英語圏、ヨーロッパ圏、中国語圏の言語や文化を学びながら、自文化と他文化の類似点・相違点を理解し尊重できるようになる。</li> <li>様々な国・地域の文化・言語について知り、他者に伝えられるようになる。</li> <li>活動に取り組み、他者との関わる中で、多様な見方・考え方ができるようになる。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	予習と復習
	2	韓国文化を学ぼう1:韓国文化を学ぼう1:言語—ハンゲルの誕生とその構造	予習と復習
	3	韓国文化を学ぼう2:韓国文化を学ぼう2:歴史—朝鮮時代の日韓交流	予習と復習
	4	韓国文化を学ぼう3:韓国文化を学ぼう3:文化、社会—現代における日韓交流	課題の作成
	5	英語圏の社会と文化①	予習と復習
	6	英語圏の社会と文化②	予習と復習
	7	英語圏の社会と文化③	課題の作成
	8	ヨーロッパ（ドイツ語圏）に触れてみると（社会と言語）①	予習と復習
	9	ヨーロッパ（ドイツ語圏）に触れてみると（社会と言語）②	予習と復習
	10	ヨーロッパ（ドイツ語圏）に触れてみると（社会と言語）③	課題の作成
	11	中国の文化と歴史を知ろう！（文字と言葉を中心に）①	漢字の読みと構造を復習しておく
	12	中国の文化と歴史を知ろう！（文字と言葉を中心に）②	漢字の読みと構造を復習しておく
	13	現代の「中国語」とは？（日本語や英語との相似と相違を中心に）	英語の基本文型を復習しておく
14	学生発表①準備	復習と発表準備	
15	学生発表②発表（1）	復習と発表準備	
16	学生発表③発表（2）	復習と発表準備	
実践	テキスト・参考文献・資料など 担当教員が適宜プリント等を準備する。参考文献は講義の中で紹介する。		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な言語・文化について知り、そこから自文化についてどう考えるかという視点を持ちましよう。</li> <li>「○○が普通」「○○が特殊」という考えに陥らず、柔軟に様々な言語・文化について学んでください。</li> <li>授業で学んだことと、自分を取りまく社会やニュースや新聞などで報じられることと繋げて考えてみましょう。</li> </ul> ※シラバスは、クラスの状況や授業の進捗状況によって変わることがあります。		
評価	各パートごとに、課題50%、平常点50%で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「比較文化論」「ジャパノロジーⅠ・Ⅱ」など 身近な他者から始まり、様々な人との関わりの中で学んでいきましょう。 協定校への交換留学、各種検定試験など、色々なことへのチャレンジにつなげてください。
-------	--



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	言語文化接触論 I	前期	火 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安 志那	3年	9-605 (研究室) ahn@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい グローバル化の時代において、日本語以外の言語による自文化の発信も求められている。本講義では、日本語以外の言語で琉球の文化や言語を発信できるようになることを目標とする。	メッセージ 本講義は、SNSやメディアを通じて直接琉球文化を発信、もしくはそうした例を見つけ分析します。実体験を踏まえて、琉球文化や他言語による言語表現について具体的に考えていきましょう。
	到達目標 琉球の文化や言語を他言語でどう表現できるのかを自ら考え、思考力、言語運用能力、情報検索能力などを駆使し、発信できるようになることを目標とする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・基本概念・課題の説明	シラバスの確認
	2	言語文化接触の例（1）	講義内容の復習
	3	言語文化接触の例（2）	講義内容の復習
	4	言語文化接触の例（3）	講義内容の復習
	5	テーマの選定と質疑応答	情報検索と発表の準備
	6	翻訳（1）	講義内容の復習
	7	翻訳（2）	講義内容の復習
	8	情報の整理とアイデアのまとめ	自分なりの発想を探す
9	メディア	講義内容の復習	
10	SNS	講義内容の復習	
11	思考の可視化	情報発信の目的を考える	
12	身体	講義内容の復習	
13	食文化	講義内容の復習	
14	最終発表（1）	発表の準備とディスカッション	
15	最終発表（2）	発表の準備とディスカッション	
16	まとめ	質疑応答	
実践	テキスト・参考文献・資料など 西江雅之『ピジン・クレオール諸語の世界:ことばとことばが出合うとき』白水社、2020。		
	学びの手立て 実際にSNSやメディアにおいて琉球文化に関する自由テーマを発信します。課題の形式や発表の形式については、ガイダンスで人員を見て調整します。基本的に対面授業ですが、オンラインに切り替わる際には教員からの連絡に注意して下さい。		
	評価 授業参加度（40%）、最終発表（60%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 言語文化接触論 II。
-------	----------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	言語文化接触論Ⅱ	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安志那	3年	9-605 (研究室) ahn@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい グローバル化の時代において、日本語以外の言語による自文化の発信も求められている。本講義では、日本語以外の言語で琉球の文化や言語を発信できるようになることを目標とする。	メッセージ 本講義は、SNSやメディアを通じて直接琉球文化を発信、もしくはそうした例を見つけ分析します。実体験を踏まえて、琉球文化や他言語による言語表現について具体的に考えていきましょう。
	到達目標 琉球の文化や言語を他言語でどう表現できるのかを自ら考え、思考力、言語運用能力、情報検索能力などを駆使し、発信できるようになることを目標とする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・基本概念・課題の説明	シラバスの確認
	2	言語文化接触の理論 (1)	講義内容の復習
	3	言語文化接触の理論 (2)	講義内容の復習
	4	言語文化接触の理論 (3)	講義内容の復習
	5	グループ発表 (1)	発表の準備
	6	言語文化接触の例 (1)	講義内容の復習
	7	言語文化接触の例 (2)	講義内容の復習
	8	言語文化接触の例 (3)	講義内容の復習
	9	グループ発表 (2)	発表の準備
	10	メディアと言語	講義内容の復習
	11	観光と言語	講義内容の復習
	12	食文化と言語	講義内容の復習
	13	グループ発表 (3)	発表の準備
	14	視線と観点	講義内容の復習
15	表現と再現	講義内容の復習	
16	まとめ	質疑応答	
	テキスト・参考文献・資料など 西江雅之『ピジン・クレオール諸語の世界:ことばとことばが出合うとき』白水社、2020。		
	学びの手立て 実際にSNSやメディアにおいて琉球文化に関する自由テーマを発信します。課題の形式や発表の形式については、ガイダンスで人員を見て調整します。基本的に対面授業ですが、オンラインに切り替わる際には担当教員からの連絡に注意して下さい。		
	評価 授業参加度 (20%)、グループ発表 (50%)、期末レポート (30%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本講義で学んだ知識や機能を実践的に活用し、さらに自分を上手に表現できる力へとつないでいきましょう。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	現代沖縄文学論	後期	火 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-崎浜 慎	2年	ptt1168@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 日本文学と比較して沖縄文学の特質性を見つけていく。	メッセージ 「沖縄文学」というと、むずかしく、取っつきにくい印象があるか と思います。そんなことはありません。私たちの身近な事柄や言葉 を物語にしたのが「沖縄文学」です。読む楽しみを一緒に見つけま しょう。
	到達目標 沖縄文学の歴史を学び、批評的に作品を読解していく力をつける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイドダンス：沖縄文学とは何か	シラバスを事前に読む
	2	目取真俊「魂込め」	講義課題を事前に読む
	3	目取真俊「魂込め」	講義課題を事前に読む
	4	目取真俊「魂込め」	講義課題を事前に読む
	5	崎山多美「見えないマチからジョンカネーが」	講義課題を事前に読む
	6	崎山多美「見えないマチからジョンカネーが」	講義課題を事前に読む
	7	崎山多美「見えないマチからジョンカネーが」	講義課題を事前に読む
	8	又吉栄喜「ジョージが射殺した猪」	講義課題を事前に読む
	9	又吉栄喜「ジョージが射殺した猪」	講義課題を事前に読む
	10	又吉栄喜「ジョージが射殺した猪」	講義課題を事前に読む
	11	大城立裕「普天間よ」	講義課題を事前に読む
	12	大城立裕「普天間よ」	講義課題を事前に読む
	13	大城立裕「普天間よ」	講義課題を事前に読む
	14	崎山多美「ガジマル樹の下に」	講義課題を事前に読む
15	崎山多美「ガジマル樹の下に」	講義課題を事前に読む	
16	予備日	レポート作成	
テキスト・参考文献・資料など 教科書は使用しない。講義で必要に応じて、プリントを配布する。			
学びの手立て ぜひ事前に沖縄文学に触れてほしいです。たとえば、『沖縄文学選』（勉誠出版）や『現代沖縄文学作品選』（講談社文芸文庫）は手引きとしておすすめです。			
評価 講義中の発表30%、最終レポート70%			

学びの継続	次のステージ・関連科目 文化テキスト論Ⅱ、現代文学理論Ⅰ・Ⅱ
-------	-----------------------------------

※ポリシーとの関連性

専門分野（文学研究）を学ぶための基礎となる理論を身につけ、応用する力を育てる。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	現代文学理論 I	前期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 陽子	3年	y.murakami@okiu.ac.jp 5号館404研究室	

学びの準備	ねらい 文学の読解に有用な理論を広く学び、適切に応用できる力を身につける。	メッセージ 理論を通して文学を読むとき、ストーリーを理解する、物語を楽しむというのとは別のおもしろさが見えてきます。理論の先にある文学テキストの読み方を探っていきましょう。
	到達目標 文学理論の基礎を理解し、論理的な思考のスタイルを身に付ける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスを読んでおく。
	2	欲望の三角形	講義内容を復習する。
	3	主人公とは何か	講義内容を復習する。
	4	「主人公」なるもの	講義内容を復習する。
	5	記号から構造へ	講義内容を復習する。
	6	ロシア・フォルマリズム	講義内容を復習する。
	7	小田実「アボジを踏む」を都市論の視点で読む	講義内容を復習する。
	8	小田実「アボジを踏む」に見る異化作用	講義内容を復習する。
	9	森鷗外「舞姫」の越境性	講義内容を復習する。
	10	都市論で読む森鷗外「舞姫」	講義内容を復習する。
	11	脱構築	講義内容を復習する。
	12	脱構築とフェミニズム	講義内容を復習する。
	13	ジェンダー・セクシュアリティ	講義内容を復習する。
	14	オリエンタリズム	講義内容を復習する。
	15	トラウマと文学表現	講義内容を復習する。
	16	予備日	レポート執筆
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて指示する。 参考書としては石原千秋・木股知史・小森陽一・島村輝・高橋修・高橋世織『読むための理論—文学・思想・批評』（世織書房）を推奨する。		
	学びの手立て 文学理論に関心を寄せる学生を広く受け入れる。 理論を学ぶ際には文学作品の実作に触れながら説明を進めるため、事前事後学習として多くの文学作品を読むことが望ましい。		
	評価 授業内課題（60％）レポート（40％）。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目は「現代文学理論Ⅱ」。理論を通して文学を読む読書姿勢を身につけてほしい。
-------	---

※ポリシーとの関連性

近現代社会の問題と文学テキストの関連を理解する。  
文学理論に基づいたテキストの読解をすすめ、思考力を養う。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	現代文学理論Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 陽子	3年	y.murakami@okiu.ac.jp 5号館404研究室	

学びの準備	ねらい 現代文学理論Ⅰで学んだことを発展させ、理論を駆使した文学の読み方を身に付ける。	メッセージ 本講義では戦後から現代にかけての文学をテキストとする。文学をフィクションとしてのみ捉えるのではなく、現代社会の問題と結び付けて考察する視点を養ってほしい。
	到達目標 文学理論を踏まえた上で注目するポイントや問題設定を明確にし、受講生それぞれがテキスト読解の可能性を広げていくことを目標とする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	ガイダンス
	2	小林勝「フォード・一九二七年」①—コロニアリズムの問題点
3	小林勝「フォード・一九二七年」②—植民地二世と銃	
4	林京子「雛人形」①—引き揚げと戦後	
5	林京子「雛人形」②—フェミニズムの視点から	
6	目取真俊「面影と連れて」①—ツーリズムと開発	
7	目取真俊「面影と連れて」②—被害者の声を奪う暴力	
8	「グスコブドリの伝記」アニメ鑑賞	
9	宮沢賢治「グスコブドリの伝記」①—災厄を生き延びること	
10	宮沢賢治「グスコブドリの伝記」②—自己犠牲について	
11	津村記久子「うどん屋のジェンダー、またはコルネさん」—マンスプレイング	
12	木村友祐「野良ビトたちの燃え上がる肖像」①—「他者」とともに生きる	
13	木村友祐「野良ビトたちの燃え上がる肖像」②—ジェンダーの視点から	
14	金原ひとみ「アンソージャル ディスタンス」—感染症と文学	
15	金原ひとみ「アンソージャル ディスタンス」—生と死を結ぶもの	
16	予備日	
	時間外学習の内容	
	シラバスを読んでおく。	
	指定されたテキストを読んでくる。	
	指定されたテキストを読んでくる。	
	指定されたテキストを読んでくる。	
	指定されたテキストを読んでくる。	
	指定されたテキストを読んでくる。	
	指定されたテキストを読んでくる。	
	指定されたテキストを読んでくる。	
	指定されたテキストを読んでくる。	
	指定されたテキストを読んでくる。	
	講義全体の復習。	
	レポート作成。	
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて指示する。	
	学びの手立て 現代文学理論Ⅰを受講していることが望ましい。 事前学習として指定されたテキストの全文を読んでくること。	
	評価 授業内課題（60%）、レポート課題（40%）。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 理論を理解することで、自分の考えや論点を明確にし、今後の学習意欲を高めていってほしい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国語科教材研究Ⅰ	前期	金1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 千英子	3年	メールにて受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>文学的文章における「読みの交流」の理論的モデルを学ぶと共に、中学・高等学校の国語科教科書に採録されている文学的文章教材を取り上げ、読みの交流を促す学習課題について具体的に考察する。</p>	<p>中学教諭としての現場経験を活かして、「主体的・対話的で深い学び」としての「読みの交流」と、授業実践例を紹介する。国語科教育に関する講義で、教職課程履修者を対象とする。「読みの交流」学習の基本理論を身に付け、実践に活かせるようにしてほしい。</p>
到達目標	ナラトロジーの考えを知り、実際に文学作品の語りの分析ができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・文学教育をめぐる状況	文学教育の目的を考える
	2	作者と語り手・テキストの行為性	資料を読んで感想を書く
	3	文学教育の目標	用語を調べる
	4	読みの段階と深まり	用語を調べる
	5	視点論	用語を調べる
	6	視点論・作品の視点分析	視点分析
	7	語りの分析（描出表現）	表出表現についてまとめる
	8	語りの分析（再帰的用法・非再帰的用法）	再帰的用法についてまとめる
	9	読みの交流の成立・学習課題	課題作成
	10	「少年の日の思い出」語りの構造・学習課題と読みの実際	用語を調べる・教材選択
	11	「握手」一人称語りを考える	用語を調べる・教材選択
	12	中高教材、語りの分析（描出表現）	語りの分析
	13	中高教材、学習課題づくり	語りの分析・学習課題作り
14	読みの交流の実践	読みの交流の感想を書く	
15	読みの交流の実践	読みの交流の感想を書く	
16	中高教材、学習課題の検討	問いと読みの交流の考察をまとめる	
テキスト・参考文献・資料など	<p>【テキスト】 松本修・桃原千英子編『その問いは、文学の授業をデザインする』、明治図書、2020</p> <p>【参考文献】 松本修、『文学の読みと交流のナラトロジー』、東洋館出版社、2006 野村真木夫、『日本語のテクスチャー関係・効果・様相』、ひつじ書房、2000</p>		
学びの手立て	<p>①教職課程受講者を対象とする。 ②無断欠席は厳禁。（欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。） ③欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は、単位を与えません。 ④テキストを事前に読み込んで、自分の解釈をもって授業に臨むこと。</p>		
評価	課題・レポート70%、平常点（討議への参加・発表内容）30%		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目【上位科目】国語科教材研究Ⅱ（3年次・後期） (2) 次のステージ 国語科教材研究Ⅱでは、学習者の発話分析を行う。カリキュラムポリシー3の、学習者の学びを見取る視点や、深い学びを可能にする問いを作る力を養ってほしい。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国語科教材研究Ⅱ	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 千英子	3年	メールにて受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	日本語のテキストについて学び、文章や談話の仕組みを知る。さらに、発話プロトコルの分析方法を学び、学習者の実態を検証する能力を身につける。実際に文学的文章教材における読みの交流を行い、交流の実態と学習課題について具体的に考察する。	中学教諭としての現場経験を活かして、「主体的・対話的で深い学び」を見取るための談話分析の方法と、授業分析例を紹介する。国語科教育に関する講義で、教職課程履修者を対象とする。学習者分析の基礎を身に付け、学習実態を把握する力を付けてほしい。
到達目標	談話分析の歴史と方法を知り、実際に発話分析ができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・学習者分析の歴史①	予習・用語を調べる
	2	学習者分析の歴史②	予習・用語を調べる
	3	言語表現とテキスト研究（コミュニケーション・話題・関係性）	予習・用語を調べる
	4	読みの交流の成立と発話	予習・用語を調べる
	5	発話プロトコルの分析法	予習・用語を調べる
	6	質的三層分析	予習・用語を調べる
	7	発話プロトコルによる、授業分析	予習・用語を調べる
	8	発話プロトコルにみる、授業改善	用語を調べる
	9	問い作り	問いの作成
	10	読みの交流	交流の感想を書く
	11	発話分析①（PC室）	発話分析
	12	発話分析②（PC室）	発話分析
	13	発話分析③（PC室）	発話分析・考察
14	グループ発表・研究討議（交流の実態）①	授業改善策考察	
15	グループ発表・研究討議（交流の実態）②	授業改善策考察	
16	総括（発話分析をもとに授業改善策を考察する）	授業改善策レポート作成	
	テキスト・参考文献・資料など		
	【テキスト】 レジュメを用意する。 野村真木夫、『日本語のテキスト－関係・効果・様相－』、ひつじ書房、2000 松本修編著、『読みの交流と言語活動－国語科学習デザインと実践－』玉川大学出版部、2015 【参考文献】 佐久間まゆみ・杉戸清樹・半澤幹一、『文章・談話のしくみ』、おうふう、2003		
	学びの手立て		
	①教職課程受講者を対象・必修とする。 ②無断欠席は厳禁。（欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。） ③欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は、単位を与えません。 ④テキストを事前に読み込んで、自分の解釈をもって授業に臨むこと。		
	評価		
	課題・レポート70%、平常点（討議への参加・発表内容）30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 （1）関連科目【関連・上位科目】国語科教材研究Ⅰ（3年次・前期）国語科教育法演習Ⅰ（3年次・後期）国語科教育法演習Ⅱ（4年次・前期） （2）次のステージ 学習者の発話から、学習実態をつかむ意識をもって模擬授業に臨んでほしい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国語科教材研究演習Ⅰ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大城 健	3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 国語科教材研究の方法を学び、国語科教育法や国語科教育演習における学び（主に「読むこと」の分野）を拡充する科目である。教科書教材以外の文章（評論・小説・古文・漢文）を読むことによって、読解力や論理的思考の養成を目指す。	メッセージ わかりやすい解説を心掛けますが、予習、復習も大事にしてください。特に次時の予習は、重要です。自分自身の能力は、自分自身が意識した時に伸びていくものです。積極的な学習を希望します。
	到達目標 (以下の到達目標は評価基準：評価指標と関連します) ①評論の論理的構造を理解し、筆者のものの見方、考え方などを読む能力が身についている。②小説の中の人物、描写、表現などを読む能力が身についている。③古文に関する語彙、文法、表現を理解し、古文を読む基礎的な読む能力が身についている。④漢文に関する語彙、句形、訓読を理解し、漢文を読む基礎的な読む能力が身についている。①～④の能力が身につくことを到達目標とします。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	ガイダンス
	2	日本の古典①（古文）/古典文法、語彙等の確認/「堤中納言物語」
	3	日本の古典②（古文）/和歌の読解/「源氏物語」
	4	日本の古典③（古文）/有職故実/「大和物語」
	5	日本の古典④（古文）/思想、文化「方丈記」
	6	中国の古典①（漢文）/史話/「十八史略」
	7	中国の古典②（漢文）/詩/「盛唐の詩人」
	8	中国の古典③（漢文）伝奇/「搜神記」
	9	中国の古典④（漢文）思想/「論語」
	10	評論①東西文化比較論
	11	評論②環境論
	12	評論③言語論
	13	小説①明治の小説
	14	小説②昭和の小説
	15	小説③戦後の小説
16	期末考査	
	時間外学習の内容	
	日本の古典①語句、文法等の予習	
	日本の古典②語句、文法等の予習	
	日本の古典③語句、文法等の予習	
	日本の古典④語句、文法等の予習	
	中国の古典①漢字、句形等の予習	
	中国の古典②漢字、句形等の予習	
	中国の古典③漢字、句形等の予習	
	中国の古典④漢字、句形等の予習	
	評論①を事前に読むこと	
	評論②を事前に読むこと	
	評論③を事前に読むこと	
	小説①を事前に読むこと	
	小説②を事前に読むこと	
	小説③を事前に読むこと	
	考査の出題範囲の学習	
	自己採点などで振り返りを行う	

実践	テキスト・参考文献・資料など ・事前に教材をプリントして配布する。 ・国語辞典、古語辞典、漢和辞典を必携し、学習に利用してください。 ・「日本語文法基礎Ⅰ・Ⅱ」などで使用した、『基礎からの古典文法』や『漢文必携』などを参考図書とします。
----	--

学びの手立て	○日本文化学科において、国語科教員を目指し、教職課程の科目を受講している方の受講する科目です。 ○毎回の予習を前提に授業を進めます。所定の範囲の予習を徹底して下さい。○基礎学力テストを毎回行います。テストの振り返りや不足している力の補完を目指して下さい。○辞典類の活用を心掛けてください。理解の進まない文章も、語句調べや意味調べを徹底することによって、授業を充実させることができます。授業中における辞典類の活用も心掛けてください。○読んだ文章ごとに、要点ノート、文学史関連知識ノートを作成することで、この授業の学びを深めることができます。解説などをまとめて受講後の振り返りに役立ててください。
--------	--

評価	「期末考査60%、基礎力テスト30%、平常点10%」 「期末考査」では、以下の①～④の能力を評価します。①評論の論理構造を理解し、筆者のものの見方、考え方などを読む能力が身についている。②小説の中の人物、描写、表現などを読む能力が身についている。③古文に関する語彙、文法、表現を理解し、古文を読む基礎的な読む能力が身についている。④漢文に関する語彙、句形、訓読を理解し、漢文を読む基礎的な能力が身についている。「基礎テスト」では、漢字、語句、語彙などを評価します。「平常点」は受講態度を評価します。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 「国語科教材研究演習Ⅱ」、「国語科教育法演習Ⅰ」、「国語科教育法演習Ⅱ」、「日本文学特講Ⅰ」、「日本文学特講Ⅱ」などと関連します。
-------	--



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国語科教材研究演習Ⅱ	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大城 健	4年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 国語科教材研究の方法を学び、国語科教育法や国語科教育演習における学び(主に「読むこと」の分野)を拡充する科目である。教科書教材以外の文章(評論・小説・古文・漢文)を読むことによって、読解力や論理的思考の養成を目指す。	メッセージ わかりやすい解説を心掛けますが、予習、復習も大事にしてください。特に次時の予習は、重要です。自分自身の能力は、自分自身で意識した時に伸びていくものです。積極的な学習を希望します。
	到達目標 (以下の到達目標は評価基準:評価指標と関連します) ①評論の論理的構造を理解し、筆者のものの見方、考え方などを読む能力が身についている。②小説の中の人物、描写、表現などを読む能力が身についている。③古文に関する語彙、文法、表現を理解し、古文を読む能力が身についている。④漢文に関する語彙、句形、訓読を理解し、漢文を読む能力が身についている。①～④の能力が身につくことを到達目標とします。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	日本の古典①語句、文法等の予習
	2	日本の古典①(古文)/古典文法、語彙等の確認/「堤中納言物語」	日本の古典②語句、文法等の予習
	3	日本の古典②(古文)/和歌の読解/「源氏物語」	日本の古典③語句、文法等の予習
	4	日本の古典③(古文)/有職故実/「大和物語」	日本の古典④語句、文法等の予習
	5	日本の古典④(古文)/思想、文化「方丈記」	中国の古典①漢字、句形等の予習
	6	中国の古典①(漢文)/史話/「十八史略」	中国の古典②漢字、句形等の予習
	7	中国の古典②(漢文)/詩/「盛唐の詩人」	中国の古典③漢字、句形等の予習
	8	中国の古典③(漢文)伝奇/「搜神記」	中国の古典④漢字、句形等の予習
	9	中国の古典④(漢文)思想/「論語」	評論①を事前に読むこと
	10	評論①東西文化比較論	評論②を事前に読むこと
	11	評論②環境論	評論③を事前に読むこと
	12	評論③言語論	小説①を事前に読むこと
	13	小説①明治の小説	小説②を事前に読むこと
	14	小説②昭和の小説	小説③を事前に読むこと
	15	小説③戦後の小説	考査の出題範囲の学習
16	期末考査	自己採点などで振り返りを行う	

実践	テキスト・参考文献・資料など ・事前に教材をプリントして配布する。・国語辞典、古語辞典、漢和辞典を必携し、学習に利用してください。・「日本語文法基礎Ⅰ・Ⅱ」などで使用した、『基礎からの古典文法』や『漢文必携』などを参考図書とします。
----	---

学びの手立て	○日本文化学科において、国語科教員を目指し、教職課程の科目を受講している方の受講する科目です。○毎回の予習を前提に授業を進めます。所定の範囲の予習を徹底して下さい。○基礎学力テストを毎回行います。テストの振り返りや不足している力の補完を目指して下さい。○辞典類の活用を心掛けてください。理解の進まない文章も、語句調べや意味調べを徹底することによって、授業を充実させることができます。授業中における辞典類の活用も心掛けてください。○読んだ文章ごとに、要点ノート、文学史関連知識ノートを作成することで、この授業の学びを深めることができます。解説などをまとめて受講後の振り返りに役立ててください。
--------	---

評価	「期末考査60%、基礎力テスト30%、平常点10%」 「期末考査」では、以下の①～④の能力を評価します。①評論の論理構造を理解し、筆者のものの見方、考え方などを読む能力が身についている。②小説の中の人物、描写、表現などを読む能力が身についている。③古文に関する語彙、文法、表現を理解し、古文を読む能力が身についている。④漢文に関する語彙、句形、訓読を理解し、漢文を読む能力が身についている。「基礎テスト」では、漢字、語句、語彙などを評価します。「平常点」は受講態度を評価します。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 「国語科教育法演習Ⅱ」、「日本文学特講Ⅰ」、「日本文学特講Ⅱ」などに関連します。
-------	---

※ポリシーとの関連性 自らが専攻する学問的関心を喚起し、専門知識を系統的に習得するための「導入科目」です(カリキュラム・ポリシー2に対応)。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	古典に親しむ	前期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-平良 忍	1年	授業後の教室、メールptt1170@okiu.ac.jpで受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	日本の古典三大随筆の一つ『徒然草』を扱います。入門的な事項を始めとして、比較的なじみのある章段を読み、それに基づく「発展的な取り組み(表現活動)」を行うことで表現力を培いつつ「古典に親しむ」ことをねらいとします。	先人たちの生きた記録とも言える古典を読み、感じ、考えることで、過去、現在、未来、そして自分自身や社会を見つめる確かな眼を持つことができると考えます。
到達目標	(1) 『徒然草』と作者・兼好に関する入門的な知識を得る。 (2) 比較的なじみのある章段を読み、その内容についてこれまでよりも深く理解する。 (3) 上記の読みをもとにした「発展的な取り組み(表現活動)」により、表現力を培う。 (4) 上記のことを通して、古典に親しみ、視野を広げる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス 『徒然草』入門	シラバスを読む。
	2	つれづれなるままに(序段)、つれづれわぶる人は(第七十五段)	資料を読み返し整理する。
	3	神無月のころ(第十一)	同上。
	4	雪のおもしろう降りたりし朝(第三十一)	同上。
	5	九月廿日のころ(第三十二)	同上。
	6	公世の二位のせうとに(第四十五)	同上。
	7	亀山殿の御池に(第五十一)	同上。
8	仁和寺にある法師(第五十二)	同上。	
9	応長のころ、伊勢国より(第五十)	同上。	
10	奥山に、猫またといふものありて(第八十九)	同上。	
11	ある人、弓射ることを習ふに(第九十二)	同上。	
12	高名の木登りといひしをのこ(第九九)	同上。	
13	花は盛りに(前半)(第三十七)	同上。	
14	丹波に出雲といふところあり(第二百三十六)	同上。	
15	期末考査	同上。	
16	期末考査の振り返り 前期のまとめ 「授業アンケート」への回答	同上。	
テキスト・参考文献・資料など	(1) テキスト 授業で配布します。 (2) 参考図書 『ビギナーズ・クラシックス 徒然草』(角川ソフィア文庫) (3) 推薦図書 古語辞典 漢和辞典 国語辞典		
学びの手立て	(1) 授業で配布される資料は、熟読して適切にファイリングすること。 (2) 「発展的取り組み(表現活動)」に主体的に取り組み、「古典に親しもう」という姿勢を持つこと。 (3) 提出物は、指定された期日に確実に提出すること。 (4) 事情があって欠席する場合は、本学の規定に従うこと。 (5) 上記の「授業計画」は、変更になる場合があります。		
評価	原則として、期末考査点(60%) + 「発展的取り組み(表現活動)」点(30%) + 授業態度点(10%)を目安として、総合的に評価します。 *届出のない欠席が3分の1を超える者は、試験を受けることができないので注意して下さい。 *やむを得ない事情で考査が実施できない場合は、評価の仕方が変わることがあります。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 「古典に学ぶ」(後期)
-------	--------------------------------

※ポリシーとの関連性

本科目は学問体系の基本を理解し、知的好奇心を高める導入科目に当たる（カリキュラム・ポリシー2）。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	古典に親しむ	前期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	葛綿 正一	1年	kuzuwata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 古典に親しむというのが本講義の目的である。今回は古事記を講読する。	メッセージ 神話とは何か。現代においても様々なメディアで加工され再生産される神話について考えてみてください。
	到達目標 古事記の本文を理解し、レポートを書く。	

学びの準備	到達目標 古事記の本文を理解し、レポートを書く。
-------	-----------------------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	古事記紹介	テキストの予習
	2	イザナキとイザナミ	テキストの復習と予習
	3	アマテラスとスサノヲ	テキストの復習と予習
	4	オホクニヌシとスクナヒコナ	テキストの復習と予習
	5	アメノオシホミミノミコトとニニギノミコト	テキストの復習と予習
	6	海幸と山幸	テキストの復習と予習
	7	神武東征	テキストの復習と予習
	8	サホビコの反逆	テキストの復習と予習
	9	ヤマトタケル	テキストの復習と予習
	10	天之日矛	テキストの復習と予習
	11	常世について	テキストの復習と予習
	12	誓約について	テキストの復習と予習
	13	上巻のまとめ	テキストの復習と予習
	14	中巻の紹介	レポートの作成
	15	レポートの書き方について	レポートの点検
16	まとめ	レポートの手直し	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト、中村啓信『古事記』角川ソフィア文庫 参考文献、西郷信綱『古事記注釈』ちくま学芸文庫
-------	---

学びの実践	学びの手立て 大きな事典類を引くことを覚えてください。
-------	--------------------------------

学びの実践	評価 レポートと提出物によって評価する。レポート60%、提出物40%。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 「古典に学ぶ」では平家物語を講読する。また「日本古典文学史」では古典文学の流れを概観する。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	古典に学ぶ	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-平良 忍	1年	授業後の教室、メールptt1170@okiu.ac.jp で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>日本の古典三大随筆の一つ『徒然草』を扱います。テーマごとに分けられた各章段の内容をより深く理解すること、より広い古典的な知識を得ることを通して、「古典から学ぶ」ことをねらいとします。</p>	<p>先人たちの生きた記録とも言える古典を読み、感じ、考えることで、過去、現在、未来、そして自分自身や社会を見つめる確かな眼を持つことができると考えます。</p>
到達目標	<p>(1) テーマごとに分けられた各章段の内容をより深く理解する。 (2) 各章段に記された古典的な知識を学ぶ。 (3) 上記のことを通して、自己や社会を見る視点を培う。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	ガイダンス 自然	シラバスを読む。
	2	住居・生活	資料を読み返し整理する。
	3	道	同上。
	4	学問・和歌・古・糸竹	同上。
	5	友	同上。
	6	色	同上。
	7	女性・妻	同上。
8	社交	同上。	
9	人	同上。	
10	心	同上。	
11	自画自賛	同上。	
12	滑稽談・奇聞・逸話	同上。	
13	無常	同上。	
14	仏道	同上。	
15	期末考査	同上。	
16	期末考査の振り返り 後期のまとめ 「授業アンケート」への回答	同上。	
テキスト・参考文献・資料など	<p>(1) テキスト 授業で配布します。 (2) 参考図書 『ビギナーズ・クラシックス 徒然草』（角川ソフィア文庫） (3) 推薦図書 古語辞典 漢和辞典 国語辞典</p>		
学びの手立て	<p>(1) 授業で配布される資料は、熟読して適切にファイリングすること。 (2) 主体的に授業に取り組み、「古典から学ぼう」という姿勢を持つこと。 (3) 提出物は、指定された期日に確実に提出すること。 (4) 事情があって欠席する場合は、本学の規定に従うこと。 (5) 上記の「授業計画」は、変更になる場合があります。</p>		
評価	<p>原則として、期末考査点（60%）＋「発展的取り組み（表現活動）」点（30%）＋授業態度点（10%）を目安として、総合的に評価します。 *届出のない欠席が3分の1を超える者は、試験を受けることができないので注意して下さい。 *やむを得ない事情で考査が実施できない場合は、評価の仕方が変わることがあります。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	(1) 「古典に親しむ」（前期）

※ポリシーとの関連性

本科目は学問体系の基本を理解し、知的好奇心を高める導入科目に当たる（カリキュラム・ポリシー2）。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	古典に学ぶ	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	葛綿 正一	1年	kuzuwata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 古典に学ぶというのが本講義の目的である。今回は平家物語を講読する。	メッセージ 歴史とは何か。様々なメディアで加工され再生産される歴史のイメージについて考えてみてください。
	到達目標 平家物語の本文を理解し、レポートを書く。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	平家物語の諸本	テキストの予習
	2	入道死去	テキストの復習と予習
	3	巻一・殿上の闇討ち、三台上祿	テキストの復習と予習
	4	二代后、額打ち論	テキストの復習と予習
	5	祇王、祇王出家	テキストの復習と予習
	6	殿下乗合、成親大将謀反	テキストの復習と予習
	7	北の政所誓願、神輿振り	テキストの復習と予習
	8	巻二・明雲座主流罪、帰山	テキストの復習と予習
	9	多田の蔵人返り忠、小教訓	テキストの復習と予習
	10	平宰相、少将こひうくる事・大教訓	テキストの復習と予習
	11	成親流罪・少将流罪、三人喜界が島に流さるる事	テキストの復習と予習
	12	成親死去、徳大寺殿厳島参詣	テキストの復習と予習
	13	巻三、大赦、御産の巻	レポートの作成
	14	少将帰洛、有王島下り	レポートの点検
	15	まとめ	レポートの手直し
	16	予備日	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト、『平家物語一』岩波文庫 参考文献、『平家物語全注釈』（角川書店）、『平家物語研究事典』（明治書院）		
	学びの手立て 日本国語大辞典、国史大辞典など、大きな事典類を引くことを覚えてください。		
	評価 レポートと提出物によって評価する。レポート60%、提出物40%。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「日本古典文学史」では古典文学の流れを概観する。
-------	---

※ポリシーとの関連性

異文化コミュニケーションについての基礎的な知識を身につけ、実践的な分析を行い、コミュニケーション能力を向上させる。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	コミュニケーションスキルⅠ	前期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安 志那	3年	9-605 ahn@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	異なる文化や多様な文化の存在を認識し、より良い異文化コミュニケーションとは何かを、毎回のディスカッションを通じて身につける。新たな視座から自文化を見つめ直し、多様な文化を受容するための土台作りをする。	本講義では、異文化コミュニケーションに関する基礎的な知識や分析方法を身につけます。毎回ディスカッションを行い、その結果や感想をコメントシートにまとめて提出することで授業に関する理解度を確認します。
到達目標	異文化コミュニケーションに関する基礎知識と分析方法を理解し、それを自分のことばで説明できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスの確認
	2	ことばと文化	コメントシートの作成
	3	コミュニケーションの構造	コメントシートの作成
	4	コミュニケーションのスタイル	コメントシートの作成
	5	ジェンダー間コミュニケーション	コメントシートの作成
	6	世代間コミュニケーション	コメントシートの作成
	7	地域間コミュニケーション	コメントシートの作成
8	中間テスト	コメントシートの作成	
9	移民とディアスポラ	コメントシートの作成	
10	グローバリゼーションと異文化	コメントシートの作成	
11	カテゴリー化とステレオタイプ	コメントシートの作成	
12	外国人と日本語コミュニケーション	コメントシートの作成	
13	マルチリンガリズム	コメントシートの作成	
14	異文化と自己表現	コメントシートの作成	
15	異文化交流とメッセージ①	コメントシートの作成	
16	異文化交流とメッセージ②	講義全体の復習及び確認	
テキスト・参考文献・資料など	テキスト・参考文献・資料など 本名信行『異文化理解とコミュニケーション1』三修社、2005。池田理知子『グローバル社会における異文化コミュニケーション』三修社、2019。八代京子『異文化コミュニケーション・ワークブック』三修社、2001。長谷正人『コミュニケーションの社会学』有斐閣、2009。		
学びの手立て	コミュニケーションの前提として、他人を尊重する態度を持つこと。ディスカッションには積極的に参加することが望ましい。基本的に対面授業であるが、オンラインに切り替わる際には担当教員からの連絡に注意すること。		
評価	コメントシート（30％）、中間テスト（40％）、期末レポート（30％）。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 コミュニケーションスキルⅡ。
-------	-------------------------------

※ポリシーとの関連性 異文化コミュニケーションについての基礎的な知識を身につけ、実践的な分析を行い、コミュニケーション能力を向上させる。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	コミュニケーションスキルⅡ	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安 志那	3年	9-605 ahn@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 異なる文化や多様な文化の存在を認識し、より良い異文化コミュニケーションとは何かを、毎回のディスカッションを通じて身につける。新たな視座から自文化を見つめ直し、多様な文化を受容するための土台をつくる。	メッセージ 本講義では、異文化コミュニケーションに関する基礎的な知識や分析方法を身につけます。毎回ディスカッションを行い、その結果や感想をコメントシートにまとめて提出することで授業に関する理解度を確認します。
	到達目標 異文化コミュニケーションに関する基礎知識と分析方法を理解し、それを自分のことばで説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスの確認
	2	自己理解と共感	コメントシートの作成
	3	価値観の理解	コメントシートの作成
	4	異文化コミュニケーションの理解①	コメントシートの作成
	5	異文化コミュニケーションの理解②	コメントシートの作成
	6	異文化コミュニケーションの理解③	コメントシートの作成
	7	コミュニケーションと記憶	コメントシートの作成
	8	中間テスト	復習
	9	メディアとコミュニケーション	コメントシートの作成
	10	オンラインコミュニケーション①	コメントシートの作成
	11	オンラインコミュニケーション②	コメントシートの作成
	12	組織と異文化コミュニケーション①	コメントシートの作成
	13	組織と異文化コミュニケーション②	コメントシートの作成
	14	異文化コミュニケーションの実践①	コメントシートの作成
	15	異文化コミュニケーションの実践②	コメントシートの作成
	16	まとめ	講義内容の復習
	テキスト・参考文献・資料など 池田理知子『グローバル社会における異文化コミュニケーション』三修社、2019。八代京子『異文化コミュニケーション・ワークブック』三修社、2001。長谷正人『コミュニケーションの社会学』有斐閣、2009。		
	学びの手立て コミュニケーションの前提として、他人を尊重する態度を持つこと。ディスカッションには積極的に参加することが望ましい。基本的に対面授業であるが、オンラインに切り替わる際には担当教員からの連絡に注意すること。		
	評価 コメントシート（30％）、中間テスト（40％）、期末レポート（30％）。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本講義で学んだことを踏まえて、大学や社会において積極的に異文化コミュニケーションの実践を図ってほしい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	書写	前期	金1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-仲舛 由美子	3年	授業終了時に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>中学校の書写教育に必要な知識と技能を習得することを主な目的とします。授業の前半を講義、後半を硬筆・毛筆の指導に充てます。小学校・中学校（書写）と高等学校（書道）との違いを踏まえ、小・中学校書写の教科書に題材を求め、授業を行います。書写の目的である書写力の日常化・生活化を目指します。</p>	<p>教員を目指す学生にとってはその準備として、書写は必須だと思います。それ以外の学生にとっても教養の一つと考えます。文字に対する苦手意識をなくし、文字意識を高めながら、その人の技量に合った方法で丁寧に指導します。一人でも多くの方が「書写」を好きになり、生涯にわたって書を愛好する心情を育めればと思います。</p>
到達目標	<p>①正しい筆順で、文字を速く丁寧に書くことが出来る。                  ②活字と手書き文字の違いを認識することが出来る。                  ③楷書と行書を理解し、自らの文字で書くことが出来る。                  ④将来教員を目指す学生はその基礎的力を、それ以外の学生も一般教養として身に付けることが出来る。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス 書写と書道、中学校国語科学習指導要領における書写の位置付け	授業に必要な書道用具の準備
	2	漢字の基本点画 ① 筆の持ち方、姿勢、構え方など 実技（毛筆） 楷書を書く①	配布資料参考に実技復習
	3	漢字の基本点画 ② 永字八法（始筆、送筆、終筆） 実技（毛筆） 楷書を書く②	実技復習
	4	漢字の基本点画 ③ 文字の概形について 実技（毛筆） 楷書を書く③	実技復習
	5	漢字の筆順について① 筆順の原則（上から下へ、左から右へ） 実技（毛筆） 楷書を書く④	実技復習
	6	漢字の筆順について② 筆順の原則（間違えやすい筆順） 実技（毛筆） 楷書を書く⑤	実技復習
	7	へんとつくりの書き方 実技（毛筆） 楷書を書く⑥	実技復習
	8	平仮名の成り立ちについて ① あ～ね 実技（毛筆） 平仮名の基本点画①	実技復習
	9	平仮名を書く ② の～ん 実技（毛筆） 平仮名の基本点画②	実技復習
	10	硬筆、板書の仕方について ペン（チョーク）の持ち方、基本について 硬筆 で書く	実技復習
	11	漢字仮名交じり（4文字）を書く 実技（毛筆） 楷書で書く⑦	実技復習
	12	行書を書く ① 実技（毛筆） 行書の基本①	実技復習
	13	行書を書く ② 実技（毛筆） 行書の連続について②	実技復習
14	七夕展の書き方（七夕用紙に書く） 楷書と行書で書く⑧	実技復習	
15	細字を書く（基本、小筆の持ち方） 漢字仮名交じりの文章に挑戦 実技（毛筆）⑨	実技復習	
16	期末テスト（書写検定4級 過去問に挑戦）	実技テスト	
テキスト・参考文献・資料など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストは使用しません。</li> <li>・プリントを配布しますので、ファイルに閉じること。8マスノート・12行ノート使用</li> <li>【参考文献】</li> <li>・国語科書写の理論と実践（全国大学書写書道研究会編）</li> <li>・ペン習字の基礎（教育図書）</li> <li>・レッスン硬筆帳（教育図書）</li> <li>・大人にかわるペン字練習帳（新星出版）</li> <li>・美文字レッスン（NHK出版）</li> </ul>		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で配布される資料を適切にファイリングする事。</li> <li>・提出物は、毎時間確実に提出する事。</li> <li>・書の上達の秘訣は、コツコツと小さな地道な積み重ねです。急に直ぐ上達するものではありません。諦めず、志をもって取り組むこと。</li> <li>・事情があって欠席する場合は、本学の規定に従うこと。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記の「授業計画」は、変更になる場合があります。</li> </ul> </li> </ul>		
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間の課題提出「70%」＋授業態度「10%」＋ファイル「20%」を目安として、総合的に判断します。</li> <li>・欠席5回以上は不可となります。</li> </ul>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 後期に開講される「書道実技」は上位科目になります。</p> <p>(2) 「書写」と「書道実技」両方を履修することで、書上達の効果が上がります。</p>
-------	--



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	書写	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-仲舛 由美子	3年	授業終了時に教室で受付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>中学校の書写教育に必要な知識と技能を習得することを主な目的とします。授業の前半を講義、後半を硬筆・毛筆の指導に充てます。小学校・中学校（書写）と高等学校（書道）との違いを踏まえ、小・中学校書写の教科書に題材を求め、授業を行います。書写の目的である書写力の日常化・生活化を目指します。</p>	<p>教員を目指す学生にとってはその準備として、書写は必須だと思います。それ以外の学生にとっても教養の一つと考えます。文字に対する苦手意識をなくし、文字意識を高めながら、その人の技量に合った方法で丁寧に指導します。一人でも多くの方が「書写」を好きになり、生涯にわたって書を愛好する心情を育めればと思います。</p>
到達目標	<p>①正しい筆順で、文字を速く丁寧に書くことが出来る。                  ②活字と手書き文字の違いを認識することが出来る。                  ③楷書と行書を理解し、自らの文字で書くことが出来る。                  ④将来教員を目指す学生はその基礎的力を、それ以外の学生も一般教養として身に付けることが出来る。</p>	

学びの実践	学びのヒント			
	授業計画			
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	ガイダンス 書写と書道、中学校国語科学習指導要領における書写の位置付け	授業に必要な書道用具の準備	
	2	漢字の基本点画 ① 筆の持ち方、姿勢、構え方など 実技（毛筆） 楷書を書く①	配布資料参考に実技復習	
	3	漢字の基本点画 ② 永字八法（始筆、送筆、終筆） 実技（毛筆） 楷書を書く②	実技復習	
	4	漢字の基本点画 ③ 文字の概形について 実技（毛筆） 楷書を書く	実技復習	
	5	漢字の筆順について① 筆順の原則（上から下へ、左から右へ） 実技（毛筆） 楷書を書く④	実技復習	
	6	漢字の筆順について② 筆順の原則（間違えやすい筆順） 実技（毛筆） 楷書を書く⑤	実技復習	
	7	へんとつくりの書き方 実技（硬筆・毛筆） 楷書を書く⑥	実技復習	
	8	平仮名の成り立ちについて ① あ～ね 実技（毛筆） 平仮名の基本点画①	実技復習	
	9	平仮名を書く ② の～ん 実技（毛筆） 平仮名の基本点画②	実技復習	
	10	硬筆、板書の仕方について ペン（チョーク）の持ち方、基本について 硬筆 で書く	実技復習	
	11	漢字仮名交じり（四文字）を書く 実技（毛筆） 楷書で書く⑦	実技復習	
	12	行書を書く ① 実技（毛筆） 行書の基本①	実技復習	
	13	行書を書く ② 実技（毛筆） 行書の連続について②	実技復習	
14	七夕展の書き方 （七夕用紙に書く） 楷書と行書で書く⑧	実技復習		
15	細字を書く（基本、小筆の持ち方） 漢字仮名交じりの文章に挑戦 実技（毛筆）⑨	実技復習		
16	期末テスト （書写検定4級 過去問に挑戦）	実技テスト		
実践	テキスト・参考文献・資料など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストは使用しません。</li> <li>・プリントを配布しますので、ファイルに閉じること。8マスノート・12行ノート使用</li> </ul> <p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科書写の理論と実践（全国大学書写書道研究会編）</li> <li>・ペン習字の基礎（教育図書）</li> <li>・レッスン硬筆帳（教育図書）</li> <li>・大人にかわるペン字練習帳（新星出版）</li> <li>・美文字レッスン（NHK出版）</li> </ul>		
	学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で配布される資料を適切にファイリングする事。</li> <li>・提出物は、毎時間確実に提出する事。</li> <li>・書の上達の秘訣は、コツコツと小さな地道な積み重ねです。急に直ぐ上達するものではありません。諦めず、志をもって取り組むこと。</li> <li>・事情があって欠席する場合は、本学の規定に従うこと。</li> <li>・上記の「授業計画」は、変更になる場合があります。</li> </ul>		
	評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・期末考査「70%」+授業態度「10%」+提出物「20%」を目安として、総合的に判断します。</li> <li>・欠席5回以上は不可となります。</li> </ul>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 後期に開講される「書道実技」は上位科目になります。</li> <li>(2) 「書写」と「書道実技」両方を履修することで、書上達の効果が上がります。</li> </ul>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	書道実習	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-仲舛 由美子	3年	授業終了時に教室で受付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>書写＝書き写す→臨書＝名品を書く。古典を臨書する意義をふまえて、楷書・行書・草書・篆書・隸書・かなの書体を通して基本的な点画や線質の表し方、字形の構成法を理解し、その用筆・運筆の技法を習得することを主な目的とします。また、小・中学校で学んだ書写との関連性にも配慮するとともに、文房四宝などの知識を深め、その扱いについても学びます。</p>	<p>教員を目指す学生にとってはその準備として、書写は必須だと思えます。それ以外の学生にとっても教養の一つと考えます。文字に対する苦手意識をなくし、文字意識を高めながら、その人の技量に合った方法で丁寧に指導します。</p>
到達目標	<p>①書体を理解し、その時代背景や成り立ちがわかる。何気なく使っている文字についての理解を深めることができる。                  ②いろいろな線による表現ができる。（整然とした感じ、軽快な感じ、重厚な感じ、落ち着いた感じ、等）                  ③日常生活の様々な場面で筆を使い、生活を豊かにすることができる。                  ④用具用材の特徴を理解し、作品の鑑賞、作品制作活動など、書に親しむ豊かな心を養うことができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス 書写と書道、中学校国語科学習指導要領における書写の位置付け	授業に必要な書道用具の準備
	2	楷書を書く 一楷書の基本用筆・運筆について・筆の特性について	楷書の基本用筆・運筆について復習
	3	臨書①九成宮醜泉名 臨書をする意義について	臨書①臨書について理解できたか
	4	臨書②九成宮醜泉名と孔子廟堂碑の違いについて 背勢と向勢の特徴	臨書②背勢、向勢、理解できたか
	5	臨書③雁塔聖教序と建中告身帖の違いについて 重厚さと軽快さの特徴	臨書③方筆、円筆、理解できたか
	6	臨書④龍門造像記 方筆の特徴	臨書④方筆、理解できたか
	7	臨書⑤蘭亭序 王羲之と行書について	臨書①運筆の緩急・抑揚について
	8	臨書⑤蘭亭序 色々な課題に挑戦	同上
	9	生活の中の書 ① 芳名録、冠婚葬祭、封筒の書き方	細字の書き方
	10	生活の中の書 ② 年賀状の表、裏書の書き方	ハガキの書き方
	11	生活の中の書 ③ 写経について 般若心経に挑戦	般若心経に挑戦 全文を書く
	12	臨書⑥風信帖について 日本の三筆の空海の書に挑戦	臨書⑥空海の書に挑戦
	13	篆書を書く 一篆書の基本用筆・運筆― 臨書⑦ 泰山刻石	篆書⑦の基本用筆・運筆について
	14	隸書を書く 一隸書の基本用筆・運筆― 臨書⑧ 曹全碑	隸書⑧の基本用筆・運筆について
15	最古の文字 一甲骨文字に挑戦	直線的な筆使い	
16	創作―カレンダーに未来への自分に向けて・一文字書の創作	用具・用材を使い、仕上げ まとめ	

<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストは使用しません。</li> <li>・毎回授業でプリントを配布します。プリント資料はファイリングする事</li> <li>【参考文献・資料】</li> <li>・中学校の教科書</li> <li>・国語科書写の理論と実践（全国大学書写書道教育学会編）</li> </ul>
--

<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提出物は、毎時間、確実に提出する事。</li> <li>・書の上達の秘訣は、コツコツと小さな地道な積み重ねです。志をもって取り組むこと。</li> <li>・事情があって欠席する場合は、本学の規定に従うこと。</li> <li>・上記の「授業計画」は、変更になる場合があります。</li> </ul>
--

<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間課題70%」＋授業態度「10%」＋提出物「20%」を目安として、総合的に判断します。</li> <li>・欠席5回以上は不可となります。</li> </ul>
--

<p>学びの継続</p> <p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 前期「書写」は、関連科目です。</p> <p>(2) 「書写」と「書道実技(毛筆)」両方を履修することで、書上達の効果が上がります。</p>
---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	書道実習	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-仲舛 由美子	3年	授業終了時に教室で受付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	書写＝書き写す→臨書＝名品を書く。古典を臨書する意義をふまえて、楷書・行書・草書・篆書・隸書・かなの書体を通して基本的な点画や線質の表し方、字形の構成法を理解し、その用筆・運筆の技法を習得することを主な目的とします。また、小・中学校で学んだ書写との関連性にも配慮するとともに、文房四宝などの知識を深め、その扱いについても学びます。	教員を目指す学生にとってはその準備として、書写は必須だと思います。それ以外の学生にとっても教養の一つと考えます。文字に対する苦手意識をなくし、文字意識を高めながら、その人の技量に合った方法で丁寧に指導します。

到達目標	①書体を理解し、その時代背景や成り立ちがわかる。何気なく使っている文字についての理解を深めることができる。 ②いろいろな線による表現ができる。（整然とした感じ、軽快な感じ、重厚な感じ、落ち着いた感じ、等） ③日常生活の様々な場面で筆を使い、生活を豊かにすることができる。 ④用具用材の特徴を理解し、作品の鑑賞、作品制作活動など、書に親しむ豊かな心を養うことができる。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス 書写と書道、中学校国語科学習指導要領における書写の位置付け	授業に必要な書道用具の準備
	2	楷書を書く 一楷書の基本用筆・運筆について・確認 筆の特性について	楷書の基本用筆・運筆について復習
	3	臨書①九成宮醜泉名 臨書をする意義について	臨書①臨書について理解できたか
	4	臨書②九成宮醜泉名と孔子廟堂碑の違いについて 背勢と向勢の特徴	臨書②背勢、向勢、理解できたか
	5	臨書③雁塔聖教序と建中告身帖の違いについて 重厚さと軽快さの特徴	臨書③逆筆、円筆、理解できたか
	6	臨書④龍門造像記 方筆の特徴	臨書④方筆、理解できたか
	7	臨書⑤蘭亭序 王羲之と行書について	臨書①運筆の緩急・抑揚について
	8	臨書⑤蘭亭序 色々な課題に挑戦	同上
	9	生活の中の書 ① 芳名録、冠婚葬祭、封筒の書き方	細字の書き方
	10	生活の中の書 ② 年賀状の表、裏書の書き方	ハガキの書き方
	11	生活の中の書 ③ 写経について 般若心経に挑戦	般若心経に挑戦 全文を書く
	12	臨書⑥風信帖について 日本の三筆の空海の書に挑戦	臨書⑥空海の書に挑戦
	13	篆書を書く 一篆書の基本用筆・運筆 臨書⑦ 泰山刻石	篆書の基本用筆・運筆について
	14	隸書を書く 一隸書の基本用筆・運筆 臨書⑧ 曹全碑	隸書の基本用筆・運筆について
15	最古の文字 一甲骨文字に挑戦	直線的な筆使い	
16	創作一カレンダーに未来への自分に向けて・一文字書の創作	用具・用材を使い、仕上げ まとめ	

テキスト・参考文献・資料など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストは使用しません。</li> <li>・毎回授業でプリントを配布します。プリント資料はファイリングする事</li> <li>【参考文献・資料】</li> <li>・中学校の教科書</li> <li>・国語科書写の理論と実践（全国大学書写書道教育学会編）</li> </ul>
----------------	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提出物は、毎時間、確実に提出する事。</li> <li>・書の上達の秘訣は、コツコツと小さな地道な積み重ねです。志をもって取り組むこと。</li> <li>・事情があって欠席する場合は、本学の規定に従うこと。</li> <li>・上記の「授業計画」は、変更になる場合があります。</li> </ul>
--------	--

評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間課題「70%」＋授業態度「10%」＋ファイル「20%」を目安として、総合的に判断します。</li> <li>・欠席5回以上は不可となります。</li> </ul>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 前期「書写」は、関連科目です。</p> <p>(2) 「書写」と「書道実技(毛筆)」両方を履修することで、書上達の効果が上がります。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	児童文化論	前期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山口 真也	2年	授業開始前、または授業後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 児童文化としての昔話・民話を題材として、情報発信のルールとマナーについて広く学習するとともに、その理論に基づいて子ども向けアニメーションを制作、インターネット上に公開するというプロセスを通して、実践的なICTの活用能力を身に着ける。	メッセージ 情報上級処理士の資格取得科目として社会人として求められるICTの活用スキルと協働する力の育成を目指しつつ、日本文化学科の専門科目として表現論の学習も取り入れます。
	到達目標 ①1年生必修科目「文化情報処理入門」にて修得した文書処理・表計算処理の技能をベースとして、画像、音声、動画処理を含むマルチメディア情報の処理に求められる基本的なスキルを身に付ける。 ②インターネット(SNS等)での日々の情報行動を自律的に管理するための知識、モラル・マナーを身に付ける。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・情報発信のルール	シラバスを読み、授業に備える
	2	情報発信のマナー(1)	グループ内での連絡調整
	3	情報発信のマナー(2)	グループワーク・課題提出
	4	情報発信のマナー(3)	グループワーク・課題提出
	5	情報発信のマナー(4)	グループワーク・課題提出
	6	情報発信のマナー(5)	グループワーク・課題提出
	7	シナリオ案の作成	シナリオ案の検討
8	シナリオ案の検討	シナリオ案の検討・提出	
9	シナリオ案の修正・リハーサル	シナリオの完成	
10	音声入力①	セリフの練習	
11	音声入力②	セリフの練習	
12	音声情報処理	音声データの作成	
13	画像情報処理	画像データの作成	
14	アニメーション処理①	アニメーションの作成	
15	アニメーション処理②	アニメーションの作成	
16	文化情報の発信 情報発信・公開		
実践	テキスト・参考文献・資料など ・テキストは使用しません。プリントを配布します。 ・教材のデータを保存するためのUSBを各自準備しましょう。		
	学びの手立て ・前期は3年生向けのクラスです。2年生は受講できません。(次年度前期に開講されるクラスを受講して下さい) ・図書館スタジオでの録音回(10・11回目)は、受講者の数によって複数の週にまたがって、時間を変更して行うことがあります。		
	評価 ・グループワークでの取り組み(40点) ※グループワークがある週を欠席すると点数がつかえません。 ・ソフトウェアの完成度(60点)とし、総合的に評価する。 ・欠席回数が全体の1/3を超えた場合は不可となります。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・上級情報処理士の必修科目となっている「アカデミック・セミナー」では、この科目で作成した音声データ、イラストを用いたより高度なソフトウェア制作を行います。データをなくさないように大切に保管して、ぜひ継続して(連続して)受講しましょう。
-------	--

※ポリシーとの関連性

国際社会に関わっていく上で不可欠な知識を習得する科目です。多文化間コミュニケーションコースの学問体系の基礎を身に付ける。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ジャパノロジー I	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	奥山 貴之	2年	Eメール、授業後教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 日本語、日本文化について、他と比べながら客観的な視点で捉えられるようになる。	メッセージ 一般論や自分にとっての「当たり前」を捉え直し、客観的な視点から日本語や日本文化について考え他者に伝えられるようになりましょう。 日本語教師としての現場経験や、その立場に必要なものの見方や考え方も話していきます。一緒に考えたり話したりしていきましょう。
	到達目標 再学習した「日本語・日本文化」について他者に伝えられるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション ジャパノロジーとは	関連文献を読む
	2	日本語の特徴①（文の構造から）	関連文献を読む
	3	日本語の特徴②（表記と待遇表現）	関連文献を読む
	4	日本語の特徴③（人称と役割語）	関連文献を読む
	5	日本語の特徴④（社会方言と地域方言）	関連文献を読む
	6	日本語の特徴⑤（視点の問題とサピア・ウォーフの仮説）	関連文献を読む
	7	日本語の特徴⑥（カテゴリーとイメージスキーマ）	関連文献を読む
	8	中間試験	復習
9	日本語の特徴⑦（喩え①メタファー）	配布資料を精読	
10	日本語の特徴⑧（喩え②ことわざと慣用句）	発表準備	
11	日本語の特徴⑨（喩え③メトニミー）	発表準備	
12	日本語の特徴⑩（喩え④復習とシネクドキ）	関連文献を読む	
13	日本語の特徴⑪（オノマトペ①）	関連文献を読む	
14	日本語の特徴⑫（オノマトペ②）	関連文献を読む	
15	まとめ	復習	
16	期末試験	総復習	
	テキスト・参考文献・資料など 授業の中で適宜紹介する。		
	学びの手立て 「なぜだろう」「どうしてだろう」と疑問視する態度と、それを追究し説明する力を身につけて欲しい。そのためにも情報収集（文献・辞書・ネット・など）を習慣化することを期待します。 グループやペアで話し合いをする機会が何度もあります。伝え合う中で、考えを広げたり深めたりできるように、しっかり活動に取り組んでください。		
	評価 中間試験（30%） 学期末試験（35%） 課題・提出物（25%） 平常点（10%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「ジャパノロジーⅡ」。 その他「海外語学・文化セミナーⅠ～Ⅴ」等の国際理解を深める科目の履修も期待する。
-------	--

※ポリシーとの関連性

多文化間コミュニケーションコースの学問体系の基本を理解し、知的好奇心を高めるための導入科目です。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ジャパノロジーⅡ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	奥山 貴之	2年	Emailや、授業後教室で受けつける。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	日本について「文化」や「コミュニケーション」の面から捉え直すことを目的とします。異文化コミュニケーション（多文化間コミュニケーション）の基礎を学んで、より深い学びに繋がるようにします。	「文化」や「コミュニケーション」がどのようなものか、専門的に考えられるようになりましょう。その中で日本や沖縄について、客観的に捉え直しましょう。日本語教師としての経験を踏まえつつ、そこで必要な物の見方や考え方についても話していきます。
到達目標	異文化コミュニケーションの基礎を学ぶ中で、日本や沖縄の文化・社会について身近なことから考えていきます。それらについて知り、考え、そして伝え合う活動をする中で、自分の文化や社会を相対的に捉える視点を持てるようになることを目指します。授業の中で行うグループディスカッションでは、自分の意見や考えを他者に伝える力、他者の意見や考えを聞く力を養います。「知ること」「考えること」「伝え合うこと」を通して、自分の考えを広げたり深めたりすること、そして高度なコミュニケーション能力を身につけることを目指します。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス 「ジャパノロジー」とは 「文化」とは①	関連文献・記事などを調べる
	2	「文化」とは②	関連文献・記事などを調べる
	3	異文化コミュニケーション	関連文献・記事などを調べる
	4	異文化トレーニング実践	実践して感じたことをまとめる
	5	異文化間で摩擦がおきたら（アサーティブコミュニケーション）	関連文献・記事などを調べる
	6	日本の伝統/文化①	関連文献・記事などを調べる
	7	日本の伝統/文化②	関連文献・記事などを調べる
	8	中間試験	復習
	9	固定観念とステレオタイプ	関連文献・記事などを調べる
	10	差別とポリティカル・コレクトネス①	関連文献・記事などを調べる
	11	差別とポリティカル・コレクトネス②	関連文献・記事などを調べる
	12	コミュニケーション①コミュニケーションの捉え方	関連文献・記事などを調べる
	13	コミュニケーション②ポライトネス理論（1）	関連文献・記事などを調べる
14	コミュニケーション③ポライトネス理論（2）	関連文献・記事などを調べる	
15	まとめ	復習	
16	期末試験	総復習	
実践	テキスト・参考文献・資料など 参考文献 原沢伊都夫『異文化理解入門』研究社 その他随時紹介		
学びの手立て	知識を得ていくと同時に、自分の体験や経験から考えていくことを重視します。知る、考える、伝え合う、ことの繰り返しにチャレンジしてください。グループディスカッションでは、他者を尊重する姿勢を求めます。シラバスは、クラスの状況や授業の進捗状況等によって変わることがあります。		
評価	中間試験（30％）・期末試験（35％）・課題、提出物（25％）・平常点（10％）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ジャパノロジーⅠ アジア太平洋文化論 比較文化論 コミュニケーションスキルⅠ・Ⅱ 多文化共生論 など
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅠ	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	名城 邦孝	3年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 図書館に関する文献を選び、輪読する。その過程で、図書館に対する理解を深め、各自がそれぞれの興味・関心に従い、テーマを設定していく。また、最終的に研究対象について卒業論文にまとめられるように、ゼミナールⅠではその準備を行う。具体的には調査研究の方法等について課題をこなしていく。	メッセージ 演習形式で授業を行う。また、文献調査なども行うため、図書館に何度も行くことになる。
	到達目標 1. 調査研究の方法等について理解を深め、自分で資料を探すことができるようになる。 2. 各自の研究対象を確定できるようにする。 3. テキストをまとめ、内容を発表できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・授業の進め方	これまでに学んだことの確認
	2	資料の探し方1	資料収集
	3	資料の探し方2	資料収集
	4	レポート作成の方法1	レポート作成
	5	レポート作成の方法2	レポート作成
	6	発表方法1	発表準備
	7	発表方法2	発表準備
	8	個別面談	これまでの内容確認
9	個別面談	これまでの内容確認	
10	テキストの輪読と課題	テキストをまとめる	
11	テキストの輪読と課題	テキストをまとめる	
12	テキストの輪読と課題	テキストをまとめる	
13	テキストの輪読と課題	テキストをまとめる	
14	テーマ発表	発表準備	
15	テーマ発表	発表準備	
16			
	テキスト・参考文献・資料など 授業中に適宜紹介する。		
	学びの手立て 自身の研究テーマ決定に向けて、幅広く学んでいきましょう。		
	評価 発表40% (テキストの内容をまとめ発表する。) 提出物30% (資料検索や資料収集に関する課題を提出してもらう。) 平常点30% (授業中の発表状況や受講態度)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ゼミナールⅡ
-------	-----------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナール I	前期	木 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	葛綿 正一	3年	kuzuwata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習は日本の古典文学・文化に関する演習を行うものである。今年度は特に狂言を取り上げる。狂言作品を一つ一つ取り上げながら注釈を試み、笑いの問題、オノマトペの効用などについて考える。	メッセージ 資料を探し、分析の視点を設定し、発表の構成について考えるというのは広く応用可能な方法である。ぜひ身につけてほしい。
	到達目標 資料を探す。分析する。まとめる。この手順を身につけてほしい。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	演習の進め方	関連する資料の収集
	2	調べる (1)	資料の収集
	3	調べる (2)	資料の読み込み
	4	調べる (3)	資料の収集
	5	調べる (4)	資料の読み込み
	6	分析する (1)	発表の準備
	7	分析する (2)	発表の準備
	8	分析する (3)	発表の準備
	9	分析する (4)	発表の準備
	10	発表する (1)	発表の手直し
	11	発表する (2)	発表の手直し
	12	発表する (3)	発表の手直し
	13	発表する (4)	発表の手直し
	14	発表する (5)	発表の手直し
15	発表する (6)	発表の手直し	
16	まとめ	発表の手直し	
	テキスト・参考文献・資料など そのつど紹介する。		
	学びの手立て 日本国語大辞典など大きな事典類をまず引くことを勧める。		
	評価 提出物、発表内容70%、授業への取り組み30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ゼミナールIIにおいては先行研究を読み込み、分析を深めたい。
-------	---



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナール I	後期	木 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	兼本 敏	3年	令和五年度は担当いたしません。悪しからず	

学びの準備	ねらい 。	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標
-------	------

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
16			

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
-------	----------------

学びの実践	学びの手立て
-------	--------

学びの実践	評価
-------	----

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名 ゼミナール I	期 別	曜日・時限	単 位
	担当者 山口 真也	前期	木 3	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		3年	メールで受け付けます。 yamaguchi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本ゼミ(文化情報学ゼミ)のテーマである「表現の自由(知る自由)研究」「図書館情報学研究」に関するさまざまなトピックを取り上げ、各自が興味関心を持つ専門分野の研究方法を学びます。後期から始まる個人研究発表のテーマ設定を各自で行うことを最終目標とします。	メッセージ 日本文化学科では3年生から卒業論文を書くためのゼミが始まります。ゼミは大学生活の基盤です。卒論を書くのは大変ですが、大変だからこそ学ぶこともたくさんあります。一緒に頑張りましょう。
	到達目標 ②グループ討論に必要な、論理的な思考方法・発表スキルを修得する。 ③4年生のプレゼンや過去の卒論集の読み合いを通して、ゼミのテーマを理解し、自身の研究テーマ、仮説、検証方法を設定できる。 ④個人研究テーマ発表を通して、基本的な発表スキル(話し方、資料の活用方法、質疑応答の方法)を修得する。 ⑤ゼミ単位での課外活動やキャリアガイダンスを通して、他者との協働のあり方、グループ内での自己の役割・適性を考え、将来の職業選択に役立てることが出来る。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション(1):履修上の注意、論文集の配布、自己紹介	卒論集に目を通す
2	オリエンテーション(2):就職活動と研究活動の両立・就職ガイダンス	将来目標、進路の検討
3	オリエンテーション(3):個別面談(2年間の目標設定・進路相談)	エントリーシートの作成
4	オリエンテーション(4):個別面談(2年間の目標設定・進路相談)	エントリーシートの作成
5	4年生による卒業研究のプレゼンテーション(1)	ゼミ論に目を通す
6	4年生による卒業研究のプレゼンテーション(2)	ゼミ論に目を通す
7	過去の卒論テーマに関するグループディスカッション(1)「出版流通」「図書館」	卒論集に目を通す
8	過去の卒論テーマに関するグループディスカッション(2)「表現論」	研究テーマの検討
9	個人研究テーマの決定(1):先行研究の調査方法(図書・雑誌記事編)	文献収集
10	個人研究テーマの決定(2):先行研究の調査方法(新聞記事・辞書事典・各種データ編)	文献収集
11	図書館での文献収集演習	文献収集
12	個人研究テーマの決定(3):学術研究の方法(問題意識・仮説・検証方法)、研究計画書の作成方法	研究計画書の作成
13	個人研究テーマ発表(1)	発表の準備・発表の振り返り
14	個人研究テーマ発表(2)	発表の準備・発表の振り返り
15	個人研究テーマ発表(3)	発表の準備・発表の振り返り
16	個人研究テーマ発表(4)・授業のまとめと自己評価(到達度チェック)	発表の準備・発表の振り返り

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など ・卒業論文集(『文化情報学研究』)をテキストとする。※本学図書館に過去の号が全て所蔵されている。 ・参考文献は適宜指示する。
-------	---

学びの手立て	・本ゼミナールは、日本文化学科の専門分野(3コース)の周辺領域を広くカバーしています。メインの学問領域ではない分、個人の興味関心に応じて自由にテーマを設定し、学ぶ・調べる・表現する楽しさを体験できるようなプログラムとなっています。楽しみながら、社会人基礎力となるリテラシーを身に付けていきましょう。
--------	---

評価	定期テスト・・・0点 レポート・・・10点 (自己の活動をきちんと振り返ることができているかをレポート提出) 平常点・・・90点 (討議への参加、積極的な質問、傾聴能力、フィードバックシートへの記入などを評価) ※欠席する場合は事前に欠席届(メール可)を提出すること。(無断で欠席しないこと)
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 後期に開講される「ゼミナールII」に繋がる科目です。
-------	---

※ポリシーとの関連性

琉球文化に対する理解を深め、琉球語学、琉球文学、琉球芸能への知識、能力を身に付けます。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナール I	前期	木 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	3年	研究室番号：5402 E-mail：nishioka@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 琉球語諸方言の調査・記録、分析あるいは再生に取り組みます。消滅の危機に瀕する言語と呼ばれる琉球語諸方言を分からないまま置いておくのではなく、それら言葉の特徴・個性を分かろうとする学びの姿勢が大切です。	メッセージ 琉球語を甦らせるにはどうすればよいのかを考えていきましょう。音声テキストおよび画像資料の収集（作成）と、そのデジタル化および一般公開も、これから成されるべき仕事です。また、琉球語諸方言によって何かを表現していくという姿勢も大切になってきます。
	到達目標 琉球語諸方言による文法書、辞典、索引、民話テキスト、教科書、演劇台本などの作成を目指します。それぞれが琉球語を理解し、琉球語の継承者となることが目標です。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・課題の琉球語テキスト決定	関連語彙を調べる
	2	琉球語テキスト(沖縄民話・琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	関連語彙を調べる
	3	琉球語テキスト(沖縄民話・琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	関連語彙を調べる
	4	琉球語テキスト(沖縄民話・琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	関連語彙を調べる
	5	琉球語テキスト(沖縄民話・琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	関連語彙を調べる
	6	琉球語テキスト(沖縄民話・琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	関連語彙を調べる
	7	琉球語テキスト(沖縄民話・琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	関連語彙を調べる
	8	琉球語テキスト(沖縄民話・琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	関連語彙を調べる
9	琉球語テキスト(沖縄民話・琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	関連語彙を調べる	
10	琉球語テキスト(沖縄民話・琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	関連語彙を調べる	
11	琉球語テキスト(沖縄民話・琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	関連語彙を調べる	
12	琉球語テキスト(沖縄民話・琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	関連語彙を調べる	
13	琉球語テキスト(沖縄民話・琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	関連語彙を調べる	
14	琉球語テキスト(沖縄民話・琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	関連語彙を調べる	
15	琉球語テキスト(沖縄民話・琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	関連語彙を調べる	
16	予備日	夏休みのための話し合い	
実践	テキスト・参考文献・資料など ゼミで扱うテキストについては、その都度指示します。 毎回、課題についてのレジユメを用意すること。		
	学びの手立て 初めは、琉球語に関する本を読んだりメディアにふれたりして、琉球語についての理解を深めます。また、琉球語諸方言を記録として書き留める練習をします。文法的に分析する姿勢も学びます。その後、琉球語諸方言に関するテーマを決め、それについて実際に調査・記述します。文法記述、辞書（語彙集）作成、テキスト収集などが大きな目標となります。		
	評価 平常点（50%）、発表（50%）。発表担当者は責任をもって発表すること。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本語音声学、日本語音声学特講、琉球語学特講などが関連科目です。音声学の知識は必須。琉球語の関連行事に積極的に参加すること。
-------	---

※ポリシーとの関連性 「3. 各専門分野における諸課題について深く学ぶための「応用科目」を設置します。」

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅠ	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	3年	ytaba@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習は、『山家集』を扱う。レポーターが毎回【通釈】【語釈】【考説】を発表し、その内容を検討する。レポートテーマは、西行歌と風景・景観とする。西行の故地や歌枕を現地調査する研修旅行を行う。	メッセージ 発表内容は、最終的にゼミ論集にまとめる。レジュメ等資料を所定の書式で作成するように。 【実務経験】高等学校教諭だった現場経験を生かして、高大接続を意識した指導を行います。
	到達目標 【通釈】【語釈】【考説】をまとめるにあたり、その調査の方法を学び、自らレジュメ等の発表資料をまとめる技能及び能力を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	ガイダンス①（『山家集』について、西行について）／ゼミの進め方・レジュメ作成の注意
	2	ガイダンス②（歌枕・歌ことばについて）／辞典類、参考図書的使用方法について
	3	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析・検討
	4	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析・検討
	5	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析・検討
	6	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析・検討
	7	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析・検討
	8	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析・検討
	9	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析・検討
	10	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析・検討
	11	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析・検討
	12	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析・検討
	13	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析・検討
	14	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析・検討
15	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析・検討	
16	研修旅行の計画・西行に関する故地について	
	時間外学習の内容	
	シラバスの確認	
	和歌の分析、解釈	
	和歌の分析、解釈	
	和歌の分析、解釈	
	和歌の分析、解釈	
	和歌の分析、解釈	
	和歌の分析、解釈	
	和歌の分析、解釈	
	和歌の分析、解釈	
	和歌の分析、解釈	
	ゼミの振り返り	
	ゼミ研修旅行の準備	
	テキスト・参考文献・資料など	
	テキストは、『山家集』（角川ソフィア文庫）西行（著）、宇津木 言行（著） その他参考資料は授業内で指示する。	
	学びの手立て	
	・必ず【通釈】、【語釈】、【考説】の項をもってレジュメを作成すること。 ・『歌ことは歌枕大辞典』（角川書店）、『日本国語大辞典』（小学館）などを用いて、関連事項を調べること。 ・歌枕や地名等を調査し、当時の道路や交通事情と関連させて発表すること。 『完全踏査 古代の道一畿内・東海道・東山道・北陸道』吉川弘文堂（木下良監修）、『事典 日本古代の道と駅』吉川弘文堂（木下良）などを参考資料とするとよい。	
	評価	
	発表レジュメ（60%）＋演習に対する取り組み、参加状況等（20%）＋ゼミ論集の原稿作成等（20%）をもって評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文Ⅰ・Ⅱ
-------	------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅠ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	下地 賀代子	3年	5-401(研究室) kshimoji@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 卒業論文の執筆を見据え、言語研究の基礎を学び方法論を身につけます。プレ研究テーマを設定して、先行研究を収集・分析し、実際に調査を行います。そして、その研究結果を中間報告します。	メッセージ 卒業論文執筆に向けて、自身の学問的な興味を明確にし、基礎固めをしていきましょう。
	到達目標 設定したプレ研究テーマについて先行研究を収集・分析して中間報告する。	

学びの準備	到達目標 設定したプレ研究テーマについて先行研究を収集・分析して中間報告する。
-------	--

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p><u>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</u></p> <p>おおむね次のように進めていきます。</p> <p>ガイダンス、ゼミ開き プレ研究テーマの設定 以下の項目に関する中間報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収集した先行研究のリスト</li> <li>・主要な先行研究のまとめと考察</li> <li>・研究テーマに関わる領域の研究状況</li> </ul> <p>各自の進捗状況に応じて指導、助言を行っていきます。</p> <p>★先行研究の収集とそのまとめは、卒業論文のテーマにしたいと考えている領域が現在どのような研究状況にあるのかを把握するための重要な作業となります。先行研究を分析することで生じてくる疑問や不十分だと思われる点を、卒業論文へと繋げていきます。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>各自の研究テーマに沿って適宜指示・紹介します。</p>

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>自身の研究テーマに関わる作業はもちろん、他のゼミ生や先輩の発表からも多くのことを学べます。ゼミでは積極的な発言を求めています。</p>
	<p>評価</p> <p>中間報告の内容：70%、研究テーマへの取り組み方：15%、ゼミへの参加度15%</p>

学びの実践	<p>評価</p> <p>中間報告の内容：70%、研究テーマへの取り組み方：15%、ゼミへの参加度15%</p>
-------	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目「ゼミナールⅡ」</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

学科カリキュラムポリシー4（論理的・批判的思考力や課題探究力を養い、卒業論文を作成するための「ゼミ」を設置）に関連する。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅠ	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 千英子	3年	メールにて受け付けます。	

学びの準備	ねらい 本演習は国語科教育に関する演習を行うものである。卒業論文のテーマを念頭に置き、レポートを作成、発表し、検討会を持つ。その中で、文献を読み取る力、分析する力、表現する力の基礎を身につける。	メッセージ 中学教諭としての現場経験を活かして、国語科教育研究のあり方や、授業実践例を紹介する。 国語科教育学への理解を深め、必要とする文献を見つける力を養ってほしい。教育への知見を深めるため、学会等への参加も予定する。
	到達目標 卒業論文の書き方を理解し、各自のテーマに沿って論文の第1章まで書く。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	卒業論文の概要とスケジュール	卒論テーマを考える
	2	卒業論文のテーマの立て方と書き方	卒論テーマに関する文献検索
	3	卒論テーマの報告、章立てを決める、研究の目的を書く	卒論テーマに関する文献検索
	4	4年次中間発表会・質疑応答（1）	卒論テーマに関する文献検索
	5	4年次中間発表会・質疑応答（2）	卒論テーマに関する文献検索
	6	テーマ・研究の目的・アウトライン執筆と文献の検索（1）	卒論テーマに関する文献検索
	7	テーマ・研究の目的・アウトライン執筆と文献の検索（2）	アウトライン作成・文献を読む
	8	テーマ・研究の目的・アウトラインと文献の報告（1）	アウトライン作成・文献を読む
9	テーマ・研究の目的・アウトラインと文献の報告（2）	論文作成	
10	発表・質疑応答（1）	論文作成	
11	発表・質疑応答（2）	論文作成	
12	発表・質疑応答（3）	論文作成	
13	発表・質疑応答（4）	論文作成	
14	4年次発表・質疑応答	論文作成	
15	4年次発表・質疑応答	論文作成	
16	予備日（面談等）	論文作成	
	テキスト・参考文献・資料など 国語科教育の成果と展望Ⅰ・Ⅱ		
	学びの手立て ①無断欠席は厳禁。（欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。） ②欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は、単位を与えません。 ③必要に応じて、参考文献も配信してください。 ④積極的に質疑に臨んで下さい。		
	評価 レポート70%、平常点（授業への取組）30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 （1）関連科目【上位科目】ゼミナールⅡ（3年次・後期）ゼミナールⅢ（4年次・前期）ゼミナールⅣ（4年次・後期）（2）次のステージ ゼミナールⅡでは、各自のテーマに基づいて、論文を作成し、発表する。質疑を受け、適切に回答することが求められる。カリキュラムポリシー4の、論理的思考力や課題探究力を養ってほしい。
-------	--

※ポリシーとの関連性 専門的な情報収集能力を身につけ、レジュメやレポートの作成を通して表現力を高める。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅠ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 陽子	3年	y.murakami@okiu.ac.jp 5号館404研究室	

学びの準備	ねらい 先行研究の調査方法を学び、作品への理解を深める。 レジュメや論文の書き方の基本を身につける。	メッセージ 卒業論文を執筆するためには、ストーリーを理解するだけに留まらない文学作品の読解力や、自らの問題設定を明確にする力、考えていることを文章にして他者に伝える力など、さまざまな能力が求められます。まずは基礎力をつけていきましょう。
	到達目標 先行研究の調査や論点整理、同時代状況の調査などを通して作品への理解を深め、卒業論文につながるテーマや問題意識を見出すことを目指す。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス（面談・発表順番決め）	シラバスを通読する。
	2	4年次卒業論文中間報告①	指定されたテキストを読んでくる。
	3	4年次卒業論文中間報告②	指定されたテキストを読んでくる。
	4	多和田葉子「献灯使」①【全体討論】及び4年次模擬発表	指定されたテキストを読んでくる。
	5	多和田葉子「献灯使」②【全体討論】	指定されたテキストを読んでくる。
	6	多和田葉子「献灯使」③【全体討論】	指定されたテキストを読んでくる。
	7	山田詠美「晩年の子供」【個人発表】	指定されたテキストを読んでくる。
	8	森絵都「風に舞いあがるビニールシート」【個人発表】	指定されたテキストを読んでくる。
	9	目取真俊「伝令兵」【個人発表】	指定されたテキストを読んでくる。
	10	よしもとばなな「「おかあさん！」」【個人発表】	指定されたテキストを読んでくる。
	11	星野智幸「紙女」【個人発表】	指定されたテキストを読んでくる。
	12	いとうせいこう「想像ラジオ」①【個人発表】	指定されたテキストを読んでくる。
	13	いとうせいこう「想像ラジオ」②【個人発表】	指定されたテキストを読んでくる。
	14	小川洋子「百科事典少女」【個人発表】	指定されたテキストを読んでくる。
	15	小山田浩子「うらぎゅう」【個人発表】	指定されたテキストを読んでくる。
	16	予備日	レポート作成。
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて指示する。		
	学びの手立て ディスカッションでの発言力や、レジュメをまとめ上げる文章力・構想力を養う。		
	評価 授業時の発言および発表50%、レポート50%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文を執筆するための基礎力を付け、自身にふさわしいテーマの選定を行なってほしい。関連科目は「ゼミナールⅡ」。
-------	---

※ポリシーとの関連性

言語やコミュニケーションを文化・人・社会との関わりから考え、  
自文化や他文化について客観的、論理的に説明できるようになる。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅠ	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	奥山 貴之	3年	eメール、授業後教室で受け付ける。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「日本語教育」「日本語学」「社会言語学」など関連分野で、各自の設定したテーマに基づいて、資料の紹介、研究の発表などをしていきます。課題を自分で見つけ、調査したり考察したりしたことを他者に伝えられるようになること、他者との議論の中で多角的な視点と論理的思考力を身につけることを目指します。</p>	<p>1人での考察や、ゼミの仲間とのやり取りなどから、ゼミ論文、卒業論文につながるものを見つけていきましょう。他者に伝えること、伝え合うことを通して、多角的な視点、論理的思考力を身につけていきましょう。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「社会言語学」の基礎的な知識を身につける。</li> <li>・論文を書くための準備のステップを理解し、実践する。</li> <li>・論文の構成を理解し、自分の論文作成に活かせるようになる。</li> <li>・論文を作成する上で必要な知識、スキルを他者と教え合い、伝え合うことができるようになる。</li> <li>・協働作業の中で課題を達成する力を身につける。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	文献検索と講読・ゼミ論準備
	2	研究計画について	文献検索と講読・ゼミ論準備
	3	発表方法の確認と発表例（レジュメの作り方）	文献検索と講読・ゼミ論準備
	4	四年次による前年度ゼミ論報告	文献検索と講読・ゼミ論準備
	5	予備日	文献検索と講読・ゼミ論準備
	6	文献講読発表①	文献検索と講読・ゼミ論準備
	7	文献講読発表②	文献検索と講読・ゼミ論準備
	8	文献講読発表③	文献検索と講読・ゼミ論準備
	9	文献講読発表④	文献検索と講読・ゼミ論準備
	10	文献講読発表⑤	文献検索と講読・ゼミ論準備
	11	文献講読発表⑥	文献検索と講読・ゼミ論準備
	12	研究計画発表と調査方法の検討①	文献検索と講読・ゼミ論準備
	13	研究軽薄発表と調査方法の検討②	文献検索と講読・ゼミ論準備
14	研究計画発表と調査方法の検討③	文献検索と講読・ゼミ論準備	
15	研究計画発表と調査方法の検討④	文献検索と講読・ゼミ論準備	
16	研究計画発表と調査方法の検討⑤	文献検索と講読・ゼミ論準備	
実践	<p>テキスト・参考文献・資料など 授業の中で適宜紹介する。</p>		
学びの手立て	<p>身近な疑問を大切にし、その疑問を自分で追究できるようになりましょう。 追究するための適切な方法や手順を仲間と一緒に身につけていきましょう。</p>		
評価	<p>平常点20%、レジュメおよび発表20%、課題30%、期末課題30%</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目 「ゼミナールⅡ」「ゼミナールⅢ・Ⅳ」「卒業論文Ⅰ・Ⅱ」</p>
-------	--



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅠ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	我部 大和	3年	h.gabu★okiu.ac.jp (★を@に変えてください)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本ゼミでは、琉球芸能・琉球文学・琉球文化を中心に卒業論文予定テーマについて報告する。報告内容としては、自ら研究したい内容の構想発表を中心に、文献収集・先行研究についての整理などである。先行研究への理解度や批判的読みの確認、研究方法や課題点などを教員・ゼミ生全員で討論し、卒業論文執筆の準備を行う。	研究したいテーマについて、いつ、誰が、どのような視点で研究したのかを把握しましょう。その上で、先行研究の理解に留まらず、批判的に検討する力を身につけて、卒論執筆に大きく役立てて欲しいです。 また、自分の発表のみならず、他者の発表を聞き、質問など発言を積極的に行い、議論に参加してください。
到達目標	① 研究したい発表テーマについて自ら調べ、考え、相手に伝えることができる。 ② 先行研究の収集・読み込みを中心として、先行研究への理解力および批判力を身につけることができる。 ③ 課題を発見し卒論執筆への下準備を行うことができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ゼミオリエンテーション（ゼミ開き・自己紹介・ゼミ方針など）	引用方法・参考文献の復習
	2	引用の作法・参考文献の書き方	ゼミ発表の準備しよう
	3	ゼミ研究進捗報告①	発表をふりかえり次回に準備しよう
	4	ゼミ研究進捗報告②	発表をふりかえり次回に準備しよう
	5	ゼミ研究進捗報告③	発表をふりかえり次回に準備しよう
	6	ゼミ研究進捗報告④	発表をふりかえり次回に準備しよう
	7	ゼミ研究進捗報告⑤	発表をふりかえり次回に準備しよう
	8	ゼミ研究進捗報告⑥	発表をふりかえり次回に準備しよう
	9	ゼミ研究進捗報告⑦	発表をふりかえり次回に準備しよう
	10	ゼミ研究進捗報告⑧	発表をふりかえり次回に準備しよう
	11	ゼミ研究進捗報告⑨	発表をふりかえり次回に準備しよう
	12	ゼミ研究進捗報告⑩	発表をふりかえり次回に準備しよう
	13	ゼミ研究進捗報告⑪	発表をふりかえり次回に準備しよう
14	ゼミ研究進捗報告⑫	発表をふりかえり次回に準備しよう	
15	ゼミ研究進捗報告⑬	発表をふりかえり次回に準備しよう	
16	予備日		
実践	テキスト・参考文献・資料など 発表後の検討などの際に、研究テーマに沿って随時紹介します。		
学びの手立て	①履修の心構え ・ゼミの報告は、レジュメを作成し、発表してください。 ・ゼミ生は報告者のレジュメや口頭での内容を聞いて、質問やコメントを行うようにしてください。  ②学びを深めるために ・自らに関連する他の講義などに参加し、学びを深めてください。 ・ゼミ以外で、研究について友達と交流するのも良い方法です。		
評価	・ゼミ発表 80%（ゼミの報告内容・発表態度） ・授業評価 20%（検討を行う際の積極的態、講義への参加姿勢）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文の本格的な下準備を行うために「ゼミナールⅡ」
-------	---

※ポリシーとの関連性

論理的・批判的思考力や課題探究力を養い、卒業論文を作成するための土台を作る。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅠ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安志那	3年	9-605号 ahn@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 比較文化・文学において自分が興味を覚えたテーマを設定し、先行研究や調査を通して具体化していく。	メッセージ 比較文化・文学の研究はテーマの設定が自由で幅広い反面、自分の主張の説得力を高める必要があります。そのために、先ず論理的に考え、分かりやすく伝える訓練をしていきましょう。また、臨地研修などを通して自分の研究に対する学びを深め、論理を構築する力を育てます。
	到達目標 卒業論文を書くための実践的なプロセスを理解し、自分の興味関心を見つける。他の受講生との積極的なディスカッションを通じて、自分のテーマを具体化する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスの確認
	2	3年次のテーマ発表	研究の意義、理由などを考える
	3	4年次の中間報告	研究の意義、理由などを考える
	4	文書の作成方法 (Word)	執筆の仕方
	5	キャリアガイダンス	キャリア相談
	6	資料の収集①	資料の収集方法
	7	資料の収集②	資料の収集方法
	8	論文の要約①	要約文の作成
9	論文の要約②	要約文の作成	
10	論理的思考力①	ゼミ論の構想	
11	論理的思考力②	ゼミ論の構想	
12	サンプル論文の紹介	サンプル論文の読解	
13	研究倫理	研究倫理の理解	
14	研究発表①	発表の準備とディスカッション	
15	研究発表②	発表の準備とディスカッション	
16	まとめ	ゼミ論テーマの選定	
	テキスト・参考文献・資料など 白井利明ほか『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房、2020。戸田山和久ほか『論文の教室』NHKブックス、2008。橋本修ほか『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』三省堂、2008。自分のテーマに基づき、研究資料を収集、調査し、紹介する。		
	学びの手立て 発表とグループディスカッションに積極的に参加すること。基本的に対面授業であるが、オンラインに切り替わる際には担当教員からの連絡に注意すること。		
	評価 授業参加度 (50%)、研究発表 (50%)。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ゼミナールⅡ。
-------	------------------------

※ポリシーとの関連性

司会・発表を体験することでコミュニケーション能力を培い、自己の関心を他者に的確に伝える力を養う。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅡ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 陽子	3年	y.murakami@okiu.ac.jp 5号館404研究室	

学びの準備	ねらい 先行研究を踏まえた上で明確に問題を設定し、それに基づいてレジユメを作成する。また、他者の発表についてもしっかりと向き合せて意見を出せるようにする。	メッセージ レジユメの書き方の基本を身につけ、議論する雰囲気慣れてきたら、一段高い目標に向けて進みたい。これまでの研究で十分に検討されていないところを見極め、自分自身の問題関心と突き合わせて問題設定をしていこう。 多くのテキストや先行研究に触れ、卒業論文執筆に向けた学びを深めてほしい。
	到達目標 個々のテキストがどのように研究されてきたかを踏まえた上で、新たな研究の視点を見出す。 議論をすることを通してコミュニケーション能力を養い、他者に自分の考えを論理的に伝える力を身につける	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスを読んでくる。
	2	テキスト分析とは何か	卒論テーマについて考える。
	3	3年次卒論テーマ仮確定	卒論テーマについて考える。
	4	研究発表①	指定されたテキストを読んでくる。
	5	研究発表②	指定されたテキストを読んでくる。
	6	研究発表③	指定されたテキストを読んでくる。
	7	研究発表④	指定されたテキストを読んでくる。
	8	研究発表⑤	指定されたテキストを読んでくる。
9	研究発表⑥	指定されたテキストを読んでくる。	
10	研究発表⑦	指定されたテキストを読んでくる。	
11	研究発表⑧	指定されたテキストを読んでくる。	
12	研究発表⑨	指定されたテキストを読んでくる。	
13	研究発表⑩	指定されたテキストを読んでくる。	
14	研究発表⑪	指定されたテキストを読んでくる。	
15	研究発表⑫	レポート作成に向けての学習。	
16	予備日	レポート作成。	
	テキスト・参考文献・資料など 受講生の要望に応じて対象テキストを設定する。		
	学びの手立て 受講生全員に1回の研究発表を義務づける。 発表後には教員および受講生全員で討議を行う。		
	評価 授業時の発言および発表50%、学期末のレポート50%。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文Ⅰ・Ⅱ。
-------	-------------------------

※ポリシーとの関連性 1年生、2年生で積み上げてきた知識や関心を、卒業論文につなげていく科目です。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅡ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	奥山 貴之	3年	email、授業後教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「日本語教育」「日本語学」「社会言語学」など関連分野で、各自の設定したテーマに基づいて、資料の紹介、研究の発表などをしていきます。課題を自分で見つけ、調査したり考察したりしたことを他者に伝えられるようになること、他者との議論の中で多角的な視点と論理的思考力を身につけることを目指します。</p>	<p>1人での考察や、ゼミの仲間とのやり取りなどから、ゼミ論文、卒業論文につながるものを見つけていきましょう。他者に伝えること、伝え合うことを通して、多角的な視点、論理的思考力を身につけていきましょう。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの興味や関心から、ゼミ論文・卒業論文に向けた課題を見つけ、明確にしていくこと。</li> <li>・調査したこと、考察したことをレジュメやスライドにまとめて伝えられるようになること。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	文献検索と講読・調査
	2	論文の書き方と先行研究	文献検索と講読・調査
	3	先行研究の報告①	発表準備、文献検索と講読・調査
	4	先行研究の報告②	発表準備、文献検索と講読・調査
	5	先行研究の報告③	発表準備、文献検索と講読・調査
	6	先行研究の報告④	発表準備、文献検索と講読・調査
	7	先行研究の報告⑤	発表準備、文献検索と講読・調査
	8	先行研究の報告⑥	発表準備、文献検索と講読・調査
9	個別指導と相互学習	論文執筆	
10	個別指導と相互学習	論文執筆	
11	個別指導と相互学習	論文執筆	
12	個別指導と相互学習	論文執筆	
13	ゼミ論中間発表①	発表準備、論文執筆	
14	ゼミ論中間発表②	発表準備、論文執筆	
15	ゼミ論中間発表③	発表準備、論文執筆	
16	卒業論文報告会	卒業論文の構想を練る	
実践	テキスト・参考文献・資料など	授業の中で適宜紹介する。	
学びの手立て	身近な疑問を大切に、その疑問を自分で追究できるようになりましょう。追究するための適切な方法や手順を仲間と一緒に身につけていきましょう。		
評価	平常点10%、レジュメおよび発表20%、課題30%、ゼミ論文40%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「ゼミナールⅢ・Ⅳ」「卒業論文Ⅰ・Ⅱ」
-------	------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅡ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	我部 大和	3年	h.gabu★okiu.ac.jp (★を@に変えてください)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本ゼミでは、琉球芸能・琉球文学・琉球文化を中心に卒業論文の下準備を行います。「ゼミナールⅠ」で行った先行研究の収集・分析の他、研究方法、仮の論文構成など4年次の執筆に向けた具体的な作業や進捗状況を発表してもらいます。ゼミ生同士もお互いに議論しながら執筆に向けた準備を進めます。	3年次の後期になると、就活や公務員試験対策など次のステップへ向かって忙しい日々になります。その中で研究する時間をいかに捻出し、発表準備や卒論を行うかがこの時期の大きなカギとなります。4年次で慌てないためにも執筆に向けて一緒に下準備を行いましょう。
到達目標	①卒業論文の執筆にあたり、先行研究の収集・分析した成果を発表することができる。 ②課題を発見しどのように研究すればよいかなど具体的な研究方法を探ることができる。 ③ゼミ生同士で発表に対し、疑問に思ったことを発表者に伝え議論をすることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ゼミオリエンテーション（ゼミ開き・発表順など）	「問い」と論文構成の復習をしよう
2	「問い」の設定・論文構成の作り方	ゼミ発表の準備しよう	
3	ゼミ研究進捗報告①	発表をふりかえり次回に準備しよう	
4	ゼミ研究進捗報告②	発表をふりかえり次回に準備しよう	
5	ゼミ研究進捗報告③	発表をふりかえり次回に準備しよう	
6	ゼミ研究進捗報告④	発表をふりかえり次回に準備しよう	
7	ゼミ研究進捗報告⑤	発表をふりかえり次回に準備しよう	
8	ゼミ研究進捗報告⑥	発表をふりかえり次回に準備しよう	
9	ゼミ研究進捗報告⑦	発表をふりかえり次回に準備しよう	
10	ゼミ研究進捗報告⑧	発表をふりかえり次回に準備しよう	
11	ゼミ研究進捗報告⑨	発表をふりかえり次回に準備しよう	
12	ゼミ研究進捗報告⑩	発表をふりかえり次回に準備しよう	
13	ゼミ研究進捗報告⑪	発表をふりかえり次回に準備しよう	
14	ゼミ研究進捗報告⑫	発表をふりかえり次回に準備しよう	
15	ゼミ研究進捗報告⑬	研究進捗報告書の準備しよう	
16	予備日		
テキスト・参考文献・資料など	発表時に研究テーマに沿ったものを適宜提示します。		
学びの手立て	履修の心構え		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>本ゼミでは、発表者の内容に耳を傾けながら必ず質問・コメントをしてください。ゼミ生同士の積極的な発言をすることで議論を深めていきましょう。</li> <li>積極的に参加をして多くの発表を聞き、自らの卒業論文の研究に活かしてください。</li> </ul>		
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゼミ発表（60%）（ゼミ報告の深度、発表態度）</li> <li>研究報告書（20%）（これまでのゼミ報告のまとめ）</li> <li>授業評価（20%）（発表以外での積極的態、講義への参加姿勢）</li> </ul>		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「ゼミナールⅢ」「ゼミナールⅣ」「卒業論文Ⅰ」「卒業論文Ⅱ」
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅡ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安志那	3年	9-605号 ahn@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 比較文化・文学において自分が興味を覚えたテーマを決定し、先行研究や調査を通して具体化していく。	メッセージ 比較文化・文学の研究はテーマの設定が自由で幅広い反面、自分の主張の説得力を高める必要があります。そのために、先ず論理的に考え、分かりやすく伝える訓練をしていきましょう。また、臨地研修などを通して自分の研究に対する学びを深め、論理を構築する力を育てます。
	到達目標 卒業論文のテーマに関する資料収集の計画と過程を確認する。資料の要約と論文執筆に必要なルールと文章の書き方などを学ぶ。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	日程の確認
	2	3年次のゼミ論	ゼミ論の構想
	3	4年次の卒論	卒論の構想
	4	論文の形式	具体的な執筆の準備
	5	先行研究及び関連文献の紹介①	各自の先行研究の確認と紹介
	6	先行研究及び関連文献の紹介②	各自の先行研究の確認と紹介
	7	引用の方法①	論文執筆の準備
	8	引用の方法②	論文執筆の準備
	9	章構成①	論文の構成を理解する
	10	章構成②	論文の構成を理解する
	11	文章構成	論文執筆の準備
	12	語彙と表現	論文執筆の準備
	13	序論の書き方	論文の執筆
	14	研究報告①	個別面談
15	研究報告②	ゼミ論の提出・個別面談	
16	まとめ	質疑応答	
テキスト・参考文献・資料など 白井利明ほか『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房、2020。戸田山和久ほか『論文の教室』NHKブックス、2008。橋本修ほか『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』三省堂、2008。自分のテーマに基づき、研究資料を収集、調査し、執筆を始める。			
学びの手立て 発表とディスカッションに積極的に参加すること。基本的に対面授業であるが、オンラインに切り替わる際には担当教員からの連絡に注意すること。			
評価 研究発表（50％）、ゼミ論（50％）。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 ゼミナールⅢ・Ⅳ、卒業論文Ⅰ・Ⅱ。
-------	----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅡ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	名城 邦孝	3年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 各自が興味をもったテーマについての研究を行う。研究対象とするテーマは、図書館を中心にその周辺分野から選択する。対象としたテーマについて文献を収集し、まとめることに重点を置く。ゼミナールⅡでは事前調査の後、中間報告を行ってもらう。	メッセージ この後の卒業論文の執筆に向けて、しっかりと自身のテーマについて調査・分析していきましょう。
	到達目標 自分自身で課題を設定し、それについて調べてまとめることができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ゼミナールⅡの目標	ゼミナールⅠについてまとめる
	2	授業の進め方	自身のテーマについて確認
	3	テーマ設定の方法	発表準備
	4	テーマの決定	発表準備
	5	テーマ発表	発表準備
	6	テーマ発表	発表準備
	7	文献収集方法の確認	課題作成
	8	文献収集	課題作成
	9	文献収集	課題作成
	10	収集した文献についての発表	発表準備
	11	収集した文献についての発表	発表準備
	12	論文の作成方法	発表準備
	13	文献の収集と研究対象の概要についての中間報告	発表準備
	14	文献の収集と研究対象の概要についての中間報告	発表準備
15	まとめ	今後のスケジュール確認	
16			
テキスト・参考文献・資料など テキストは使用せず、適宜参考文献を紹介する。			
学びの手立て 授業時間外での学習も多くなりますが、しっかりとこなしていきましょう。			
評価 発表40% (研究対象についての中間報告を行う。) 提出物30% (資料の調べ方などについての課題を提出してもらう。) 平常点30% (授業中の発表状況や受講態度)			

学びの継続	次のステージ・関連科目 ゼミナールⅢ、卒業論文Ⅰ
-------	-----------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅡ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	葛綿 正一	3年	kuzuwata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習は日本の古典文学・文化に関する演習を行うものである。今年度は特に狂言を取り上げる。狂言作品を一つ一つ取り上げながら注釈を試み、笑いの問題、オノマトペの効用などについて考える。	資料を探し、分析の視点を設定し、発表の構成について考えるというのは広く応用可能な方法である。ぜひ身につけてほしい。

到達目標	先行研究を整理し、分析の視点を設定し、発表の構成について考える。この手順をぜひ身につけてほしい。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	演習の進め方	関連する資料の収集
	2	調べる〈1〉	資料の収集
	3	調べる〈2〉	資料の読み込み
	4	調べる〈3〉	資料の収集
	5	調べる〈4〉	資料の読み込み
	6	分析する〈1〉	発表の準備
	7	分析する〈2〉	発表の準備
	8	分析する〈3〉	発表の準備
	9	分析する〈4〉	発表の準備
	10	発表する〈1〉	発表の手直し
	11	発表する〈2〉	発表の手直し
	12	発表する〈3〉	発表の手直し
	13	発表する〈4〉	発表の手直し
14	発表する〈5〉	発表の手直し	
15	発表する〈6〉	発表の手直し	
16	まとめ	発表の手直し	
実践	テキスト・参考文献・資料など そのつど紹介する。		
学びの手立て	日本国語大辞典など大きな事典類をまず引くことを勧める。		
評価	提出物、発表内容70%、授業への取り組み30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ゼミナールⅢにおいては卒業論文の作成を視野に入れつつ、発表を行う。
-------	--



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅡ	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	兼本 敏	3年	令和五年度は担当いたしません。 メール: kanemoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標
-------	------

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
16			

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
-------	----------------

学びの実践	学びの手立て
-------	--------

学びの実践	評価
-------	----

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅡ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山口 真也	3年	メールで受け付けます。 yamaguchi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「表現論」や「図書館情報学研究」に関するさまざまなテーマを取り上げ、個人ごとに研究発表を行います。その過程で、卒業研究の基礎となる研究レポートを作成し、卒業論文の作成、卒業制作を行うための基本的な知識、技術を身につけることを目的とします。また、キャリアに関する情報提供・交換も行い、各自が研究テーマと関わらせながら、進路研究を進めていきます。	後期のゼミでは、前期に決定したテーマの下で、各自が調査・分析を行い、ゼミ論を執筆します。ゼミ生みんなで頑張りましょう。
到達目標	①多数の先行研究に触れることで、論理的な文章構成力を身に付ける(学術論文の文体をマスターする)。 ②社会調査方法(アンケート・観察・インタビュー方法)を理解し、仮説を証明する上で適切な方法を選択するとともに、実施した調査の結果を客観的な視点で分析できる。 ③研究発表の準備・運営を通して、説明する、質問する、意見を述べる、などのプレゼンテーションの力を高めるとともに、スケジュールマネジメントなどの自己管理能力を伸ばし、就職活動等の実生活に役立てることができる。	

学びの実践	学びのヒント	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	後期の目標設定・夏休みの学習状況の報告・発表日程の決定・レジュメの作成方法①	夏休みの取り組みをまとめる	
	2	レジュメの作り方② テーマが近いグループでレジュメの構成を検討	レジュメのアウトラインを考える	
	3	レジュメの作り方③ レジュメ案の作成・文献探索法の再確認	レジュメのアウトラインを考える	
	4	図書館での文献収集①	先行研究の調査	
	5	図書館での文献収集②	先行研究の調査、文献の整理	
	6	レジュメの作り方④ 収集した文献をもとにレジュメ案を再検討・レジュメ案の一次提出	レジュメ案の作成・提出	
	7	調査方法の検討(観察調査・アンケート調査の項目検討)	調査項目の検討	
	8	調査方法の検討(観察シート・アンケート用紙の作成)・卒論題目登録	題目を考える	
9	調査結果の分析方法(グラフのまとめ方・仮説の検証方法・学術論文の書き方)	レジュメ作成		
10	レジュメの作り方⑤ レジュメ案の二次提出・進行状況の確認・発表順の決定	レジュメ作成・提出		
11	個人研究発表①	発表の準備、フィードバック		
12	個人研究発表②	発表の準備、フィードバック		
13	個人研究発表③	発表の準備、フィードバック		
14	個人研究発表④	発表の準備、フィードバック		
15	個人研究発表⑤	発表の準備、フィードバック		
16	個人研究発表⑥・授業のまとめ(到達度のチェック)	発表の準備、フィードバック		
テキスト・参考文献・資料など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業論文集(『文化情報学研究』)をテキストとする。※本学図書館に過去の号が全て所蔵されている。</li> <li>・参考文献は適宜指示する。</li> </ul>			
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人発表に向けての個人指導は授業時間外にTeamsを使って行います。</li> <li>・文献の収集などで授業時間中に通常教室でノートPCを使うことがあります。持参できない人は事前に山口に相談してください。</li> </ul>			
評価	定期テスト・・・0点 レポート・・・10点 (自己の活動をきちんと振り返ることができているかをレポート) 平常点・・・90点 (研究発表の到達度、討議への参加、傾聴能力、フィードバックシートへの記入などを評価) ※欠席する場合は事前に欠席届(メール可)を提出すること。(無断で欠席しないこと)			

学びの継続	次のステージ・関連科目 4年生必修科目「ゼミナールⅢ」「卒業論文Ⅰ」に繋がる科目です。
-------	--

※ポリシーとの関連性

琉球文化に対する理解を深め、琉球語学、琉球文学、琉球芸能への知識、能力を身に付けます。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅡ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	3年	研究室番号：5402 E-mail：nishioka@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 琉球語諸方言の調査・記録、分析あるいは再生に取り組みます。消滅の危機に瀕する言語と呼ばれる琉球語諸方言を分からないまま置いておくのではなく、それら言葉の特徴・個性を分かろうとする学びの姿勢が大切です。	メッセージ 琉球語を甦らせるにはどうすればよいのかを考えていきましょう。音声テキストおよび画像資料の収集（作成）と、そのデジタル化および一般公開も、これから成されるべき仕事です。また、琉球語諸方言によって何かを表現していくという姿勢も大切になってきます。
	到達目標 琉球語諸方言による文法書、辞典、索引、民話テキスト、教科書、演劇台本などの作成を目指します。それぞれが琉球語を理解し、琉球語の継承者となることが目標です。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・課題の琉球語テキスト決定	琉球語の品詞分解・解釈
	2	琉球語テキスト(昔話)の読解・鑑賞①	琉球語の品詞分解・解釈
3	琉球語テキスト(昔話)の読解・鑑賞②	琉球語の品詞分解・解釈	
4	琉球語テキスト(昔話)の読解・鑑賞③	琉球語の品詞分解・解釈	
5	現地見学1(故地を訪ねて)	レポートによるまとめ	
6	琉球語テキスト(昔話)の読解・鑑賞④	琉球語の品詞分解・解釈	
7	琉球語テキスト(昔話)の読解・鑑賞⑤	琉球語の品詞分解・解釈	
8	琉球語テキスト(昔話)の読解・鑑賞⑥	琉球語の品詞分解・解釈	
9	現地見学2(故地を訪ねて)	レポートによるまとめ	
10	琉球語テキスト(組踊)の読解・鑑賞⑦	琉球語の品詞分解・解釈	
11	琉球語テキスト(組踊)の読解・鑑賞⑧	琉球語の品詞分解・解釈	
12	琉球語テキスト(組踊)の読解・鑑賞⑨	琉球語の品詞分解・解釈	
13	現地見学3(故地を訪ねて)	レポートによるまとめ	
14	琉球語テキスト(組踊)の読解・鑑賞⑩	琉球語の品詞分解・解釈	
15	現地見学4(故地を訪ねて)	レポートによるまとめ	
16	予備日・春休みの調査計画等	調査計画書作成	
	テキスト・参考文献・資料など ゼミで扱う琉球語テキストについては、その都度指示します。 毎回、課題の琉球語テキストを品詞分解したレジユメを用意すること。		
	学びの手立て 初めは、琉球語に関する本を読んだりメディアにふれたりして、琉球語についての理解を深めます。また、琉球語諸方言を記録として書き留める練習をします。文法的に分析する姿勢も学びます。その後、琉球語諸方言に関するテーマを決め、それについて実際に調査・記述します。文法記述、辞書(語彙集)作成、テキスト収集などが大きな目標となります。フィールドワーク(野外調査)を行う際には、まず教室で、先行文献の検討、調査表の作成、予備調査などを行ないます。その後、実際に現地に赴きます。再び教室に戻ったあとは、集めた資料の整理をし、今後の課題を洗い出します。		
	評価 平常点(50%)、発表(50%)。フィールドワークを行う場合は、その準備および参加、行事への取り組み、提出レポートなども発表に含みます。発表担当者は責任をもって発表すること。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本語音声学、日本語音声学特講、琉球語学特講などが関連科目です。音声学の知識は必須。琉球語スピーチコンテストに積極的に参加すること。
-------	---

※ポリシーとの関連性

論理的・批判的思考力や課題探究力を養い、卒業論文を作成するための「ゼミナール」を設置します。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅡ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	3年	ytaba@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習は、概ね日本の古典文学、国語科教育に関する分野について、各自の興味関心、問題意識に基づいて、テーマを設定してレポート発表する。また、臨地研修などを通して、研究対象と向き合うことによって、様々な知見を経験的・実感的に学んでいく。	学習指導要領によると「伝統文化」という科目が設定されるようです。「伝統文化」を学ぶ我々の出番です。実感的・経験的に学ぶには、作品を深く学ぶことに他ならないと思います。ともに頑張りましょう。【実務経験】高等学校教諭だった現場経験を生かして、高大接続を意識した指導を行います。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 自分自身の興味関心、問題意識に基づいてテーマを設定し、調査研究する能力を身に付ける。</li> <li>2 研究討議等によって、多面的に考察する方法を身に付ける。</li> <li>3 臨地研究などを通して、研究対象と向き合い、自分自身の気づきや経験に基づいた感性を大事にすることができる。</li> </ol>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス①（文献検索の方法、調査方法等）	シラバスの確認
2	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習	
3	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習	
4	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習	
5	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習	
6	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習	
7	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習	
8	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習	
9	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習	
10	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習	
11	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習	
12	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習	
13	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習	
14	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習	
15	ゼミ論集の編集	ゼミの振り返り	
16	ゼミ論集配布	ゼミ論集を使って学びの振り返り	
	テキスト・参考文献・資料など	必要に応じて指示する。	
	学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究報告は、予め発表の順番を決めてから行う。期日までに発表レジュメを作成すること。</li> <li>・ 辞典、事典類を活用して、詳細な調査につとめてください。</li> </ul>	
	評価	発表内容（40%）・演習に対する取り組みの姿勢等（60%）を総合的に評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文Ⅰ・Ⅱ
-------	------------------------

※ポリシーとの関連性 卒業論文執筆に向け、日本語学、琉球語学領域の各自の研究テーマに関する専門的な知識を深める。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅡ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	下地 賀代子	3年	5-401(研究室) kshimoji@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 卒業論文執筆に向けて、各自の研究テーマを決定します。先行研究の収集と分析、調査方法、論文の構想など具体的な作業を進め、その進捗状況を報告してもらいます。なお可能であれば、調査の実践練習として言語調査の課外実習も行います。	メッセージ 卒業論文執筆に向けて、自身の学問的な興味を明確にし、基礎固めをしていきましょう。
	到達目標 ・卒業論文執筆に向けて研究テーマを決定し、先行研究をまとめる。 ・研究テーマに関するプレ調査を行い、具体的な研究計画を立てる。	

学びの準備	到達目標 ・卒業論文執筆に向けて研究テーマを決定し、先行研究をまとめる。 ・研究テーマに関するプレ調査を行い、具体的な研究計画を立てる。
-------	--

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p><u>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</u></p> <p>おおむね次のように進めていきます。</p> <p>ガイダンス プレ研究テーマ、これまでの進捗状況の再確認 卒業論文テーマの決定 以下の項目に関する中間報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業論文の構想</li> <li>・先行研究の追加リスト</li> <li>・卒業論文の執筆計画の概要</li> <li>・プレ調査とその分析結果報告</li> </ul> <p>各自の進捗状況に応じて指導、助言を行っていきます。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>各自の研究テーマに沿って適宜指示・紹介します。</p>

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 各自の研究テーマに沿って適宜指示・紹介します。
-------	---

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>自身の研究テーマに関わる作業はもちろん、他のゼミ生や先輩の発表からも多くのことを学べます。ゼミでは積極的な発言を求めています。</p>
-------	--

学びの実践	<p>評価</p> <p>中間報告の内容：70%、研究テーマへの取り組み方：15%、ゼミへの参加度15%</p>
-------	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目「ゼミナールⅢⅣ」「卒業論文ⅠⅡ」</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅡ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 千英子	3年	メールにて受け付けます。	

学びの準備	ねらい 本演習は国語科教育に関する演習を行うものである。卒業論文のテーマを念頭に置き、レポートを作成、発表し、検討会を持つ。その中で、文献を読み取る力、分析する力、表現する力、多角的に考える力の基礎を身につける。	メッセージ 中学教諭としての現場経験を活かして、国語科教育研究のあり方や、授業実践例を紹介する。 国語科教育学への理解を深め、必要とする文献をもとに、自分の考えを論理的に構築する力を養ってほしい。教育への知見を深めるため、学会等への参加も予定する。
	到達目標 卒業論文の書き方を理解し、各自のテーマに基づき、第2章までまとめることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	論文作成
	2	研究発表・質疑応答(1)	論文作成
	3	研究発表・質疑応答(2)	論文作成
	4	研究発表・質疑応答(3)	論文作成
	5	研究発表・質疑応答(4)	論文作成
	6	研究発表・質疑応答(5)	論文作成
	7	研究発表・質疑応答(6)	論文作成
	8	研究発表・質疑応答(7)	論文作成
	9	研究発表・質疑応答(8)	論文作成
	10	研究発表・質疑応答(9)	論文作成
	11	研究発表・質疑応答(10)	論文作成
	12	4年次発表会・質疑応答(1)	論文作成
	13	4年次発表会・質疑応答(2)	論文作成
	14	ゼミ論集の作成(誤字脱字・引用・脚注のチェック)	論文作成
15	まとめ	論文作成	
16	予備日(卒業論文集の印刷・製本等)	論文作成	
	テキスト・参考文献・資料など 適宜紹介する。 発表者は参考文献のコピーもPDFで配布する。		
	学びの手立て ①無断欠席は厳禁。(欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。) ②欠席回数が全授業回数 $\frac{1}{3}$ を超えた場合は、単位を与えません。 ③必要に応じて、参考文献も印刷・配布してください。 ④積極的に質疑に臨んで下さい。		
	評価 レポート70%、平常点(授業への取組)30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目【上位科目】ゼミナールⅢ(4年次・前期)ゼミナールⅣ(4年次・後期) (2) 次のステージ ゼミナールⅢでは、3年次の発表に関する資料を読み込み、質問する力、課題を提示する力が求められる。 カリキュラムポリシー4の、論理的・批判的思考力や課題探究力を養ってほしい。
-------	---

※ポリシーとの関連性

論理的・批判的思考力や課題探求力を養い、卒業論文を作成するために  
 行う科目です。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅢ	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	名城 邦孝	4年	k.nashiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	卒業論文作成に向けて、ゼミナールⅠⅡで学んだことを改めて見直す。また、3年生のテーマ設定などへの援助を行う中で自身のテーマを確認していく。	演習形式で授業を行う。また、文献調査なども行うため、図書館に何度も行くことになる。

到達目標
1. 調査研究の方法等について理解を深め、自分で資料を探ることができるようになる。 2. 各自の研究対象を確定できるようにする。 3. テキストをまとめ、内容を発表できるようになる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・授業の進め方	これまでに学んだことの確認
	2	資料の探し方1	資料収集
	3	資料の探し方2	資料収集
	4	レポート作成の方法1	レポート作成
	5	レポート作成の方法2	レポート作成
	6	発表方法1	発表準備
	7	発表方法2	発表準備
	8	個別面談	これまでの内容確認
	9	個別面談	これまでの内容確認
	10	テキストの輪読と課題	テキストをまとめる
	11	テキストの輪読と課題	テキストをまとめる
	12	テキストの輪読と課題	テキストをまとめる
	13	テキストの輪読と課題	テキストをまとめる
	14	テーマ発表	発表準備
15	テーマ発表	発表準備	
16			

実践	テキスト・参考文献・資料など 授業時に適宜紹介する。
----	-------------------------------

学びの手立て	自身の研究テーマについて確認していきましょう
--------	------------------------

評価	発表50% 平常点50%
----	--------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 ゼミナールⅣ、卒業論文ⅠⅡ
-------	------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅢ	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	葛綿 正一	4年	kuzuwata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習は日本の古典文学・文化に関する演習を行うものである。今年度は特に狂言を取り上げる。狂言作品を一つ一つ取り上げながら注釈を試み、笑いの問題、オノマトペの効用などについて考える。	メッセージ 資料を探し、分析の視点を設定し、発表の構成について考えるというのは広く応用可能な方法である。ぜひ身につけてほしい。
	到達目標 先行研究を整理し、分析の視点を設定し、発表の構成について考えるという手順を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	演習の進め方	関連する資料の収集
	2	調べる(1)	資料の収集
	3	調べる(2)	資料の読み込み
	4	調べる(3)	資料の収集
	5	調べる(4)	資料の読み込み
	6	分析する(1)	発表の準備
	7	分析する(2)	発表の準備
	8	分析する(3)	発表の準備
	9	分析する(4)	発表の準備
	10	発表する(1)	発表の手直し
	11	発表する(2)	発表の手直し
	12	発表する(3)	発表の手直し
	13	発表する(4)	発表の手直し
	14	発表する(5)	発表の手直し
15	発表する(6)	発表の手直し	
16	まとめ	発表の手直し	
	テキスト・参考文献・資料など 新日本古典大系『狂言記』岩波書店、新編日本古典文学全集『狂言集』小学館		
	学びの手立て 日本古典文学大辞典、日本国語大辞典など大きな事典類をまず引くことを勧める。		
	評価 提出物、発表内容70%、授業への取り組み30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のゼミナールⅣにおいては論文の構成、執筆、再検討へと進む。
-------	---



※ポリシーとの関連性

日本文化及び琉球文化に専門的な知識・能力を持ち、多文化共生を目指し論理的・批判的思考力や課題探究力を養う必修科目です。

[ / 演習 ]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅢ	後期	木 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	兼本 敏	4年	研究室5-501 メール: kanemoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>これまで培ってきた大学生として有すべき技能を駆使してゼミ論を書いてもらう。プレゼンを行い論文の完成度を高め卒論へとつなげる。</p> <p>到達目標 自己の設定したテーマに関する口頭発表と質疑を行い「ゼミ論」として精緻化する。それに必要な資料および文献を補足する能力を培う。</p>	<p>1. 講義初日に大切な確認事項があります。参加は必須です。 2. 自分の考えを発表して質問を受けることで、理解されていない部分がはっきりします。発表と質疑で何が足りないのかが明白になります。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	オリエンテーション	日程の確認
	2	進捗状況の確認	各自報告書を提出する
	3	ゼミ論から卒論へ	報告書とゼミ論の違いを確認
	4	テーマごとに質疑応答	発表形式の確認・模擬発表
	5	テーマごとに質疑応答	発表形式の確認・模擬発表
	6	発表の日程と最終提出日の決定	発表＝個別相談の調整
	7	発表要旨の配布	発表現行の要旨の作成
	8	発表準備（執筆継続）	加筆および修正
	9	発表と質疑	同上
	10	同上	同上
	11	同上	同上
	12	同上	同上
	13	総括（最終提出日）	自己発表の再評価・加筆および修正
14	テーマに関する質疑（対教員）	修正と加筆	
15	ゼミ論の再提出	同上	
16	振り返り	ゼミを振り返る	
	テキスト・参考文献・資料など		
	特に指定はしませんが、論文の書き方に関する書籍を購読するように。「アカデミック・ライティング」で学んだことの実践になります。		
	学びの手立て	質疑によって論文の完成度が高まります。クラスメート以外にもテーマについて話してみてください。	
	評価	次の点で評価します。 1. 論文本体の完成度（章立て・参考文献の量） 40% 2. 展開の論理性（根拠と展開） 40% 3. 論集の作成作業への参加度（編集作業） 20%	

学びの継続	次のステージ・関連科目 「卒業論文Ⅱ」および「ゼミナールⅣ」に進んで卒業論文を完成させてください。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅢ	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山口 真也	4年	メールで受け付けます。 yamaguchi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本ゼミ(文化情報学ゼミ)のテーマである「表現論」や「図書館情報学研究」に関するさまざまなトピックを取り上げ、3年生へのプレゼンテーションや3年生とのディスカッション等を通して、本ゼミの研究テーマの理解をさらに深め、各自が取り組んでいる卒業研究を深めていくための準備を行います。	昨年度の「ゼミナールⅠ・Ⅱ」での学習をふまえて、研究発表のプレゼンテーションやディスカッションを行います。3年生のよいお手本として活動してくれることを期待しています。
到達目標	①個人研究のプレゼンテーションを通して、自身の研究テーマを魅力的にわかりやすく伝えるスキルを身に付ける。 ②ゼミテーマに関わるディスカッションを通して、論理的な思考力や説明能力、情報活用能力、発信力を身に付ける。 ③新3年生の指導や交流を通して、他者理解力、コミュニケーション能力を高める。 ④以上の学習を通して、将来の進路決定にも役立つアカデミックスキル、社会人基礎力を身に付ける。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション(1):履修上の注意、論文集の配布、自己紹介	シラバスを読み、授業に備える
	2	オリエンテーション(2):就職活動と研究活動の両立・就職ガイダンス	将来目標、進路の再検討
	3	オリエンテーション(3):個別面談(2年間の目標設定・進路相談)	プレゼンテーションの準備
	4	オリエンテーション(4):個別面談(2年間の目標設定・進路相談)	プレゼンテーションの準備
	5	4年生による卒業研究のプレゼンテーション(1)	プレゼンテーションの準備・反省
	6	4年生による卒業研究のプレゼンテーション(2)	プレゼンテーションの準備・反省
	7	過去の卒論テーマに関するグループディスカッション(1)「出版流通」「図書館」	卒論集に目を通す
8	過去の卒論テーマに関するグループディスカッション(2)「表現論」	卒論集に目を通す	
9	個人研究テーマの決定(1):先行研究の調査方法(図書・雑誌記事編)	文献の追加収集	
10	個人研究テーマの決定(2):先行研究の調査方法(新聞記事・辞書事典・各種データ編)	文献の追加収集	
11	文献収集演習	文献の追加収集・3年生のサポート	
12	個人研究テーマの決定(3):学術研究の方法(問題意識・仮説・検証方法)、研究計画書の作成方法	3年生のサポート	
13	個人研究テーマ発表(1)	3年生のサポート	
14	個人研究テーマ発表(2)	3年生のサポート	
15	個人研究テーマ発表(3)	3年生のサポート	
16	個人研究テーマ発表(4)・授業のまとめと自己評価(到達度チェック)	3年生のサポート・前期の振り返り	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業論文集(『文化情報学研究』)をテキストとする。</li> <li>※本学図書館に過去の号が全て所蔵されている。</li> <li>※日本文化学科卒業研究データベースも参照すること。</li> </ul>		
	学びの手立て		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>本ゼミナールは、日本文化学科の専門分野(3コース)の周辺領域を広くカバーしています。メインの学問領域ではない分、個人の興味関心に応じて自由にテーマを設定し、学ぶ・調べる・表現する楽しさを体験できるようなプログラムとなっています。昨年度に続いて、社会人基礎力となるリテラシーを身に付けていきましょう。</li> </ul>		
	評価		
	レポート・・・10点 (自己の活動をきちんと振り返ることができているかをレポート提出) 平常点・・・90点 (討議への参加、積極的な質問、傾聴能力、フィードバックシートへの記入などを評価) ※欠席する場合は事前に欠席届(メール可)を提出すること。(無断で欠席しないこと)		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	後期に開講される「ゼミナールⅣ」に繋がる科目です。

※ポリシーとの関連性 琉球文化に対する理解を深め、琉球語学、琉球文学、琉球芸能への知識、能力を身に付けます。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅢ	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	4年	研究室番号：5402 E-mail：nishioka@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 琉球語諸方言の調査・記録、分析あるいは再生に取り組みます。消滅の危機に瀕する言語と呼ばれる琉球語諸方言を分からないまま置いておくのではなく、それら言葉の特徴・個性を分かろうとする学びの姿勢が大切です。	メッセージ 琉球語を甦らせるにはどうすればよいのかを考えていきましょう。音声テキストおよび画像資料の収集（作成）と、そのデジタル化および一般公開も、これから成されるべき仕事です。また、琉球語諸方言によって何かを表現していくという姿勢も大切になってきます。
-------	---	--

到達目標 琉球語諸方言による文法書、辞典、索引、民話テキスト、教科書、演劇台本などの作成を目指します。それぞれが琉球語を理解し、琉球語の継承者となることが目標です。
---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・課題の琉球語テキスト決定	関連語彙を調べる
	2	琉球語テキスト(沖縄民話・琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	関連語彙を調べる
	3	琉球語テキスト(沖縄民話・琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	関連語彙を調べる
	4	琉球語テキスト(沖縄民話・琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	関連語彙を調べる
	5	琉球語テキスト(沖縄民話・琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	関連語彙を調べる
	6	琉球語テキスト(沖縄民話・琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	関連語彙を調べる
	7	琉球語テキスト(沖縄民話・琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	関連語彙を調べる
	8	琉球語テキスト(沖縄民話・琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	関連語彙を調べる
	9	琉球語テキスト(沖縄民話・琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	関連語彙を調べる
	10	琉球語テキスト(沖縄民話・琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	関連語彙を調べる
	11	琉球語テキスト(沖縄民話・琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	関連語彙を調べる
	12	琉球語テキスト(沖縄民話・琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	関連語彙を調べる
	13	琉球語テキスト(沖縄民話・琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	関連語彙を調べる
	14	琉球語テキスト(沖縄民話・琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	関連語彙を調べる
15	琉球語テキスト(沖縄民話・琉球民謡・沖縄芝居など)の読解・鑑賞	関連語彙を調べる	
16	予備日	夏休みについての話し合い	
実践	テキスト・参考文献・資料など ゼミで扱う琉球語テキストについては、その都度指示します。毎回、課題についてのレジユメを用意すること。		
	学びの手立て 初めは、琉球語に関する本を読んだりメディアにふれたりして、琉球語についての理解を深めます。また、琉球語諸方言を記録として書き留める練習をします。文法的に分析する姿勢も学びます。その後、琉球語諸方言に関するテーマを決め、それについて実際に調査・記述します。文法記述、辞書（語彙集）作成、テキスト収集などが大きな目標となります。		
	評価 平常点（50%）、発表（50%）。発表担当者は責任をもって発表すること。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本語音声学、日本語音声学特講、琉球語学特講などが関連科目です。音声学の知識は必須。琉球語の関連行事に積極的に参加すること。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅢ	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	4年	ytaba@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習は、『山家集』を扱う。レポーターが毎回【通釈】【語釈】【考説】を発表し、その内容を検討する。レポートテーマは、西行歌と風景・景観とする。西行の故地や歌枕を現地調査する研修旅行を行う。	メッセージ 発表内容は、最終的にゼミ論集としてまとめる。レジュメ等資料を所定の書式で作成するように。 【実務経験】高等学校教諭だった現場経験を生かして、高大接続を意識した指導を行います。
	到達目標 【通釈】【語釈】【考説】をまとめるにあたり、その調査の方法を学び、自らレジュメ等の発表資料をまとめる技能及び能力を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス①（『山家集』について、西行について）／ゼミの進め方・レジュメ作成の注意	シラバスの確認
	2	ガイダンス②（歌枕・歌ことばについて）／辞典類、参考図書的使用方法について	和歌の分析、解釈
	3	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析検討	和歌の分析、解釈
	4	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析検討	和歌の分析、解釈
	5	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析検討	和歌の分析、解釈
	6	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析検討	和歌の分析、解釈
	7	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析検討	和歌の分析、解釈
	8	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析検討	和歌の分析、解釈
	9	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析検討	和歌の分析、解釈
	10	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析検討	和歌の分析、解釈
	11	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析検討	和歌の分析、解釈
	12	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析検討	和歌の分析、解釈
	13	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析検討	和歌の分析、解釈
	14	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析検討	和歌の分析、解釈
15	『山家集』の和歌の【通釈】【語釈】【考説】の分析検討	ゼミの振り返り	
16	研修旅行の計画・西行に関する故地について	ゼミ研修旅行の準備	
	テキスト・参考文献・資料など テキストは、『山家集』（角川ソフィア文庫）西行（著）、宇津木言行（著） その他参考資料は授業内で指示する。		
	学びの手立て ・必ず【通釈】【語釈】【考説】の項をもってレジュメを作成すること。 ・『歌ことば歌枕大辞典』（角川書店）、『日本国語大辞典』（小学館）、などを用いて、関連事項を調べること。 ・歌枕や地名等を調査し、当時の道路や交通事情と関連させて発表すること。 ・『完全踏査 古代の道—畿内・東海道・東山道・北陸道』吉川弘文堂（木下良監修）などを参考資料にするとよい。		
	評価 発表内容（60%）＋演習に対する取り組み、参加状況等（20%）＋ゼミ論集の原稿作成等（20%）をもってに評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文Ⅰ・Ⅱ
-------	------------------------

科目基本情報	科目名 ゼミナールⅢ	期別	曜日・時限	単位
		前期	月3	2
	担当者 下地 賀代子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		4年	5-401(研究室) kshimoji@okiu.ac.jp	
学びの準備	ねらい 日本語学、琉球語学に関する研究テーマを各自で定め、卒業論文執筆に向けて調査・研究を進めていく。	メッセージ 卒業論文の完成に向けて、研究計画をしっかりと立ててください。		
	到達目標 下記の事項について中間報告を行う。 ・研究テーマについての言語調査、収集したデータの分析結果 ・研究テーマに関する考察内容、問題点			
学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） おおむね次のように進めていきます。 ガイダンス テーマの最終決定、目次(仮)の設定 進捗状況の確認と論文執筆計画の作成 以下の項目に関する中間報告（複数回） ・先行研究のまとめ ・各自の研究テーマに基づく調査、データの収集状況 ・言語データの整理、分析状況 ・考察結果 論文執筆計画の見直し 各自の進捗状況に応じて指導、助言を行っていきます。 論文の完成に向けて、とくに先行研究など基礎的事項の充実と言語データの収集を集中的に行います。			
	テキスト・参考文献・資料など 各自の研究テーマに沿って適宜指示・紹介します。			
	学びの手立て 先行研究のまとめと調査をとにかく進めること。そして執筆スケジュールの見直しを定期的に行い、研究の進捗状況を確実に把握することが大切です。			
	評価 卒業論文の中間報告の内容：80%、研究テーマへの取り組み方：20%			
学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目 「ゼミナールⅣ」			

※ポリシーとの関連性

学科カリキュラムポリシー4（論理的・批判的思考力や課題探究力を養い、卒業論文を作成するための「ゼミ」を設置）に関連する。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅢ	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 千英子	4年	メールにて受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習は国語科教育に関する演習を行うものである。卒業論文のテーマを念頭に置き、レポートを作成、発表し、検討会を持つ。その中で、文献を読み取る力、分析する力、表現する力、多角的に考える力の基礎を身につける。	中学教諭としての現場経験を活かして、国語科教育研究のあり方や、授業実践例を紹介する。自分の専門とする領域以外の知識も深め、国語科教育学の理解を更に深めてほしい。教育への知見を深めるため、学会等への参加も予定する。
到達目標	中間発表会で、第3章までの論文を報告し、質問に答えることができる。各自のテーマに沿って、文献を読み、文言を引用しながら質問することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	卒業論文の概要とスケジュール	論文作成
	2	卒業論文のテーマの立て方と書き方（3年）・卒論執筆スケジュール作成（4年）	論文作成
	3	3年次へのアドバイス（卒論テーマ、章立て、研究の目的）	論文作成
	4	4年次中間発表会・質疑応答（1）	論文作成
	5	4年次中間発表会・質疑応答（2）	論文作成
	6	発表・質疑応答（1）	論文作成
	7	発表・質疑応答（2）	論文作成
8	テーマ・研究の目的・アウトラインと文献の報告への質疑(1)	論文作成	
9	テーマ・研究の目的・アウトラインと文献の報告への質疑(2)	論文作成	
10	発表・質疑応答(3)	論文作成	
11	発表・質疑応答(4)	論文作成	
12	発表・質疑応答(5)	論文作成	
13	発表・質疑応答(6)	論文作成	
14	発表・質疑応答(7)	発表会準備	
15	4年次発表会・質疑応答	論文作成	
16	予備日（面談等）	論文作成	
実践	テキスト・参考文献・資料など 適宜紹介する。 発表者は参考文献のコピーをメールで配布する。		
	学びの手立て ①無断欠席は厳禁。（欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。） ②欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は、単位を与えません。 ③必要に応じて、参考文献も印刷・配布してください。 ④積極的に質疑に臨んで下さい。		
	評価 卒論70%、平常点（討議への参加・質問内容）30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 （1）関連科目【上位科目】ゼミナールⅣ（4年次・後期）（2）次のステージ ゼミナールⅣでは、3年次の発表に関する資料を読み込み、質問する力、課題を提示する力が求められる。カリキュラムポリシー4の、論理的・批判的思考力や課題探究力を養ってほしい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅢ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 陽子	4年	y.murakami@okiu.ac.jp 5号館404研究室	

学びの準備	ねらい 先行研究の調査・参照、文献引用や出典の記載の仕方などをあらためて復習し、卒業論文執筆に必要なリテラシーを身につける。	メッセージ レジュメ・レポート作成の基礎は卒業論文にも生かされます。ゼミナールⅠ・Ⅱで学んだことを定着させながら、新たなテキストに触れていきましょう。
	到達目標 多くのテキストに触れ、広い視野を養う。また、他者の発表に向き合い、議論することを通してコミュニケーション力や自己表現力を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	ガイダンス（発表順番決め）
	2	4年次卒論論文中間報告①
3	4年次卒業論文中間報告②	
4	多和田葉子「献灯使」①【全体討論】及び4年次模擬発表	
5	多和田葉子「献灯使」②【全体討論】	
6	多和田葉子「献灯使」③【全体討論】	
7	山田詠美「晩年の子供」【個人発表】	
8	森絵都「風に舞いあがるビニールシート」【個人発表】	
9	目取真俊「伝令兵」【個人発表】	
10	よしもとばなな「「おかあさん！」」【個人発表】	
11	星野智幸「紙女」【個人発表】	
12	いとうせいこう「想像ラジオ」①【個人発表】	
13	いとうせいこう「想像ラジオ」②【個人発表】	
14	小川洋子「百科事典少女」【個人発表】	
15	小山田浩子「うらぎゅう」【個人発表】	
16	予備日	
	時間外学習の内容	
	シラバスを通読する。	
	指定されたテキストを読んでくる。	
	指定されたテキストを読んでくる。	
	指定されたテキストを読んでくる。	
	指定されたテキストを読んでくる。	
	指定されたテキストを読んでくる。	
	指定されたテキストを読んでくる。	
	指定されたテキストを読んでくる。	
	指定されたテキストを読んでくる。	
	指定されたテキストを読んでくる。	
	指定されたテキストを読んでくる。	
	レポート作成。	
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて指示する。	
	学びの手立て ディスカッションでの発言力、レジュメをまとめ上げる文章力・構想力を養う。	
	評価 授業時の発言および発表50%、レポート50%。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 ゼミナールⅣ、卒業論文Ⅰ・Ⅱ
-------	-------------------------------

※ポリシーとの関連性

言語やコミュニケーションを文化・人・社会との関わりから考え、  
自文化や他文化を客観的、論理的に捉えられるようになる。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅢ	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	奥山 貴之	4年	eメール、授業後教室で受け付ける。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「日本語教育」「日本語学」「社会言語学」など関連分野で、各自の設定したテーマに基づいて、資料の紹介、研究の発表などをしていきます。課題を自分で見つけ、調査したり考察したりしたことを他者に伝えられるようになること、他者との議論の中で多角的な視点と論理的思考力を身につけることを目指します。	1人での考察や、ゼミの仲間とのやり取りなどから、ゼミ論文、卒業論文につながるものを見つけていきましょう。他者に伝えること、伝え合うことを通して、多角的な視点、論理的思考力を身につけていきましょう。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの興味や関心から、卒業論文に向けた課題を見つけ、明確にしていくこと。</li> <li>・調査したこと、考察したことをレジュメやスライドにまとめて伝えられるようになること。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	文献検索と講読・論文準備
	2	研究計画について	文献検索と講読・論文準備
	3	発表方法の確認と発表例（レジュメの作り方）	文献検索と講読・論文準備
	4	四年次による前年度ゼミ論報告	文献検索と講読・論文準備
	5	予備日	文献検索と講読・論文準備
	6	文献講読発表①	発表準備、文献検索講読・論文準備
	7	文献講読発表②	発表準備、文献検索講読・論文準備
	8	文献講読発表③	発表準備、文献検索講読・論文準備
9	文献講読発表④	発表準備、文献検索講読・論文準備	
10	文献講読発表⑤	発表準備、文献検索講読・論文準備	
11	文献講読発表⑥	発表準備、文献検索講読・論文準備	
12	研究計画発表と調査方法の検討①	文献検索と講読・論文準備	
13	研究計画発表と調査方法の検討②	文献検索と講読・論文準備	
14	研究計画発表と調査方法の検討③	文献検索と講読・論文準備	
15	研究計画発表と調査方法の検討④	文献検索と講読・論文準備	
16	研究計画発表と調査方法の検討⑤	文献検索と講読・論文準備	
実践	テキスト・参考文献・資料など 授業の中で適宜紹介する。		
	学びの手立て	身近な疑問を大切にし、その疑問を自分で追究できるようになりましょう。追究するための適切な方法や手順を仲間と一緒に身につけていきましょう。	
	評価	平常点20%、レジュメおよび発表20%、課題30%、期末課題30%	

学びの継続	次のステージ・関連科目 「ゼミナールⅣ」「卒業論文Ⅰ・Ⅱ」
-------	----------------------------------



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅢ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	我部 大和	4年	h.gabu★okiu.ac.jp (★を@に変えてください)	

学びの準備	ねらい 本講義では、主に卒業論文の執筆状況などの進捗報告を中心に行う。その中で研究成果や課題点などを共有し、議論を行うことで、卒論執筆を促す。	メッセージ 卒業論文で決めたテーマについて、ゼミ生に対し、どのような問題意識を持ち、着眼点がどこにあるのか。執筆する上での課題を共有しながら議論を高め合ってほしい。
	到達目標 ① 卒業論文予定テーマについて、先行研究の理解を深めながら自ら持っている問題意識についてゼミ生に伝えることができる。 ② 具体的な研究方法や仮の論文構成、執筆スケジュールを含めてシミュレーションすることができる。 ③ 進捗状況・研究成果・今抱えている課題を明確に伝え、お互いに共有し合うことができる。 ④ 報告者の問題意識や研究方法などを理解し、質問やコメントをすることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ゼミオリエンテーション（ゼミ開き・自己紹介・ゼミの方針説明）	引用・参考文献の書き方復習
	2	引用の作法・参考文献の書き方	卒論研究の報告準備
	3	卒論進捗報告①	次回の進捗までの準備
	4	卒論進捗報告②	次回の進捗までの準備
	5	卒論進捗報告③	次回の進捗までの準備
	6	卒論進捗報告④	次回の進捗までの準備
	7	卒論進捗報告⑤	次回の進捗までの準備
	8	卒論進捗報告⑥	次回の進捗までの準備
	9	卒論進捗報告⑦	次回の進捗までの準備
	10	卒論進捗報告⑧	次回の進捗までの準備
	11	卒論進捗報告⑨	次回の進捗までの準備
	12	卒論進捗報告⑩	次回の進捗までの準備
	13	卒論進捗報告⑪	次回の進捗までの準備
	14	卒論進捗報告⑫	次回の進捗までの準備
	15	卒論進捗報告⑬	卒論を進めよう
	16	予備日	
	テキスト・参考文献・資料など 報告内容に沿ったものを適宜紹介します。		
	学びの手立て 学びの手立て ・議論し合ったことなどを反映し、次回発表までに加筆・修正などができること ・可能であれば、他のゼミ生の発表も聞きゼミ内での議論に積極的に参加すること ・発表者の報告内容への質問・コメントを考えること		
	評価 ・ゼミ発表（80%）（ゼミ報告の深度、発表態度） ・授業評価（20%）（発表以外での積極的態度、講義への参加姿勢）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「ゼミナールⅣ」「卒業論文Ⅱ」
-------	--------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅢ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安 志那	4年	9-605号 ahn@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 前期で学んだ資料の収集・要約・思考力・先行研究の使い方を復習し、卒論執筆に活用する。	メッセージ ゼミナールⅠで学んだことを実践し、卒論の完成を目指しましょう。また、臨地研修などを通して自分の研究に対する学びを深め、論理を構築する力を育てます。
	到達目標 ディスカッションや質疑応答を通して情報の収集・論理的思考力を体得し、卒論のテーマを具体化する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	日程の確認
	2	3年次の中間報告	中間報告・質疑応答
	3	4年次の中間報告	中間報告・質疑応答
	4	文書の作成方法 (Word)	執筆の仕方
	5	キャリアガイダンス	キャリア相談
	6	資料の収集①	資料の収集方法
	7	資料の収集②	資料の収集方法
	8	論文の要約①	要約文の作成
9	論文の要約②	要約文の作成	
10	論理的思考力①	卒論の構想	
11	論理的思考力②	卒論の構想	
12	サンプル論文の要約	サンプル論文の読解	
13	研究倫理	研究倫理の理解	
14	研究発表①	卒論の準備とディスカッション	
15	研究発表②	卒論の準備とディスカッション	
16	まとめ	卒論日程の確定	
実践	テキスト・参考文献・資料など 白井利明ほか『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房、2020。戸田山和久ほか『論文の教室』NHKブックス、2008。橋本修ほか『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』三省堂、2008。		
	学びの手立て 具体的な日程を立て、計画的に実行して行きましょう。基本的に対面授業ですが、オンラインに切り替わる際には担当教員からの連絡に注意して下さい。		
	評価 研究発表 (50%)、進捗状況 (50%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ゼミナールⅣ、卒論Ⅰ・Ⅱ。
-------	------------------------------

※ポリシーとの関連性 論理的・批判的思考力や課題探求力を養い、卒業論文を作成するために  
 論理的・批判的思考力や課題探求力を養い、卒業論文を作成するために  
 行う科目です。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅣ	後期	水 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	名城 邦孝	4年	k.nashiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 自身の研究テーマについて再確認しつつ、3年生のサポートを行う。	メッセージ 卒業論文に向けて自身の課題を見つけ、論文作成に生かしていきましょう。
	到達目標 卒業論文を作成する。	

学びの準備	到達目標 卒業論文を作成する。
-------	--------------------

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p><u>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</u></p> <p>授業計画は以下のようになる。</p> <p>第1回 ガイダンス（ゼミナールⅣの目標）                  第2回 授業の進め方                  第3～13回 卒業論文についての進捗状況の報告                  第14・15回 卒業論文の最終発表</p> <p>毎回担当の学生が自身の進捗状況を3年生にもわかるように発表してもらいます。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>適宜参考文献を紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>授業時間外での学習も多くなりますが、しっかりとこなしていきましょう。</p>
	<p>評価</p> <p>平常点80% 発表20%</p>

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 適宜参考文献を紹介する。
-------	--------------------------------

学びの実践	学びの手立て 授業時間外での学習も多くなりますが、しっかりとこなしていきましょう。
-------	--

学びの実践	評価 平常点80% 発表20%
-------	--------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文Ⅱ
-------	----------------------

※ポリシーとの関連性

学科カリキュラムポリシー4（論理的・批判的思考力や課題探究力を養い、卒業論文を作成するための「ゼミ」を設置）に関連する。

[ / 演習 ]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅣ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 千英子	4年	メールにて受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習は国語科教育に関する演習を行うものである。卒業論文のテーマを念頭に置き、レポートを作成、発表し、検討会を持つ。その中で、文献を読み取る力、分析する力、表現する力、多角的に考える力の基礎を身につける。	中学教諭としての現場経験を活かして、国語科教育研究のあり方や、授業実践例を紹介する。自分の専門とする領域以外の知識も深め、国語科教育学の理解を更に深めてほしい。教育への知見を深めるため、学会等への参加も予定する。
到達目標	各自のテーマに沿って、文献を読み、文言を引用しながら質問することができる。発表会で、質問に回答することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	卒論執筆
	2	研究発表・質疑(1)	卒論執筆
	3	研究発表・質疑(2)	卒論執筆
	4	研究発表・質疑(3)	卒論執筆
	5	研究発表・質疑(4)	卒論執筆
	6	研究発表・質疑(5)	卒論執筆
	7	研究発表・質疑(6)	卒論執筆
8	研究発表・質疑(7)	卒論執筆	
9	研究発表・質疑(8)	卒論執筆	
10	研究発表・質疑応答(9)	卒論執筆	
11	研究発表・質疑応答(10)	卒論提出	
12	4年次発表会・質疑(1)	卒論提出	
13	4年次発表会・質疑(2)	卒論集作成・印刷会社への連絡	
14	ゼミ論集の作成（誤字脱字・引用・脚注のチェック）	卒論集作成・印刷会社への連絡	
15	まとめ	卒論集作成・印刷会社への連絡	
16	予備日（卒業論文集の印刷等）		
実践	テキスト・参考文献・資料など 適宜紹介する。 発表者は参考文献のコピーを配布する。		
	学びの手立て ①無断欠席は厳禁。（欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。） ②欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は、単位を与えません。 ③必要に応じて、参考文献もコピーして下さい。 ④積極的に質疑に臨んで下さい。		
	評価 卒論70%、平常点（討議への参加・質問内容）30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 （1）関連科目【上位科目】卒業論文ⅠⅡ（4年次・前期・後期）（2）次のステージ 卒業論文Ⅱでは、文献や調査結果をもとに、国語科教育学に関する論文を作成、提出する。カリキュラムポリシー4の、論理的・批判的思考力や課題探究力を養ってほしい。
-------	---

※ポリシーとの関連性

広い領域の知識に関心を持ち、必要に応じて知識や理論を用いる応用力を養うと同時に、専門分野についての知見を深める。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅣ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 陽子	4年	y.murakami@okiu.ac.jp 5号館404研究室	

学びの準備	ねらい 自分で設定したテーマの研究を深め、レジュメ作成や発表によるプレゼンテーションを通して表現力を高める。	メッセージ ゼミナールⅣではこれまでに学んだことを生かし、積極的に議論に参加することを求める。
	到達目標 論理的な思考力に基づき、発言・執筆する力を身につける。 自己の発表にも他者の発表にも積極的に向き合い、多様な視点からの分析につなげる。	

学びの準備	到達目標 論理的な思考力に基づき、発言・執筆する力を身につける。 自己の発表にも他者の発表にも積極的に向き合い、多様な視点からの分析につなげる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスを読んでくる。
	2	テキスト分析とは何か	卒論テーマについて考える。
	3	3年次卒論テーマ仮確定	卒論テーマについて考える。
	4	研究発表①	指定されたテキストを読んでくる。
	5	研究発表②	指定されたテキストを読んでくる。
	6	研究発表③	指定されたテキストを読んでくる。
	7	研究発表④	指定されたテキストを読んでくる。
	8	研究発表⑤	指定されたテキストを読んでくる。
	9	研究発表⑥	指定されたテキストを読んでくる。
	10	研究発表⑦	指定されたテキストを読んでくる。
	11	研究発表⑧	指定されたテキストを読んでくる。
	12	研究発表⑨	指定されたテキストを読んでくる。
	13	研究発表⑩	指定されたテキストを読んでくる。
	14	研究発表⑪	指定されたテキストを読んでくる。
	15	研究発表⑫	レポート作成に向けての学習。
16	予備日	レポート作成。	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 受講生の要望に応じて対象テキストを設定する。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 受講生全員に1回の研究発表を義務づける。 発表後には教員および受講生全員で討議を行う。
-------	--

学びの実践	評価 授業時の発言および発表50%、学期末のレポート50%。
-------	-----------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文Ⅱ
-------	----------------------

※ポリシーとの関連性 1年生、2年生、3年生で積み上げてきた知識や関心を、卒業論文につなげていく科目です。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅣ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	奥山 貴之	4年	email、授業後教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「日本語教育」「日本語学」「社会言語学」など関連分野で、各自の設定したテーマに基づいて、資料の紹介、研究の発表などをしていきます。課題を自分で見つけ、調査したり考察したりしたことを他者に伝えられるようになること、他者との議論の中で多角的な視点と論理的思考力を身につけることを目指します。</p>	<p>1人での考察や、ゼミの仲間とのやり取りなどから、ゼミ論文・卒業論文につながるものを見つけていきましょう。他者に伝えること、伝え合うことを通して、多角的な視点、論理的思考力を身につけていきましょう。</p>
	到達目標	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの興味や関心から、卒業論文に向けた課題を見つけ、明確にしていくこと。</li> <li>・調査したこと、考察したことをレジюмеやスライドにまとめて伝えられるようになること。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	文献検索と講読・調査
	2	論文の書き方と先行研究	文献検索と講読・調査
	3	先行研究の報告①	発表準備、文献検索と講読・調査
	4	先行研究の報告②	発表準備、文献検索と講読・調査
	5	先行研究の報告③	発表準備、文献検索と講読・調査
	6	先行研究の報告④	発表準備、文献検索と講読・調査
	7	先行研究の報告⑤	発表準備、文献検索と講読・調査
	8	先行研究の報告⑥	発表準備、文献検索と講読・調査
	9	個別指導と相互学習	文献検索と講読・調査、論文執筆
	10	個別指導と相互学習	文献検索と講読・調査、論文執筆
	11	個別指導と相互学習	文献検索と講読・調査、論文執筆
	12	個別指導と相互学習	文献検索と講読・調査、論文執筆
	13	ゼミ論中間発表①	文献検索と講読・調査、論文執筆
	14	ゼミ論中間発表②	文献検索と講読・調査、論文執筆
	15	ゼミ論中間発表③	文献検索と講読・調査、論文執筆
	16	卒業論文報告会	発表準備
	テキスト・参考文献・資料など 授業の中で適宜紹介する。		
	<p>学びの手立て</p> <p>「どうして?」「なぜ?」「本当だろうか?」という気持ちを大切に、その気持ちに答えていけるようになりましょう。</p> <p>応えるための適切な手順や方法を仲間と一緒に身につけていきましょう。</p>		
	<p>評価</p> <p>平常点10%、レジюмеおよび発表20%、課題30%、期末課題40%</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「ゼミナールⅠ・Ⅱ」「卒業論文Ⅰ・Ⅱ」</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅣ	後期	月 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	我部 大和	4年	h.gabu★okiu.ac.jp ★を@に直してください。	

学びの準備	ねらい 本講義では、主に卒業論文の執筆状況などの進捗報告を中心に行う。卒業論文の執筆内容や卒業論文の論文構成の決定、原稿の校正などを教員・ゼミ生で検討を行う。	メッセージ 卒論完成に向けて、卒論の論文構成や内容の検討、仮原稿の提出、提出後の校正を含めて行う。大学4年次はそれぞれの道を決める上でも大きな時期です。忙しくなるのを見越して、時間管理・体調管理を整えて、完成させていきましょう。
	到達目標 ① 卒論の内容や現時点での検討場所などを明示することができる。 ② 検討した内容も踏まえて、加筆・修正を繰り返し卒論の執筆を自ら行うことができる。 ③ 卒業論文のテーマについて、学術的な体裁・内容に整えることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ゼミオリエンテーション（ゼミ開き・自己紹介・ゼミの方針説明）	研究内容の報告を準備しよう
	2	卒論の内容・検討箇所に関する報告①	卒論の執筆を深めよう
	3	卒論の内容・検討箇所に関する報告②	卒論の執筆を深めよう
	4	卒論の内容・検討箇所に関する報告③	卒論の執筆を深めよう
	5	卒論の内容・検討箇所に関する報告④	卒論の執筆を深めよう
	6	卒論の内容・検討箇所に関する報告⑤	卒論の執筆を深めよう
	7	卒論の内容・検討箇所に関する報告⑥	卒論の執筆を深めよう
	8	卒論の内容・検討箇所に関する報告⑦	卒論の執筆を深めよう
	9	卒論の内容・検討箇所に関する報告⑧	卒論の執筆を深めよう
	10	卒論の内容・検討箇所に関する報告⑨	卒論の執筆を深めよう
	11	卒論の内容・検討箇所に関する報告⑩	卒論の執筆を深めよう
	12	卒論の内容・検討箇所に関する報告⑪	卒論の執筆を深めよう
	13	卒論の内容・検討箇所に関する報告⑫	卒論最終発表会の準備しよう
	14	卒業論文最終発表会予行演習	卒論最終発表会の準備しよう
	15	卒業論文最終発表会予行演習	卒論の最終校正をしよう
	16	予備日	
	テキスト・参考文献・資料など 研究発表テーマに沿って適宜紹介します。		
	学びの手立て 学びの手立て ・ 卒業論文執筆に向けて、早め早めに検討の際に提示された課題をクリアする ・ 念を入れて自ら書いた論文を読み返した上で、発表に臨む。		
	評価 ・ 卒論本体（80%）（報告をもとに卒論本体が反映されているか） ・ 卒論最終発表会（10%）（報告資料の体裁・報告態度） ・ 授業評価（10%）（発表以外での積極的態度、講義への参加姿勢）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「卒業論文Ⅱ」
-------	------------------------

※ポリシーとの関連性 広い領域の知識に関心を持ち、必要に応じて知識や理論を用いる応用力を養うと同時に、専門分野についての知見を深める。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅣ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安 志那	4年	9-605号 ahn@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい これまで学んできたスキルを駆使し、卒論の完成を目指す。	メッセージ ここまで学んだことを総合的に見直し、スキルと内容の両面から完成を目指しましょう。また、臨地研修などを通して自分の研究に対する学びを深め、論理を構築する力を育てます。
	到達目標 論理的思考力によって自分の研究テーマを具体化し、ことばと文章の両面から十分に表現できる力を身につける。	

学びの準備	到達目標 論理的思考力によって自分の研究テーマを具体化し、ことばと文章の両面から十分に表現できる力を身につける。
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	日程の確認
	2	3年次のゼミ論	各自報告書を作成する
	3	4年次の卒論	各自報告書を作成する
	4	論文の形式	論文の形式を確認
	5	先行研究及び関連文献の紹介①	発表
	6	先行研究及び関連文献の紹介②	参考文献リストの提出
	7	引用の方法①	引用方法の確認
	8	引用の方法②	引用方法の確認
	9	章構成①	卒論構成の確認
	10	章構成②	卒論構成の確認
	11	文章構成	加筆及び修正
	12	語彙と表現	加筆及び修正
	13	序論の書き方	序論の確認
	14	研究報告①	加筆及び修正
15	研究報告②	加筆及び修正	
16	まとめ	復習	
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 白井利明ほか『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房、2020。戸田山和久ほか『論文の教室』NHKブックス、2008。橋本修ほか『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』三省堂、2008。		
学びの手立て	基本的に対面授業であるが、オンラインに切り替わる際には担当教員からの連絡に注意すること。		
評価	研究発表（50%）、進捗（50%）。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文Ⅱ。
-------	-----------------------



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅣ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	葛綿 正一	4年	kuzuwata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習は日本の古典文学・文化に関する演習を行うものである。今年度は特に狂言を取り上げる。狂言作品を一つ一つ取り上げながら注釈を試み、笑いの問題、オノマトペの効用などについて考える。	メッセージ 資料を探し、分析の視点を設定し、発表の構成について考えるというのは広く応用可能な方法である。ぜひ身につけてほしい。
	到達目標 論文の構成について考え、執筆、再検討を行う。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	演習の進め方	関連する資料の収集
	2	論文の構成について考える1	資料の読み込み
	3	論文の構成について考える2	資料の読み込み
	4	論文の構成について考える3	資料の読み込み
	5	論文の構成について考える4	資料の読み込み
	6	論文を執筆する1	データの打ち込み
	7	論文を執筆する2	データの打ち込み
	8	論文を執筆する3	データの打ち込み
	9	論文を執筆する4	データの打ち込み
	10	論文を執筆する5	データの打ち込み
	11	論文を再検討する1	データの手直し
	12	論文を再検討する2	データの手直し
	13	論文を再検討する3	データの手直し
	14	論文を再検討する4	データの手直し
15	論文要旨をまとめる1	データの手直し	
16	論文要旨をまとめる2	データの手直し	
	テキスト・参考文献・資料など 新日本古典大系『狂言記』岩波書店、新編日本古典文学全集『狂言集』小学館		
	学びの手立て 日本古典文学大辞典、日本国語大辞典など大きな事典類をまず引くことを勧める。		
	評価 提出物、発表内容70%、授業への取り組み30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ゼミナールで学んだことを卒業論文に活かす。
-------	--------------------------------------

※ポリシーとの関連性

高度な情報収集能力と的確な自己表現力によって、現代社会の諸課題を解決できる能力を培う。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅣ	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	兼本 敏	4年	研究室5-501 メール: kanemoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 前期で作成提出したゼミ論の完成を目指します。ゼミ論の口頭発表を行い質疑応答を通して完成度を高めます。	メッセージ 事前準備が肝心です。海外へのゼミ調査を企画実行するためにも早めの完成を！
	到達目標 論理的な文章（卒業論文）の作成と資料の提示を会得します。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	日程と提出期限の確認
	2	進捗状況の報告	報告の準備
	3	日程決定	論文執筆の日程
	4	関連論文の提示および各自の論文のテーマ発表	対教員と質疑
	5	関連論文の提示および各自の論文のテーマ発表	同上
	6	同上	対クラスメート発表準備
	7	同上	同上
	8	同上	同上
9	同上	同上	
10	総括	自己採点を行う	
11	添削	執筆	
12	発表と質疑を踏まえ論文の修正	執筆	
13	発表と質疑を踏まえ論文の修正	論文の精読と校正	
14	発表と質疑を踏まえ論文の修正	執筆と質疑（教員）	
15	完成論文の提出	同上	
16	評価と総括	自己採点の再確認	
	テキスト・参考文献・資料など 指定なし。 個々のテーマによって異なりますが、必要に応じて提示します。		
	学びの手立て 先行研究や先輩方の卒論を参考にして下さい。論文の形式や約束事を身に付けてください。		
	評価 早めの提出で添削も可能です。 評価は各自が提出したゼミ論の進捗状況によって行います。（卒論に準じる） 構成、論証の正確さ（50%）、参考文献の有効性（30%）、口頭発表と完成度（20%）と評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 大学生として身に着けるべき技能の集大成がゼミ論を発展させた卒業論文です。ある特定の課題を検討する際、多くの情報と資料を収集し、精査し、簡潔に述べる技術は実社会でも必要になります。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅣ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山口 真也	4年	メールで受け付けます。 yamaguchi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	個人研究発表に取り組む3年生のサポートを通して、本ゼミの研究テーマの理解をさらに深めつつ、卒業研究を進めていくために必要なスキルを再確認していきます。	昨年度の「ゼミナールⅠ・Ⅱ」での学習をふまえて、文献収集、レジュメ作成、司会進行など、3年生の個人研究発表のサポートを様々な形で行ってまいります。3年生のよいお手本として活動してくれることを期待しています。

学びの準備	到達目標
	①レジュメの構成検討・多様な文献の収集・ゼミ発表での司会進行など、3年生の研究活動のサポートを通して、これまでも身に付けてきたアカデミックスキルをさらに高めていく。 ②研究活動を中心とした3年生、ゼミ生同士の日常的な交流を通して、他者理解力、コミュニケーション能力、社会人基礎力を高める。 ④以上の学習を通して身に付けたスキルを活かし、卒業後の進路を決定する。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	後期の目標設定・夏休みの学習状況の報告・発表日程の決定・レジュメの作成方法①	夏休みの取り組みをまとめる
	2	レジュメの作り方② テーマが近いグループでレジュメの構成を検討	3年生のサポート・アドバイス
	3	レジュメの作り方③ レジュメ案の作成・文献探索法の再確認	3年生のサポート・アドバイス
	4	図書館での文献収集① 先行研究の調査	3年生のサポート・アドバイス
	5	図書館での文献収集② 先行研究の調査、文献の整理	3年生のサポート・アドバイス
	6	レジュメの作り方④ 収集した文献をもとにレジュメ案を再検討・レジュメ案の一次提出	3年生のサポート・アドバイス
	7	調査方法の検討(観察調査・アンケート調査の項目検討)	3年生のサポート・アドバイス
	8	調査方法の検討(観察シート・アンケート用紙の作成)・卒論題目登録	3年生のサポート・アドバイス
	9	調査結果の分析方法(グラフのまとめ方・仮説の検証方法・学術論文の書き方)	3年生のサポート・アドバイス
	10	レジュメの作り方⑤ レジュメ案の二次提出・進行状況の確認・発表順の決定	3年生のサポート・アドバイス
	11	個人研究発表① 発表の準備、フィードバック	3年生のサポート・アドバイス
	12	個人研究発表② 発表の準備、フィードバック	3年生のサポート・アドバイス
	13	個人研究発表③ 発表の準備、フィードバック	3年生のサポート・アドバイス
	14	個人研究発表④ 発表の準備、フィードバック	3年生のサポート・アドバイス
15	個人研究発表⑤ 発表の準備、フィードバック	3年生のサポート・アドバイス	
16	個人研究発表⑥・授業のまとめ(到達度のチェック)	2年間のゼミ活動の振り返り	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業論文集(『文化情報学研究』)をテキストとする。</li> <li>※本学図書館に過去の号が全て所蔵されている。</li> <li>※日本文化学科卒業研究データベースも活用すること。</li> <li>参考文献は適宜指示する。</li> </ul>

学びの実践	学びの手立て
	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年生のサポートを通して、自分自身の卒業研究の内容も深めていきましょう。</li> <li>文献の収集などで授業時間中に通常教室でノートPCを使うことがあります。持参できない人は事前に山口に相談してください。</li> </ul>

学びの実践	評価
	レポート・・・10点 (自己の活動をきちんと振り返ることができているかをレポート) 平常点・・・90点 (3年生のサポート状況、フィードバックシートへの記入などを評価) ※欠席する場合は授業開始前に欠席届(メール可)を提出すること。(無断で欠席しないこと)

学びの継続	次のステージ・関連科目
	4年間の総まとめの科目です。ゼミ活動を通して学んだことを社会人として生かしてくれることを願っています。

※ポリシーとの関連性 琉球文化に対する理解を深め、琉球語学、琉球文学、琉球芸能への知識、能力を身に付けます。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅣ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	4年	研究室番号：5402 E-mail：nishioka@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 琉球語諸方言の調査・記録、分析あるいは再生に取り組みます。消滅の危機に瀕する言語と呼ばれる琉球語諸方言を分からないまま置いておくのではなく、それら言葉の特徴・個性を分かろうとする学びの姿勢が大切です。	メッセージ 琉球語を甦らせるにはどうすればよいのかを考えていきましょう。音声テキストおよび画像資料の収集（作成）と、そのデジタル化および一般公開も、これから成されるべき仕事です。また、琉球語諸方言によって何かを表現していくという姿勢も大切になってきます。
	到達目標 琉球語諸方言による文法書、辞典、索引、民話テキスト、教科書、演劇台本などの作成を目指します。それぞれが琉球語を理解し、琉球語の継承者となることが目標です。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・課題の琉球語テキスト決定	琉球語の品詞分解・解釈
	2	琉球語テキスト(昔話)の読解・鑑賞①	琉球語の品詞分解・解釈
3	琉球語テキスト(昔話)の読解・鑑賞②	琉球語の品詞分解・解釈	
4	琉球語テキスト(昔話)の読解・鑑賞③	琉球語の品詞分解・解釈	
5	現地見学1(故地を訪ねて)	レポートによるまとめ	
6	琉球語テキスト(昔話)の読解・鑑賞④	琉球語の品詞分解・解釈	
7	琉球語テキスト(昔話)の読解・鑑賞⑤	琉球語の品詞分解・解釈	
8	琉球語テキスト(昔話)の読解・鑑賞⑥	琉球語の品詞分解・解釈	
9	現地見学2(故地を訪ねて)	レポートによるまとめ	
10	琉球語テキスト(組踊)の読解・鑑賞⑦	琉球語の品詞分解・解釈	
11	琉球語テキスト(組踊)の読解・鑑賞⑧	琉球語の品詞分解・解釈	
12	琉球語テキスト(組踊)の読解・鑑賞⑨	琉球語の品詞分解・解釈	
13	現地見学3(故地を訪ねて)	レポートによるまとめ	
14	琉球語テキスト(組踊)の読解・鑑賞⑩	琉球語の品詞分解・解釈	
15	現地見学4(故地を訪ねて)	レポートによるまとめ	
16	予備日・春休みの調査計画等	調査計画書作成	
	テキスト・参考文献・資料など ゼミで扱う琉球語テキストについては、その都度指示します。 毎回、課題の琉球語テキストを品詞分解したレジユメを用意すること。		
	学びの手立て 初めは、琉球語に関する本を読んだりメディアにふれたりして、琉球語についての理解を深めます。また、琉球語諸方言を記録として書き留める練習をします。文法的に分析する姿勢も学びます。その後、琉球語諸方言に関するテーマを決め、それについて実際に調査・記述します。文法記述、辞書(語彙集)作成、テキスト収集などが大きな目標となります。フィールドワーク(野外調査)を行う際には、まず教室で、先行文献の検討、調査表の作成、予備調査などを行ないます。その後、実際に現地に赴きます。再び教室に戻ったあとは、集めた資料の整理をし、今後の課題を洗い出します。		
	評価 平常点(50%)、発表(50%)。フィールドワークを行う場合は、その準備および参加、行事への取り組み、提出レポートなども発表に含みます。発表担当者は責任をもって発表すること。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本語音声学、日本語音声学特講、琉球語学特講などが関連科目です。音声学の知識は必須。琉球語スピーチコンテストに積極的に参加すること。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅣ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	4年	ytaba@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習は、概ね日本の古典文学、国語科教育について、各自の興味関心、問題意識に基づいて、テーマ設定してレポート発表する。また臨地研修などを通して、研究対象と向き合い、様々な知見と経験的実感的に学んでいく。	学習指導要領によると「伝統文化」という科目が設定されるようです。「伝統文化」を学ぶ我々の出番です。実感的経験的に学ぶには、作品を深く学ぶことに他ならないと思います。ともに頑張りましょう。【実務経験】高等学校教諭だった現場経験を生かして、高大接続を意識した指導を行います。

到達目標
1 自分自身の興味関心、問題意識に基づいてテーマを設定し、調査研究する能力を身に付ける。 2 研究討議等によって、多面的に考察する方法を身に付ける。 3 臨地研究などを通して、研究対象と向き合い、自分自身の気づきや経験に基づいた感性を大事にすることができる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス（文献検索の方法、調査方法等）	シラバスの確認
	2	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習
	3	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習
	4	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習
	5	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習
	6	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習
	7	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習
	8	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習
	9	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習
	10	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習
	11	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習
	12	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習
	13	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習
	14	研究発表	レジュメの作成、担当範囲の予習
15	ゼミ論集の編集	ゼミの振り返り	
16	ゼミ論集の配布	ゼミ論集を使って学びの振り返り	

テキスト・参考文献・資料など
必要に応じて指示する。 必要に応じて指示する。

学びの手立て
・ 研究報告は、予め発表の順番を決めて行います。期日までにレジュメを作成すること。 ・ 辞典・辞典類を活用して、詳細な調査につとめてください。

評価
発表内容（40%）・演習に対する取り組み等（60%）を総合的に評価する。

学びの継続
次のステージ・関連科目 卒業論文Ⅰ・Ⅱ

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナールⅣ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	下地 賀代子	4年	5-401(研究室) kshimoji@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 日本語学、琉球語学に関する研究テーマを各自で定め、卒業論文執筆に向けて調査・研究を進めていく。	メッセージ 卒業論文の完成に向けて、研究計画をしっかりと立ててください。
	到達目標 ・自身の研究テーマについて、科学的調査と論理的な考察に基づいた卒業論文を執筆する。 ・自身の卒業論文の内容を適切に説明することができる。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p><u>授業計画</u> (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>おおむね次のように進めていきます。</p> <p>ガイダンス、卒業論文の体裁・提出方法の説明 進捗状況の確認 目次の見直し 以下の項目に関する中間報告 (複数回)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自の研究テーマに基づく調査、データの収集状況</li> <li>・言語データの整理、分析状況</li> <li>・考察、まとめ</li> </ul> <p>論文原稿の仮提出 原稿の修正・加筆 卒業論文の提出</p> <p>各自の進捗状況に応じて指導、助言を行います。 卒業論文の完成に向けて全力を尽くします。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>各自の研究テーマに沿って適宜指示・紹介します。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>進捗状況を常に把握し、計画的に研究を進めていくことが何よりも大切です。</p>
	<p>評価</p> <p>卒業論文の中間報告：80%、研究テーマへの取り組み方：20%</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：卒業論文Ⅱ 論文の執筆を通して高められた思考力、言語運用能力、情報検索能力を存分に発揮し、社会で活躍できる人材となってください。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性 3年次以降の「ゼミナール」を適切に選択するため、必修科目として設置する。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ゼミナール入門	後期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	我部、桃原、葛綿、奥山、田場、名城、村上、安、下地、西岡、山口	2年	後期オリエンテーションに要出席。問い合わせは学年主任我部(h.gabu@okiu.ac.jp)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>日本文化学科開設のゼミの特色、研究内容への理解を深め、専門性を深化させて具体的な学問の方策について学ぶ。琉球文化コース、日本文化コース、多文化間コミュニケーションコースの各開設科目の基礎科目、応用科目、発展科目がどのように形成されているかを知り、卒業研究に向けて自分自身の専門性をどのように高めていくかを学び、研究計画書を作成する。</p> <p>到達目標 自分が進むべき専門領域について一定の理解に達しており、また、その領域の文献検索も支障なく進められ、研究計画書、ゼミ希望調査表等を適切に書くことができる。</p>	<p>日本文化学科の教員が、各専門領域における学問的な魅力について講義を行う。日本文化学科で学べることの広がりを感じ取り、どの専門領域の研究を深く掘り下げていきたいのかを考えて決めてほしい。</p>

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
		回	テーマ
		1	大学での学びと進路、研究計画書の作成について（オリエンテーション）
		2	ゼミ紹介① 日本古典文学の世界
		3	ゼミ紹介② ことばの不思議
		4	ゼミ紹介③ 近現代文学
		5	ゼミ紹介④ 多文化間コミュニケーションと日本語教育
		6	ゼミ紹介⑤ 古典文学と国語科教育
		7	ゼミ紹介⑥ 国語科教育を考える
		8	ゼミ紹介⑦ 対照言語
		9	インターンシップ報告会（3年次の職業体験を聞く）
		10	ゼミ紹介⑧ 琉球語の再生と多文化共生
		11	ゼミ紹介⑨ 琉球文化を考える
		12	内定者報告会
		13	ゼミ紹介⑩ 比較文化
		14	ゼミ紹介⑪ 図書館学を考える
		15	資料の探し方（図書館ガイダンス）研究計画書の書き方、研究計画書提出期日の確認
		16	卒論奨励賞報告、優秀レポートの表彰
	時間外学習の内容		
		登録確認、講義概要の把握	
		講義内容の復習、課題への取組	
		講義内容の復習、課題への取組	
		講義内容の復習、課題への取組	
		講義内容の復習、課題への取組	
		講義内容の復習、課題への取組	
		講義内容の復習、課題への取組	
		コメントをまとめる	
		講義内容の復習、課題への取組	
		講義内容の復習、課題への取組	
		コメントをまとめる	
		講義内容の復習、課題への取組	
		講義内容の復習、課題への取組	
		研究計画書の作成	
		研究計画書の作成	
	テキスト・参考文献・資料など	なし。 各週担当者が適宜紹介する。	
	学びの手立て	<p>①後期2年次オリエンテーションに必ず出席すること（「ゼミナール入門」の出席としてカウントする）</p> <p>②無断欠席をしないこと。</p> <p>③プリント類の保管・管理は受講者が行うこと。増し刷りや欠席者への対応はしない。</p> <p>④遅刻や途中退出は認めない。</p> <p>⑤毎時間、文章表現課題がある。</p> <p>⑥研究計画書は期日までに必ず提出すること（3年次、ゼミに所属できなくなる）</p>	
	評価	全10回のゼミ紹介参加度(合計50%)、各報告会での感想シートの内容(20%)、研究計画書の完成度(30%)	

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージ：ゼミナールⅠ・Ⅱ、3年生以上の日本文化学科専門科目。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅰ	前期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安志那	4年	9-605 ahn@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 各自卒論テーマを深化し、具体化させ、執筆を進める。	メッセージ 自分が納得できる卒論を書くために最後まで頑張りましょう。
	到達目標 卒論テーマに適した調査方法を選定し、資料を収集・分析し、卒論を進める。	

学びの準備	到達目標 卒論テーマに適した調査方法を選定し、資料を収集・分析し、卒論を進める。

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	進捗の確認
	2	卒論年間計画作成	卒論スケジュールの確定
	3	個別指導①	進捗状況の確認
	4	個別指導②	進捗状況の確認
	5	研究発表①	研究概要の提示・表現
	6	研究発表②	研究概要の提示・表現
	7	研究発表③	研究概要の提示・表現
	8	研究発表④	研究概要の提示・表現
	9	研究発表⑤	研究概要の提示・表現
	10	研究発表⑥	研究概要の提示・表現
	11	中間提出	提出論文の確認
	12	中間発表①	進捗状況の報告・質疑応答
	13	中間発表②	進捗状況の報告・質疑応答
	14	中間発表③	進捗状況の報告・質疑応答
	15	仮提出	提出論文の確認
16	まとめ	加筆と修正	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて指示する。
-------	-------------------------------

学びの実践	学びの手立て 基本的に対面授業であるが、オンラインに切り替わる際には担当教員からの連絡に注意すること。
-------	--

学びの実践	評価 研究発表（40％）、中間発表（30％）、論文提出（30％）。
-------	--------------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文Ⅱ。
-------	-----------------------



※ポリシーとの関連性 論理的・批判的思考力や課題探求力を養い、卒業論文を作成するために  
 行う科目です。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅰ	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	名城 邦孝	4年	k.nashiro@okiu.ac.jp	

学 び の 準 備	ねらい 卒業論文に向けて執筆を進めていく。	メッセージ 卒業論文の作成には時間がかかります。前期からコツコツと進めていきましょう。
-----------------------	--------------------------	--

学 び の 準 備	到達目標 卒業論文に向けての骨格を完成させる。
-----------------------	----------------------------

学 び の 実 践	学びのヒント 授業計画
-----------------------	----------------

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション	論文作成
2	春休みの課題発表	論文作成
3	個別指導1	論文作成
4	個別指導2	論文作成
5	個別指導3	論文作成
6	個別指導4	論文作成
7	中間発表1	論文作成
8	中間発表2	論文作成
9	中間発表3	論文作成
10	中間発表4	論文作成
11	卒論執筆1	論文作成
12	卒論執筆2	論文作成
13	卒論執筆3	論文作成
14	卒論執筆4	論文作成
15	総括	論文作成
16		

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など 授業時に適宜紹介する。
-----------------------	-------------------------------

学 び の 実 践	学びの手立て 自分自身で課題や問題点を整理し、他者に説明できるようにする。
-----------------------	--

学 び の 実 践	評価 発表40% 課題提出30% 平常点30%
-----------------------	----------------------------

学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 卒業論文Ⅱにつながります。
-----------------------	------------------------------

※ポリシーとの関連性

本科目は、論理的・批判的思考力や課題探求力を養い、卒業論文を作成するというカリキュラム・ポリシー5に当たる。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅰ	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	葛綿 正一	4年	kuzuwata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本科目は卒業論文の作成をめざすものである。特に先行研究の整理、分析視点の設定に力点を置く。	メッセージ 資料を探し、分析の視点を設定し、発表の構成について考える。こうした方法論は広く応用可能だと思われるので、ぜひ身につけてほしい。
	到達目標 先行研究を整理する。分析の視点を設定する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	卒論とは何か	関連する資料の収集
	2	先行研究の整理（1）	資料収集
	3	先行研究の整理（2）	資料の読み込み
	4	先行研究の整理（3）	資料収集
	5	先行研究の整理（4）	資料の読み込み
	6	分析の視点（1）	資料収集
	7	分析の視点（2）	資料の読み込み
	8	分析の視点（3）	発表の準備
9	分析の視点（4）	発表の準備	
10	中間発表（1）	発表の手直し	
11	中間発表（2）	発表の手直し	
12	中間発表（3）	発表の手直し	
13	中間発表（4）	発表の手直し	
14	中間発表（5）	発表の手直し	
15	中間発表（6）	発表の手直し	
16	まとめ	発表の手直し	
	テキスト・参考文献・資料など 『枕草子・徒然草・浮世草子一言説の変容』 そのつど指示する		
	学びの手立て 日本古典文学大辞典、日本国語大辞典、沖縄大百科事典など大きな事典類をまず引くことを勧める。		
	評価 先行研究の整理、分析の視点などを重視して、評価する。論文内容100%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文Ⅱにおいては論文の構成と執筆、再検討に進んでいく。
-------	--

※ポリシーとの関連性

選択したテーマに必要な資料収集を行い専門知識を分かりやすく簡潔に表現できる能力を培う。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅰ	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	兼本 敏	4年	問い合わせはメールでkanemoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 資料収集力、分析&要約などを示す内容の論文を作成してもらいます。これらの技能を示すのが卒業論文であり、大学生活で獲得した知識と技能の集大成が「卒業論文」です。	メッセージ テーマの概要や具体的な事例を分かりやすい適切な言葉で表現できるように日頃から訓練しましょう。
	到達目標 各自で設定したテーマに関する先行研究・資料等を整理し論理的に記述できるようになる。論文の要点を簡潔明瞭に分かりやすく口頭でも発表できるようにする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 卒論のテーマ確認 (進捗状況報告)	卒論課題の確認・PC環境設定
	2	卒業論文の進め方 年間計画作成	個別スケジュールの発表
	3	調査、文献・資料収集の方法	図書とウェブの利用について
	4	計画書の提出	過卒生の論文の精読
	5	参考文献リストの作成	先行研究の精読
	6	参考文献リストの作成	データの収集方法の確認
	7	卒論テーマおよびタイトルの最終決定	卒論の進み具合の発表準備
	8	発表順の決定	関連論文を精読
	9	中間発表と質疑	論文の作成 (執筆)
	10	中間発表と質疑	論文の作成 (執筆)
	11	中間発表と質疑	論文の作成 (執筆)
	12	中間発表と質疑	論文の作成 (執筆)
	13	中間発表と質疑	論文の作成 (執筆)
	14	中間発表と質疑	論文の作成 (執筆)
	15	総括	論運修正と提出準備
	16	仮提出	提出論文の精読
	テキスト・参考文献・資料など 特定のテキストは設定しない。 各自のテーマによって授業内で適宜紹介する。		
	学びの手立て 先輩方の卒論を参考にしたり、後輩へのアドバイスをする心づもりで自分のテーマに関して簡潔に説明できるように心がけてください。		
	評価 論文の中間提出の完成度によって成績を評価する。先行研究と資料の整理 (30%)、要約と整理 (30%)、論文の構成 (論理性20%)、中間発表 (20%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文Ⅱで完成を目指してもらおう。
-------	-----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文 I	前期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山口 真也	4年	メールで受け付けます。 yamaguchi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>昨年までの「ゼミナールII」にて設定した個人研究テーマを学術研究へと展開し、卒業論文作成のための基礎知識・技術を習得、卒業論文を完成させるとともに、卒論テーマにも関わる将来進路の決定のための様々なトレーニングを行います。</p>	<p>卒業論文の執筆(卒業研究)は多くの学生にとって、学校での最後の「勉強」となります。小学校からの16年間の学業の総まとめと考え、悔いが残らないように、就職活動、将来の進路に向けた勉強と並行しながら、しっかり取り組みましょう。</p>
到達目標	<p>①後期から本格的に始まる卒業論文の執筆のための準備として、学術論文の書き方をマスターし、文献収集、目次章立ての検討を確実に進めることができる。 ②「卒業研究」というプロジェクト型の学習を通して、主体性、計画性、情報整理能力、表現力など、社会人基礎力にも共通するスキルをより確かなものとする事ができる。 ③卒業研究で身に付けたスキルを活かして、進路決定のための活動にも積極的に取り組むことができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	履修登録・前期の計画 卒業研究の心得・卒業研究の進め方	シラバスを読み、授業に備える
	2	学術論文の書き方—序論の執筆(1) 学術論文の書き方を学ぶ	序論の執筆
	3	学術論文の書き方—序論の執筆(2) 学術論文の書き方を学ぶ	序論の執筆・手直し
	4	学術論文の書き方—序論の添削(3) 卒論題目本登録	序論の執筆・手直し
	5	学術論文の書き方—序論の完成(1)	個別相談
	6	学術論文の書き方—序論の完成(2)	個別相談
	7	学術論文の書き方—序論の完成(3)	個別相談
	8	学術論文の書き方—序論の完成(4)	個別相談
	9	目次・章立ての方法	目次章立ての検討
	10	図書館での文献収集・相互貸借、文献複写、レファレンスサービスの活用(1)	文献の再収集
	11	図書館での文献収集・相互貸借、文献複写、レファレンスサービスの活用(2)	文献の再収集
	12	目次・章立ての発表(1)	発表の準備・フィードバック
	13	目次・章立ての発表(2)	発表の準備・フィードバック
14	目次・章立ての発表(3)	発表の準備・フィードバック	
15	目次・章立ての発表(4)・前期の到達度のまとめ	前期の振り返り	
16			
テキスト・参考文献・資料など	<p>・テキストは使用しません。 ・毎回の配布資料(レジュメ)や発表者の資料をファイリングし、毎回持参しましょう。</p>		
学びの手立て	<p>・後期から本格化する卒業論文の執筆に備えて、卒業や資格取得に必要な単位取得、進路決定のための取り組みなどにも、積極的に、前向きに取り組みましょう。</p>		
評価	<p>・平常点(毎回の授業の参加状況、宿題提出状況) 50点 ・課題点(目次章立ての発表の到達度) 50点</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>後期に開講される「卒業論文II」につながる科目です。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性 論理的・批判的思考力や課題探究力を養い、自らが設定した課題を卒業論文としてまとめ上げます。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文 I	後期	月 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	4年	研究室番号：5402 E-mail：nishioka@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 先行研究をふまえつつ、調査・研究の掘り起こし作業を進めていきます。調査・研究の成果を中間発表し、他の人の質問や意見を参考にして、不十分なところを直していきます。それらを論文という形として文章化し、個別的な指導・添削を受けてまとめます。	メッセージ 卒業論文に求められるものは学術的なオリジナリティです。本や論文を参考にすることはもちろん必要ですが、それに終始するのではなく、自分しか書けないものを、自らが汗水を流すつもりで、卒業論文を仕上げてください。但し、学術的な手続きはしっかりと踏まえましょう。
	到達目標 琉球文化についての様々な研究分野から、自分が関心を持っているテーマを選択して、卒業論文として結実させます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	卒論テーマの再確認
	2	中間発表および討論①	中間発表のレジュメ作成
	3	中間発表および討論②	中間発表のレジュメ作成
	4	中間発表および討論③	中間発表のレジュメ作成
	5	中間発表および討論④	中間発表のレジュメ作成
	6	中間発表および討論⑤	中間発表のレジュメ作成
	7	中間発表および討論⑥	中間発表のレジュメ作成
	8	中間発表および討論⑦	中間発表のレジュメ作成
	9	中間発表および討論⑧	中間発表のレジュメ作成
	10	中間発表および討論⑨	中間発表のレジュメ作成
	11	卒論原稿作成と添削①	卒論原稿作成と修筆
	12	卒論原稿作成と添削②	卒論原稿作成と修筆
	13	卒論原稿作成と添削③	卒論原稿作成と修筆
	14	卒論原稿作成と添削④	卒論原稿作成と修筆
	15	卒論原稿作成と添削⑤	卒論原稿作成と修筆
	16	予備日	卒論集作成
	テキスト・参考文献・資料など その都度指示します。		
	学びの手立て 個別指導を必要とします。レジュメを準備し中間発表を必ず行ってください。		
	評価 中間発表（25%）、論文の内容（25%）、形式（25%）、取り組み方（25%）の観点から総合的に判断します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ゼミナールⅢ・Ⅳ、卒業論文Ⅱ。
-------	--------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅰ	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	4年	ytaba@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 卒業論文の作成のために設定された演習である。日本の古典文学と国語科教育を対象とする。一部、沖縄の言語文化に関するもの対象とする。	メッセージ 締め切りギリギリでの執筆は、極めて危険です。卒論を書き上げるまでに、あらゆる障壁が皆さんの前に、現れては消え、消えては現れます。パソコンが壊れたり、USBがなくなったり。時には恋人と別れたりして、辛い思いを抱えながら執筆することにも……。①予定を立てること、②とにかく書くこと、③自分の言葉で書くこと。
	到達目標 卒業論文を作成するための、資料収集、整理を行い、研究方法を決め、研究をすすめていく。そのために必要な能力を身に付ける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）  卒業論文執筆の主体は学生個人である。以下に示す展開計画は、参考（目安）のために記載するが、研究計画はそれぞれが作成して取り組む。 1 卒業論文の要件 2 卒業論文の進め方・年間計画作成 3 先行研究の検索、収集、整理① 4 先行研究の検索、収集、整理② 5 先行研究の検索、収集、整理③ 6 先行研究の検索、収集、整理④ 7 研究方法の検討① 8 研究方法の検討② 9 研究方法の検討③ 10 小テーマの設定① 11 小テーマの設定② 12 卒業論文テーマの確定 13 卒業論文の構成 14 卒業論文の構成の検討 15 中間発表会
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて指示する。
	学びの手立て ・研究報告は、予め順番を決めてから行う。期日までにレジュメを作成すること。 ・辞典、事典類を活用して、詳細な調査につとめてください。
	評価 論文の内容、組み立て（80％）取り組み状況等（20％）を評価とする。

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文Ⅱ
-------	----------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文 I	前期	月 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	下地 賀代子	4年	5-401(研究室) kshimoji@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 卒業論文の執筆を見据え、言語研究の基礎を学び方法論を身につけます。プレ研究テーマを設定して、先行研究を収集・分析し、実際に調査を行います。そして、その研究結果を中間報告します。	メッセージ 卒業論文執筆に向けて、自身の学問的な興味を明確にし、基礎固めをしていきましょう。
	到達目標 設定したプレ研究テーマについて先行研究を収集・分析して中間報告する。	

学びの準備	到達目標 設定したプレ研究テーマについて先行研究を収集・分析して中間報告する。
-------	--

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p><u>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</u></p> <p>おおむね次のように進めていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイダンス、ゼミ開き</li> <li>・プレ研究テーマの設定</li> <li>・以下の項目に関する中間報告             <ul style="list-style-type: none"> <li>—収集した先行研究のリスト</li> <li>—主要な先行研究のまとめと考察</li> <li>—研究テーマに関わる領域の研究状況</li> </ul> </li> </ul> <p>各自の進捗状況に応じて指導、助言を行っていきます。</p> <p>★先行研究の収集とそのまとめは、卒業論文のテーマにしたいと考えている領域が現在どのような研究状況にあるのかを把握するための重要な作業となります。先行研究を分析することで生じてくる疑問や不十分だと思われる点を、卒業論文へと繋げていきます。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>各自の研究テーマに沿って適宜指示・紹介します。</p>

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 各自の研究テーマに沿って適宜指示・紹介します。
-------	---

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>自身の研究テーマに関わる作業はもちろん、他のゼミ生や先輩の発表からも多くのことを学べます。ゼミでは積中間報告の内容、研究テーマへの取り組み方から総合的に判断します。</p>
	<p>評価</p> <p>中間報告の内容：80%、研究テーマへの取り組み方：20%</p>

学びの実践	評価 中間報告の内容：80%、研究テーマへの取り組み方：20%
-------	------------------------------------

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目「ゼミナールⅡ」</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

学科カリキュラムポリシー4（論理的・批判的思考力や課題探究力を養い、卒業論文を作成するための「ゼミ」を設置）に関連する。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文 I	前期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 千英子	4年	授業終了後に、教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習は国語科教育に関する演習を行うものである。卒業論文のテーマに沿って、文献を読み、論文としてまとめる。論文を発表し、検討会を持つ中で、文献を適切に読み取り自分の論を組み立てる力、データを基に分析する力、表現する力、多角的に考える力の基礎を身につける。	中学教諭としての現場経験を活かして、国語科教育研究のあり方や、授業実践例を紹介する。自分の専門分野はもちろんのこと、他分野の書籍にもあたり、自分の研究を多角的に見る力をつけてほしい。12月1日に卒論完成、1月に卒論発表会を行います。
到達目標	理論編を完成させる。 アンケートや調査、模擬授業を終える。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	卒論提出までのスケジュール確認・予定表の提出	論文作成
	2	卒論執筆・質疑応答 (1)	論文作成
	3	卒論執筆・質疑応答 (2)	論文作成
	4	卒論執筆・質疑応答 (3)	論文作成
	5	卒論執筆・質疑応答 (4)	論文作成
	6	卒論執筆・質疑応答 (5)	論文作成
	7	卒論執筆・質疑応答 (6)	論文作成
8	卒論執筆・質疑応答 (7)	論文作成	
9	卒論執筆・質疑応答 (8)	論文作成	
10	卒論執筆・質疑応答 (9)	論文作成	
11	卒論執筆・質疑応答 (10)	論文作成	
12	卒論執筆・質疑応答 (11)	論文作成	
13	卒論執筆・質疑応答 (12)	論文作成	
14	卒論執筆・質疑応答 (13)	論文作成	
15	卒論執筆・質疑応答 (14)	論文作成	
16	予備日 (面談等)	論文作成	
実践	テキスト・参考文献・資料など 適宜紹介する。 発表者は参考文献のコピーを用意する。		
	学びの手立て ①無断欠席は厳禁。(欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。) ②欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は、単位を与えません。 ③必要に応じて、参考文献も印刷・配布してください。 ④積極的に質疑に臨んで下さい。		
	評価 卒論70%、平常点(討議への参加・質問内容)30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目【上位科目】卒論Ⅱ(4年次・後期) (2) 次のステージ 卒論Ⅱでは、アンケートや授業実践のデータを分析し、成果と課題をまとめることが求められる。カリキュラムポリシー4の、論理的・批判的思考力や課題探究力を養ってほしい。
-------	---



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文 I	前期	月 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 陽子	4年	y.murakami@okiu.ac.jp 5号館404研究室	

学びの準備	ねらい 各自卒業論文のテーマを設定し、調査研究を進める。	メッセージ 卒業論文の執筆は大学生活の集大成となるものです。自分自身でテーマを定め、納得のいく卒論を書き上げるためのスキルを身につけましょう。
	到達目標 卒業論文全体の構想をまとめる。	

学びの準備	到達目標 卒業論文全体の構想をまとめる。
-------	-------------------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスを読んでくる。
	2	個別指導①	卒論執筆の課題について考察。
	3	個別指導②	卒論執筆の課題について考察。
	4	個別指導③	卒論執筆の課題について考察。
	5	研究発表①	指定された作品を読んでくる。
	6	研究発表②	指定された作品を読んでくる。
	7	研究発表③	指定された作品を読んでくる。
	8	研究発表④	指定された作品を読んでくる。
	9	研究発表⑤	指定された作品を読んでくる。
	10	研究発表⑥	指定された作品を読んでくる。
	11	研究発表⑦	指定された作品を読んでくる。
	12	研究発表⑧	指定された作品を読んでくる。
	13	研究発表⑨	指定された作品を読んでくる。
	14	研究発表⑩	指定された作品を読んでくる
	15	研究発表⑪	指定された作品を読んでくる
16	予備日	レポート作成。	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて指示する。
-------	-------------------------------

学びの実践	学びの手立て 個別指導時までには自分自身の課題や問題点を整理し、改善に努めること。 研究発表は各自2回ずつ行う。
-------	--

学びの実践	評価 発表40%、レポート60%。
-------	----------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 ゼミナールⅢ・Ⅳ、卒業論文Ⅱ
-------	-------------------------------

※ポリシーとの関連性 1年～3年で学んできたことの集大成となる科目です。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅰ	前期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	奥山 貴之	4年	eメール、授業後教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 論文執筆のプロセスを再確認し、論文を書き進めて行く。テーマの設定、資料の収集と読み込み、構想の作成、調査と分析、さらに執筆した文章の推敲など、を経て論理的思考力とそれを伝える力を身につける。	メッセージ 研究テーマについて熟考し、どうすれば自分が知りたい、確かめたいことを、どうすれば追究できるか、方法を考えてください。参考文献の熟読や仲間との議論を通して自分の研究を形にしていってください。
	到達目標 ・適切なテーマに絞ることができる。 ・先行研究を読み込み、自分の論文執筆に活かせるようになる。 ・論文の構成を適切に組み立てられるようになる。 ・仮説から適切な調査計画をたて、実施できるようになる。 ・分析・考察を多角的な視点からできるようになる。	

学びの準備	到達目標 ・適切なテーマに絞ることができる。 ・先行研究を読み込み、自分の論文執筆に活かせるようになる。 ・論文の構成を適切に組み立てられるようになる。 ・仮説から適切な調査計画をたて、実施できるようになる。 ・分析・考察を多角的な視点からできるようになる。

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	文献検索と講読・論文準備
	2	研究計画について（年間計画の作成）	文献検索と講読・論文準備
	3	論文の構成	文献検索と講読・論文準備
	4	前年度ゼミ論報告	発表準備、文献検索講読・論文準備
	5	ゼミ論報告からの反省と発展	文献検索と講読・論文準備
	6	引用参考文献の書き方の確認	文献検索と講読・論文準備
	7	先行研究の報告①	文献検索と講読・論文準備
	8	先行研究の報告②	文献検索と講読・論文準備
	9	先行研究の報告③	文献検索と講読・論文準備
	10	先行研究の報告④	文献検索と講読・論文準備
	11	調査法について	文献検索と講読・論文準備
	12	調査法の検討①	文献検索と講読・論文準備
	13	調査法の検討②	文献検索と講読・論文準備
	14	調査結果の分析と考察	文献検索と講読・論文準備
	15	考察とまとめについて	文献検索と講読・論文準備
16	夏期休暇中の研究計画について	文献検索と講読・論文準備	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 授業の中で適宜紹介する。
-------	--------------------------------

学びの実践	学びの手立て ・身近なことに興味や疑問を持っておくこと。 ・テーマを絞るためには、自分の興味や疑問を突き詰め、先行研究を読み込むこと。 ・各自の研究テーマに沿った基礎的な文献は、各自でしっかり読み込んでおく。 ・研究計画、研究メモなどは、専用のノートなどを作ってまとめておこう。 ・先行研究を読んだり、論文を書いたりしていく中で、論文らしい文章に慣れていきましょう。
-------	--

学びの実践	評価 平常点（15%）、発表（30%）、提出物（25%）、期末課題（30%）
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 「ゼミナールⅢ・Ⅳ」「卒業論文Ⅱ」
-------	----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅰ	前期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	我部 大和	4年	h.gabu★okiu.ac.jp (★を@に変えてください)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	卒業論文の執筆に向けて、①卒業論文テーマの決定②先行研究の整理・読み込み③研究対象の分析・検討④論文構成の仮決定などを行う。その上で、卒論の内容や取り組む上での課題などをゼミ生・教員などで検討を行い、卒論の内容について深化させる。	卒論のテーマについて、先行研究の文献リストを完成の上、研究状況の整理します。また、問題点を発見し、検討を行って、研究対象の分析を行います。他にも就活・公務員試験などそれぞれの道へ進む準備をします。おろそかにならないように自己管理を大事にして、執筆に取り組んでください。
到達目標	① 卒論テーマについて決定し、先行研究の整理・読み込みを行うことができる ② 先行研究の内容から問題点などを明確にして卒論に取り組む課題を明確にすることができる ③ 研究対象や研究方法を見つけ出すことができる。 ④ 卒業論文の構成、構想全体をまとめ、執筆に取り組むことができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（春休みの進捗報告・講義説明）	これまでの報告を振りかえる
2	振り返り① 「問い」の確認	研究方法を振り替えよう	
3	振り返り② 研究方法の確認	検索方法を振り替えよう	
4	振り返り③ 検索方法の確認	論文構成を振り替えよう	
5	振り返り④ 論文構成の確認	卒論の執筆を進めよう	
6	卒論進捗報告①	卒論の執筆を進めよう	
7	卒論進捗報告②	卒論の執筆を進めよう	
8	卒論進捗報告③	卒論の執筆を進めよう	
9	卒論進捗報告④	卒論の執筆を進めよう	
10	卒論進捗報告⑤	卒論の執筆を進めよう	
11	卒論進捗報告⑥	卒論の執筆を進めよう	
12	卒論進捗報告⑦	卒論の執筆を進めよう	
13	卒論進捗報告⑧	卒論の執筆を進めよう	
14	卒論進捗報告⑨	卒論の執筆を進めよう	
15	卒論進捗報告⑩	卒論の執筆を進めよう	
16	予備日		
	テキスト・参考文献・資料など	研究テーマに沿って適宜紹介します。	
	学びの手立て	卒論ではこれまでの準備が大切になります。 ①文献リストを活用して、先行研究の理解力と批判的に検討する力を身につけてください。 ②先行研究からどのような発見があったのか。様々なものにアンテナを張りながら、メモをとるようにしてください。 ③研究する資料などがあれば、分析してください。 ④ゼミ生みんなで共有して、一緒に考えながら、卒論完成を目指しましょう！	
	評価	・ 卒論にかかる報告深度 80% ・ 卒業論文中間発表会 10% ・ 授業中の取り組み・姿勢 10%（質問や報告中の態度）	

学びの継続	次のステージ・関連科目 本格的な卒論執筆に向けて「卒業論文Ⅱ」「ゼミナールⅣ」
-------	--

※ポリシーとの関連性

本ゼミは、論理的・批判的思考力や課題探究力を養い、卒業論文を作成する力を身に付ける。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅱ	後期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	我部 大和	4年	h.gabu★okiu.ac.jp (★を@に変えてください)	

学びの準備	ねらい 本講義では卒業論文の執筆した内容についての報告を中心に行う。次に、卒業論文の仮提出を経て、本提出を行うまでに卒業論文の完成に向けての内容の校正・検討を重ねて、卒論完成を目指す。	メッセージ 後期になり、卒論の提出に向けてもう一踏ん張り。論文構成に沿いながら、時には変更しつつ、とにかく「書く」ことが大きな近道となります。体調や時間の管理に気をつけながら、最後の最後まで検討していきましょう。卒論の執筆は1人。でも、執筆するあなたは決して一人ではないです。一緒に頑張りましょう。
	到達目標 ①これまでの研究成果と自らの研究成果などをまとめて体裁に整えて提出することができる。 ②進捗状況を含めて発表し、練り直しながら論文完成につとめることができる。 ③研究成果について、他者に伝えて報告することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス（卒業論文の執筆について）	卒論進捗報告の準備
	2	卒論進捗報告①	卒論進捗報告の準備
	3	卒論進捗報告②	卒論進捗報告の準備
	4	卒論進捗報告③	卒論進捗報告の準備
	5	卒論進捗報告④	卒論進捗報告の準備
	6	卒論進捗報告⑤	卒論進捗報告の準備
	7	卒論進捗報告⑥	卒論進捗報告の準備
	8	卒論進捗報告⑦	卒論進捗報告の準備
	9	卒論進捗報告⑧	卒論進捗報告の準備
	10	卒論進捗報告⑨	卒論進捗報告の準備
	11	卒論進捗報告⑩	仮提出の準備をしよう
	12	卒業論文仮提出（体裁の確認・進捗にかかる指導）	仮提出の原稿を改めてみよう
	13	卒業論文原稿の校正・内容の確認	最終発表の準備をしよう
	14	卒業論文最終発表会予行演習	最終発表の準備をしよう
	15	卒業論文最終発表会予行演習	最終発表の準備をしよう
	16	予備日	
	テキスト・参考文献・資料など 研究テーマに沿って適宜紹介します。		
	学びの手立て ・本講義では、卒業論文ⅠやゼミナールⅠ～Ⅲまで議論した内容や自ら研究した内容について「文章化」する。 ・先行研究や研究対象や方法がまとまったら、とにかく執筆することが大事です！		
	評価 ・卒業論文 80%（卒業論文完成原稿の体裁・内容） ・本講義への取り組み 10%（報告時の態度） ・卒業論文最終発表会 10%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文を完成させたら、これまで学んだことを胸に、次のステージへ向かって羽ばたいてください！
-------	---

※ポリシーとの関連性

論理的・批判的思考力や課題探求力を養い、卒業論文を作成するために  
 行う科目です。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅱ	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	名城 邦孝	4年	k.nashiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<ul style="list-style-type: none"> <li>自身の研究テーマについて論理だてて論文を執筆する。</li> <li>卒業論文の内容をわかりやすく説明することができる。</li> </ul>	これまでの学びの集大成として卒業論文をしっかりと完成させよう。

到達目標	卒業論文を完成させる。
------	-------------

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	論文執筆
	2	進捗状況確認1	論文執筆
	3	進捗状況確認2	論文執筆
	4	進捗状況確認3	論文執筆
	5	進捗状況確認4	論文執筆
	6	進捗状況確認5	論文執筆
	7	進捗状況確認6	論文執筆
	8	進捗状況確認7	論文執筆
	9	進捗状況確認8	論文執筆
	10	論文仮提出	論文執筆
	11	論文の修正1	論文執筆
	12	論文の修正2	論文執筆
	13	論文の修正3	論文執筆
14	最終発表1	発表準備	
15	最終発表2	発表準備	
16	予備日		
テキスト・参考文献・資料など 必要な参考文献を適宜指示します。			
学びの手立て 卒業論文に向けて一歩ずつ進んでいくためにも定期的に進捗状況の報告をできるようにしておいてください。			
評価 卒業論文の完成度80% 平常点20%			

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文Ⅰから続く科目です。
-------	-------------------------------

※ポリシーとの関連性

本科目は、論理的・批判的思考力や課題探求力を養い、卒業論文を作成するというカリキュラム・ポリシー5に当たる。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	葛綿 正一	4年	kuzuwata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本科目は卒業論文の作成をめざすものである。特に論文の構成と執筆、再検討に力点をおく。	メッセージ 資料を探し、分析の視点を設定し、発表の構成について考えるというのは広く応用可能な方法である。ぜひ身につけてほしい。
	到達目標 論文の構成について考え、執筆し、再点検する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	論文の構成について考える1	資料の読み込み
	2	論文の構成について考える2	資料の読み込み
	3	論文の構成について考える3	資料の読み込み
	4	論文の構成について考える4	資料の読み込み
	5	論文を執筆する1	データの打ち込み
	6	論文を執筆する2	データの打ち込み
	7	論文を執筆する3	データの打ち込み
	8	論文を執筆する4	データの打ち込み
	9	論文を執筆する5	データの打ち込み
	10	論文を執筆する6	データの打ち込み
	11	論文を再検討する1	データの手直し
	12	論文を再検討する2	データの手直し
	13	論文を再検討する3	データの手直し
	14	論文を再検討する4	データの手直し
15	論文要旨をまとめる1	データの手直し	
16	論文要旨をまとめる2	データの手直し	
	テキスト・参考文献・資料など そのつど指示する。		
	学びの手立て 迷ったときは原点に立ち戻る。また、データの打ち込みに専念する。		
	評価 論文の形式と内容を重視して評価する。論文100%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 今後の課題を明らかにして、研究を継続してほしい。
-------	---

※ポリシーとの関連性

自らが専攻する学問的関心を専門知識を系統的に記述し、習得した知識を論理的で分かりやすい文章で表現する。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	兼本 敏	4年	kanemoto@okiu.ac.jp 又は 5-501研究室	

学びの準備	ねらい 自らが選定したテーマを多面的に検証・解説し、他者が理解できるように必要な資料の収集し、分かりやすく論理的な記述のよる提示ができる技能を習得する。	メッセージ 1. 講義初日に重要な確認事項があります。参加必須です。 2. これまで学習した専門知識を文章という表現形式で読み手が理解できるように十分な情報（資料）の提供、論理的な展開を実践してください。
	到達目標 自分で選定したテーマを多面的な検証（資料・情報収集）と論理的な展開で専門知識の伝達ができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	テーマの確認
	2	表記上の注意事項（ルール）の確認と構成の確認	引用に関するルールの確認
	3	事例の検証 先行研究&データの活用例 アンケート調査の事例	文献の確認・有効性の検討
	4	日程の調整&決定	日程の確定
	5	執筆開始 各自の論文に関する問題提起と確認 アポの確認	テーマと手法について検討
	6	執筆開始 各自の論文に関する問題提起と確認 アポの確認	テーマと手法について検討
	7	執筆開始 各自の論文に関する問題提起と確認 アポの確認	テーマと手法について検討
	8	執筆開始 各自の論文に関する問題提起と確認 アポの確認	テーマと手法について検討
	9	執筆開始 各自の論文に関する問題提起と確認 アポの確認	テーマと手法について検討
	10	卒論の最終確認	テーマと手法について検討
	11	執筆と修正	発表後に加筆や修正を検討
	12	卒論の完成（最終提出日）	発表後に加筆や修正を検討
	13	確認と校正	発表後に加筆や修正を検討
	14	製本作業	(印刷開始)
15	製本作業	(印刷開始)	
16	振り返り	卒論の精読	
	テキスト・参考文献・資料など 各自の決めたテーマについて関連文献を紹介します。 大学図書館と学科資料室の活用を奨励します。		
	学びの手立て 前期でテーマの骨子は完成しています。これまでに書き進めてきた論文を再度読み直しましょう。 論理的展開に必要な資料の確認と卒論における引用の仕方（ルール）を再確認しながら書き加えていきます。 偏った情報や資料にならないように意識してください。		
	評価 卒業論文の評価基準 自己のテーマに関する必要な資料の収集（質と量）。 (40%) 資料の活用による論理的展開と表現 (50%) 卒業論文集の製本作業への参加 (10%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 偏らない資料や情報を収集し分析できるように心がけてください。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山口 真也	4年	メールで受け付けます。 yamaguchi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	前期までのゼミでの学習をふまえて、卒業論文を執筆するとともに、卒業論文集を発行し、成果報告会や各機関への配布を通して、大学での学びの成果を社会に広く発信・還元するための活動を行います。	卒業論文の執筆(卒業研究)は多くの学生にとって、学校での最後の「勉強」となります。小学校からの16年間の学業の総まとめと考え、大学生活に悔いが残らないように、しっかり取り組みましょう。

到達目標
①卒業論文の執筆や卒業論文集の発行・寄贈などの活動を通して、学術研究が社会の役に立つことを実感できる。
②卒業論文の執筆や報告会の運営を通して、主体性、計画性、情報整理能力、論理的思考力、表現力・発信力など、社会人として求められるスキルを高めることができる。
③2年間のゼミでの学びを通して、卒業後の進路や将来の目標を決定することができる。
④生涯に渡って図書館を活用して学び続けるための基礎的な知識やスキルを身に付けることができる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：スケジュールの確認、卒業研究の要件と様式の再確認	シラバスを読み、授業に備える
	2	個別相談①（1人あたり30分の相談を毎週行いながら、卒業論文を執筆していく）	第1章の執筆
	3	個別相談②	第1章の執筆・手直し
	4	個別相談③	第2章の執筆・調査方法の検討
	5	個別相談④	第2章の執筆・調査の実施
	6	個別相談⑤	第3章の執筆・調査結果の分析
	7	個別相談⑥	第3章の執筆・調査結果の分析
	8	卒業論文の一次提出	卒業論文の仕上げ
	9	個別添削①（1人あたり2時間程度の相談を行い、卒業論文を仕上げしていく）	卒業論文の仕上げ
	10	個別添削②	卒業論文の仕上げ
	11	個別添削③	卒業論文の仕上げ
	12	卒業論文の完成：様式の統一・最終添削・抄録、結論の書き方の説明	卒業論文の校正
	13	卒業論文集の作成 最終校正作業など	卒業論文の印刷・丁合・製本作業
	14	卒業研究報告会の準備	報告会の準備
15	卒業研究報告会	ゼミ活動の振り返り	
16			

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストは使用しません。</li> <li>・執筆中の卒業論文のデータをきちんと保存できるメディアを準備しましょう。</li> </ul>
----	---

学びの手立て	<p>・卒業論文の執筆だけでなく、卒業や資格取得に必要な単位取得、進路決定のための取り組み、就職後に必要な資格取得の勉強などにも積極的に取り組みましょう。</p>
--------	---

評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業論文の完成度 40点</li> <li>・個別相談での主体的な取り組み 30点</li> <li>・卒業論文集発行・寄贈の取り組み 15点</li> <li>・卒業研究報告会の取り組み 15点</li> </ul>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>大学生活の最後に取り組む科目です。悔いが残らないようにしっかり頑張りましょう。卒業研究の執筆を通して身に付けたスキルを社会に出て生かしてくれること、また、「図書館」をテーマとする研究室の出身者として、生涯に渡って図書館を活用して学び続けてくれるを願っています。</p>
-------	--



※ポリシーとの関連性 論理的・批判的思考力や課題探究力を養い、自らが設定した課題を卒業論文としてまとめ上げます。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅱ	前期	月 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	4年	研究室番号：5402 E-mail：nishioka@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 先行研究をふまえつつ、調査・研究の掘り起こし作業を進めていきます。調査・研究の成果を中間発表し、他の人の質問や意見を参考にして、不十分なところを直していきます。それらを論文という形として文章化し、個別的な指導・添削を受けてまとめます。	メッセージ 卒業論文に求められるものは学術的なオリジナリティです。本や論文を参考にすることはもちろん必要ですが、それに終始するのではなく、自分しか書けないものを、自らが汗水を流すつもりで、卒業論文を仕上げてください。但し、学術的な手続きはしっかりと踏まえましょう。
	到達目標 琉球文化についての様々な研究分野から、自分が関心を持っているテーマを選択して、卒業論文として結実させます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	卒論テーマの再確認
	2	中間発表および討論①	中間発表のレジュメ作成
	3	中間発表および討論②	中間発表のレジュメ作成
	4	中間発表および討論③	中間発表のレジュメ作成
	5	中間発表および討論④	中間発表のレジュメ作成
	6	中間発表および討論⑤	中間発表のレジュメ作成
	7	中間発表および討論⑥	中間発表のレジュメ作成
	8	中間発表および討論⑦	中間発表のレジュメ作成
9	中間発表および討論⑧	中間発表のレジュメ作成	
10	中間発表および討論⑨	中間発表のレジュメ作成	
11	卒論原稿作成と添削①	卒論原稿作成と修筆	
12	卒論原稿作成と添削②	卒論原稿作成と修筆	
13	卒論原稿作成と添削③	卒論原稿作成と修筆	
14	卒論原稿作成と添削④	卒論原稿作成と修筆	
15	卒論原稿作成と添削⑤	卒論原稿作成と修筆	
16	予備日	卒論集作成	
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など その都度指示します。		
学びの手立て	個別的面談を必要とします。レジュメを準備し中間発表を行ってください。		
評価	中間発表 (25%)、論文の内容 (25%)、形式 (25%)、取り組み方 (25%) の観点から総合的に判断します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ゼミナールⅢ・Ⅳ。卒業論文Ⅰ。
-------	--------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	4年	ytaba@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 卒業論文の作成のために設定された演習である。日本の古典文学と国語科教育を対象とする。一部、沖縄の言語文化に関するもの対象とする。	メッセージ 締め切りギリギリでの執筆は、極めて危険です。卒論を書き上げるまでに、あらゆる障壁が皆さんの前に、現れては消え、消えては現れるのです。パソコンが壊れたり、USBがなくなったり。時には恋人を別れたりして、辛い思いを抱えながら執筆することも……。①予定を立てること、②とにかく書くこと、③自分の言葉で書くこと。
	到達目標 科学的な思考をもって論述し、正当な調査方法によって調査検討することによって、課題論文を完成させる能力を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）  卒業論文執筆の主体は学生個人である。以下に示す展開計画は、参考（目安）のために記載するが、研究計画はそれぞれが作成して取り組む。 16 卒業論文の目次・章立て① 17 卒業論文の目次・章立て② 18 卒業論文の執筆方法① 19 卒業論文の執筆方法② 20 卒業論文の執筆① 21 卒業論文の執筆② 22 卒業論文の執筆③ 23 卒業論文の執筆④ 24 仮提出と添削 25 添削・個別指導① 26 添削・個別指導② 27 添削・個別指導③ 28 卒業論文提出 29 卒業論文集の作成 30 卒業論文発表会
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて指示する。
	学びの手立て 研究報告は、予め順番を決めて行います。期日までにレジュメを作成すること。 辞典・事典類を活用して、詳細な調査につとめてください。
	評価 卒業論文80%+平常点20%

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文は、学位授与の絶対必要条件です。未提出の者には、審査を受ける権利がありません。計画的に調査、分析を進め、堅実な執筆を心掛けてください。
-------	--

※ポリシーとの関連性 日本語学、琉球語学に関する専門的な学修のまとめとして、各自の研究テーマに基づく卒業論文を執筆する。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅱ	後期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	下地 賀代子	4年	5-401(研究室) kshimoji@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 日本語学、琉球語学に関する研究テーマを各自で定めて卒業論文を執筆する。	メッセージ 卒業論文は大学での学びの集大成です。自ら定めた研究テーマについて真剣に、楽しく取り組んでください。
	到達目標 ・自身の研究テーマについて、科学的調査と論理的な考察に基づいた卒業論文を執筆する。 ・自身の卒業論文の内容を適切に説明することができる。	

学びの準備	ねらい 日本語学、琉球語学に関する研究テーマを各自で定めて卒業論文を執筆する。	メッセージ 卒業論文は大学での学びの集大成です。自ら定めた研究テーマについて真剣に、楽しく取り組んでください。
	到達目標 ・自身の研究テーマについて、科学的調査と論理的な考察に基づいた卒業論文を執筆する。 ・自身の卒業論文の内容を適切に説明することができる。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p><u>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</u></p> <p>おおむね次のように進めていきます。 ガイダンス、卒業論文の体裁・提出方法の説明 進捗状況の確認 目次の見直し 以下の項目に関する中間報告（複数回）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自の研究テーマに基づく調査、データの収集状況</li> <li>・言語データの整理、分析状況</li> <li>・考察、まとめ</li> </ul> <p>論文原稿の仮提出 原稿の修正・加筆 卒業論文の提出 各自の進捗状況に応じて指導、助言を行います。 卒業論文の完成に向けて全力を尽くします。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>各自の研究テーマに沿って適宜指示・紹介します。</p>

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>各自の研究テーマに沿って適宜指示・紹介します。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>進捗状況を常に把握し、計画的に研究を進めていくことが何よりも大切です。</p>

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>各自の研究テーマに沿って適宜指示・紹介します。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>進捗状況を常に把握し、計画的に研究を進めていくことが何よりも大切です。</p>

学びの実践	<p>評価</p> <p>卒業論文の内容および形式：70%、卒業論文への取り組み（執筆過程など）：30%</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>論文の執筆を通して高められた思考力、言語運用能力、情報検索能力を存分に発揮し、社会で活躍できる人材となってください。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

学科カリキュラムポリシー4（論理的・批判的思考力や課題探究力を養い、卒業論文を作成するための「ゼミ」を設置）に関連する。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 千英子	4年	メールで受け付けます。	

学びの準備	ねらい 本演習は国語科教育に関する演習を行うものである。卒業論文のテーマに沿って、文献を読み、論文としてまとめる。論文を発表し、検討会を持つ中で、文献を適切に読み取り自分の論を組み立てる力、データを基に分析する力、表現する力、多角的に考える力の基礎を身につける。	メッセージ 中学教諭としての現場経験を活かして、国語科教育研究のあり方や、授業実践例を紹介する。自分の専門分野はもちろんのこと、他分野の書籍にもあたり、自分の研究を多角的に見る力をつけてほしい。
	到達目標 データ分析・結論を完成させる。 ゼミへの卒論提出は、12月1日〆切。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	卒論提出までのスケジュール確認・予定表の提出・進行状況報告	論文作成
	2	発表・質疑応答(1)	論文作成
	3	発表・質疑応答(2)	論文作成
	4	発表・質疑応答(3)	論文作成
	5	発表・質疑応答(4)	論文作成
	6	発表・質疑応答(5)	論文作成
	7	発表・質疑応答(6)	論文作成
	8	発表・質疑応答(7)	論文作成
9	発表・質疑応答(8)	論文作成	
10	発表・質疑応答(9) ※仮提出	論文作成	
11	内容・データ分析結果の最終確認	論文作成	
12	内容・データ分析結果の最終確認	論文作成	
13	卒業論文集の作成（誤字脱字・引用・脚注のチェック） ※最終提出	論文作成・印刷会社への連絡	
14	卒業論文集の作成（誤字脱字・引用・脚注のチェック）	論文集作成・印刷会社への連絡	
15	卒業論文集の作成（誤字脱字・引用・脚注のチェック）	論文集作成・印刷会社への連絡	
16	予備日（卒業論文集の印刷等）	論文集作成・印刷会社への連絡	
実践	テキスト・参考文献・資料など 適宜紹介する。 発表者は参考文献のコピーを用意する。		
	学びの手立て ①無断欠席は厳禁。（欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。） ②欠席回数が全授業回数 $\frac{1}{3}$ を超えた場合は、単位を与えません。 ③必要に応じて、参考文献のコピーも提出ください。 ④積極的に質疑に臨んで下さい。		
	評価 卒論70%、平常点（討議への参加・質問内容）30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 【カリキュラムポリシーとの関連】4 今後も課題に向きあい、研究を継続してください。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅱ	後期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 陽子	4年	y.murakami@okiu.ac.jp 5号館404研究室	

学びの準備	ねらい 先行研究を踏まえた上で新たな研究成果を得ること。	メッセージ 納得のいく卒業論文が書けるよう、各自努力してください。
	到達目標 卒業論文の完成。	

学びの準備	到達目標 卒業論文の完成。
-------	------------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	ガイダンス・卒論執筆計画作成
	2	個別指導①
	3	個別指導②
	4	個別指導③
	5	研究発表①
	6	研究発表②
	7	研究発表③
	8	研究発表④
学びの実践	9	研究発表⑤
	10	研究発表⑥
	11	研究発表⑦
	12	卒業論文仮提出
	13	卒業論文添削
	14	卒業論文本提出
	15	卒業論文集作成に向けての準備
	16	予備日
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて指示する。	
学びの実践	学びの手立て 他のゼミ生の研究発表に対して有意義な発言ができるよう、指定されたテキストは必ず読んでくること。	
学びの実践	評価 卒業論文の完成度（80%）、受講態度およびゼミ内での共同作業への参加（20%）	

学びの継続	次のステージ・関連科目 ゼミナールⅣ
-------	-----------------------

※ポリシーとの関連性 4年間の集大成となる卒業論文を仕上げる科目です。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅱ	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	奥山 貴之	4年	Eメール、授業後教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	卒業論文を仕上げる。先行研究のまとめ、調査結果のまとめ、考察、などをさらに熟考し、結論につなげる。推敲を重ね、仲間と伝え合うことで、さらに多角的な視点と、論理的な思考を身につけていく。こうして、計画的に研究をすすめる、卒業論文を執筆することで大学での学びの集大成とする。	何度も考え直し、推敲を重ね、伝え合う活動を重ねて、自分のカラーを破ってください。

到達目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>論理的な構成の文章（論文）を書くことができる。</li> <li>調査結果から、適切に情報を読み取りまとめることができる。</li> <li>仮説の検証を多角的な視点で行い、結論を出すことができる。</li> <li>長期間の研究を計画的に行い、成果を出すことができる。</li> </ul>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	文献検索と講読・論文執筆
	2	進捗状況の報告	文献検索と講読・論文執筆
	3	個別指導とグループ学習	文献検索と講読・論文執筆
	4	個別指導とグループ学習	文献検索と講読・論文執筆
	5	個別指導とグループ学習	文献検索と講読・論文執筆
	6	個別指導とグループ学習	文献検索と講読・論文執筆
	7	第一次提出	文献検索と講読・論文執筆
	8	個別指導	文献検索と講読・論文執筆
	9	中間発表	文献検索と講読・論文執筆
	10	個別指導とグループ学習	文献検索と講読・論文執筆
	11	個別指導とグループ学習	文献検索と講読・論文執筆
	12	個別指導とグループ学習	文献検索と講読・論文執筆
	13	個別指導とグループ学習	文献検索と講読・論文執筆
	14	最終確認	文献検索と講読・論文執筆
15	発表の準備 論文集作成の打ち合せ	文献検索と講読・論文執筆	
16	卒業論文報告会	文献検索と講読・論文執筆	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 授業の中で適宜紹介する。
-------	--------------------------------

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究計画を再考し、最終確認する。</li> <li>先行研究をさらに読み込み、参考にする。</li> <li>研究のメモをノートに残し、何度も見直して考える。</li> <li>仲間からの質問やコメントについてよく検討し、論文に反映させていく。</li> </ul>
--------	--

評価	論文と、それを完成させていく過程（提出物、発表、その他取り組み）を評価する。 論文60%、提出物15%、発表15%、平常点10%
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 論文執筆で培った、社会人として相応しい力（計画・思考・伝える、など）を、次のステージで活かして欲しい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文Ⅱ	後期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安志那	4年	9-605 ahn@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 自分の研究テーマを深く理解し、自分のことばで論理的に表現する。	メッセージ 卒論の執筆と修正、校正を通じて卒論の完成度を高めましょう。
	到達目標 自ら問題意識を持ち、論理的に論証し、自分のことばで表現する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	進捗の確認
	2	注意事項及び構成の確認	チェックリストの作成
	3	日程の調整	日程の確定
	4	個別指導①	卒論の執筆
	5	個別指導②	卒論の執筆
	6	個別指導③	卒論の執筆
	7	研究発表①	卒論の検討
	8	研究発表②	卒論の検討
	9	研究発表③	卒論の検討
	10	卒論の最終確認	卒論の検討
	11	執筆と修正	加筆と修正
	12	卒論の完成	卒論の完成
	13	確認と校正	卒論の校正
	14	製本作業①	編集
15	製本作業②	印刷	
16	まとめ	復習	
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて指示する。		
	学びの手立て 最後まで計画的に進めること。基本的に対面授業であるが、オンラインに切り替わる際には担当教員からの連絡に注意すること。		
	評価 卒業論文（70%）、共同作業への協力（30%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ゼミナールⅣ。
-------	------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	多文化共生入門	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	奥山 貴之	1年	授業後の教室、またはメールで。t.okuyama アットマークokiu.ac.jp。アットマーク⇒@	

学びの準備	ねらい 多文化共生への理解を深め、考える力を身に付ける。	メッセージ この授業では、日本や外国での多文化共生のあり方について学びます。まずは現状と課題を知り、その上でどうすればよいのか、どんなことができるのか、一緒に考えましょう。日本語教師としての経験を踏まえ、そこから言語や社会についての見方や考え方についても話していきます。
	到達目標 ・身近な多文化の環境を知り、その中でどのように共生を図ることができるか考えられるようになる。 ・日本国内における多文化共生の一つの方法としての日本語教育について、行われる対象や目的などを理解する。 ・「多文化共生のための日本語教育」の視点を、社会的・歴史的背景を踏まえて持てるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス 非母語話者のことば①	配付資料を読む、要約する
	2	非母語話者のことば②	予習と復習
	3	「やさしい日本語」と多言語対応①	復習・調査
	4	「やさしい日本語」と多言語対応②	予習と復習
	5	日本の外国人施策	予習と復習
	6	国語教育と日本語教育	予習と復習
	7	日本国内のグローバル化①（日本語学習者とは）	予習と復習
	8	日本国内のグローバル化②（留学生）	予習と復習
	9	中間試験	予習と復習
	10	日本国内のグローバル化③（ビジネス・職場）	予習と復習
	11	日本国内のグローバル化④（年少者）	予習と復習
	12	日本国内のグローバル化⑤（地域）	予習と復習
	13	国外の日本語教育	予習と復習
14	日本語教育史	予習と復習	
15	複言語・複文化主義と多文化共生	予習と復習	
16	期末試験	総復習	
テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。講義の際、担当教員が適宜資料を配布する。 参考文献 『日本語教育への道しるべ 第1巻 ことばのまなび手を知る』凡人社 『新日本語教育を学ぶ なぜ、なにを、どう教えるか』三修社 など			
学びの手立て ・身近な多文化、多言語の環境を観察してみましよう。 ・身近にどのような外国人や「外国に繋がる人」がいるか、探してみましよう。 ・外国人施策や多文化共生に関わる政策などについて、どのような動きがあるか新聞やニュースを見てみましよう。 ・自分も他者も生きやすい「共生社会」はどのようなものか、自分の経験から文献から考えてみてください。 ・留学生の日本語クラスの見学や、留学生関係のイベントなどに積極的に参加してみてください。			
評価 中間試験30%、期末試験30%、課題・提出物25%、平常点15%			

学びの継続	次のステージ・関連科目 「グローバルコミュニケーション論」「ジャパノロジーⅠ・Ⅱ」「アジア太平洋文化論」「比較文化論」「多文化共生論」「コミュニケーションスキルⅠ・Ⅱ」など
-------	---



※ポリシーとの関連性 多文化化する日本社会に対する専門的な知識・能力を持ち、多文化共生を目指して次世代に継承する。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	多文化共生論	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安 志那	3年	9-605 ahn@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 多文化共生の概念を理解し、その歴史と理論、問題と課題について多角的に考える力を養う。	メッセージ 本講義は、多文化化する日本社会の現実と世界の状況などを多面的に理解することを目指します。日本社会内の「共生」とは何か、また自分がその立場に置かれた時はどうすべきかなどを映像資料、講義、グループワークを通じて一緒に考えましょう。
	到達目標 多文化共生の概念を理解し、説明できる。情報を正確に理解できるための論理的な思考力と分析力を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスの確認
	2	移民社会と文化①	講義内容の復習
	3	移民社会と文化②	講義内容の復習
	4	沖縄と海外移民	講義内容の復習
	5	外国人労働者とニューカマー	講義内容の復習
	6	地域と観光	講義内容の復習
	7	多言語と「やさしい日本語」	講義内容の復習
	8	中間試験	復習
学びの実践	9	国際結婚とジェンダー	講義内容の復習
	10	プレゼンテーションとディスカッション①	発表の準備、ディスカッション
	11	こどもと教育	講義内容の復習
	12	プレゼンテーションとディスカッション②	発表の準備、ディスカッション
	13	外国人と災害	講義内容の復習
	14	プレゼンテーションとディスカッション③	発表の準備、ディスカッション
	15	世界の状況	講義内容の復習
	16	まとめ	講義全体の復習及び質疑応答
テキスト・参考文献・資料など ガイダンスにて説明する。			
学びの手立て グループディスカッションに積極的に参加することが望ましい。 基本的に対面授業であるが、オンラインに切り替わる際には担当教員からの連絡に注意すること。			
評価 中間テスト (30%)、プレゼンテーション (40%)、期末レポート (30%)。プレゼンテーションの分担などについてはガイダンスで説明する。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 コミュニケーションスキルⅠ、Ⅱ。
-------	---------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	多文化体験実習	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安 志那	3年	9-605/ahn@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	多文化間コミュニケーションが提供する「多文化共生入門」「グローバルコミュニケーション論」「ジャパノロジー」「比較文化論」「コミュニケーションスキル」「多文化共生論」などの科目で学んだことを、異文化(多文化)体験と結び付けて理解を深める。語学力、コミュニケーション能力、多文化理解を深める。	異文化や多文化に興味を持ち、理解しようとすることは、グローバル化した現代社会で生きるための基本です。自ら計画を立て、異なる文化の中に飛び込んでください。

学びの準備	到達目標
	1) 事前学習で訪問先の地域に関する基本的な知識、言語環境を知る。 2) 訪問先での体験実習を通して、コミュニケーションの技能や文化理解を深める。 3) 実習内容を内省し報告書にまとめる。他者に成果を発信する力を身に付ける。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	事前研修(本学内)	先輩の報告書を参照
	2	事前研修(本学内)	訪問先について調べる
	3	事前研修(本学内)	訪問先について調べる
	4	事前研修(本学内)	訪問先について調べる
	5	訪問先での実体験(事前研修での計画の実践)	事前計画の実践と情報共有
	6	訪問先での実体験(事前研修での計画の実践)	事前計画の実践と情報共有
	7	訪問先での実体験(事前研修での計画の実践)	事前計画の実践と情報共有
	8	訪問先での実体験(事前研修での計画の実践)	事前計画の実践と情報共有
	9	訪問先での実体験(事前研修での計画の実践)	事前計画の実践と情報共有
	10	訪問先での実体験(事前研修での計画の実践)	事前計画の実践と情報共有
	11	訪問先での実体験(事前研修での計画の実践)	事前計画の実践と情報共有
	12	訪問先での実体験(事前研修での計画の実践)	事前計画の実践と情報共有
	13	帰国報告書について(反省を含める)	先輩の報告書を参照
	14	報告書作成	資料整理と報告書作成
15	報告会(口頭発表)	資料整理と報告書作成	
16	相互評価と修正	最終仕上げ	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	訪問先地域に関するあらゆる情報を可能な限り収集する。日本文化学科が提供する関連科目の復習。共通科目で提供する訪問先の情報の確認など。

学びの実践	学びの手立て
	訪問先の地理・歴史・文化などを事前に調べる。 多文化理解に関する科目で学んだことを体験で得た知識に結びつけ、知識を確認・修正し深化させる。 帰国後、体験実習で得た学びをしっかりと言語化し、他者に伝える。 事前研修では詳細に具体的に調べ、現地での体験は報告書の作成を想定してメモや写真で記録を残しておく。

学びの実践	評価
	事前研修20%、研修先での活動40%、報告書(発表を含む)40%

学びの継続	次のステージ・関連科目
	事前研修で学んだことや疑問に感じたことを更に深化させるための科目、外国語科目、人間文化課題研究、言語文化接触論など。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	多文化体験実習	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	兼本 敏	3年	講義時間/kanemoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	多文化間コミュニケーションコースが提供する「多文化共生入門」「グローバルコミュニケーション論」「ジャパノロジー」「比較文化論」「コミュニケーションスキル」「多文化共生論」などの科目で学んだことを、異文化（多文化）体験と結びつけて理解を深めることをねらいとしています。語学力、コミュニケーション能力・多文化理解を深めることを目標とします。	異文化や多文化に興味を持ち、理解しようすることは、グローバル化した現代社会で息抜き、活躍するための基本です。自ら計画を立て、異なる文化の中に飛び込んでください。

学びの準備	到達目標
	1) 事前学習で訪問先の地域に関する基本的な知識、言語環境を知る。 2) 訪問先での体験実習を通して、コミュニケーションの技能や文化理解を深める。 3) 実習内容を内省し報告書にまとめる。他者に成果を発信する力を身に付ける。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	事前研修（本学内）	先輩の報告書を参照
	2	事前研修（本学内）	訪問先について調べる
	3	事前研修（本学内）	訪問先について調べる
	4	事前研修（本学内）	訪問先について調べる
	5	訪問先での実体験（事前研修での計画の実践）	事前計画の実践と情報共有。
	6	訪問先での実体験（事前研修での計画の実践）	事前計画の実践と情報共有。
	7	訪問先での実体験（事前研修での計画の実践）	事前計画の実践と情報共有。
	8	訪問先での実体験（事前研修での計画の実践）	事前計画の実践と情報共有。
	9	訪問先での実体験（事前研修での計画の実践）	事前計画の実践と情報共有。
	10	訪問先での実体験（事前研修での計画の実践）	事前計画の実践と情報共有。
	11	訪問先での実体験（事前研修での計画の実践）	事前計画の実践と情報共有。
	12	訪問先での実体験（事前研修での計画の実践）	事前計画の実践と情報共有。
	13	帰国報告書について（反省を含める）	先輩の報告書を参照
	14	報告書作成	資料整理と報告書作成
15	報告会（口頭発表）	資料整理と報告書作成	
16	相互評価と修正	最終仕上げ	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	訪問先地域に関するあらゆる情報を可能な限り収集する。日本文化学科が提供する関連科目の復習。共通科目で提供される訪問先の情報の確認など。

学びの実践	学びの手立て
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問先の地理・歴史・文化などを事前に調べる。</li> <li>・多文化理解に関する科目で学んだことを体験で得た情報に結びつけ、知識を確認・修正し深化させる。</li> <li>・帰国後、体験実習で得た学びをしっかりと言語化し、他者に伝える。</li> <li>・事前研修では詳細に具体的に調べ、現地での体験は報告書の作成を想定してメモや写真で記録を残しておく。</li> </ul>

学びの実践	評価
	・事前研修20%・研修先での活動40%・報告書（発表を含む）40%

学びの継続	次のステージ・関連科目 体験実習で学んだことや疑問に感じたことを更に深化させるための科目、外国語科目、人間文化課題研究、言語文化接触論などの履修を推奨する。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	多文化体験実習	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	奥山 貴之	3年	奥山貴之 t.okuyama@okiu.ac.jp	研究室5-432

学びの準備	ねらい	メッセージ
	多文化間コミュニケーションコースが提供する、「多文化共生入門」「グローバルコミュニケーション論」「ジャパノロジー」「比較文化論」「コミュニケーションスキル」「多文化共生論」などの科目で学んだことを、異文化（多文化）体験と結びつけて理解を深めることをねらいとしています。語学力、コミュニケーション能力、異文化理解（多文化理解）を深めることを目標とします。	異文化や多文化に興味を持ち、理解しようすることは、グローバル化した現代社会で息抜き、活躍するための基本です。自ら計画を立て、異なる文化の中に飛び込んでください。多くのものが得られるはずです。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 事前学習で訪問先の地域に関する基本的な知識、および使用言語を習得する。</li> <li>2) 訪問先の地域での体験実習を通して、コミュニケーションの技能や多文化理解を深める</li> <li>3) 実習内容を内省し、報告書にまとめる。そのことで理解を深め、他者に成果を発信する力を身に付ける。</li> </ol>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	事前研修（本学内）	オリエンテーション
	2	事前研修（本学内）	訪問先について調べる
	3	事前研修（本学内）	訪問先について調べる
	4	事前研修（本学内）	訪問先の最新情報の共有と確認
	5	訪問先での実体験（事前研修での計画の実践）	訪問先の最新情報の共有と確認
	6	訪問先での実体験（事前研修での計画の実践）	訪問先の最新情報の共有と確認
	7	訪問先での実体験（事前研修での計画の実践）	訪問先の最新情報の共有と確認
	8	訪問先での実体験（事前研修での計画の実践）	訪問先の最新情報の共有と確認
	9	訪問先での実体験（事前研修での計画の実践）	訪問先の最新情報の共有と確認
	10	訪問先での実体験（事前研修での計画の実践）	訪問先の最新情報の共有と確認
	11	訪問先での実体験（事前研修での計画の実践）	訪問先の最新情報の共有と確認
	12	訪問先での実体験（事前研修での計画の実践）	訪問先の最新情報の共有と確認
	13	報告および反省会	訪問先の最新情報の共有と確認
14	報告書作成	資料の整理	
15	報告書作成	報告書の確認	
16	相互評価および修正	報告書の確認	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	訪問先地域に関するあらゆる情報を可能な限り収集する。 日本文化学科が提供する関連科目の復習。 共通科目で提供される訪問先の情報の確認など。		
	学びの手立て		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問先の地理・歴史・文化などを事前に調べる。</li> <li>・今まで語学や多文化理解に関する科目で学んだことと、実習で得た情報や体験を結びつけて、知識を確認、修正し、深化させる。</li> <li>・帰国後、体験実習で得た学びをしっかりと言語化し、他者に伝える。</li> <li>・事前研修では詳細に具体的に調べ、現地での体験は報告書の作成を想定してメモや写真で記録を残しておく。</li> </ul>		
	評価		
	事前研修（20%） 研修先での活動（40%） 報告書（40%） 全体での活動と個別での活動は事前に計画し報告する。全体行動と個別活動の評価は「研修先活動」に含まれる。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	異なる文化を体験的に理解したり、国際感覚を磨いたりするのに役立つ科目です。出発前の準備も大切です。また訪問先で自分自身に対する新たな発見があるはずです。帰国後には新たな自分を形成に寄与する科目の履修や勉強（語学・歴史・地理・文化関連科目など）を希望します。

※ポリシーとの関連性

多文化間コミュニケーションコースでは、沖縄・琉球文化を世界に向けて広く発信していくスキル修得を教育目標の1つとしている。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域文化情報論	後期	土4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-伊佐 常利、-照屋 理	3年	授業終了後に受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本科目は、ICTを用いた文化発信のスキルを実践的に身に付けるための専門科目と位置づけ、MySQLやWebプログラミングを用いて琉球語・日本語を課材とするデータベースを作成する。言語研究や文学研究を緻密に客観的に行うためには、充実したデータベースに基づく手法が不可欠である。その基礎となるデータベース作成について学ぶ。</p>	<p>コンピュータの情報処理能力は、私たちのことばの成り立ちを解析してくれるときにも威力を発揮します。たとえば、かつて辞典を作るときは単語を1枚1枚カードにして「人力」で50音順（あるいはアルファベット順）に並べ変えたのですが、今のコンピュータは一瞬にして「文字列処理」をし、有益な情報を与えてくれます。その手法を学んでみましょう。</p>
到達目標	<p>①琉球語の継承におけるデータベース構築の必要性を理解できる。 ②MySQLとWebプログラミングの仕組みを理解することができる。 ③MySQLとWebプログラミングを用いてリレーショナルデータベースを構築できる。 ※本科目は、上級情報処理士資格取得のための選択科目である。</p>	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	はじめに：文字列の情報処理	文字コードについて知る
	2	言語研究・文学研究・辞書作成と索引	琉球語テキストの準備①
	3	琉球語データベースの必要性	琉球語テキストの準備②
	4	MySQL1   テーブルの作成、確認、削除/データ型と列制約/データの挿入/データの検索	DBの概要を復習・課題テーマ設定
	5	MySQL2   where句/比較演算子/論理演算子	課題作成のためのデータ収集
	6	MySQL3   並び替え/データの上書き/データの削除	データ収集・課題作成①
	7	MySQL4   あいまい検索/結合	課題作成②
	8	独自データベース（課題）の作成と提出	課題作成③ 提出
学びの実践	9	Webプログラミング基礎1   コーディング基礎と出力	コーディングの基礎を復習
	10	Webプログラミング基礎2   変数とデータ/演算子（算術・文字列連結・代入）	変数と演算子の理解を深める
	11	Webプログラミング基礎3   if文/比較演算子	条件分岐文を理解する
	12	Webプログラミング基礎4   論理演算子/for	ループ文を理解する
	13	Webプログラミング基礎5   関数	課題に備え総復習
	14	フォームの送受信/Webプログラミングとデータベースとの連携1	最終課題作成
	15	Webプログラミングとデータベースとの連携2	最終課題作成
	16	最終課題提出および発表	最終課題提出
テキスト・参考文献・資料など	オリジナルテキストを使用する。		
学びの手立て	出席日数が3分の2に満たない者は単位を与えない。		
評価	<p>定期テスト・・・0点（テストは行わない）          提出物・・・70点（課題の完成度で評価する）          平常点・・・30点（单元ごとの課題提出状況、到達度を評価する）</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>日本文化学科が専門科目として開講している上級情報処理士科目「アカデミックセミナー」「エリアスタディ演習」「図書館情報技術論」などを中心に、共通科目の情報科目も積極的に受講し、情報処理スキルをさらに高めていきましょう。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	図書館概論	前期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山口 真也	1年	授業開始前、または終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 図書館の存在意義・種類・機能を学び、職員制度の問題点などを説明する。司書を目指す学生については、資格課程の導入科目として位置づけ、図書館勤務経験を持つ講師の指導の下で、基礎知識を習得するとともに、自己の職業適性を考える機会とする。一般学生については、図書館の意義・利用法を幅広く知り、大学生活や将来の職業生活・社会生活に役立つ知識を得ることを目的とする。	メッセージ 司書資格の取得を目指す人は必ず1年生で受講しましょう。資格取得を目指さない人も、日本文化学科での研究活動に役立つ基礎的なリテラシー(図書館活用の基本)を身に着けることができる科目です。
	到達目標 ①図書館情報学を学ぶ上での基本知識(用語の意味など)と学習態度を身につけることができる。 ②図書館の存在を支える「図書館の自由」という理念を、民主主義、表現の自由、知る自由といったキーワードを用いて、適切に説明することができる。 ③現代の図書館と司書職が抱える制度的な問題を知り、自身が在住する自治体の図書館行政に結びつけて理解することができる。 ④幅広い図書館の種類、豊かな機能、司書の役割を知り、自己の職業適性を考えることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・図書館の定義と機能・サービスの種類	シラバスを読んで授業に備える
	2	図書館の構成要素と現代的課題(1):建物・資料	指定図書を読む
	3	図書館の構成要素と現代的課題(2):職員、司書になるには?	在住自治体の司書採用制度を調べる
	4	図書館の構成要素と現代的課題(3):利用者	在住自治体の司書採用制度を調べる
	5	図書館の存在意義と「図書館の自由」(1):民主主義・表現の自由・知る自由・図書館戦争	レポートの準備
	6	図書館の存在意義と「図書館の自由」(2):資料収集・提供の自由 はだしのゲン・『絶歌』問題	レポートの準備
	7	図書館の存在意義と「図書館の自由」(3):利用者の秘密を守る	指定図書を読む
	8	図書館の種類(1) 公共図書館①:設置主体・目的、サービス対象、収集する資料、「任務と目標」	指定図書を読む
	9	図書館の種類(2) 公共図書館②:サービスの三原則	指定図書を読む
	10	図書館の種類(3) 学校図書館①:設置主体・目的、サービス対象	学校司書の雇用状況を調べる
	11	図書館の種類(4) 学校図書館②:設置義務、司書教諭制度とその課題、沖縄の学校図書館の特徴	指定図書を読む
	12	図書館の種類(5) 大学図書館:設置主体・目的、サービス対象、課題	指定図書を読む
	13	図書館の種類(6) 専門図書館:種類、特徴、地方議会図書室、病院図書館、刑務所図書館など	指定図書を読む
	14	図書館の種類(7) 国立国会図書館・外国の図書館:種類、目的、利用方法、納本制度	指定図書を読む
15	図書館をめぐる様々な制度とその課題: 指定管理者制度、授業のまとめ	テスト勉強	
16	試験+解説	テストの振り返り	
	テキスト・参考文献・資料など ・テキストは使用しません。 ・参考図書は授業時間内に指示します。(指定図書コーナーに排架しています) ・適宜、プリントを配布します。		
	学びの手立て ・司書資格取得希望者は、新年度に行っている図書館司書課程オリエンテーションにて、履修の順序を確認した上で履修してください。 ・授業中に紹介する指定図書を読む、図書・雑誌・新聞といった多様な文献を使ってレポートを書く、各種ガイダンスに参加して文献検索のスキルを高めるなど、積極的に本学図書館を利用する習慣を身につけましょう。		
	評価 定期テスト・・・80点(期末試験の到達度により評価) 平常点・・・20点(授業時間中の提出レポートの到達度により評価) ※定期テストに代わって、レポート提出、ノート提出を課すこともあります。毎回の授業にしっかり参加し、学習内容を記録しておきましょう。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・図書館と社会との関わりについてより広く学ぶ科目である「生涯学習概論」も1年生前期から受講できます。 ・この科目を受けて、さらに図書館について学びたいと思った方は、後期開講科目「図書館情報資源概論」を受講してみましよう。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	図書館サービス概論	前期	土2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-富永 一也	2年	講義終了後に教室で受け付けます。メールでの問い合わせも可。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	図書館活動の基本的なあり方を、図書館サービスの中でも、特に「パブリックサービス」という側面に注目し、図書館現場で働いた経験をもつ講師の指導の下、その多様な種類、理念、具体的な方法について具体的に学ぶことで、図書館活動の意義、役割をより深く学ぶ。後期から始まる、図書館サービスの各論(児童サービス、情報サービスなど)の基礎科目と位置づける。	司書を目指す方はもちろん、利用者の立場から図書館に興味がある方も含めて、この科目を通して図書館の機能・役割(ミッション)、司書の専門性を多く人に知ってもらいたいと思っています。
到達目標	以下の知識・技能を身につけることを到達目標とする。 ①図書館サービスに関するの基本知識(専門用語の意味、必要性の理解)、 ②自身が普段利用している図書館のサービスを適切に評価する力、 ③自己の職業適性を考える力、 ④多様な文献や図書館サービスを積極的に活用した上でレポートを作成し、図書館サービスの中でも特に重要な資料提供サービスの必要性・重要性を利用者の視点から理解する力	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス 講義の基本方針について; 「サービス」の定義について	シラバスを読み、授業に備える
	2	法令に見る「図書館サービス」 法体系から演繹する	課題に取り組む
	3	対象別サービス① 「類型(カテゴリ)」の設定と課題	課題に取り組む
	4	対象別サービス② 若い世代(乳幼児・児童・ヤングアダルト)	課題に取り組む
	5	対象別サービス③ 高齢者、障害者、マイノリティ、多文化	課題に取り組む
	6	「図書館サービス」の理論と実際①: サービスの種類と課題解決支援の視点	課題に取り組む
	7	「図書館サービス」の理論と実際②: 閲覧・情報提供サービスと図書館連携協力	課題に取り組む
	8	「図書館サービス」の実際と課題③: 貸出・予約サービス	課題に取り組む
	9	前半の復習と補遺~復習問題演習	課題に取り組む
	10	図書館サービスと著作権 法令と複写サービス	課題に取り組む
	11	図書館サービスの諸課題① 危機管理と接遇・コミュニケーションファクター	課題に取り組む
	12	図書館サービスの諸課題② 条例・規則・規程・内規について	課題に取り組む
	13	図書館サービスの諸課題③ 行政と図書館サービス、図書館の広報	課題に取り組む
	14	図書館サービスの諸課題④ AIと図書館サービスの将来	課題に取り組む
15	図書館サービスの諸論点 振り返りとディスカッション	ミニレポート提出	
16	総復習~テスト	テストの振り返り	

テキスト・参考文献・資料など

- ・プリントを配布します(授業後にPDFでも配信)。欠席した場合は、配信したテキストを読み、課題を提出してください。

学びの手立て

- ・司書資格取得希望者は、新年度に行っている図書館司書課程オリエンテーションにて、履修の順序を確認した上で履修してください。(1年生の時にオリエンテーションを受講していない人)
- ・受講生の興味関心や学習進度のフィードバックを得て、講義トピックや順序を適切にアレンジします。

評価

課題提出…20点  
ミニレポート…40点  
テスト…40点

学びの継続

次のステージ・関連科目

後期からサービス系科目の各論科目が多数開講されます。司書を目指す方は、この科目で学んだことを基礎としてさらに学びを深めてください。司書課程を受講しない方は、この科目で学んだ知識を生かして、よき図書館利用者、理解者としてこれからの人生を豊かに過ごしてくれることを期待します。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	図書館情報資源概論	後期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-富永 一也	1年	授業開始前、または授業後に教室またはメールで受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	図書館の理念を考察しつつ、図書館情報資源(資料・メディア)がその理念の実現においてどのような役割を果たすのか、沖縄県立図書館における4年間の勤務歴及び県外の市立図書館で1年半の管理職経験をもつ講師が、図書館情報資源にかかるさまざまなトピックを取り上げ、受講生とともに考察していく中で、図書館活動の意義と役割をより深く学びます。	司書資格を取得するための基礎科目です。日本文化学科の専門科目にもなっていますので、図書館司書キャリアを目指す/目指さないにかかわらず、図書館についての理解を深めたい学生を歓迎します。

到達目標	①図書館資料(情報資源)について、他の情報資源機関(公文書館、博物館等)との比較もしつつ、その特性を理解することで、図書館サービスの理念や図書館のあり方そのものについて一定の見解を持つこと。②図書館資料の収集・提供をめぐるこれまで生じてきた軋轢について知り、問題について複眼的に理解した上で解決の方向性を提案することができる。③図書館資料と出版・流通業界との関係について考察し、その関係性がどのように図書館のあり方に影響を与えているかについて、その意義と問題点を説明することができる。④様々な資料を活用して課題レポートを作成することで、図書館を構成する諸要素における図書館資料の位置づけを評価することができる。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・図書館とは?情報とは?資源とは	課題に取り組む
	2	図書館情報資源の分類(1)「分類」とは何か~様々なもの・ことを分類、体系化してみる	課題に取り組む
	3	図書館情報資源の分類(2)図書館情報資源の分類:地域資料、行政資料、灰色文献、古文書	課題に取り組む
	4	図書館情報資源の分類(3)図書館情報資源分類の実際:体系vs利便性	課題に取り組む
	5	図書館情報資源の収集(1)なぜ選択するのか、どう選択するのか:コレクション形成の二つの理論	課題に取り組む
	6	図書館情報資源の収集(2)なぜ選択するのか、どう選択するのか:資料選択と収集の方法とツール	課題に取り組む
	7	図書館情報資源の収集(3)予算、人員、キャパシティ:現実的なお話	課題に取り組む
	8	図書館情報資源の整理(1)人文・社会科学・科学技術分野等の情報資源とその特性	課題に取り組む
	9	図書館情報資源の整理(2)資料の受入、除籍、保存、管理 前半の復習と補遺~復習問題演習	課題に取り組む
	10	図書館情報資源の課題(1)司書は書庫の蛮族か? 資料保存をめぐる全米図書館界が震撼した	課題に取り組む
	11	図書館情報資源の課題(2)電子資料とネットワーク情報資源~ジェフ=ローゼンバーグの警告	課題に取り組む
	12	図書館情報資源の課題(3)BANされる書籍(日米の事例)	課題に取り組む
	13	図書館情報資源をめぐるトピック(1)「知る権利」と「表現の自由」:ダウトゲームと自由放任	課題に取り組む
	14	図書館情報資源をめぐるトピック(2)「図書館の自由」とリンカーンの知恵	課題に取り組む
15	図書館情報資源をめぐるトピック(3)出版社、取次、書店、図書館	レポート提出	
16	テスト	テストの振り返り	

実践	テキスト・参考文献・資料など ・プリントを配布します(授業後はPDFでも配信)。欠席した場合は、配信したテキストを読み、課題を提出してください。
----	---

学びの手立て	・司書資格取得希望者は、新年度に行っている図書館司書課程オリエンテーションにて、履修の順序を確認した上で履修してください。(※後期から受講を始める人は履修ガイドをよく読むこと) ・授業中に紹介する指定図書を図書館で読み、単元ごとに出题する演習問題(自由提出課題)にも積極的に取り組みましょう。 ・レポート課題を作成する際は、多様な図書館情報資源を活用するように心がけましょう。
--------	--

評価	課題提出...20点 ミニレポート...40点 テスト...40点
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 司書資格取得を目指す方は、情報資源系の後継科目「情報資源組織論Ⅰ」「情報資源組織論Ⅱ」を続けて受講しましょう。
-------	--



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	図書館文化セミナー	後期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山口 真也	2年	授業の前後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本授業は、図書館業務(実務)を実践的に学ぶための演習・実習形式の授業です。司書課程での学びを「地域社会に還元する」という目的の下で、司書職を目指す学生たちが図書館がもつ多様な機能をとらに学び合うことを目指します。	図書館にはさまざまな機能・可能性があります。司書課程の通常のカリキュラムではなかなか取り組めないプロジェクト型の実習を通して、図書館のはたらきや専門職としての司書のミッションについて理解を深めていきましょう。
到達目標	①資料展示やイベント参加を通して、これからの司書に求められる企画運営能力を身につける。 ②図書館・図書館関係企業で活躍している方々との実習での交流を通して、職業に対する理解を深め、将来目標を決定することができる。 ③グループワーク習を通して、司書として、社会人として求められる協働のあり方や同僚性、チームの一員として働く上での自己の適性を理解する。 ④公務員試験・司書採用・図書館系企業(書店・出版など)でアピールできる「経験・エピソード」を得る。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・グループ作り・スケジュールの確認	シラバスを読み、授業に備える
	2	プロジェクト①「チャリボン」への参加：社会問題と図書館の関係、呼びかけ方法、寄付先の検討	コーナーのアイテムづくり
	3	プロジェクト①「チャリボン」への参加：コーナーづくり	コーナーのアイテムづくり
	4	プロジェクト②「お気楽文庫」づくり：高齢化社会における図書館サービスの意義を学ぶ	高齢者サービスについて調べる
	5	プロジェクト②「お気楽文庫」づくり：高齢者施設へのZoomによるインタビュー	インタビュー内容を整理する
	6	プロジェクト②「お気楽文庫」づくり：認知症高齢者向けの資料やサービスの検討	サービスの検討・資料の選定
	7	プロジェクト②「お気楽文庫」づくり：認知症高齢者向けの資料やサービスの提案	プレゼンテーションの準備
	8	プロジェクト①「チャリボン」への参加・コーナーの片づけ・効果の検証・発送作業	コーナーの片づけ・データ分析
	9	プロジェクト③「ひと棚図書館」の運営：展示の意義・効果的な方法を学ぶ	展示の方法・意義について調べる
	10	プロジェクト③「ひと棚図書館」の運営：展示テーマの検討・調整	展示テーマを考える
	11	プロジェクト③「ひと棚図書館」の運営：展示資料の選定	展示する資料を選ぶ
	12	プロジェクト③「ひと棚図書館」の運営：展示アイテムの準備	アイテムを作成する
	13	プロジェクト③「ひと棚図書館」の運営：展示コーナーづくり	アイテムを作成する
14	プロジェクト②「お気楽文庫」づくり：回想法をもちいたおはなし会の準備	おはなし会の準備・リハーサル	
15	プロジェクト②「お気楽文庫」づくり：回想法をもちいたおはなし会の実施・効果の検証	フィードバック・データ分析	
16	プロジェクト③「ひと棚図書館」の運営：展示コーナーの片づけ・効果の検証	コーナーの片づけ・データ分析	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストは使用しません。</li> <li>・プロジェクトに関する情報を集める上では図書館資料(図書・雑誌・新聞・DB)を積極的に活用しましょう。</li> </ul>		
	学びの手立て		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲスト講師の都合により、プロジェクトに取り組む順番、日程が変更になることもあります。</li> <li>・日程の変更等は全て山口からメールで行います。学籍番号のメールを必ずチェックできるようにしておきましょう。</li> </ul>		
	評価		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各プロジェクトへの参加状況、プレゼンテーションなどの到達度で評価する。</li> <li>各プロジェクトの到達度 100点満点</li> <li>グループ学習の参加状況 (グループ学習の回を欠席すると1回につき10点減点)</li> <li>・遅刻は3回で1回の欠席とし、6回以上欠席した場合は単位を認定しない。</li> </ul>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の進路目標の一つとして司書職を目指すみなさんは、この授業を通して図書館がもつ多様なはたらきとサービス効果の検証方法を学び、3年生から始まる「ゼミナールI」にて、図書館に関する卒業研究を行います。</li> </ul>

※ポリシーとの関連性

日本近現代文学研究や国語教育に必要な基礎知識を習得し、実際の作品に触れることで教養を身につける。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本近代文学史Ⅰ	前期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 陽子	1年	y.murakami@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 日本近代文学の基礎的な作品を通して明治～大正の時代状況・文学状況を理解することを目指す。	メッセージ 日本近代文学はどのように構築されてきたのか、いっしょに学んでいきましょう。
	到達目標 明治～大正の文学史の流れを理解する。	

学びの準備	到達目標 明治～大正の文学史の流れを理解する。

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスを読んでくる
	2	日本近代文学の出発点	授業内容について復習する
	3	二葉亭四迷「浮雲」を読む	授業内容について復習する
	4	森鷗外「舞姫」の魅力	授業内容について復習する
	5	硯友社と文壇	授業内容について復習する
	6	「文学界」とその周辺	授業内容について復習する
	7	明治期の沖縄文学	テスト勉強
	8	中間テスト	テストの内容を復習する
	9	浪漫主義の文学	授業内容について復習する
	10	自然主義の時代①－島崎藤村の文学	授業内容について復習する
	11	自然主義の時代②－田山花袋の文学	授業内容について復習する
	12	夏目漱石という存在	授業内容について復習する
	13	白樺派の文学	授業内容について復習する
	14	大正期の沖縄文学	授業内容について復習する
	15	芥川龍之介の世界	テスト勉強
16	期末テスト	テストの内容を復習する	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて指示する。 参考書としては紅野敏郎・三好行雄・竹盛天雄・平岡敏夫編『明治の文学』および『大正の文学』（いずれも有斐閣選書）を推奨する。

学びの実践	学びの手立て 事前事後学習として、講義で取り上げた作品を通読すること。

学びの実践	評価 授業内課題40%、中間テスト30%、期末テスト30%

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本近代文学史Ⅱ、日本文学を読むⅢ・Ⅳ
-------	------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本近代文学史Ⅱ	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 陽子	1年	y.murakami@okiu.ac.jp 5号館404研究室	

学びの準備	ねらい 関東大震災から現代に至るまでの文学史の流れを理解し、代表的な作家・作品についての理解を深めることを目指す。 受講生には積極的な読書を求める。 受講生が日本近代文学における諸概念を理解し、さまざまな文学表現を具体的に考察するための力を養うことを目的とする。	メッセージ 日本近代文学史Ⅰを履修していない者の登録も認めるが、基本的にはⅠ・Ⅱを通しての履修が望ましい。 日本の近代史と文学の展開を関連づけて理解する視点を養ってほしい。
	到達目標 大正から現代にかけての文学がいかに発展してきたかを時代に即して理解する。 実際の作品に触れ、読解力を高める。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスを読んでくる。
	2	関東大震災と文学	講義内容について復習する。
	3	新感覚派とプロレタリア文学	講義内容について復習する。
	4	昭和文学の発端	講義内容について復習する。
	5	昭和10年前後の沖縄文学	講義内容について復習する。
	6	戦時下一戦後の文学	講義内容について復習する。
	7	中間テスト	テスト内容の復習。
	8	大岡昇平「野火」 一見棄てられた兵士たち	講義内容について復習する。
	9	石牟礼道子「五月」①—水俣病という病	講義内容について復習する。
	10	石牟礼道子「五月」②—語りつくせぬことを聞き取る可能性に向けて	講義内容について復習する。
	11	嶋津与志「骨」に見る沖縄の開発	講義内容について復習する。
	12	1980年代の文学と批評	講義内容について復習する。
	13	村上春樹の世界	講義内容について復習する。
	14	沖縄文学の現在	講義内容について復習する。
	15	ライトノベルの歴史と現在	講義内容について復習する。
	16	期末テスト	テスト内容の復習。
	テキスト・参考文献・資料など 毎回の講義で資料を配付する。 葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」、大岡昇平「野火」、石牟礼道子「五月」、嶋津与志「骨」などは必要に応じて参照すること。		
	学びの手立て テストでは講義で配布する資料およびノートの持ち込みを認める。		
	評価 授業内課題40%、中間テスト30%、期末テスト30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本近代文学史Ⅱで学んだ作品を実際に読破し、作家・作品への理解を深める。 関連科目は日本近代文学史Ⅰ、文化テキスト論Ⅰ・Ⅱ。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本芸能史	前期	水 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	我部 大和	2年	h.gabu★okiu.ac.jp (★を@に変えてください)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では、古代から現代に至る芸能の状況などを通史的に紐解いていく。特に、古代では舞楽、中世では狂言・能、近世では歌舞伎などを紹介しながらどのように芸能が形成されていったのか。様々な周辺の状況として「歴史」「民俗」などがどのように関わりを持っていたのかを知り、考える。	本講義では歴史史料や関連文献、研究論文などを通して、日本芸能が生まれた歴史的背景などを講義します。また、日本芸能について日本史を踏まえながら、多角的に考えながら知識・見識を深めて議論していきましょう。

到達目標
①日本の芸能について日本史の歴史的背景を踏まえながら体系的に理解できるようになる。
②日本の芸能について歴史史料・文献、研究論文を踏まえながら考察することが出来る。
③日本の芸能について歴史史料・文献、研究論文を踏まえながら、自らの言葉で表現できるようになる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイドダンス	「芸能」とは何か考えてみよう
	2	芸能／芸能史とは？	芸能史とは何か調べてみよう
	3	古代日本の芸能①（民俗と芸能）	古代芸能の形成について考えよう
	4	古代日本の芸能②（古代芸能の形成）	舞楽・雅楽について調べよう
	5	古代日本の芸能③（舞楽・雅楽の成立）	能について調べよう
	6	中世日本の芸能①（能の成立）	狂言について調べよう
	7	中世日本の芸能②（狂言の成立）	これまでの講義の整理をしよう
	8	中間試験	かぶきについて調べよう
	9	近世日本の芸能①（かぶきの成立）	落語と町人との関係を調べよう
	10	近世日本の芸能②（落語にみえる町人と芸能）	芝居絵・絵解きについて調べよう
	11	近世日本の芸能③（芝居絵・絵解き）	新派・新劇とは何か調べよう
	12	近代日本の芸能①（新派・新劇・都市の芸能）	戦時下の歴史的背景を考えよう
	13	近代日本の芸能②（大衆芸能・戦時下の芸能）	戦後の日本芸能を調べてみよう
	14	現代日本の芸能①（戦後の伝統芸能とマスメディア）	これまでの講義を整理しよう
15	現代日本の芸能② 総括—日本芸能のこれから—	期末レポートを完成させよう	
16			

テキスト・参考文献・資料など
テキスト：講義資料を配付します。 下記の参考書も参照して学んでください。
参考書：藝能史研究会編『日本芸能史』全7巻、法政大学出版局、1981～1990年を中心に、その他周辺史料も紹介する

学びの手立て
①「履修の心構え」
・出席回数が3分の2に満たない場合、単位は認めません。
・出席は、毎回講義開始前にRPを配付。配付されたRPなどを提出してもらった上で出席とします。
・RPの記入内容も評価の対象です。
②「学びを深めるために」
・本講義は理解度が重要です。講義中に疑問点や不明な点に関して、終了後に質問するか講義メモに書いてください。次回講義中あるいはRP内で回答します。積極的に日本の歴史・民俗・言語など多角的に学んでほしいです。・NHKのEテレで放送されている日本芸能に関する番組もみてみましょう。

評価
・授業参加や発表（40%）（講義メモの記入内容や質問事項など）主に到達目標①・②に対する評価
・中間試験（20%）主に到達目標③に対する評価
・期末レポート（40%）主に到達目標③に対する評価

学びの継続
次のステージ・関連科目
日本芸能史をふまえて琉球の芸能と歴史について知りたい場合は「琉球芸能史」

※ポリシーとの関連性 日本語に関する専門的な知識を深め、その歴史的背景について深く学びます。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本言語史Ⅰ	前期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	下地 賀代子	3年	5-401(研究室) kshimoji@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本授業では、日本語の音韻や語法、語彙、文字などの各分野の歴史的な変遷を概観していきます。Ⅰでは上代～近世までを扱います。各時代の日本語の特徴がどのように生じ、どのように発達したか、また、なぜ衰え滅んだかを考えることで、日本語という言語がどのような特徴を持つことばなのかを理解できるようになります。</p>	<p>本科目の内容は、日本語教育や国語科教育にも関連している科目です。将来、国語教師や日本語教員になりたい人はもちろん、普段使用している「日本語」について興味・関心をもつ方の受講を歓迎します。</p>
到達目標	<p>・日本語の以下の各分野について、上代から近世にかけての変遷を理解し、説明することができる。 —音韻、語法、語彙、文字</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、総論：時代区分、資料について	テキスト第1講のワーク
	2	上代の日本語①：時代背景、資料、文字	テキスト第2、3講のワーク
	3	上代の日本語②：音韻、音のルール	テキスト第4講のワーク
	4	中古の日本語①：時代背景、資料	テキスト第5、6講のワーク
	5	中古の日本語②：音韻変化、語彙	テキスト第7、8講のワーク
	6	中古の日本語③：活用	テキスト第9講のワーク
	7	中古の日本語④：助動詞	テキスト第10講のワーク
8	中古の日本語⑤：係り結び	テキスト第11講のワーク	
9	中世の日本語①：時代背景、資料	テキスト第12、13講のワーク	
10	中世の日本語②：語彙	テキスト第14講のワーク	
11	近世の日本語①：時代背景、資料	テキスト第15講のワーク	
12	近世の日本語②：音韻	テキスト第16講のワーク	
13	近世の日本語③：活用	テキスト第17講のワーク	
14	近世の日本語④：語彙	テキスト第18講のワーク	
15	発音の変化のおさらい	テキスト第25講のワーク、復習	
16	期末試験	授業内容の振り返り	
テキスト・参考文献・資料など	<p>【テキスト】 岡崎朋子・森勇太『ワークブック 日本語の歴史』くろしお出版（2016） ※必ず購入</p> <p>【参考文献、その他】 沖森卓也『はじめて読む日本語の歴史』ベレ出版（2010）、山口仲美著『日本語の歴史』岩波新書（2006）、山口明德他著『日本語の歴史』東京大学出版社（1997）沖森卓也他著『日本語史』おうふう（1989）など。</p>		
学びの手立て	<p>●履修の心構え：出席日数が講義全体（15回）の3分の2に満たない場合、原則として単位を認めません。</p> <p>●履修上の注意事項：小テストの実施、リフレクションシートの提出に「GooleClassroom」を用います。初回授業にて登録方法および参加の仕方を説明します。</p> <p>●学びを深めるために：講義はテキストの内容に沿って展開します。ワークブック形式になっていますので、授業後すぐに復習（穴埋め）しましょう。事前に参考文献にも目を通しておくと講義への理解が深まります。</p>		
評価	<p>期末テスト50%、小テスト30%、平常点（リフレクションシート等）20%</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>日本語の変遷や日本語の特徴についてより深く学びたい人へ。 関連科目：日本言語史Ⅱ、日本語文法論ⅠⅡ</p> <p>※本科目は「日本言語史Ⅱ」受講の前提科目です。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性 日本語に関する専門的な知識を深め、その歴史的背景について深く学びます。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本言語史Ⅱ	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	下地 賀代子	3年	5-401(研究室) kshimoji@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本授業は、教員による概説と受講生による発表（検証報告）からなります。まず、日本語の音韻や語法、語彙、文字などの各分野の歴史的な変遷を概観していきます。Ⅱでは近世および近代を扱います（Ⅰの続き）。授業の後半は、各自テーマを選定し、実際の言語資料を用いた検証結果の報告を行います。自身の目でその変遷を確認することで、日本語についてより深く理解できるようになります。</p>	<p>本科目の内容は、日本語教育や国語科教育にも関連している科目です。将来、国語教師や日本語教員になりたい人はもちろん、普段使用している「日本語」について興味・関心をもつ方の受講を歓迎します。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近世、近代の日本語の特徴を理解する。</li> <li>・検証を行うテーマをよく理解し、適切な方法（言語資料の選択、データの抽出、分析・考察）で検証、発表することができる。</li> <li>・他の人の発表内容について批評することができる。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、発表について（テーマ、順番決め）	シラバスを読み授業に備える
2	近代の日本語①：時代背景、資料、文体	テキスト第20, 21講のワーク	
3	近代の日本語②：漢語、外来語	テキスト第22講のワーク	
4	現代の日本語①：時代背景、変化	テキスト第23講のワーク	
5	現代の日本語②：標準語	テキスト第24講のワーク、発表準備	
6	発表と質疑：上代① 音韻、文字	批評作成、テーマの理解を深める	
7	発表と質疑：中古① 音韻、語彙	批評作成、テーマの理解を深める	
8	発表と質疑：中古② 文法（活用の変化）	批評作成、テーマの理解を深める	
9	発表と質疑：中古③ 文法（助詞、その他）	批評作成、テーマの理解を深める	
10	発表と質疑：中世① 音韻	批評作成、テーマの理解を深める	
11	発表と質疑：中世② 語彙	批評作成、テーマの理解を深める	
12	発表と質疑：中世③ 文法	批評作成、テーマの理解を深める	
13	発表と質疑：近世① 語彙、語法	批評作成、テーマの理解を深める	
14	発表と質疑：近世② 文法	批評作成、テーマの理解を深める	
15	発表と質疑：近現代の日本語	批評作成、テーマの理解を深める	
16	レポート最終提出日（発表予備日）	授業内容の振り返り	
テキスト・参考文献・資料など	<p>【テキスト】 岡崎朋子・森勇太『ワークブック 日本語の歴史』くろしお出版（2016） ※必ず購入</p> <p>【参考文献、その他】 沖森卓也『はじめて読む日本語の歴史』ベレ出版（2010）、山口仲美著『日本語の歴史』岩波新書（2006）、山口明徳他著『日本語の歴史』東京大学出版社（1997）沖森卓也他著『日本語史』おうふう（1989）など。</p>		
学びの手立て	<p>【履修上の注意】前期に開設される「日本語史Ⅰ」を受講してから本科目を受講してください。「Ⅰ」を受講せずに本科目を受講する場合は、指定のテキストをあらかじめ熟読しワークに取り組んでから参加して下さい。 ★この科目では「GooleClassroom」も使用します（初回にクラス登録を行います）。具体的な授業の進め方については初回のガイダンスで説明します。</p> <p>【履修の心構え】前半の講義はテキストの内容に沿って展開します。／出席日数が講義全体（15回）の3分の2に満たない場合、原則として単位を認めません。／予告なしに小テストを行うことがあります（複数回）。</p>		
評価	発表（検証結果報告）40%、発表批評レポート 30%、小テスト20%、平常点 10%		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	身につけた日本語史の知識を日本語教育や国語教育へ取り入れ、教育現場や一般社会などで生かせるよう、さらなる理解・知識の深まりを目指してください。

※ポリシーとの関連性

本科目は、専門分野における諸課題について深く学ぶための応用科目に当たる（カリキュラム・ポリシー3）。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本古典文学史	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	葛綿 正一	2年	kuzuwata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 古代・中世・近世文学の流れを辿り、それぞれの歴史性について理解する。	メッセージ 何か一つ好きな作品を見つけてほしい。そうすると、そこから広げて様々な作品をつなげていくことができるはずである。
	到達目標 古代・中世・近世文学の流れを理解し、レポートを書く。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	古代・中世・近世文学の概観	テキストの予習2~4頁
	2	万葉集の世界・初期万葉	5~10頁
	3	万葉集の世界・人麻呂と赤人	11~13頁
	4	万葉集の世界・旅人と家持	15~22頁・レポートの作成
	5	古事記、日本書紀、風土記	34~42頁
	6	古今集の世界	44~52頁
	7	平安時代の物語	88~96頁
	8	平安時代の日記	112~118頁
	9	新古今集の世界	125~139頁・レポートの作成
	10	軍記物語	167~175頁
	11	御伽草子	182~188頁
	12	近世の俳諧	224~241頁
	13	近世前期の小説	224~241頁
	14	近世後期的小説	テキストによる学習
	15	小テスト	テキストによる学習
	16	まとめ	テキストの復習
	テキスト・参考文献・資料など 『日本古典読本』筑摩書房		
	学びの手立て 新日本古典文学大系（岩波書店）、新編日本古典文学全集（小学館）、日本古典集成（新潮社）などを活用してください。		
	評価 レポートと小テストで評価する。レポート2回X30%、小テスト40%の配分割合とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「日本文学概論」では日本文学の様々な特質について考えるとともに、様々な研究方法を紹介する。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語音声学	後期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	2年	研究室番号：5402 E-mail：nishioka@oki.ac.jp	

学びの準備	ねらい ふだん無意識にふれている言語には伝え合うための仕組みが備わっている。その音声の仕組みを学問として理解する。	メッセージ 日本語が通ずるといことは、日本語の音の体系が各人に共有されているということである。一方で、日本語や琉球語の諸方言には、標準日本語の「50音図」にはおさまりに切れない音声が多数ある。また、それら諸方言のアクセント（音の高低）も、標準日本語とは異なる体系を持っていることが多い。本講義で、人類共通の音声器官の仕組みを知り、その精緻なメカニズムに関心を深めてほしい。
	到達目標 音声器官の仕組みを知り、様々な音声が正確に聞き取れ、発音できるようになる。日本語音声の歴史と多様性にふれる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・音声学 (Phonetics) とは？	基本用語の復習
	2	子音と母音	基本用語の復習
	3	音節 (Syllable) と拍 (Mora)	基本用語の復習
	4	「50音図」と音声記号 (IPA)	基本用語の復習
	5	基本母音 (第一次基本母音・第二次基本母音)	基本用語の復習
	6	借用語と母音挿入	基本用語の復習
	7	琉球諸方言の母音変化	基本用語の復習
	8	子音：閉鎖音 (破裂音)	基本用語の復習
	9	子音：有声音と無声音、有気音と無気音	基本用語の復習
	10	子音：摩擦音、破裂音、流音ほか	基本用語の復習
	11	琉球語諸方言の子音変化	基本用語の復習
	12	東京方言・京都方言のアクセント	基本用語の復習
	13	鹿児島方言のアクセント・首里方言のアクセント	基本用語の復習
	14	上代特殊仮名遣い	基本用語の復習
15	平安時代の音声と諸方言	基本用語の復習	
16	期末試験	期末試験の復習	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：特になし。適宜、プリントを配布する。 参考書・資料など：服部四郎『音声学』（岩波書店・1984年）、城生佰太郎『音声学 新装増訂版』（アポロン工業・1988年）、斉藤純男『日本語音声学入門』（三省堂・1997年）、松森晶子・木部暢子・中井幸比古・新田哲夫『日本語アクセント入門』（三省堂・2012年）、上野善道他『新明解国語辞典第七版』（三省堂・2017年）。		
	学びの手立て 出席日数が3分の2に満たない者は原則として単位を与えない。 講義では日本語音声を中心に、さまざまな言語の音声にも関心を持ってほしい。		
	評価 期末試験 (70%) および平常点 (30%) によって評価する。平常点では、授業における姿勢 (積極性など) についても評価する。期末試験では、音声の聞き取り試験も含むことがある。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本語音声学特講 (3年次)
-------	-------------------------------



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語音声学特講	前期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-仲間 恵子	3年	以下のメールで受け付けます。受講講義名、名前の記入を忘れずに。ptt490@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 「言語音声」の伝達と性質について理解できる。日本語の仮名文字と音声の関係についてわかる。日本語の仮名文字の正書法と、日本語の規範的な発音の体系を相対的にとらえることができる。	メッセージ テキストを事前に読み、専門的な用語を確認しておく。自身でもしっかり発音して口の動きを確認してください。
	到達目標 人間の音声のもつ機能について説明できる。日本語の仮名文字と音声の別が別の基準であることが説明できる。	

到達目標	人間の音声のもつ機能について説明できる。日本語の仮名文字と音声の別が別の基準であることが説明できる。
------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義内容のガイダンス	配布された資料の事前読み
	2	言語音声のラング的側面と非ラング的側面について	テキストの事前読み
	3	言語音声の非ラング的側面1	テキストの事前読み
	4	言語音声の非ラング的側面2	テキストの事前読み
	5	あらためて言語音声とは	日本語の語例を考える
	6	言語音声のラング的側面1 (単語・文・イントネーション)	日本語の語例を考える
	7	言語音声のラング的側面2 (単語・音節・音素)	日本語の語例を考える
	8	テスト (第1回)	
	9	五十音図の成立と音声	テキストの事前読み
	10	清音と濁音	テキストの事前読み
	11	直音と拗音・合拗音	テキストの事前読み
	12	つまる音(促音)とはねる音(撥音)	日本語の語例を考える
	13	母音について	日本語の語例を考える
	14	音節・アクセント構造の変化	日本語の語例を考える
15	かな正書法 (まとめ)	日本語の語例を考える	
16	テスト (第2回)		
	テキスト・参考文献・資料など テキストは教員で用意する。 「言語音声は何を伝えるか」上村幸雄1964 「五十音図の音声学」上村幸雄		
	学びの手立て 日本語音声学関連の書籍は多く出版されているので、参照してもらうのがいい。また、音響音声学、聴覚心理学の分野も興味をひろげるだろう。		
	評価 出席を兼ねた各回の課題または宿題30%テスト2回(各35%)評価の70%とする。15回の講義のうち、6回以上の欠席は不可とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 英語など他の言語の音声学関連の講義。
-------	-----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語学概論	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	下地 賀代子	2年	5-401(研究室) kshimoji@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業では日本語学における基礎的知識および考え方の習得をめざします。ふだん何気なく無意識に使用している日本語が、いったいどのような特徴を持った言語なのかを意識的に考えてみましょう。この「概論」では、音声学の基礎および現代日本語の音声の特徴、また日本語の音声と文字の歴史の変遷、表記の問題について学んでいきます。	メッセージ 言語に関する専門的な知識を得ることによって、「コトバを客観的に捉える視点」を養ってもらいたいと思います。
	到達目標 ・「日本語」に関する以下の項目について適切に説明することができる。 ①日本語の音声の特徴 ②日本語の文字と発音の歴史の変遷 ③日本語の表記法（漢字、仮名）	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	ガイダンス	シラバスを読み授業に備える
	2	日本語の音声の特徴①：音声のしくみ、日本語の母音	授業の復習、次回内容の確認(資料)
	3	日本語の音声の特徴②：日本語の子音 1	同上
	4	日本語の音声の特徴③：日本語の子音 2	同上
	5	日本語の音声の特徴④：音韻論	同上
	6	文字とは、日本語の文字	同上
	7	かな文字と発音の変化(1)：上代	同上
	8	かな文字と発音の変化(2)：中古	同上
9	かな文字と発音の変化(3)：中世～近世	同上	
10	漢字の歴史と分類、試験の解答解説	同上	
11	漢字の構成、音読みと訓読み(1)	同上	
12	音読みと訓読み(2)	同上	
13	漢字をめぐる議論：近代の国語・国字論	同上	
14	当用漢字と常用漢字	同上	
15	仮名遣いと漢字の送り仮名	テスト範囲の復習	
16	期末試験	試験の振り返り	
	テキスト・参考文献・資料など ・テキストは使用しません。講義内において資料を配布します。 ・参考文献（時間外の自主学習に役立ててください） 仁田義雄 他『改訂版 日本語要説』ひつじ書房、山口明穂他1997『日本語の歴史』東京大学出版会、今野真二2012『百年前の日本語』岩波新書、『新しい国語表記ハンドブック(第5版)』三省堂、など。		
	学びの手立て 【履修の心構え】 ・出席日数が講義全体（15回）の3分の2に満たない場合、原則として単位を認めません。 ・この授業ではTeamsも使用します。ガイダンスで説明します。 ・毎回リフレクションシートの提出を求めます。 ・予告なしに小テストを行うことがあります（5～6回）。		
	評価 期末試験50%、小テスト30%、平常点（リフレクションシート）20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本語に関する専門的な知識を身につけ、国語教員・日本語教師に必要な知識、技能を高める。また卒業後、ビジネスや日常生活において武器となる知識、教養を高める。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語学入門	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	下地 賀代子	1年	5-401(研究室) kshimoji@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業では日本語学における基礎的知識および考え方の習得をめざします。本科目は、本文化学科・日本文化コースの導入科目となります。ふだん何気なく無意識に使っている日本語ですが、その特徴について意識的に考えてみましょう。 言語学の基礎的事項を理解した後、日本語の語種や語構成、意味、また社会言語学に関することがらについて学びます。	メッセージ 言語に関する専門的な知識を得ることによって、「コトバを客観的に捉える視点」を養ってもらいたいと思います。
	到達目標 ・「言語」「日本語」に関する以下の項目について適切に説明することができる。 ①言語の単位一文・語・形態素 ②日本語の語構成、語種 ③語の意味 ④日本語の位相、ウチナーヤマトゥグチ	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、授業の進め方について	シラバスを読み授業に備える
	2	「言語」とは？「日本語」とは？	授業の復習、次回内容の確認(資料)
	3	文・語・形態素について(1)	同上
	4	文・語・形態素について(2)	同上
	5	語彙とは、語の構成(1)	同上
	6	語彙とは、語の構成(2)	同上
	7	語種と語感(1)：語種の出自とその特徴、和語と漢語	同上
	8	語種と語感(2)：外来語・混種語	同上
9	語の意味(1)：「意味」とは	同上	
10	語の意味(2)：意味の拡張	同上	
11	語の意味(3)：意味の分析	同上	
12	語の位相(1)：集団語・役割語、世代差とことば	同上	
13	語の位相(2)：性差、場面差、地域差とことば	同上	
14	語の位相(3)：琉球の伝統方言とウチナーヤマトゥグチ①	同上	
15	語の位相(4)：琉球の伝統方言とウチナーヤマトゥグチ②	テスト範囲の復習	
16	期末試験	試験の振り返り	
実践	テキスト・参考文献・資料など ・テキストは使用しません。講義内において資料を配布します。 ・参考文献(時間外の自主学習に役立ててください) 仁田義雄 他『改訂版 日本語要説』ひつじ書房、町田健編／中井精一著『社会言語学のしくみ』研究社、宮地裕他編著『講座日本語と日本語教育第6巻 日本語の語彙・意味(上)』明治書院、野原三義2005『うちなあぐちへの招待』沖縄タイムス社など。		
	学びの手立て 【履修上の注意事項】 ★この科目では「Teams」も用います。具体的な使い方については初回のガイダンスで説明します。  【履修の心構え】 ・出席日数が講義全体(15回)の3分の2に満たない場合、原則として単位を認めません。 ・毎回リフレクションシートの提出を課します。 ・予告なしに小テストを行うことがあります(複数回)。		
	評価 期末試験40%、リフレクションシート25%、小テスト25%、平常点10%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本語に関する専門的な知識を身につけ、国語教員・日本語教師に必要な知識、技能を高める。また卒業後、ビジネスや日常生活において武器となる知識、教養を高める。 関連科目：「日本語学概論」
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語表現法演習 I	前期	木 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-佐渡山 美智子	1年	ptt569@gmail.com	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	音声表現（話し言葉）を中心に、日本語の発声・発音・滑舌トレーニングの基本をはじめ、「知る」「感じ取る」「言葉を選ぶ」「表現する」ことを学び実践します。グループワークを通して、お互いを認め合い、チームとして取り組むプログラムの中からコミュニケーションの意味を考え、「繋がる」ことから「伝達」「表現」の理解を深めるプログラムです。	言葉を丁寧に届けるためには、聞きやすいように整えることから始めましょう。想いに届く言葉を選ぶことも実践していきます。発声トレーニングの「外郎売り」は、グループで合格をめざす中で個々のスキルを高めながら、コミュニケーションによって力を合わせることの意味を知り、言葉への意識を高めていきます。後期のプロジェクト演習「鬼慶良間」を受講するためには必須科目です。
到達目標	●姿勢を整え、腹式で声を響かせることができること。●「外郎売り」の暗唱ができ、はっきりと発音することができる。●グループで協力しながら、目標を達成することができる。●話をよく聞き、質問することができる。●内容が伝わるように読むことができる。●朗読で自分なりに内容を表現することができる。●目的を明確にして主体的に活動することができる。●報告・連絡・相談ができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	○ガイダンス	個人プロフィールの作成
	2	○発声・発音練習＜姿勢・発声・発音など＞○人物スケッチ＜傾聴・情報選択・表現＞	人物スケッチで他己紹介の準備
	3	○「外郎売り」の音読 ○人物スケッチ（他己紹介）	班員紹介の準備・ミーティング
	4	○班員紹介プレゼンテーション	「風のはなし」を読んでくる
	5	○音読・朗読トレーニング「風のはなし」＜沖縄の風・自然・文化を感じながら音声表現＞	美術鑑賞・感想文
	6	○美術館の感想 ＜言葉の選択・表現・情報の共有・多様性の受容・多角的な視点から＞	感想・詩を選んでくる
	7	○詩の朗読＜読み方のポイント・伝えたい言葉の表現方法＞ ○創作詩について	詩の読み方を練習する
	8	○詩の朗読＜発表＞ ○編集委員決定	感想・振り返り実践
	9	○創作詩＜グループリレー朗読＞一提出	編集委員会を中心に詩集製作
	10	○創作民話劇「鬼慶良間」について ＜演劇に取り組む目的・役割とその内容について＞	鬼慶良間の感想と役割希望票作成
	11	○群読の実践＜言葉に想いをあわせて＞ ○創作詩集配布	創作詩集を読んで感想ランキング
	12	○外郎売＜暗唱・音読テスト＞	外郎売りのテストの準備
	13	○創作詩集から共感ランキングの発表 ○外郎売＜暗唱・音読テスト＞	鬼慶良間の役割希望の選択
	14	○「鬼慶良間」キャストオーディション	ノート・レポートのまとめ
15	○「鬼慶良間」キャスト発表・総括 プロジェクト演習へのスケジュールなど	上演までのスケジュール等作成	
16	○総括テスト		

実践	テキスト・参考文献・資料など ○必要な資料はプリントで配布致します。 ○テキスト 風のはなし「節気慈風」を語る 名嘉睦稔 著 うすく村出版(税込 ¥1430)
----	---

学びの手立て	履修の心構えとして ●出欠確認を厳格に行います。連絡なしの欠席・遅刻は大きな減点になります。やむを得ない状況の場合は、必ず連絡すること。欠席届は必ず翌週までに提出してください。●提出物や宿題は、必ず期日を守り提出、準備を行ってください。●この講義を受講する目的を明確にして臨むことが効果的な活動へと繋がります。●「外郎売り」の暗唱テストは、10名のグループごとのテストです。メンバーの意思疎通ができています。お互いが助け合える環境を整えることが大切です。●講義の内容などをノートに記録してください。提出をもとめることがあります。
--------	--

評価	●受講態度（活動状況・外郎売暗唱テスト・活動実績など）50% ●課題の完成度（提出物・レポートなど）50%
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 後期のプロジェクト演習、創作民話劇「鬼慶良間」と連動しています。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語表現法演習Ⅱ	前期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-佐渡山 美智子	1年	ptt569@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	日本語表現法演習Ⅱでは、1年から学んできた「表現」を継続する位置づけで、まず、発声・発音の基本から「読む力」から取り組みます。聞き取りやすく、内容の伝わる読み方の要点をおさえ実践します。後半では、論理的な思考と表現方法、話の本質を理解し自らの意見や意思を伝えることを目的にディスカッション・ディベートを行い、プレゼンテーションで情報を共有していきます。	1年で取り組んだ「外郎売り」「鬼慶良間」は、個々の努力とお互いの協力で豊かな学びの機会をなりました。そのことをベースとして、声にだして読むための方法を学んでいきます。そして、グループワークでは、多角的な物事のとらえ方、多様な価値観、情報の収集・整理・選択・表現を目的にディスカッションとディベートを行います。
到達目標	達成目標 ●姿勢を整え、聞き取りやすい声の響きで発音することができる。●滑舌よく、はっきりとした言葉で発音することができる。●内容がよく伝わる読み方ができる。●朗読で聞く人の心に響かせることができる。●現状を把握するための情報を収集できる。●情報の内容の裏付け、信憑性をはかることができる。●目的を明確に要点を押さえることができる。●言葉の足し算・引き算で調整することができる。●相手に身になって考えることができる。●相手にあわせて、効果的に表現することができる。	

学びの実践	学びのヒント			
	授業計画	時間外学習の内容		
	回	テーマ		
	1	ガイダンス	受講の目的などプロフィール作成	
	2	発声・発音トレーニング<姿勢・声の響き・滑舌など> ○外郎売をより明瞭な発音で実践	発声・発音練習。原稿の音読練習。	
	3	作品を読む<明瞭な発音・抑揚・アクセント・間の取り方など>	作品の解釈と読み込み。	
	4	作品を読む<声の使い方や表情・聞き手にあわせた読み方など>	2分で読む作品の朗読。発表準備。	
	5	朗読<披露・感想・意見交換>	朗読についてのレポート	
	6	ディベートとは<ソフトディベートについて。その目的と内容>	ディベートテーマの提案・準備	
	7	ディベートテーマの提案・プレゼンテーションとテーマの決定	情報の収集・整理	
	8	ディベートマップの作成<多角的視点・論理構成・ストーリー>	ファイルの整理・発言リハーサル	
	9	ディベートマッチ<実践>=物事の本質を観る論理的な話し方	ディスカッションテーマの提案	
	10	ディスカッションテーマの提案<グループテーマの選択>	テーマについての情報収集	
	11	ディスカッションを効果的に進めるために<目的と論点>	コメントの作成と考え方の整理	
	12	ディスカッション<実践>	内容の整理・報告の準備	
	13	報告プレゼンテーションのポイントについて	グループで報告内容の準備	
	14	報告プレゼンテーション<実践>	振り返りレポート	
15	総括<朗読・ディベート・ディスカッション・プレゼンテーション>	ノートの提出		
16	まとめのレポート (それぞれのPDCAマネジメントサイクルへ)			

実践	テキスト・参考文献・資料など ○必要な資料は、プリントで配布致します。
----	--

学びの手立て	履修の心構えとして ●出欠確認を厳格に行います。連絡なしの欠席・遅刻は大きな減点となります。やむを得ない状況の場合は必ず連絡をすること。欠席届は、翌週までに提出を基本とします。●この講義を受講する目的を明確にして臨むことが有意義な活動へと繋がります。●講義内容の要点を記録し、ノートを作成してください。傾聴が基本です。●グループワークを中心に活動します。報告・連絡・相談を行い、メンバーに迷惑のかからないように心がけてください。
--------	--

評価	●受講態度（活動内容・活動実績）50% ●課題の完成度（宿題・課題などの事前準備、レポートなど）50%
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 聞き取りやすく、聞き手にわかりやすく効果的に話す力は、今後、あらゆる場面で活かされるコミュニケーションのスキルです。よりよい表現の方法を求めて、勇気をもって実践することが必要です。
-------	---

※ポリシーとの関連性 日本文化学科の修得目標の一つである「日本文化の理解」に資するために、その導入科目として設定します。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語文法基礎Ⅰ	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-平良 忍	1年	授業後の教室やメールptt1170@okiu.ac.jpで受け付けます。	

学びの準備	ねらい 日本古典文学や漢文を正しく読み、より深く理解するために、高等学校で学んだ古典文法や漢文の訓読法・句形などを学び直します。	メッセージ 古典文法や漢文の訓読法・句形を学ぶことは、国語科教員を目指す学生にとってはその準備として、それ以外の学生にとっては教養の一つとして必要だと考えます。 授業は概ね、教員による解説→テキストとプリントの熟読→問題演習→学生による解答・解説→質疑応答という形をとります。
	到達目標 (1) 日本の古典文法や漢文の訓読法・句形に関する基本的知識を身につける。 (2) 上記で身につけたことを、日本の古典文学や漢文の読解と深い理解に生かす。 (3) 将来国語科教員を目指す学生はその基礎的な力を、それ以外の学生は教養を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス 古典文法入門 高等学校までの既習事項の確認	テキストを準備・確認する。
	2	古文 動詞(1) 四段・上二段・下二段活用	テキストの当該ページを読む。
	3	古文 動詞(2) 上一段・下一段活用	同上。
	4	古文 動詞(3) カ・サ・ナ・ラ変格活用	同上。
	5	古文 形容詞 形容動詞 形容詞・形容動詞の語幹の用法 音便	同上。
	6	古文 名詞 連体詞 副詞 接続詞 感動詞	同上。
	7	古文 敬語表現法 和歌の修辞法	同上。
	8	古文 中間考査(第2回～第7回までの範囲)	プリントの整理と既習事項の確認。
	9	古文 中間考査の振り返り 助動詞(1) 付属語 助動詞の分類 時の助動詞①	テキストの当該ページを読む。
	10	古文 助動詞(2) 時の助動詞②	同上。
	11	古文 助動詞(3) 推量の助動詞①	同上。
	12	古文 助動詞(4) 推量の助動詞②	同上。
	13	漢文 漢文を学ぶ意義 熟語の構造 漢文の基本構造 訓読の実際Ⅰ・Ⅱ	同上。
	14	漢文 書き下し文の作り方 置き字 再読文字 返読文字	同上。
15	古文・漢文 期末考査(第9回～第14回までの範囲) プリント提出	プリントの整理と既習事項の確認。	
16	期末考査の振り返り 前期のまとめ 「授業アンケート」への回答	前期のまとめの準備をする。	
	テキスト・参考文献・資料など (1) テキスト ①『〔三訂版〕楽しく学べる 基礎からの古典文法』第一学習社(税込583円) ②『シンプルスタイルシリーズ 古文単語301』尚文出版(税込704円) *古語の語彙力をつけるため、授業の最初に「古文単語テスト」を行う。 ③『必携 新明説漢文ノート(修訂版)』尚文出版(税込503円) (2) 推薦図書 ①古語辞典 ②漢和辞典 ③国語辞典		
	学びの手立て (1) テキスト、授業で配布される資料を熟読し、演習問題に取り組むこと。 (2) 授業で配布・返却されるプリントや資料は、適切にファイリングすること。 (3) 提出物は、指定された期日に確実に提出すること。 (4) この授業は積み重ねが大切なので、欠席せず、しっかりと取り組むこと。事情があって欠席する場合は、本学の規定に従うこと。 (5) 上記の「授業計画」は、変更になる場合があります。		
	評価 原則として、中間考査+期末考査の平均点(60%) + 提出点(30%) + 授業態度点(10%)を目安として、総合的に評価します。 *届出のない欠席が3分の1を超える者は、試験を受けることができないので注意して下さい。 *やむを得ない事情で考査が実施できない場合は、評価の仕方が変わることがあります。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 「日本語文法基礎Ⅱ」(後期)
-------	-----------------------------------

※ポリシーとの関連性 日本文化学科の修得目標の一つである「日本文化の理解」に資するために、その導入科目として設定します。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語文法基礎Ⅰ	前期	金2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-平良 忍	1年	授業後の教室、メールptt1170@okiu.ac.jpで受け付けます。	

学びの準備	ねらい 日本古典文学や漢文を正しく読み、より深く理解するために、高等学校で学んだ古典文法や漢文の訓読法・句形などを学び直します。	メッセージ 古典文法や漢文の訓読法・句形を学ぶことは、国語科教員を目指す学生にとってはその準備として、それ以外の学生にとっては教養の一つとして必要だと考えます。 授業は概ね、教員による解説→テキストと配布プリントの熟読→問題演習→学生による解答・解説→質疑応答という形をとります。
	到達目標 (1) 日本の古典文法や漢文の訓読法・句形に関する基本的知識を身につける。 (2) 上記で身につけたことを、古典文学や漢文の読解と深い理解に生かす。 (3) 将来国語科教員を目指す学生はその基礎的な力を、それ以外の学生は教養を身につける。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス 古典文法入門 高等学校までの既習事項の確認	テキストを準備・確認する。
	2	古文 動詞(1) 四段・上二段・下二段活用	テキストの当該ページを読む。
	3	古文 動詞(2) 上一段・下一段活用	同上。
	4	古文 動詞(3) カ・サ・ナ・ラ変格活用	同上。
	5	古文 形容詞 形容動詞 形容詞・形容動詞の語幹の用法 音便	同上。
	6	古文 名詞 連体詞 副詞 接続詞 感動詞	同上。
	7	古文 敬語表現法 和歌の修辞法	同上。
	8	古文 中間考査(第2回～第7回までの範囲)	プリントの整理と既習事項の確認。
	9	古文 中間考査の振り返り 助動詞(1) 付属語 助動詞の分類 時の助動詞①	テキストの当該ページを読む。
	10	古文 助動詞(2) 時の助動詞②	同上。
	11	古文 助動詞(3) 推量の助動詞①	同上。
	12	古文 助動詞(4) 推量の助動詞②	同上。
	13	漢文 漢文を学ぶ意義 熟語の構造 漢文の基本構造 訓読の実際Ⅰ・Ⅱ	同上。
14	漢文 書き下し文の作り方 置き字 再読文字 返読文字	同上。	
15	古文・漢文 期末考査(第9回～第14回までの範囲) プリント提出	プリントの整理と既習事項の確認。	
16	期末考査の振り返り 前期のまとめ 「授業アンケート」への回答	前期のまとめの準備をする。	
	テキスト・参考文献・資料など		
	(1) テキスト ①『〔三訂版〕楽しく学べる 基礎からの古典文法』第一学習社(税込583円) ②『シンプルスタイルシリーズ 古文単語301』尚文出版(税込704円) *古語の語彙力をつけるために、授業の最初に「古文単語テスト」を行う。 ③『必携 新明説漢文ノート(修訂版)』尚文出版(税込503円)		
	(2) 推薦図書 ①古語辞典 ②漢和辞典 ③国語辞典		
	学びの手立て		
	(1) テキスト、授業で配布される資料を熟読し、演習問題に取り組むこと。 (2) 授業で配布・返却されるプリントや資料は、適切にファイリングすること。 (3) 提出物は、指定された期日に確実に提出すること。 (4) この授業は積み重ねが大切なので、欠席せず、しっかりと取り組むこと。事情があって欠席する場合は、本学の規定に従うこと。 (5) 上記の「授業計画」は、変更になる場合があります。		
	評価		
	原則として、中間考査+期末考査の平均点(60%) + 提出点(30%) + 授業態度点(10%)を目安として、総合的に評価します。 *届出のない欠席が3分の1を超える者は、試験を受けることができないので注意して下さい。 *やむを得ぬ事情で考査が実施できない場合は、評価の仕方が変わることがあります。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 「日本語文法基礎Ⅱ」(後期)
-------	-----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語文法基礎Ⅱ	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-平良 忍	1年	授業後の教室、メールptt1170@okiu.ac.jpで受け付けます。	

学びの準備	ねらい 日本古典文学や漢文を正しく読み、より深く理解するために、高等学校で学んだ古典文法や漢文の訓読法・句形などを学び直します。	メッセージ 古典文法や漢文の訓読法・句形を学ぶことは、国語科教員を目指す学生にとってはその準備として、それ以外の学生にとっては教養の一つとして必要だと考えます。 授業は概ね、教員による解説→テキストとプリントの熟読→問題演習→学生による解答・解説→質疑応答という形をとります。
	到達目標 (1) 日本の古典文法や漢文の訓読法・句形に関する基本的知識を身につける。 (2) 上記で身につけたことを、古典文学や漢文の読解と深い理解に生かす。 (3) 将来国語科教員を目指す学生はその基礎的な力を、それ以外の学生は教養を身につける。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス 前期の復習 古文 助動詞 (5) 打消の助動詞 打消推量の助動詞	テキストの当該ページを読む。
	2	古文 助動詞 (6) 断定の助動詞 自発・可能・受身・尊敬の助動詞	同上。
	3	古文 助動詞 (7) 使役・尊敬の助動詞 願望の助動詞 比況の助動詞	同上。
	4	古文 助詞 (1) 助詞とは 格助詞	同上。
	5	古文 助詞 (2) 接続助詞	同上。
	6	古文 助詞 (3) 副助詞 係助詞	同上。
	7	古文 助詞 (4) 終助詞 間投助詞	同上。
	8	古文 中間考査 (第1回～第7回までの範囲)	プリントの整理と既習事項の確認。
	9	古文・漢文 中間考査の振り返り 句形とは 詠嘆形 願望形	テキストの当該ページを読む。
	10	漢文 否定形Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	同上。
	11	漢文 疑問形 反語形Ⅰ・Ⅱ	同上。
	12	漢文 受身形 使役形	同上。
	13	漢文 仮定形 限定形・累加形	同上。
14	漢文 比較形・比況形 選択形 抑揚形	同上。	
15	古文・漢文 期末考査 (第9回～第14回までの範囲) プリント提出	プリントの整理と既習事項の確認。	
16	期末考査の振り返り 後期のまとめ 「授業アンケート」への回答	後期のまとめの準備をする。	
	テキスト・参考文献・資料など		
	(1) テキスト ①『〔三訂版〕楽しく学べる 基礎からの古典文法』第一学習社 (税込583円) ②『シンプルスタイルシリーズ 古文単語301』尚文出版 (税込704円) *古語の語彙力をつけるために、授業の最初に「古文単語テスト」を行う。 ③『必携 新明説漢文ノート(修訂版)』尚文出版 (税込503円)		
	(2) 推薦図書 ①古語辞典 ②漢和辞典 ③国語辞典		
	学びの手立て		
	(1) テキスト、授業で配布される資料を熟読し、演習問題に取り組むこと。 (2) 授業で配布・返却されるプリントや資料は、適切にファイリングすること。 (3) 提出物は、指定された期日に確実に提出すること。 (4) この授業は積み重ねが大切なので、欠席せず、しっかりと取り組むこと。事情があって欠席する場合は、本学の規定に従うこと。 (5) 上記の「授業計画」は、変更になる場合があります。		
	評価		
	原則として、中間考査+期末考査の平均点 (60%) +提出点 (30%) +授業態度点 (10%) を目安として、総合的に評価します。 *届出のない欠席が3分の1を超える者は、試験を受けることができないので注意して下さい。 *やむを得ない事情で考査が実施できない場合は、評価の仕方が変わることがあります。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 「日本語文法基礎Ⅰ」 (前期)
-------	------------------------------------



※ポリシーとの関連性 日本文化学科の修得目標の一つである「日本文化の理解」に資するために、その導入科目として設定します。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語文法基礎Ⅱ	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-平良 忍	1年	授業後の教室、メールptt1170@okiu.ac.jpで受け付けます。	

学びの準備	ねらい 日本古典文学や漢文を正しく読み、より深く理解するために、高等学校で学んだ古典文法や漢文の訓読法・句形などを学び直します。	メッセージ 古典文法や漢文の訓読の訓読法・句形を学ぶことは、国語科教員を目指す学生にとってはその準備として、それ以外の学生にとっては教養の一つとして必要だと考えます。 授業は概ね、教員による解説→テキストとプリントの熟読→問題演習→学生による解答・解説→質疑応答という形をとります。
	到達目標 (1) 日本の古典文法や漢文の句形に関する基本的知識を身につける。 (2) 上記で身につけたことを、古典文学や漢文の読解と深い理解に生かす。 (3) 将来国語科教員を目指す学生はその基礎的な力を、それ以外の学生は教養を身につける。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス 前期の復習 古文 助動詞 (5) 打消の助動詞 打消推量の助動詞	テキストの当該ページを読む。
	2	古文 助動詞 (6) 断定の助動詞 自発・可能・受身・尊敬の助動詞	同上。
	3	古文 助動詞 (7) 使役・尊敬の助動詞 願望の助動詞 比況の助動詞	同上。
	4	古文 助詞 (1) 助詞とは 格助詞	同上。
	5	古文 助詞 (2) 接続助詞	同上。
	6	古文 助詞 (3) 副助詞 係助詞	同上。
	7	古文 助詞 (4) 終助詞 間投助詞	同上。
	8	古文 中間考査 (第1回～第7回までの範囲)	プリントの整理と既習事項の確認。
	9	古文・漢文 中間考査の振り返り 句形とは 詠嘆形 願望形	テキストの当該ページを読む。
	10	漢文 否定形Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	同上。
	11	漢文 疑問形 反語形Ⅰ・Ⅱ	同上。
	12	漢文 受身形 使役形	同上。
	13	漢文 仮定形 限定形・累加形	同上。
14	漢文 比較形・比況形 選択形 抑揚形	同上。	
15	古文・漢文 期末考査 (第9回～第14回までの範囲) プリント提出	プリントの整理と既習事項の確認。	
16	期末考査の振り返り 後期のまとめ 「授業アンケート」への回答	後期のまとめの準備をする。	
	テキスト・参考文献・資料など		
	(1) テキスト ①『〔三訂版〕楽しく学べる 基礎からの古典文法』第一学習社 (税込583円) ②『シンプルスタイルシリーズ 古文単語301』尚文出版 (税込704円) *古語の語彙力をつけるため、授業の最初に「古文単語テスト」を行う。 ③『必携 新明説漢文ノート(修訂版)』尚文出版 (税込503円)		
	(2) 推薦図書 ①古語辞典 ②漢和辞典 ③国語辞典		
	学びの手立て		
	(1) テキスト、授業で配布される資料を熟読し、演習問題に取り組むこと。 (2) 授業で配布・返却されるプリントや資料は、適切にファイリングすること。 (3) 提出物は、指定された期日に確実に提出すること。 (4) この授業は積み重ねが大切なので、欠席せず、しっかり取り組むこと。事情があって欠席する場合は、本学の規定に従うこと。 (5) 上記の「授業計画」は、変更になる場合があります。		
	評価		
	原則として、中間考査+期末考査の平均点 (60%) +提出点 (30%) +授業態度点 (10%) を目安として、総合的に評価します。 *届出のない欠席が3分の1を超える者は、試験を受けることができないので注意して下さい。 *やむを得ない事情で考査が実施できない場合は、評価の仕方が変わることがあります。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 「日本語文法基礎Ⅰ」 (前期)
-------	------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語文法論 I	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	下地 賀代子	2年	5-401(研究室) kshimoji@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	言語には必ず「文法＝言葉の運用ルール」が備わっています。この「文法」の実態を明らかにするのが「文法論」という学問です。この授業では、俗に「学校文法」と呼ばれる日本語文法の考え方の1つをとりあげます。学校教育で学んできた「文法」を見直し、そこに含まれる問題点について議論していきましょう。	文法と聞くと難しい・つまらないと思われがちですが、私たちが日本語を自由に操ることができるのはその文法が身につけているからなのです。「無意識の知」に目を向けてみましょう。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語文法の発展の歴史を理解し、適切に説明することができる。</li> <li>いわゆる「学校文法」の概要と問題点を理解し、適切に説明することができる。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスを読み授業に備える
	2	文法とは、日本語文法研究史①：中世～近代	授業の復習、次回内容の確認(資料)
	3	日本語文法研究史②：「四大文法」	同上
	4	日本語文法研究史③：「四代文法」以後	授業の復習、予習：text p.16-18
	5	学校文法とは、ことばの単位：「文節」批判①	授業の復習、予習：text p.19-33
	6	文の種類、単語の働き：「文節」批判②	授業の復習、予習：text p.38-45
	7	単語の種類(品詞分類)、「～詞」と『～辞』	授業の復習、予習：text p.96-110
8	動詞①：活用形	授業の復習、予習：text p.110-113	
9	動詞②：自動詞と他動詞	授業の復習、予習：text p.153-191	
10	動詞③：可能動詞	授業の復習、予習：text p.153-191	
11	動詞④：「助動詞」批判	授業の復習、予習：text p.126-134	
12	形容詞①：活用形とその変遷	授業の復習、予習：text p.135-139	
13	形容詞②：イ形容詞とナ形容詞	授業の復習、予習：text p.135-139	
14	形容詞③：ナ形容詞と名詞	授業の復習、予習：text p.135-139	
15	助詞①：「格助詞」批判	講義内容全体の復習	
16	期末試験	試験の振り返り	
テキスト・参考文献・資料など	テキスト・参考文献・資料など ・使用するテキスト：田近洵一2012『くわしい国文法 中学1～3年[新学習指導要領対応]』文英堂 ・参考文献 高橋太郎他2005『日本語の文法』ひつじ書房、山田敏弘2004『国語教師が知っておきたい日本語文法』くろしお出版、山田敏弘2015『日本語文法練習帳』くろしお出版、大野晋1978『日本語の文法を考える』岩波書店、高山善行・青木博史編2010『ガイドブック日本語文法史』ひつじ書房、など。		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>●履修の心構え：出席日数が講義全体(15回)の3分の2に満たない場合、原則として単位を認めません(出席確認は毎回のリフレクションシートあるいは課題等の提出で行います)。</li> <li>●履修上の注意事項：この科目では「GooleClassroom」も使用します(初回にクラス登録を行います)。具体的な授業の進め方については初回のガイダンスで説明します。</li> <li>●学びを深めるために：いわゆる国語の「文法」が苦手だった人は予習して講義にのぞみましょう(「時間外学習の内容」を参考)。</li> </ul>		
評価	期末試験50%、小テスト(確認テスト)20%、リフレクションシート・課題20%、平常点10%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 異なる観点からの日本語文法について学びたい人へ 関連科目「日本語文法論Ⅱ」
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語文法論Ⅱ	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	下地 賀代子	2年	5-401(研究室) kshimoji@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	言語には必ず「文法＝言葉の運用ルール」が備わっています。この「文法」の実態を明らかにするのが「文法論」という学問です。この授業では、日本語教育の観点から日本語の文法を捉えていきます。グループワークなどを通し、日本語教育の現場で生きる「自分で考える」力を身に付けていきましょう。	文法と聞くと難しい・つまらないと思われがちですが、私たちが日本語を自由に操ることができるのはその文法が身につけているからなのです。「無意識の知」に目を向けてみましょう。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語文法論の基本を理解し、主要な術語やカテゴリーの概要を適切に説明することができる。</li> <li>日本語文法の主要なカテゴリーのシステムを理解し、それに関わる言語事象（語や文）について説明することができる。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、授業の進め方について、日本語文の構造(1)：基本文型	授業の復習、予習：text p. 7-14
	2	日本語文の構造(2)：格助詞 1	授業の復習、予習：text p. 7-14
	3	日本語文の構造(2)：格助詞 2	授業の復習、予習：text p. 15-20
	4	主題化(1)：格成分の主題化	授業の復習、予習：text p. 21-28
	5	主題化(2)：格成分以外の主題化	授業の復習、予習：text p. 29-32
	6	自動詞と他動詞(1)：自他の区別	授業の復習、予習：text p. 33-41
	7	自動詞と他動詞(2)：自他の対応による分類	授業の復習、予習：text p. 43-49
8	ヴォイス(1)：受身文	授業の復習、予習：text p. 50-53	
9	ヴォイス(2)：使役文	授業の復習、予習：text p. 53-62	
10	ヴォイス(3)：その他のヴォイス	授業の復習、予習：text p. 63-71	
11	テンス(1)：絶対テンス	授業の復習、予習：text p. 63-71	
12	テンス(2)：相対テンス	授業の復習、予習：text p. 72-81	
13	テンス(3)：テンス以外のタ形	授業の復習、予習：text p. 83-90	
14	アスペクト(1)：「～ている」と「～である」	授業の復習、予習：text p. 91-97	
15	アスペクト(2)：金田一の動詞分類	講義内容全体の復習	
16	期末試験	試験の振り返り	
実践	テキスト・参考文献・資料など	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用テキスト：原沢伊都夫(2010)『考えて、解いて、学ぶ 日本語教育の分布』スリーエーネットワーク</li> <li>参考文献 益岡隆志・田窪行則『基礎日本語文法・改訂版』くろしお出版、高橋太郎他2005『日本語の文法』ひつじ書房、山田敏弘(2004)『国語教師が知っておきたい日本語文法』くろしお出版、野田尚史(2001)『はじめての人の日本語文法』など。</li> </ul>	
	学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>●履修の心構え：出席日数が講義全体(15回)の3分の2に満たない場合、原則として単位を認めません。／予告なしに小テスト(確認クイズ)を行うことがあります(複数回)</li> <li>●履修上の注意事項：この科目では「GooleClassroom」も使用します(初回にクラス登録を行います)。具体的な授業の進め方については初回のガイダンスで説明します。</li> <li>●学びを深めるために：いわゆる国語の「文法」が苦手だった人は予習して講義にのぞみましょう(「時間外学習の内容」を参考)。</li> </ul>	
	評価	期末試験50%、リフレクションシート20%、小テスト(確認クイズ)20%、平常点10%	

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語文法に関する専門的な知識を深め、外国語と対照する。</li> <li>日本語学習者の「誤用」について、それが生じる理由を文法的に説明する。</li> </ul>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本の美術	後期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-金城 美奈子	2年	ptt1077あつとまーくokuu.ac.jp メールにて受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>日本の美術は古くから外来文化を巧みに吸収しながら独自の表現や様式を創出してきました。本講義では近世から近・現代までの日本美術の歴史と特徴について、各時代の代表的な作家や作品を取り上げて解説します。日本美術の技法や感性が現代アートやポップカルチャーにどのように受け継がれているのか、また琉球絵画や近・現代沖縄美術との関係性について学びます。</p>	<p>グローバル化が加速する現代社会を生きる上で、自分が拠って立つところの日本や琉球・沖縄の美術についての知識を持つことは大切です。これから国際社会や地域社会における様々な場で、多様な国籍を持つ人々や文化に出会うことでしょう。多文化理解の一步は自らの足元にある文化・芸術を知ることから始まります。博物館や美術館学芸員を目指す人にも勧めます。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>主に近世以降の日本美術の歴史と各時代の特徴を理解する。</li> <li>琉球・沖縄の美術の歴史と各時代の特徴を理解する。</li> <li>現代の美術にも古典の要素が取り込まれていることを理解する。</li> <li>好きな作家や作品について論じられるようにする。</li> </ol>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	日本の美術概説	講義内容の復習
	2	江戸時代の美術1：江戸前期	講義内容の復習
	3	江戸時代の美術2：江戸中期	講義内容の復習
	4	江戸時代の美術3：江戸後期【絵画編】	講義内容の復習
	5	江戸時代の美術3：江戸後期【浮世絵編】	講義内容の復習
	6	近現代の美術1：近代美術の幕開け	講義内容の復習
	7	近現代の美術2：洋画	講義内容の復習
	8	近現代の美術3：日本画	講義内容の復習
	9	近現代の美術4：大正期の美術	講義内容の復習
	10	近現代の美術5：昭和初期のモダニズム	講義内容の復習
	11	近現代の美術6：戦争美術	講義内容の復習
	12	沖縄の美術1：琉球絵画	講義内容の復習
	13	沖縄の美術2：戦前の沖縄美術	講義内容の復習
	14	沖縄の美術3：戦後の沖縄美術	講義内容の復習
15	日本美術の現在：伝統の引用と解釈	講義内容の復習	
16	レポート提出		

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは適宜配布します。教科書は使用しませんが日本美術史の参考文献としては、辻惟雄『日本美術の歴史』（東京大学出版会・2005年）、山下裕二・高岸輝監修『日本美術史 歴史編』（美術出版社・2014年）があります。その他の関係図書は随時教示します。</p>
-------	---

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>出席の確認は毎回行います。私語や途中退席などは慎んで下さい。</li> <li>レポートを1～2回（中間、期末）を出題します。</li> <li>機会を捉えて博物館や美術館に足を運び美術鑑賞を行いましょう。</li> <li>授業中に気になった作家や作品があったら図書館を活用し、美術全集や作品集をこまめに見るようにしましょう（たとえ1点であっても自分の問題意識とつながって記憶に残るものです）。</li> </ol>
-------	--

学びの実践	<p>評価</p> <p>期末レポート70%、中間レポート20%、平常点10%で総合的に評価を行います。 ※中間レポートを出題しない場合は平常点を30%とします。 ※出席時数が3分の2に満たない者、期末レポート未提出者は不可とします。</p>
-------	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>日本と琉球・沖縄の美術について学んだことは、国内外問わずさまざまな芸術鑑賞の機会や多文化理解に役立つと考えます。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本文化特別講義Ⅱ	集中	集中講義	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-小林 一貴	2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「書くこと」とは何かについて歴史、社会、文化的な側面から考える。また、書くことの教育を支える諸理論を批判的検討し、書くことを教え学ぶための原理を修得する。その上で、教科書教材や学習者の書いた文章を用いて、書くことの学習指導をデザインできる能力を修得することを目的とする</p>	<p>日本文化学科の2年生以上を対象とした科目です。近年の書くこと（ライティング）の研究をふまえて、書くことの種類（ジャンル）のはたらきや話すことと書くことの連続性、関連性に焦点を当てて考えていく。社会生活で必要な書く能力の習得・育成について理論的、実践的に学んでいく。</p>
到達目標	<p>①書くことの教育を支える考え方や理論をふまえて、それが教材や指導にどのように反映されているのかを理解する。②書くことの学習に必要な考え方や活動の仕方を理解し、具体的に活用することができる。③書くことの理論と方法を学習指導の構想と実践に活用することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	国語科における書くことの学習の現状	
	2	書くことの教育を支える理論	
	3	ジャンルの類型と機能	
	4	ジャンルと教材	レポート課題（1～4回）
	5	書くことの学習過程	
	6	書くことの学習活動	
	7	書くことの学習のための対話（演習）	
	8	交流活動を取り入れた書くことの学習	レポート課題（5～8回）
	9	書くことの教材研究（小学校）	
	10	書くことの教材研究（中学校）	
	11	書くことの教材研究（高等学校）	
	12	交流活動を取り入れた書くことの学習指導の構想	
	13	対話的な書くことの学習指導「描写」（演習1）	
14	対話的な書くことの学習指導「論述」（演習2）		
15	対話的な書くことの学習指導「創作」（演習3）		
16	授業の総括（レポート作成）		
テキスト・参考文献・資料など	<p>教科書は使用しない。テキスト：授業担当者が作成したものを配布。参考文献：三藤恭弘〔浜本純逸監修〕（2019）『ことばの授業づくりハンドブック小学校「物語づくり」学習の指導』溪水社、田中宏幸〔浜本純逸監修〕（2016）『ことばの授業づくりハンドブック中学校・高等学校「書くこと」の学習指導』溪水社、フレッチャー・R他（2007）『ライティング・ワークショップ「書く」ことが好きになる教え方・学び方』新評論、プロジェクトワークショップ（編）（2018）『増補版 作家の時間：「書く」ことが好きになる教え方・学び方』新評論</p>		
学びの手立て	<p>①履修の心構え：演習を含む授業であり、遅刻・欠席は厳禁。書くことについて自分がこれまでどのような経験をしてきたか、どのような文章を書いてきたか、どのような指導を受けてきたかなどをあらかじめ振り返り、問題意識を持って授業に臨む。②学びを深めるために：基本的な概念や知識を整理して理解し、それを積極的に用いながら演習に取り組み、自分なりの問題意識を明確にしてレポートを作成する。</p>		
評価	<p>レポート60%、演習課題40% レポートでは授業で学んだ知識を用いて考えることができているか、自分なりの問題意識を明確にして論述できているかに焦点を当てて評価する。演習課題では、授業の知識を活用して議論や発表がなされているかどうかを評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1)関連科目：リテラシー入門Ⅰ（1年前期）、リテラシー入門Ⅱ（1年後期）、(2)次のステージ：アカデミック・ライティング（2年前期）、国語科教材研究Ⅱ（3年後期） カリキュラムポリシーに関わって、書くことに関する諸課題について深く学ぶため、ライティングや授業分析、教材のテキスト分析などの知識を積極的に応用できるようにすることが望ましい。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

本科目は、学問体系の基本を理解し、知的好奇心を高める導入科目に当たる（カリキュラム・ポリシー2）。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本文化論Ⅰ	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	葛綿 正一	1年	kuzuwata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は、日本文化について概観するものである。まず絵巻と古典文学について考え、次に演劇と古典文化について考え、最後に映画と現代文化について考える。映像資料を活用する予定である。	メッセージ 日本文化の多様性や広がりを知ってほしい。
	到達目標 日本文化の多様性を理解し、レポートを書く。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	日本文化の概観	テキストの予習
	2	絵巻と日本文化1・鳥獣戯画	プリントによる学習
	3	絵巻と日本文化2・源氏物語絵巻	テキストによる学習・p54
	4	絵巻と日本文化3・信貴山縁起絵巻	プリントによる学習
	5	絵巻と日本文化4・伴大納言絵巻、北野天神縁起	テキストによる学習・p78
	6	レポートの書き方・その1	レポートの作成
	7	演劇と日本文化1・能	テキストによる学習・p176
	8	演劇と日本文化2・狂言	テキストによる学習・p178
	9	演劇と日本文化3・浄瑠璃	テキストによる学習・p242
	10	演劇と日本文化4・歌舞伎	テキストによる学習・p247
	11	演劇と日本文化5・現代演劇	プリントによる学習
	12	レポートの書き方・その2	レポートの作成
	13	映画と日本文化1・映画のスタイル	プリントによる学習
	14	映画と日本文化2・映画の歴史	プリントによる学習
15	映画と日本文化3・現代映画の展開	プリントによる学習	
16	まとめ	テキストの復習	
	テキスト・参考文献・資料など 秋山虔『日本古典読本』筑摩書房		
	学びの手立て 『日本の絵巻』（中央公論社）、『新日本古典文学大系』（岩波書店）、『新編日本古典文学全集』（小学館）、『現代日本戯曲大系』（三一書房）、『日本映画史』（岩波書店）などのシリーズを活用するとよい。		
	評価 レポートと提出物によって評価する。レポート2回X30%、提出物4回X10%の配分割合とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「日本文化論Ⅱ」では外国人による日本文化論を紹介する。
-------	--

※ポリシーとの関連性 本科目は、学問体系の基本を理解し、知的好奇心を高める導入科目に当たる（カリキュラム・ポリシー2）。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本文化論Ⅱ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	葛綿 正一	1年	kuzuwata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は日本文化に関する様々な名著を読み解きながら、日本文化について考えるものである。	メッセージ 日本文化論を書いた著者の人生と、その時代についても考えてほしい。
	到達目標 様々な日本文化論を読み込み、レポートを書く。	

学びの準備	到達目標 様々な日本文化論を読み込み、レポートを書く。
-------	--------------------------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	日本文化論の概観	テキストの予習
	2	小泉八雲の日本文化論1・雪女	テキストの復習と予習
	3	小泉八雲の日本文化論2・怪談	テキストの復習と予習
	4	小泉八雲の日本文化論3・日本人の微笑	テキストの復習と予習
	5	小泉八雲の日本文化論4・伝統と近代	テキストの復習と予習
	6	ルース・ベネディクト「菊と刀」を読む1・義理と人情	プリントによる学習
	7	「菊と刀」を読む2・忠臣蔵について	プリントによる学習
	8	外国人の見た日本文化	プリントによる学習
9	新渡戸稲造「武士道」を読む	プリントによる学習	
10	岡倉天心「茶の本」を読む	プリントによる学習	
11	内村鑑三「代表的日本人」を読む	プリントによる学習	
12	九鬼周造「いきの構造」を読む	プリントによる学習	
13	和辻哲郎「風土」を読む	プリントによる学習	
14	柳田國男「遠野物語」を読む	プリントによる学習	
15	レポートの書き方について	レポートの作成	
16	まとめ	レポートの作成	
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 小泉八雲『小泉八雲集』新潮文庫		
学びの実践	学びの手立て 日本文化論の名著は、数多く岩波文庫に収められている。		
学びの実践	評価 レポートと提出物によって評価する。レポート60%、提出物4回X10%を配分割合とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ジャパノロジー、アジア太平洋文化論、比較文化論などで視野を広げてほしい。
-------	---

※ポリシーとの関連性

本科目は、専門分野における諸課題について深く学ぶための応用科目に当たる（カリキュラム・ポリシー3）。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本文学概論	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	葛綿 正一	2年	kuzuwata@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 文学研究の方法を学び、日本文学の特質について理解する。	メッセージ 好きな作品を一つ見つけてください。そうすると、そこから広げて様々な作品につなげることができるはずである。
	到達目標 文学研究の方法と日本文学の特質について理解し、レポートを書く。	

学びの準備	到達目標 文学研究の方法と日本文学の特質について理解し、レポートを書く。

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	文学と映画	テキスト学習
	2	文学と演劇	テキスト学習
	3	文学研究の方法論	テキスト学習
	4	書誌学、文献学的研究	テキスト学習
	5	作家論	テキスト学習
	6	作品論	テキスト学習
	7	テキスト論、読者論	テキスト学習
	8	思想史的研究	プリントによる学習
	9	イメージ論、都市論、記号論	プリントによる学習
	10	社会学的研究、歴史学的研究	プリントによる学習
	11	民俗学的研究	プリントによる学習
	12	心理学的研究	プリントによる学習
	13	比較文学的研究	プリントによる学習
	14	児童文学研究	プリントによる学習
15	大衆文学、推理小説研究	レポート作成	
16	まとめ・日本文学の特質	レポート作成	
	テキスト・参考文献・資料など 森鷗外『山椒大夫・高瀬舟』新潮文庫		
	学びの手立て 注釈付きの近代文学大系（角川書店）を利用するとよい。		
	評価 レポートと提出物で評価する。レポート60%、提出物2回X20%の配分割合とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「日本文学を読む」Ⅰ・Ⅱで個別の作品を精読することができる。「現代文学理論」Ⅰ・Ⅱで理論に関して詳しく学ぶことができる。
-------	---



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本文学を読むⅠ	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	2年	ytaba@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講は『宇治拾遺物語』の講読を行い、語彙、文法、表現等への理解を深め、古文読解力の養成をめざします。日本中世社会への関心を深めながら、いくつかの文学理論に基づく読解を試みます。国語の教職免許状取得のために必要な科目でもあるので、高等学校において教えるうる知識理解の習得、読解力の育成を目指します。	「生きるためには、古典なんかいらない？しかし、如何に生きるかと考え始めたときに、古典が必要になってくる」(國學院大學教授上野誠先生)という言葉は、実感をもって迫ってきます。講読をとおして、いろいろの思考を楽しみましょう。【実務経験】高等学校教諭だった現場経験を生かして、高大接続を意識した指導を行います。
到達目標	1 中世社会への関心を深め、身分、宗教、芸能文化への知識を身に付ける。 2 古文読解のための語彙、文法、表現等への理解力を身に付ける。 3 いくつかの文学理論に基づいた読解方法を身に付ける。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスの確認
	2	1 道命、和泉式部の許に於いて読経し、五条の道祖神聴聞の事	なぜ道祖神が現れるかを考える
	3	2 丹波国篠山、平茸生ふる事	丹波篠山の地域性を考える
	4	3 鬼に瘤取らるる事	指定した話を事前に読む
	5	4 鬼に瘤取らるる事	指定した話を事前に読む
	6	5 鬼に瘤取らるる事	指定した話を事前に読む
	7	中間まとめ(宇治拾遺物語の中の人びと)	指定した話を事前に読む
	8	6 笑いと性愛1(源大納言雅俊、一生不犯の鐘打たせたる事)	指定した話を事前に読む
	9	7 笑いと性愛2(児の搔餅するに空寝したる事)	指定した話を事前に読む
	10	8 笑いと性愛3(平貞文、本院侍従の事)	指定した話を事前に読む
	11	9 狐と説話(狐、人に憑きてしとぎ食ふ事)	指定した話を事前に読む
	12	10 狸と説話(獵師、仏を射る事)	指定した話を事前に読む
	13	11 ことば遊びと説話(陪従家綱、行綱、互いに謀りたる事)	指定した話を事前に読む
14	12 観音信仰と説話(長谷寺参籠の男、利生にあづかる事)	指定した話を事前に読む	
15	13 夢と説話(夢買ふ人/ある唐人、女の羊に生れたると知らずして殺す事)	指定した話を事前に読む	
16	まとめ振り返り	振り返り	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	テキスト：中島悦次校注『宇治拾遺物語』(角川ソフィア文庫)940円		
	学びの手立て		
	古典文法や古典の基礎を学ぶための学習支援を講義外で行っています。希望者は遠慮なく申し出てください。講義では辞典類をよく使います。必携してください。		
	評価		
	単純に(授業態度：30%+小課題：35%+レポート35%)を成績評価とする。レポートのテーマは講義初回に提示する。『宇治拾遺物語』に関する複数のテーマから任意に選択し取り組んでもらう。尚、400字詰原稿用紙換算10枚以上とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	日本文学を読むⅡ

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本文学を読むⅡ	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	2年	ytaba@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講は渋川板『御伽草子』の講読を行い、語彙、文法、表現、歴史、民俗等への理解を深め、古文読解力の養成をめざす。また、説話の背景や寺社、地名、人名などへの理解を深めながら、モチーフの現代への展開についても考えていく。	御伽草子と昔話との比較において、その受容層に着目して考えていきましょう。 【実務経験】高等学校教諭だった現場経験を生かして、高大接続を意識した指導を行います。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>御伽草子に関心を持ち、各話における発心の意味、その顛末を理解する。</li> <li>他の説話集などの記述との比較によって、『御伽草子』の特徴を理解する。</li> <li>物語内に散りばめられた記号を読み解きながら、諸資料を重ね合わせながら適切に調査する方法を身に付ける。</li> </ol>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス（座席決め、講義の概要、評価方法、その他）	シラバスの確認
	2	『御伽草子』の概説①	配布資料の熟読
	3	『御伽草子』の概説②	配布資料の熟読
	4	「文正さうし」—お正月に読まれためでたき草子	次時の資料の検討
	5	「鉢かづき」—異形の者の苦難・流離再会のモチーフはいかにつくられたか	次時の資料の検討
	6	「小町草紙」—能「卒塔婆小町」の世界を読み物に……。小野小町と西行の対話	次時の資料の検討
	7	「御曹子島渡」—源義経と大日の法	次時の資料の検討
8	「唐糸さうし」—八幡の靈験、牢の中の母を救う万寿の孝行譚	次時の資料の検討	
9	「物くさ太郎」—寝てばかりいても、おおけなき望みを叶えるには……	次時の資料の検討	
10	「蛤の草紙」—蛤女房の出自	次時の資料の検討	
11	「二十四孝」—教訓啓蒙の話は、だれのため作られたか	次時の資料の検討	
12	「一寸法師」—捨てられる小男の行方	次時の資料の検討	
13	「浦島太郎」—古代説話の代表、異郷訪問譚はなぜ生まれた	次時の資料の検討	
14	「酒呑童子」—鬼の正体に迫る 作られた四天王	次時の資料の検討	
15	番外「道成寺縁起」—紀州の説話の広がり～組踊「執心鐘入」の起源	次時の資料の検討	
16	テスト	テストの振り返り	
テキスト・参考文献・資料など	『御伽草子』上下（岩波文庫）		
学びの手立て	<p>学術雑誌に掲載された、『御伽草子』に関わる研究論文を読んでください。研究論文を読む力を養成することも、この授業の目標でもあります。その研究論文の中に出てきたわからないことを、しっかり調べる習慣を付けましょう。</p>		
評価	<p>単純に（授業態度：30%+テスト点35%+レポート点35%）を成績評価とする。レポートのテーマは講義初回に提示する。『発心集』に関する複数のテーマから任意に選択し取り組んでもらう。尚、400字詰原稿用紙換算10枚以上とする。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>日本の古典文学を研究するゼミナールⅠ・Ⅱを選択する場合、どのような研究をしたいのか、しっかり考える必要があります。関心のある対象（古典テキスト等）に関する先行研究を調べてみてください。担当教員に相談すると、課題がはっきりすると思います。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

歴史や法律、経済など広い領域への興味・関心を育てると同時に、日本文学への専門的な知識を培う。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本文学を読むⅢ	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 陽子	2年	y.murakami@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 長編小説を精読し、テキスト分析を行うことで、文学研究の初歩を学ぶ。	メッセージ いわゆる「文豪」の長編小説である「こころ」は、一人で読むにはハードルが高いと感じる一冊かもしれません。しかし、作者を知り、時代背景を知り、多角的な読み方を学ぶと、驚くほど楽しく読める小説でもあります。単にストーリーを楽しむ読書と、文学研究としての分析がどう異なるのかも考えていきましょう。
	到達目標 長編小説を多角的に読解・分析する力を身に付ける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスを読んでくる
	2	夏目漱石の人生	授業内容について復習する
	3	新聞小説としての「こころ」	授業内容について復習する
	4	上 先生と私①ー学歴社会	「こころ」上を通読する
	5	上 先生と私②ー恋と愛	「こころ」上を通読する
	6	明治時代の家族制度	授業内容について復習する
	7	中 両親と私①ー先生と父	「こころ」中を通読する
	8	中 両親と私②ー寡婦という立場	「こころ」中を通読する
9	「私」という書き手の企み	授業内容について復習する	
10	下 先生と遺書①ー先生とお嬢さん	「こころ」下を通読する	
11	下 先生と遺書②ーKと先生	「こころ」下を通読する	
12	下 先生と遺書③ー「奥さん」の思惑	「こころ」下を通読する	
13	静と秘め事	授業内容について復習する	
14	Kの自殺と先生の「殉死」	授業内容について復習する	
15	「こころ」をめぐる教育	レポート準備	
16	予備日	レポート執筆	
	テキスト・参考文献・資料など		
	本講義では夏目漱石「こころ」全文の通読が必須であり、学期末には「こころ」についてのレポートを課す。夏目漱石「こころ」は、インターネット上の青空文庫で全文が無料公開されており、『夏目漱石全集』（筑摩書房）、『定本 漱石全集』（岩波書店）などの全集にも収録されている。また、新潮文庫、岩波文庫、角川文庫、文春文庫など、さまざまな文庫から刊行されている。受講生はどのような媒体でもかまわないので、「こころ」を必要に応じて参照できる環境を整えること。		
	学びの手立て	日本文学全般や「こころ」に関心を寄せる学生を広く受け入れる。	
	評価	授業内課題（60%）、レポート（40%）	

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本文学を読むⅣ、現代文学理論Ⅰ・Ⅱ
-------	-----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本文学を読むⅣ	後期	火 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 陽子	2年	y.murakami@oki.u.ac.jp	

学びの準備	ねらい 歴史資料や民話資料を活用しながら文学テキストを解釈する。ジェンダーの視点も養う。	メッセージ この講義では、語り手にとっての「他者」的存在（アイヌ民族、沖縄、日本、在日朝鮮人）の物語（昔話や証言など）が、大変大きな意味を持って小説に取り入れられる作品を扱います。「私」とは異なる背景を持つ人々の物語と、「私」がどのように関係性を築いていくか、資料を用いて読み解いていきます。
	到達目標 関連資料を用いて中・短編小説を読解する力を身に付ける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスを読んでくる。
	2	作家・津島佑子について	指定されたテキストを読んでくる。
	3	津島佑子「月の満足」①一カムイユカラとの出会い	指定されたテキストを読んでくる。
	4	津島佑子「月の満足」②一子どもを亡くすという体験	指定されたテキストを読んでくる。
	5	津島佑子「鳥の涙」①一おとぎ話の起源	指定されたテキストを読んでくる。
	6	津島佑子「鳥の涙」②一アイヌ民族の物語を日本人が語ること	指定されたテキストを読んでくる。
	7	作家・崎山多美について	指定されたテキストを読んでくる。
	8	崎山多美「月や、あらん」①一丑三つ刻の空から	指定されたテキストを読んでくる。
9	崎山多美「月や、あらん」②一仮宿の本当の住人について	指定されたテキストを読んでくる。	
10	崎山多美「月や、あらん」③一残されたモノたち	指定されたテキストを読んでくる。	
11	崎山多美「月や、あらん」④一編集工房〈ミドゥンミツチャイ〉	指定されたテキストを読んでくる。	
12	崎山多美「月や、あらん」⑤一遺言集	指定されたテキストを読んでくる。	
13	崎山多美「月や、あらん」⑥一『自叙伝』の女・突堤へ	指定されたテキストを読んでくる。	
14	川上弘美「形見」	指定されたテキストを読んでくる。	
15	川上弘美「なぜなの、あたしの神様」	レポート準備。	
16	予備日	レポート執筆。	
実践	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて指示する。 津島佑子『私』（新潮社）および崎山多美『月や、あらん』（インパクト出版会）、川上弘美『大きな鳥にさらわれないよう』（講談社文庫）を通読することを推奨する。		
	学びの手立て 小説の内容に関連する資料・論文・書籍に触れる。		
	評価 授業内課題（60%）、学期末レポート（40%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 現代文学理論Ⅰ・Ⅱ
-------	--------------------------

※ポリシーとの関連性

言葉の意味をどのように人は規定するのか、また語彙（単語の関係性・体系的性）について考える。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	認知言語学	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-仲間 恵子	3年	以下のメールで受け付けます。受講講義名、名前も忘れずに。ptt490@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 現実世界を脳に取り込み（認知）し、それを言語化する過程、カテゴリー化する過程を理解する。特に意味の分類、単語と意味の関係について考える。	メッセージ 単語の意味がどのようにして獲得され、一つの言語の中で慣習として使用されるようになるのかの過程を具体例を多く用いて考えていく。
	到達目標 ・認知言語学に関連する専門用語をつかっ、説明できるようになる。 ・語の意味と人の意識、考え方をとらえられるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス 私たちの意識と取り巻く物理世界	配布された資料の事前読み
	2	言語と経験のむすびつき	テキストの事前読み
	3	見たものをことばにする	テキストの事前読み
	4	語のカテゴリー化	テキストの事前読み
	5	物事のとらえ方と言語化	テキストの事前読み
	6	意味とは 辞書記述と言語活動のつながり	テキストの事前読み
	7	比喩表現（1）隠喩	テキストの事前読み
	8	比喩表現（2）換喩	テキストの事前読み
	9	レポート提示 比喩	レポートに取組む
	10	比喩とことわざ	レポートに取組む
	11	上位語・下位語	レポートに取組む
	12	多義語（1）	レポートに取組む
	13	多義語（2）同音語 レポート締切	日本語の語例を考える
14	類義語・対義語	日本語の語例を考える	
15	まとめ		
16			
テキスト・参考文献・資料など テキスト：榎山洋介『認知言語学入門』（研究社：定価1870円）を購入してください。第3回目まではこちらでもコピーを用意しますが、第4回以降は各自でテキストは入手しているものとしてすすめます。（著作権の問題があるため）。 参考文献：町田健編／榎山洋介著2002『認知意味論のしくみ』研究社、野村益寛2014『ファンダメンタル認知言語学』ひつじ書房、今井むつみ2010『ことばと思考』岩波書店、S.I. ハヤカワ1985『思考と行動における言語』岩波書店、榎山洋介『日本語研究のための認知言語学』研究社など。			
学びの手立て 人間の認知については心理学、生理学、脳科学の分野も参考になる。言語については、辞書の意味記述がどのように行われているのか、連語論などが理解を助ける。			
評価 レポート60%（1回）、出席をかねた講義中の練習問題、宿題など40%とする。15回の講義のうち、6回以上の欠席で不可とする。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 語彙論、連語論などがある。
-------	------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	比較文化演習	後期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	我部 大和	3年	h.gabu★okiu.ac.jp (★を@に変えてください)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では、「比較文化」についてこれまで学んできたことなどを通して、学習者自身が自ら「比較文化」の素材やテーマなどを見つけ出し、グループもしくは個別での研究発表複数回を行う。そこから、比較文化を行うことの応用力をのばし4年次の卒論作成などにも活用してもらうのがねらいである。	「文化」を「比較」するとはどのような意味があるのでしょうか。自分で比較することの意義を考え、その素材やテーマを探し出して、発表する力や研究する力を一緒に養いましょう。
到達目標	①自ら「比較文化」の素材やテーマを見つけ出し、調査・研究を重ね、自ら発表することができる。 ②発表後も自らの課題を見つけ出し、次回以降の発表に備えてフォローアップすることができる。	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（本講義の進め方およびグループ編成など）	発表の素材や方法を考えよう
	2	「比較文化」の素材およびテーマ決定・討論①	報告後に発表準備をしよう
	3	「比較文化」の素材およびテーマ決定・討論②	報告後に発表準備をしよう
	4	「比較文化」の素材およびテーマ決定・討論③	報告後に発表準備をしよう
	5	「比較文化」の素材およびテーマ決定・討論④	報告後に発表準備をしよう
	6	グループ研究進捗発表①	最終発表への準備をしよう
	7	グループ研究進捗発表②	最終発表への準備をしよう
	8	グループ研究進捗発表③	最終発表への準備をしよう
9	グループ研究進捗発表④	最終発表への準備をしよう	
10	グループ研究最終発表①	発表をふりかえろう	
11	グループ研究最終発表②	発表をふりかえろう	
12	グループ研究最終発表③	発表をふりかえろう	
13	グループ研究最終発表④	発表をふりかえろう	
14	各グループの発表のふりかえり・自己および他者評価（比較研究の意義を考える）	今後のゼミや卒論に活かそう	
15	発表の総括		
16	予備日		
テキスト・参考文献・資料など	講義中および発表時に適宜、紹介します。		
学びの手立て	①履修の心構え ・出席回数が3分の2以下の者は、単位を認めません。 ・欠席する際には、事前に必ず連絡して下さい。 ②学びを深めるために ・比較するテーマや分野について、先行研究がどのくらいあるのかを確認しましょう。 ・比較する研究対象の研究状況を踏まえて、どのような「比較」が可能なのかも考えて取り組んで下さい。 ・発表はレジュメもしくはパワーポイントで行って下さい。 ・発表以外のグループは必ず質問およびコメントを行うようにして下さい。		
評価	・進捗発表（20%）（報告深度、発表態度） ・最終発表（60%）（報告深度、発表態度） ・授業評価（20%）（発表者への聞く態度・コメントおよび質問の仕方）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・「ゼミナールⅢ」「ゼミナールⅣ」 ★今後自ら研究するに当たって、少しでも役立てて下さい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	比較文化論	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安志那	2年	9-605 ahn@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 比較文化の概念を理解し、その歴史と理論、問題と課題について多角的に考える力を養う。	メッセージ 本講義は、グローバル社会においてどうして異文化と比較するのか、そもそも異文化とは何かについて、自分なりの答えを見つけることを目的とします。その過程において、日本文化もまた異文化の一つであるということや世界の状況などを多面的に考えていきましょう。
	到達目標 比較文化の概念を理解し、説明できる。情報を正確に理解するための論理的な思考力と分析力を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスの確認
	2	文化と比較文化	講義内容の復習
	3	普遍性と特殊性	講義内容の復習
	4	比較文化の理解①	講義内容の復習
	5	比較文化の理解②	講義内容の復習
	6	比較文化の方法論①	講義内容の復習
	7	比較文化の方法論②	講義内容の復習
	8	中間試験	復習
	9	日本の文化研究	講義内容の復習
	10	宗教と文化	講義内容の復習
	11	社会階級と文化	講義内容の復習
	12	都市と音楽	講義内容の復習
	13	テクノロジーと文化	講義内容の復習
	14	サブカルチャー	講義内容の復習
	15	異文化としての日本文化	講義内容の復習
	16	まとめ	講義全体の復習及び質疑応答
	テキスト・参考文献・資料など 三苦民雄『人びとのかたち』ふくろう出版、2019。山田孝子『比較でとらえる世界の諸相』英明企画編集、2017。粟谷佳司『表現文化の社会学入門』ミネルヴァ書房、2019など。		
	学びの手立て 日頃から異文化について考えてみましょう。基本的に対面授業ですが、オンラインに切り替わる際には担当教員からの連絡に注意して下さい。		
	評価 授業参加度（30%）、中間テスト（40%）、期末レポート（30%）。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 多文化間コミュニケーションや文化研究に興味を持つ人は、授業で紹介する書籍などを積極的に読んでみましょう。
-------	---

※ポリシーとの関連性

専門科目を学ぶ上で求められる、基礎的な思考力、言語運用能力、ICT、情報検索能力などのアカデミックスキルを情習得する。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	文化情報処理入門 I	後期	木 1	2
	担当者 前半：新川涼子 後半：山口真也	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1年	授業終了後に教室で、必要に応じてメールで受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>専門知識をより広く、多様な手法で表現するために、ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作方法に関する基本的な技術を修得することを目指すとともに、文化研究の基礎となる、インターネットを活用した情報収集・文献収集のテクニックを身につけることで、文化研究における情報技術の必要性と可能性を実践的に学習する。</p>	<p>将来、どのような職業に就くにしても、PCの基本的なスキルは必ず求められます。日本文化学科の学生はPCが苦手な人も多いようですが、この科目にしっかりと組んで早めに克服しましょう。</p>
	到達目標	
	<p>①Word文書処理技能検定2級レベルの技能を修得し、大学生活での様々なニーズに応じて、レポート、案内文書、レジュメなど、適切な文書を作成することができる。②表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本的な操作方法を理解し、2年生から本格的に開始するゼミ等での調査、研究発表に役立てる準備ができる。③インターネットや図書館を使った文献検索法を身につけ、後期から始まる「リテラシー入門II」での研究発表に活かすことができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス/Excelの基本操作①   簡単な計算 (SUM, AVERAGE, 数式の入力)	シラバスを読み授業に備える
	2	Excelの基本操作②   グラフ作成 (棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ)	合計、平均、数式入力の復習
	3	Excelの基本操作③   様々な関数 (MAX, MIN, COUNT, RANK, EQ)	グラフ作成の復習
	4	Excelの基本操作④   割合の計算 (絶対参照)	関数の使い方の復習
	5	Excelの基本操作⑤   桁処理関数 (ROUND, ROUNDUP, ROUNDDOWN)	絶対参照と相対参照について復習
	6	Excelの基本操作⑥   判定 (IF文), 並べ替え, 印刷設定	桁処理関数の復習
	7	Excelの基本操作⑦   Excel総復習課題	IF文の復習
	8	Excelの基本操作⑧   到達度確認テスト② (50点満点)	表計算の検定の3級過去問題を解く
	9	PCの基本構造・基本操作・日本語入力・ファイルとフォルダ管理	シラバスを読み授業に備える
	10	Wordの基本操作①   ページ設定 (ヘッダー・フッターを含む)	入力速度を上げる練習
	11	Wordの基本操作②   ワードアートの挿入 (オブジェクト編集)・スタイルの定義 (段落設定)	入力速度を上げる練習
	12	Wordの基本操作③   表・罫線の処理、オブジェクト (図形・画像) の作成・その他の機能	2級レベルの練習問題にチャレンジ
	13	Wordの基本操作④   総合練習問題・解説	テストに備えた学習
14	Wordの基本操作⑤   到達度確認テスト① (50点満点)	テスト問題の見直し	
15	情報検索・文献検索ガイダンス	研究発表の準備 (文献調査)	
16	プレゼンテーションソフトの基本操作・再試験	研究発表の準備 (プレゼンの準備)	
	テキスト・参考文献・資料など		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>市販テキストは使用しません。オリジナルテキストを使用します。</li> <li>PCの音声を聞くためのイヤフォン、データを保存できるUSBなどのメディアを各自準備して下さい。</li> <li>Excelの参考書：30時間でマスターExcel2016, 2016年11月, 実教出版, 1,045円</li> </ul>		
	学びの手立て		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>学籍番号順にクラス分けをする。無断でクラスを変更しないこと。</li> <li>16回目の翌週に再試験を行うことがある。</li> <li>授業終了後、2月～3月にかけて、自由参加による検定対策講座を実施する。参加を希望する学生は予定をあげておくこと。</li> <li>タイピングに慣れていない人は、タイピング練習サイトなどで練習すること。</li> </ul>		
	評価		
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 新川担当回 (50点満点) 毎回の講義での課題40%, Excel実技試験60%</li> <li>2) 山口担当回 (50点満点) テストの到達度で評価する。</li> <li>3) 合計6回以上欠席した場合は単位を与えない。</li> <li>4) 山口・新川の各パートについてどちらも60%以上に到達することを単位取得の条件とする。</li> </ol>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	この授業で取り上げるWordやExcelの操作は、授業後に実施する検定合格レベルを想定しています。授業にまじめに取り組めば必ず合格できる検定ですので、積極的にチャレンジしましょう。



※ポリシーとの関連性

専門科目を学ぶ上で求められる、基礎的な思考力、言語運用能力、ICT、情報検索能力などのアカデミックスキルを情習得する。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	文化情報処理入門 I	後期	木 1	2
	担当者 前半：山口真也 後半：新川涼子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1年	授業終了後に教室で、必要に応じてメールで受け付けます。	

学びの準備	ねらい 専門知識をより広く、多様な手法で表現するために、ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの操作方法に関する基本的な技術を修得することを旨とするともに、文化研究の基礎となる、インターネットを活用した情報収集・文献収集のテクニックを身につけることで、文化研究における情報技術の必要性と可能性を実践的に学習する。	メッセージ 将来、どのような職業に就くにしても、PCの基本的なスキルは必ず求められます。日本文化学科の学生はPCが苦手な人も多いようですが、この科目にしっかりと組んで早めに克服しましょう。
	到達目標 ①Word文書処理技能検定2級レベルの技能を修得し、大学生活での様々なニーズに応じて、レポート、案内文書、レジュメなど、適切な文書を作成することができる。②表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本的な操作方法を理解し、2年生から本格的に開始するゼミ等での調査、研究発表に役立てる準備ができる。③インターネットや図書館を使った文献検索法を身につけ、後期から始まる「リテラシー入門II」での研究発表に活かすことができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス/PCの基本構造・基本操作・日本語入力・ファイルとフォルダ管理	シラバスを読み授業に備える
	2	Wordの基本操作①   ページ設定(ヘッダー・フッターを含む)	入力速度を上げる練習
	3	Wordの基本操作②   ワードアートの挿入(オブジェクト編集)・スタイルの定義(段落設定)	入力速度を上げる練習
	4	Wordの基本操作③   表・罫線の処理、オブジェクト(図形・画像)の作成・その他の機能	2級レベルの練習問題にチャレンジ
	5	Wordの基本操作④   総合練習問題・解説	テストに備えた学習
	6	Wordの基本操作⑤   到達度確認テスト①(50点満点)	テスト問題の見直し
	7	情報検索・文献検索ガイダンス	研究発表の準備(文献調査)
	8	プレゼンテーションソフトの基本操作・再試験	研究発表の準備(プレゼンの準備)
	9	Excelの基本操作①   簡単な計算 (SUM, AVERAGE, 数式の入力)	表計算のできることを調べる
	10	Excelの基本操作②   グラフ作成 (棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ)	合計、平均、数式入力の復習
	11	Excelの基本操作③   様々な関数(MAX, MIN, COUNT, RANK, EQ)	グラフ作成の復習
	12	Excelの基本操作④   割合の計算 (絶対参照)	関数の使い方の復習
	13	Excelの基本操作⑤   桁処理関数(ROUND, ROUNDUP, ROUNDDOWN)	絶対参照と相対参照について復習
	14	Excelの基本操作⑥   判定(IF文), 並べ替え, 印刷設定	桁処理関数の復習
15	Excelの基本操作⑦   Excel総復習課題	IF文の復習	
16	Excelの基本操作⑧   到達度確認テスト②(50点満点)	表計算の検定の3級過去問題を解く	
	テキスト・参考文献・資料など ・市販テキストは使用しません。オリジナルテキストを使用します。 ・PCの音声を聞くためのイヤホン、データを保存できるUSBなどのメディアを各自準備して下さい。 ・Excelの参考書：30時間でマスターExcel2016, 2016年11月, 実教出版, 1,045円		
	学びの手立て ・学籍番号順にクラス分けをする。無断でクラスを変更しないこと。 ・16回目の翌週に再試験を行うことがある。 ・授業終了後、2月～3月にかけて、自由参加による検定対策講座を実施する。参加を希望する学生は予定をあげておくこと。 ・タイピングに慣れていない人は、タイピング練習サイトなどで練習すること。		
	評価 1) 山口担当回(50点満点) テストの到達度で評価する。 2) 新川担当回(50点満点) 毎回の講義での課題40%, Excel実技試験60% 3) 合計6回以上欠席した場合は単位を与えない。 4) 山口・新川の各パートについてどちらも60%以上に到達することを単位取得の条件とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 この授業で取り上げるWordやExcelの操作は、授業後に実施する検定合格レベルを想定しています。授業にまじめに取り組めば必ず合格できる検定ですので、積極的にチャレンジしましょう。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	文化テキスト論Ⅰ	前期	金3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-百次 智仁	2年	質問は授業後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 短編小説を精読することを通じて、論理的・批判的思考力を養う。	メッセージ 講義のテーマは、「過去（歴史）を読み、今を考える」です。小説作品に描かれているテーマを読み解き、「今」を思考する手がかりを一緒に探していきましょう。
	到達目標 文学テキストの精読を通じて、読解力及び自ら問いを立てる能力を身に付ける。	

学びの準備	到達目標 文学テキストの精読を通じて、読解力及び自ら問いを立てる能力を身に付ける。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスを読んでくる。
	2	志賀直哉「流行感冒」	指定された作品を読んでくる。
	3	志賀直哉「流行感冒」	指定された作品を読んでくる。
	4	夏目漱石「夢十夜」	指定された作品を読んでくる。
	5	夏目漱石「夢十夜」	指定された作品を読んでくる。
	6	安倍公房「棒」	指定された作品を読んでくる。
	7	安倍公房「棒」	指定された作品を読んでくる。
	8	藤枝藤男「一家団欒」	指定された作品を読んでくる。
	9	藤枝藤男「一家団欒」	指定された作品を読んでくる。
	10	村田喜代子「耳の塔」	指定された作品を読んでくる。
	11	村田喜代子「耳の塔」	指定された作品を読んでくる。
	12	佐藤泰志「青春の記憶」	指定された作品を読んでくる。
	13	佐藤泰志「青春の記憶」	指定された作品を読んでくる。
	14	目取真俊「伝令兵」	指定された作品を読んでくる。
	15	目取真俊「伝令兵」	指定された作品を読んでくる。
16	予備日	レポート作成。	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 適宜、講義内にて指示する。
-------	---------------------------------

学びの実践	学びの手立て 事前事後学習として、多数の読書を求める。 文化テキスト論Ⅱも継続して受講することが望ましい。
-------	---

学びの実践	評価 評価は学期末レポート（60%）と授業内課題（30%）＋平常点（10%）
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 現代文学理論Ⅰ・Ⅱ
-------	--------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	文化テキスト論Ⅱ	後期	金3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-百次 智仁	2年	質問は授業後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 短編小説の精読を通じて、読解力と批判的思考力を養う。	メッセージ 文化テキスト論Ⅰに引き続き、講義のテーマは「過去（歴史）を読み、今を考える」です。小説作品に描かれているテーマを読み解き、「今」を思考する手が解りを一緒に探していきましょう。
	到達目標 文学テキストの精読を通じて、読解力及び自ら問いを立てる能力を身に付ける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスを読んでくる。
	2	川上弘美「蛇を踏む」	指定された作品を読んでくる。
	3	川上弘美「蛇を踏む」	指定された作品を読んでくる。
	4	福永武彦『飛ぶ男』	指定された作品を読んでくる。
	5	小田実『アボジを踏む』	指定された作品を読んでくる。
	6	深沢七郎『檜山節考』	指定された作品を読んでくる。
	7	深沢七郎『檜山節考』	指定された作品を読んでくる。
	8	古山高麗雄『墓地で』	指定された作品を読んでくる。
	9	古山高麗雄『墓地で』	指定された作品を読んでくる。
	10	林京子「空罐」	指定された作品を読んでくる。
	11	林京子「空罐」	指定された作品を読んでくる。
	12	島比呂志『奇妙な国』	指定された作品を読んでくる。
	13	島比呂志『奇妙な国』	指定された作品を読んでくる。
	14	又吉栄喜「ジョージが射殺した猪」	指定された作品を読んでくる。
	15	又吉栄喜「ジョージが射殺した猪」	指定された作品を読んでくる。
	16	予備日	レポート作成。
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて指示する。		
	学びの手立て 文化テキスト論Ⅰを受講していることが望ましい。 事前事後学習として多数の読書を求める。		
	評価 評価は学期末レポート（60%）と授業内課題（30%）＋平常点（10%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 現代文学理論Ⅰ・Ⅱ
-------	--------------------------

※ポリシーとの関連性 これまで培ってきた基礎的な思考力、言語運用能力をさらに高める

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	文学実作演習	前期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-崎浜 慎	3年	ptt1168@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 文学実作を通して、読むこと、書くことについて学ぶ。読むこと、書くことは学問ではもちろんのこと、実生活を送る上でも欠かすことのできない「技術」である。	メッセージ 自分の中から言葉を紡ぎ出して表現をすることにはいつも新鮮な驚きがある。なぜなら、知らない「私」を自分の中に発見できるから。技術を伴う表現は簡単ではないかもしれないが、あえて困難にチャレンジしてみよう。
	到達目標 この講義では、最終的に原稿用紙20～40枚（8,000～16,000字）程度の小説・散文を書くことを目標とする。	

学びの準備	到達目標 この講義では、最終的に原稿用紙20～40枚（8,000～16,000字）程度の小説・散文を書くことを目標とする。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：アンケート（「読むこと」「書くこと」）	シラバスを読む
	2	文章創作①：人物スケッチ	課題プリントを読む
	3	文章創作②：果物スケッチ	課題プリントを読む
	4	文章創作③：自由に書いてみよう	課題プリントを読む
	5	小説講義① ガイダンスー「小説」について考える	町田康「くっすん大黒」を読む
	6	小説講義② 「場所」	課題プリントを読む
	7	小説講義③ 「時間」	井伏鱒二「山椒魚」を読む
	8	小説講義④ 「人物」	川上弘美「神様」を読む
	9	小説講義⑤ 「プロット」	つげ義春「紅い花」を読む
	10	小説講義⑥ まとめ	センダックの絵本を読む
	11	創作の時間	自作の構想を練る
	12	創作の時間	自作を書く
	13	創作の時間	自作を書く
	14	創作の冒頭発表	自作の発表
	15	創作の冒頭発表	自作の発表
16	作品の提出		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 教科書は使用しない。参考文献として「時間外学習の内容」に小説を挙げている。講義では必要に応じて、プリントを配布する。講義は毎回30分のレクチャーと60分のワーク（創作）を行う。毎回、筆記用具とノートを持参のこと。
-------	--

学びの実践	学びの手立て ・読書が好きなこと ・小説・散文を書きたいと思っていること 以上の心構えがあると受講しやすい。
-------	---

学びの実践	評価 講義中の課題発表20%、受講態度および発言20%、講義終了時に作品の提出60%
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 課題で書き上げた作品を県内の文学賞に応募してみよう。たとえば、「びぶりお文学賞」「琉球新報短編小説賞」「名桜文学賞」などがある。
-------	---

科目基本情報	科目名 プロジェクト演習	期別	曜日・時限	単位
	担当者 -佐渡山 美智子	後期	木4	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1年	ptt569@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 「鬼慶良間」の脚本の中に織り込まれている沖縄の歴史・文化・人の暮らしを知ることから始めます。そして、プロジェクトとして100人を超える人数で、今年は創作民話[朗読劇]を完成させることを目指します。多様な価値観や個性を認め合い、意思疎通を図り、協力して創り上げる中でコミュニケーション・相互理解・そして、表現の中から生きるチカラを育みます。	メッセージ 日本文化学科が長年受けついできた創作民話劇「鬼慶良間」を、今年はコロナ禍にあることから、朗読劇に切り替え、すべてをリモートで行うことに挑戦です。離れていながら心をついに想いを繋いで、知恵と工夫、柔軟な対応力新たな表現を実現します。相互理解・コミュニケーション・マネジメントによって達成していくプロジェクトです。
	到達目標 ○ルールを守れること。○脚本をしっかりと理解すること。○状況の変化に柔軟な対応ができること。○報告・連絡・相談ができること。○やるべき仕事を責任をもって実行すること。○相手の身になって考えることができること。○人の話を聞く。○それぞれの役割で、より良い、豊かな表現を意識して行動すること。○話すスキルを高めること。○キャストも裏方も、互いに支えられていることを知り、感謝を忘れないこと。○論理的な思考で相互理解を促す表現ができること。○プロジェクトチームの一員としての自覚をもち、目標・目的を達成すること	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス<スケジュール・評価の基準・チームの連携など>○実践活動報告書の重要性について	レポート・スケジュール提出
	2	各班リーダーからの報告・連絡・相談<情報の共有> ○プロジェクトの進め方と成功のポイント	全体スケジュールの作成と共有
	3	演出を中心に現状報告<進捗状況と課題など> ○スケジュールの確認・調整	各班リーダーミーティング
	4	一幕<読み合わせ>朗読表現・演技・演出プランの提案・質疑・提案等 制作ミーティング	各班の活動と情報の共有・調整
	5	二幕<読み合わせ>朗読表現・演技・演出プランの提案・質疑・提案等 制作ミーティング	各班の活動と情報の共有・調整
	6	三幕<読み合わせ>朗読表現・演技・演出プランの提案・質疑・提案等 制作ミーティング	各班の活動と情報の共有・調整
	7	演出プラン▶提案・調整・決定 広報・披露▶提案・調整・決定	通し稽古の準備
	8	通し稽古▶創作民話劇「鬼慶良間」 <音響・照明・アニメ・衣装メイクを合わせて>	検証・調整・改善
	9	全体ミーティング▶本番まえの調整・決定	成功のポイントと改善・対策
	10	朗読劇「鬼慶良間」 第一幕・第二幕 撮影	ゲネプロから改善・練習・対策
	11	朗読劇「鬼慶良間」 第三幕 撮影	全員で最終の調整と協力
	12	創作民話朗読劇「鬼慶良間」 撮影・編集確認上映	検証・調整・制作・改善
	13	ブラッシュアップ修正・諸調整▶質の高い、より豊かな表現のために	最終修正・追加録音・撮影など
	14	創作民話朗読劇「鬼慶良間」完成・上映 ○総まとめレポートについて	各班活動報告書の作成
15	各班活動報告プレゼンテーション	個人報告書の提出準備・まとめ	
16	総括 ○総まとめレポート提出	DVD編集制作と返金の日程まで	
	テキスト・参考文献・資料など ○創作民話劇「鬼慶良間」脚本		
	学びの手立て ●この講義は、大人数でひとつの作品を創り上げるものです。情報を共有するためにも報告・連絡・相談が重要なポイントです。●脚本を読み込み理解を深めることが基本です。その内容を意味を読み取り、どのように表現していくのかを考え、演出やリーダーと相談・調整を行い進めていきます。●多様な価値観を認め合い、意見を交わし行動計画を作成。プロジェクトを進めていきます。コミュニケーションの力が求められます。●演劇未経験の人がほとんどです。演技で表現するキャストの成長と裏方がそれぞれの役割に責任をもって取り組み、はじめて完成します。●それぞれの状況をメンバーで把握し、理解と協力で進めていくことが必要です。できることを精一杯取り組むことが大切です。●感動の瞬間を信じて頑張りましょう。		
	評価 ● プロジェクトについての理解・役割の明確化とルールについて 10点 ● 「実践活動報告書」<活動内容と実績、それを伝える表現・記録・文章力など> 60点 ● その他の課題提出・コミュニケーション力・表現力 30点		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ●日本語表現法Ⅰの後半から、この講義に繋いでいますので、登録の確認を行ってください。 ●日本文化学科の学生として、この経験は大学生活の中でも貴重な経験となります。今年は、リモートが基本となりますが、今後の学生生活、社会人としてもコミュニケーションのスキルアップは必要です。 ●日本語表現法演習Ⅱに繋いで、継続的に日本語の表現力（音声表現・話すチカラ）を高めていきます。
-------	---

※ポリシーとの関連性

日本文化学科では、日本文化および琉球文化に対する造詣を深め、広い領域に興味・関心を持つ人材育成を目指している。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ポップカルチャー論	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	久万田 晋、大胡 太郎、土屋 誠一	1年	s-kumada@ken.okigei.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	近代以降の日本および沖縄社会の中で、どのようにしてポピュラー文化が誕生し、伝統文化諸分野といかなる相互関係を持ちながら発展してきたか、社会的状況とどのような関わりを持ちながら成立したかについて、音楽、文学・コミック、写真・美術・映画などの分野別に概観してゆく。	自分の関心ある分野について、各講師が講義において示す作品や参考文献等をよく読んで授業に臨むこと。
到達目標	日本のポピュラー文化の各分野の表現において、日本的あるいは沖縄的アイデンティティが、日本や世界の時代的・文化的状況とどのような因果関係を持って構築されているのかを、理論的、系統的に理解できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	(特) 大衆メディアと音楽 (久万田)	参考図書を確認すること
	2	(特) 日本のポピュラー音楽 戦前 (久万田)	与えられた課題を事前学習すること
	3	(特) 日本のポピュラー音楽 戦後 (久万田)	与えられた課題を事前学習すること
	4	(特) 日本のポピュラー音楽 アイドル歌謡 (久万田)	与えられた課題を事前学習すること
	5	(特) 日本のポピュラー音楽 テクノロジー (久万田)	与えられた課題を事前学習すること
	6	(特) 戦後漫画誌史 1 (大胡)	与えられた課題を事前学習すること
	7	(特) 戦後漫画誌史 2 (大胡)	与えられた課題を事前学習すること
8	(特) 戦後漫画誌史 3 (大胡)	与えられた課題を事前学習すること	
9	(特) 戦後漫画誌史 4 (大胡)	与えられた課題を事前学習すること	
10	(特) 戦後漫画誌史 5 (大胡)	与えられた課題を事前学習すること	
11	(特) オタク文化の考古学 1 (土屋)	与えられた課題を事前学習すること	
12	(特) オタク文化と「95年問題」 (土屋)	与えられた課題を事前学習すること	
13	(特) オタク文化と「セカイ系」 (土屋)	与えられた課題を事前学習すること	
14	(特) オタク文化と「空気系」 (土屋)	与えられた課題を事前学習すること	
15	(特) オタク文化の現在 (土屋)	与えられた課題を事前学習すること	
16	(特) 全体のまとめ	これまでの講義内容の復習	
テキスト・参考文献・資料など	<p>参考文献：中村とうよう著『ポピュラー音楽の世紀』（岩波書店、1999年、岩波新書）、藤本由香里『私の居場所はどこにあるの？』（朝日文庫、2008年）、四方田犬彦『漫画原論』（ちくま学芸文庫、1999年）、速水健朗『1995年』（ちくま新書、2013年）、前島賢『セカイ系とは何か』（星海社文庫、2014年）</p>		
学びの手立て	<p>ただ講義を受動的に聴くのではなく、自分なりの問題意識を持って主体的に授業に臨むこと。そのために各講師が講義において示す作品例や参考文献等をよく読み、鑑賞して講義での論点を復習しておくこと。</p>		
評価	<p>【方法】平常点（平常点は授業への参加状況、30%）、コメントペーパー（各講義の理解度と提出状況、20%）、期末レポート（学習目標達成度、50%）により総合的に判断して評価する。遅刻2回で1回の欠席とみなすので、遅刻しないように留意すること。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	日本、琉球、世界の多様な文化に関心を持ってほしい。グローバルコミュニケーション論、比較文化論、ジャパノロジーⅠ・Ⅱ、日本芸能史、琉球芸能史、多文化共生論などで幅広い知識を培ってほしい。

※ポリシーとの関連性

学科カリキュラムポリシー1（各専門分野を学ぶ上で前提となるアカデミックスキルを習得するための「基礎科目」を設置）に関連。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	リテラシー入門Ⅰ	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安志那	1年	授業終了後に、教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	1年生が大学生活へスムーズに移行できるよう、履修計画や仲間作りをサポートし、情報収集・整理力など、「アカデミック・スキル」の基礎を幅広く習得することを目的とする。合同ガイダンスや図書館オリエンテーションの実施、要約文・意見文・レポートの作成方法などの学びを重ね、「読む」「書く」「話す」「聞く」力を高め、日本文化学科における学びの基礎的能力の習得を目指す。	大学生活のスタートにあたり、大学で必要とされる「アカデミックスキル」を学ぶための基礎的な科目です！ この科目を受講することで、必要な文献を収集する力、まとめる力、大学で課されるレポートを作成する力を身に付けてください！
到達目標	習得したアカデミック・スキルを活かして、課題を作成することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・クラス開き	自己紹介を考える
	2	自己紹介	復習（自己紹介）
	3	大学入門①	復習（大学入門）
	4	図書館オリエンテーション	復習（図書館情報検索）
	5	大学入門②	復習（大学入門）
	6	要約文の書き方①	課題（要約文を書く）
	7	要約文の書き方②	課題（要約文を書く）
8	意見文の書き方①	課題（意見文を書く）	
9	意見文の書き方②	課題（意見文を書く）	
10	意見文の書き方③	課題（意見文を書く）	
11	こころの健康ガイダンス	課題（自己を見つめる）	
12	レポートの書き方（Wordでの作成法）	課題（レポートを書く）	
13	各ゼミごとの学習	課題	
14	キャリアガイダンス	課題（大学生活を見直す）	
15	まとめ・到達度の確認・夏休みの目標設定	課題（書評など）	
16	予備日		
実践	テキスト・参考文献・資料など ※1回目のオリエンテーションにて説明します。 参考文献：『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』橋本修ほか（2008）		
	学びの手立て ① 欠席する場合は必ず事前に連絡をすること。（無断欠席は厳禁） ② 欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は単位を与えません。 ③ 基本的に対面授業ですが、オンラインに切り替わる際には各クラスの担当教員の連絡に注意して下さい。		
	評価 授業の取り組み、提出物80%・平常点20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	（1）関連科目【上位科目】リテラシー入門Ⅱ（1年次・後期） アカデミック・ライティング（2年次・前期）ゼミナール入門（2年次・後期）ゼミ（3年次から） （2）次のステージ リテラシー入門Ⅱでは、レジюмеを作成し、研究発表を行う。専門分野を学ぶ上で前提となる基礎的な思考力、言語運用能力、情報検索能力などのアカデミックスキルを習得してほしい。

※ポリシーとの関連性

学科カリキュラムポリシー1（各専門分野を学ぶ上で前提となるアカデミックスキルを習得するための「基礎科目」を設置）に関連。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	リテラシー入門Ⅰ	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	葛綿 正一	1年	授業終了後に、教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	1年生が大学生活へスムーズに移行できるよう、履修計画や仲間作りをサポートし、情報収集・整理力など、「アカデミック・スキル」の基礎を幅広く習得することを目的とする。合同ガイダンスや図書館オリエンテーションの実施、要約文・意見文・レポートの作成方法などの学びを重ね、「読む」「書く」「話す」「聞く」力を高め、日本文化学科における学びの基礎的能力の習得を目指す。	大学生活のスタートにあたり、大学で必要とされる「アカデミックスキル」を学ぶための基礎的な科目です！ この科目を受講することで、必要な文献を収集する力、まとめる力、大学で課されるレポートを作成する力を身に付けてください！
到達目標	習得したアカデミック・スキルを活かして、課題を作成することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・クラス開き	自己紹介を考える
	2	自己紹介	復習（自己紹介）
	3	大学入門①	復習（大学入門）
	4	図書館オリエンテーション	復習（図書館情報検索）
	5	大学入門②	復習（大学入門）
	6	要約文の書き方①	課題（要約文を書く）
	7	要約文の書き方②	課題（要約文を書く）
8	意見文の書き方①	課題（意見文を書く）	
9	意見文の書き方②	課題（意見文を書く）	
10	意見文の書き方③	課題（意見文を書く）	
11	こころの健康ガイダンス	課題（自己を見つめる）	
12	レポートの書き方（Wordでの作成法）	課題（レポートを書く）	
13	各ゼミごとの学習	課題	
14	キャリアガイダンス	課題（大学生活を見直す）	
15	まとめ・到達度の確認・夏休みの目標設定	課題（書評など）	
16	予備日		
実践	テキスト・参考文献・資料など ※1回目のオリエンテーションにて説明します。 参考文献：『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』橋本修ほか（2008）		
	学びの手立て ① 欠席する場合は必ず事前に連絡をすること。（無断欠席は厳禁） ② 欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は単位を与えません。 ③ 基本的に対面授業ですが、オンラインに切り替わる際には各クラスの担当教員の連絡に注意して下さい。		
	評価 授業の取り組み、提出物、80%。平常点20%。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	（1）関連科目【上位科目】リテラシー入門Ⅱ（1年次・後期） アカデミック・ライティング（2年次・前期）ゼミナール入門（2年次・後期）ゼミ（3年次から） （2）次のステージ リテラシー入門Ⅱでは、レジюмеを作成し、研究発表を行う。専門分野を学ぶ上で前提となる基礎的な思考力、言語運用能力、情報検索能力などのアカデミックスキルを習得してほしい。



※ポリシーとの関連性

学科カリキュラムポリシー1（各専門分野を学ぶ上で前提となるアカデミックスキルを習得するための「基礎科目」を設置）に関連。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	リテラシー入門Ⅰ	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	1年	授業終了後に、教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	1年生が大学生活へスムーズに移行できるよう、履修計画や仲間作りをサポートし、情報収集・整理力など、「アカデミック・スキル」の基礎を幅広く習得することを目的とする。合同ガイダンスや図書館オリエンテーションの実施、要約文・意見文・レポートの作成方法などの学びを重ね、「読む」「書く」「話す」「聞く」力を高め、日本文化学科における学びの基礎的能力の習得を目指す。	大学生活のスタートにあたり、大学で必要とされる「アカデミックスキル」を学ぶための基礎的な科目です！ この科目を受講することで、必要な文献を収集する力、まとめる力、大学で課されるレポートを作成する力を身に付けてください！
到達目標	習得したアカデミック・スキルを活かして、課題を作成することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・クラス開き	自己紹介を考える
	2	自己紹介	復習（自己紹介）
	3	大学入門①	復習（大学入門）
	4	図書館オリエンテーション	復習（図書館情報検索）
	5	大学入門②	復習（大学入門）
	6	要約文の書き方①	課題（要約文を書く）
	7	要約文の書き方②	課題（要約文を書く）
8	意見文の書き方①	課題（意見文を書く）	
9	意見文の書き方②	課題（意見文を書く）	
10	意見文の書き方③	課題（意見文を書く）	
11	こころの健康ガイダンス	課題（自己を見つめる）	
12	レポートの書き方（Wordでの作成法）	課題（レポートを書く）	
13	各ゼミごとの学習	課題	
14	キャリアガイダンス	課題（大学生活を見直す）	
15	まとめ・到達度の確認・夏休みの目標設定	課題（書評など）	
16	予備日		
実践	テキスト・参考文献・資料など ※1回目のオリエンテーションにて説明します。 参考文献：『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』橋本修ほか（2008）		
	学びの手立て ① 欠席する場合は必ず事前に連絡をすること。（無断欠席は厳禁） ② 欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は単位を与えません。 ③ 基本的に対面授業ですが、オンラインに切り替わる際には各クラスの担当教員の連絡に注意して下さい。		
	評価 授業の取り組み、提出物、出席状況などをもとにして総合的に判断します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	（1）関連科目【上位科目】リテラシー入門Ⅱ（1年次・後期） アカデミック・ライティング（2年次・前期）ゼミナール入門（2年次・後期）ゼミ（3年次から） （2）次のステージ リテラシー入門Ⅱでは、レジュメを作成し、研究発表を行う。専門分野を学ぶ上で前提となる基礎的な思考力、言語運用能力、情報検索能力などのアカデミックスキルを習得してほしい。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	リテラシー入門Ⅰ	前期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	下地 賀代子	1年	授業終了後に、教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	1年生が大学生活へスムーズに移行できるよう、履修計画や仲間作りをサポートし、情報収集・整理力など、「アカデミック・スキル」の基礎を幅広く習得することを目的とする。合同ガイダンスや図書館オリエンテーションの実施、要約文・意見文・レポートの作成方法などの学びを重ね、「読む」「書く」「話す」「聞く」力を高め、日本文化学科における学びの基礎的能力の習得を目指す。	大学生活のスタートにあたり、大学で必要とされる「アカデミックスキル」を学ぶための基礎的な科目です！ この科目を受講することで、必要な文献を収集する力、まとめる力、大学で課されるレポートを作成する力を身に付けてください！
到達目標	習得したアカデミック・スキルを活かして、課題を作成することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・クラス開き	自己紹介を考える
	2	自己紹介	復習（自己紹介）
	3	大学入門①	復習（大学入門）
	4	図書館オリエンテーション	復習（図書館情報検索）
	5	大学入門②	復習（大学入門）
	6	要約文の書き方①	課題（要約文を書く）
	7	要約文の書き方②	課題（要約文を書く）
8	意見文の書き方①	課題（意見文を書く）	
9	意見文の書き方②	課題（意見文を書く）	
10	意見文の書き方③	課題（意見文を書く）	
11	こころの健康ガイダンス	課題（自己を見つめる）	
12	レポートの書き方（Wordでの作成法）	課題（レポートを書く）	
13	各ゼミごとの学習	課題	
14	キャリアガイダンス	課題（大学生活を見直す）	
15	まとめ・到達度の確認・夏休みの目標設定	課題（書評など）	
16	予備日		
実践	テキスト・参考文献・資料など ※1回目のオリエンテーションにて説明します。 参考文献：『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』橋本修ほか（2008）		
	学びの手立て ① 欠席する場合は必ず事前に連絡をすること。（無断欠席は厳禁） ② 欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は単位を与えません。 ③ 基本的に対面授業ですが、オンラインに切り替わる際には各クラスの担当教員の連絡に注意して下さい。		
	評価 授業の取り組み、提出物、出席状況などをもとにして総合的に判断します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目【上位科目】リテラシー入門Ⅱ（1年次・後期） アカデミック・ライティング（2年次・前期）ゼミナール入門（2年次・後期）ゼミ（3年次から） (2) 次のステージ リテラシー入門Ⅱでは、レジюмеを作成し、研究発表を行う。専門分野を学ぶ上で前提となる基礎的な思考力、言語運用能力、情報検索能力などのアカデミックスキルを習得してほしい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	リテラシー入門Ⅰ	前期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 千英子	1年	授業終了後に、教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	1年生が大学生活へスムーズに移行できるよう、履修計画や仲間作りをサポートし、情報収集・整理力など、「アカデミック・スキル」の基礎を幅広く習得することを目的とする。合同ガイダンスや図書館オリエンテーションの実施、要約文・意見文・レポートの作成方法などの学びを重ね、「読む」「書く」「話す」「聞く」力を高め、日本文化学科における学びの基礎的能力の習得を目指す。	大学生活のスタートにあたり、大学で必要とされる「アカデミックスキル」を学ぶための基礎的な科目です！ この科目を受講することで、必要な文献を収集する力、まとめる力、大学で課されるレポートを作成する力を身に付けてください！
到達目標	習得したアカデミック・スキルを活かして、課題を作成することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・クラス開き	自己紹介を考える
	2	自己紹介	復習（自己紹介）
	3	大学入門①	復習（大学入門）
	4	図書館オリエンテーション	復習（図書館情報検索）
	5	大学入門②	復習（大学入門）
	6	要約文の書き方①	課題（要約文を書く）
	7	要約文の書き方②	課題（要約文を書く）
8	意見文の書き方①	課題（意見文を書く）	
9	意見文の書き方②	課題（意見文を書く）	
10	意見文の書き方③	課題（意見文を書く）	
11	こころの健康ガイダンス	課題（自己を見つめる）	
12	レポートの書き方（Wordでの作成法）	課題（レポートを書く）	
13	各ゼミごとの学習	課題	
14	キャリアガイダンス	課題（大学生活を見直す）	
15	まとめ・到達度の確認・夏休みの目標設定	課題（書評など）	
16	予備日		
実践	テキスト・参考文献・資料など ※1回目のオリエンテーションにて説明します。 参考文献：『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』橋本修ほか（2008）		
	学びの手立て ① 欠席する場合は必ず事前に連絡をすること。（無断欠席は厳禁） ② 欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は単位を与えません。 ③ 基本的に対面授業ですが、オンラインに切り替わる際には各クラスの担当教員の連絡に注意して下さい。		
	評価 授業の取り組み、提出物、出席状況などをもとにして総合的に判断します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 （1）関連科目【上位科目】リテラシー入門Ⅱ（1年次・後期） アカデミック・ライティング（2年次・前期）ゼミナール入門（2年次・後期）ゼミ（3年次から） （2）次のステージ リテラシー入門Ⅱでは、レジюмеを作成し、研究発表を行う。専門分野を学ぶ上で前提となる基礎的な思考力、言語運用能力、情報検索能力などのアカデミックスキルを習得してほしい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	リテラシー入門Ⅰ	前期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	我部 大和	1年	h.gabu★okiu.ac.jp(我部大和)（1年次前期のアカデミック・アドバイザーです。）	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	1年生が大学生活へスムーズに移行できるよう、履修計画や仲間作りをサポートし、情報収集・整理力など、「アカデミック・スキル」の基礎を幅広く習得することを目的とする。合同ガイダンスや図書館オリエンテーションの実施、要約文・意見文・レポートの作成方法などの学びを重ね、「読む」「書く」「話す」「聞く」力を高め、日本文化学科における学びの基礎的能力の習得を目指す。	大学生活のスタートにあたり、大学で必要とされる「アカデミックスキル」を学ぶための基礎的な科目です！ この科目を受講することで、必要な文献を収集する力、まとめる力、大学で課されるレポートを作成する力を身に付けてください！
到達目標	習得したアカデミック・スキルを活かして、課題を作成することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・クラス開き	自己紹介を考える
	2	自己紹介	復習（自己紹介）
	3	大学入門①	復習（大学入門）
	4	図書館オリエンテーション	復習（図書館情報検索）
	5	大学入門②	復習（大学入門）
	6	要約文の書き方①	課題（要約文を書く）
	7	要約文の書き方②	課題（要約文を書く）
8	意見文の書き方①	課題（意見文を書く）	
9	意見文の書き方②	課題（意見文を書く）	
10	意見文の書き方③	課題（意見文を書く）	
11	こころの健康ガイダンス	課題（自己を見つめる）	
12	レポートの書き方（Wordでの作成法）	課題（レポートを書く）	
13	各ゼミごとの学習	課題	
14	キャリアガイダンス	課題（大学生活を見直す）	
15	まとめ・到達度の確認・夏休みの目標設定	課題（書評など）	
16	予備日		
実践	テキスト・参考文献・資料など ※1回目のオリエンテーションにて説明します。 参考文献：『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』橋本修ほか（2008）		
	学びの手立て ① 欠席する場合は必ず事前に連絡をすること。（無断欠席は厳禁） ② 欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は単位を与えません。 ③ 基本的に対面授業ですが、オンラインに切り替わる際には各クラスの担当教員の連絡に注意して下さい。		
	評価 授業の取り組み、提出物80%・出席状況20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	（1）関連科目【上位科目】リテラシー入門Ⅱ（1年次・後期） アカデミック・ライティング（2年次・前期）ゼミナール入門（2年次・後期）ゼミ（3年次から） （2）次のステージ リテラシー入門Ⅱでは、レジюмеを作成し、研究発表を行う。専門分野を学ぶ上で前提となる基礎的な思考力、言語運用能力、情報検索能力などのアカデミックスキルを習得してほしい。

※ポリシーとの関連性

学科カリキュラムポリシー1（各専門分野を学ぶ上で前提となるアカデミックスキルを習得するための「基礎科目」を設置）に関連。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	リテラシー入門Ⅱ	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	下地 賀代子	1年	授業終了後に、教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「リテラシー入門Ⅰ」での学習を発展させ、情報収集・整理力、分析力、思考力、批判力、発表力（プレゼンテーションスキル）、文章記述力などの「アカデミック・スキル」の習得を目的とする。環境問題やキャリアをテーマとする講座を実施するとともに、グループごとの研究発表を行い、各自が共に学び合うことの大切さを理解し、日本文化学に関する研究手法の基礎的能力の習得を目指す。	大学で必要とされる「アカデミックスキル」を学ぶための、基礎的な科目です。「リテラシー入門Ⅰ」の深化・発展科目として、文献の引用方法を学び、それを活かしたレジュメ作成、グループによる協同研究発表の力を身につけて下さい。
到達目標	課題に即したレジュメ・パワーポイントを、文献を元に作成し、発表することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	クラス開き・受講者の確認・教員紹介	テーマを考える
	2	研究発表の方法・テーマ、グループの決定	テーマに関する文献調べ
	3	レジュメの書き方・まとめ方	テーマに関する文献調べ
	4	文章の引用方法、著作権	引用箇所を決める
	5	プレゼンセミナー	プレゼン方法の復習
	6	環境意識を育てるためのガイダンス	レジュメ作成の準備
	7	研究発表の方法・テーマの提示、グループの決定	レジュメ・PowerPoint作成
	8	研究発表の見本（模擬発表）・PowerPointの作成方法	レジュメ・PowerPoint作成
	9	グループ研究発表①	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	10	グループ研究発表②	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	11	グループ研究発表③	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	12	グループ研究発表④	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	13	グループ研究発表⑤	レジュメ・パワポ作成、振り返り
14	キャリアガイダンス	ワークシート（感想）	
15	まとめ・到達度の確認・春休みの目標設定	授業の振り返り	
16	予備日		
テキスト・参考文献・資料など			
※1回目のオリエンテーションにて説明します。 参考文献：『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』橋本修ほか、三省堂（2008） 『大学生のための日本語表現トレーニング ドリル編』安部朋世ほか、三省堂（2010）			
学びの手立て			
① 欠席する場合は必ず事前に連絡をすること。（無断欠席は厳禁） ② 欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は単位を与えません。 ③ 基本的に対面授業ですが、オンラインに切り替わる際には各クラスの担当教員の連絡に注意して下さい。			
評価			
授業への取り組み、提出物、発表内容、出席状況などをもとにして総合的に判断します。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 （1）関連科目【上位科目】アカデミック・ライティング（2年次・前期）ゼミナール入門（2年次・後期）ゼミ（3年次から）（2）次のステージ アカデミック・ライティングでは、文章表現法や調査分析方法を学び、レポート報告を行う。各専門分野を学ぶ上で前提となる基礎的な思考力、言語運用能力、情報検索能力などのアカデミックスキルを習得してほしい。
-------	--

※ポリシーとの関連性

学科カリキュラムポリシー1（各専門分野を学ぶ上で前提となるアカデミックスキルを習得するための「基礎科目」を設置）に関連。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	リテラシー入門Ⅱ	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 千英子	1年	授業終了後に、教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「リテラシー入門Ⅰ」での学習を発展させ、情報収集・整理力、分析力、思考力、批判力、発表力（プレゼンテーションスキル）、文章記述力などの「アカデミック・スキル」の習得を目的とする。環境問題やキャリアをテーマとする講座を実施するとともに、グループごとの研究発表を行い、各自が共に学び合うことの大切さを理解し、日本文化学に関する研究手法の基礎的能力の習得を目指す。	大学で必要とされる「アカデミックスキル」を学ぶための、基礎的な科目です。「リテラシー入門Ⅰ」の深化・発展科目として、文献の引用方法を学び、それを活かしたレジュメ作成、グループによる協同研究発表の力を身につけて下さい。
到達目標	課題に即したレジュメ・パワーポイントを、文献を元に作成し、発表することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	クラス開き・受講者の確認・教員紹介	テーマを考える
	2	研究発表の方法・テーマ、グループの決定	テーマに関する文献調べ
	3	レジュメの書き方・まとめ方	テーマに関する文献調べ
	4	文章の引用方法、著作権	引用箇所を決める
	5	プレゼンセミナー	プレゼン方法の復習
	6	環境意識を育てるためのガイダンス	レジュメ作成の準備
	7	研究発表の方法・テーマの提示、グループの決定	レジュメ・PowerPoint作成
	8	研究発表の見本（模擬発表）・PowerPointの作成方法	レジュメ・PowerPoint作成
	9	グループ研究発表①	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	10	グループ研究発表②	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	11	グループ研究発表③	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	12	グループ研究発表④	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	13	グループ研究発表⑤	レジュメ・パワポ作成、振り返り
14	キャリアガイダンス	ワークシート（感想）	
15	まとめ・到達度の確認・春休みの目標設定	授業の振り返り	
16	予備日		
テキスト・参考文献・資料など			
※1回目のオリエンテーションにて説明します。 参考文献：『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』橋本修ほか、三省堂（2008） 『大学生のための日本語表現トレーニング ドリル編』安部朋世ほか、三省堂（2010）			
学びの手立て			
① 欠席する場合は必ず事前に連絡をすること。（無断欠席は厳禁） ② 欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は単位を与えません。 ③ 基本的に対面授業ですが、オンラインに切り替わる際には各クラスの担当教員の連絡に注意して下さい。			
評価			
授業への取り組み、提出物、発表内容、出席状況などをもとにして総合的に判断します。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 （1）関連科目【上位科目】アカデミック・ライティング（2年次・前期）ゼミナール入門（2年次・後期）ゼミ（3年次から）（2）次のステージ アカデミック・ライティングでは、文章表現法や調査分析方法を学び、レポート報告を行う。各専門分野を学ぶ上で前提となる基礎的な思考力、言語運用能力、情報検索能力などのアカデミックスキルを習得してほしい。
-------	--

※ポリシーとの関連性

学科カリキュラムポリシー1（各専門分野を学ぶ上で前提となるアカデミックスキルを習得するための「基礎科目」を設置）に関連。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	リテラシー入門Ⅱ	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	我部 大和	1年	h.gabu★okiu.ac.jp(我部大和) (1年次後期のアカデミック・アドバイザーです。)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「リテラシー入門Ⅰ」での学習を発展させ、情報収集・整理力、分析力、思考力、批判力、発表力（プレゼンテーションスキル）、文章記述力などの「アカデミック・スキル」の習得を目的とする。環境問題やキャリアをテーマとする講座を実施するとともに、グループごとの研究発表を行い、各自が共に学び合うことの大切さを理解し、日本文化学に関する研究手法の基礎的能力の習得を目指す。	大学で必要とされる「アカデミックスキル」を学ぶための、基礎的な科目です。「リテラシー入門Ⅰ」の深化・発展科目として、文献の引用方法を学び、それを活かしたレジュメ作成、グループによる協同研究発表の力を身につけて下さい。
到達目標	課題に即したレジュメ・パワーポイントを、文献を元に作成し、発表することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	クラス開き・受講者の確認・教員紹介	テーマを考える
	2	研究発表の方法・テーマ、グループの決定	テーマに関する文献調べ
	3	レジュメの書き方・まとめ方	テーマに関する文献調べ
	4	文章の引用方法、著作権	引用箇所を決める
	5	プレゼンセミナー	プレゼン方法の復習
	6	環境意識を育てるためのガイダンス	レジュメ作成の準備
	7	研究発表の方法・テーマの提示、グループの決定	レジュメ・PowerPoint作成
	8	研究発表の見本（模擬発表）・PowerPointの作成方法	レジュメ・PowerPoint作成
	9	グループ研究発表①	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	10	グループ研究発表②	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	11	グループ研究発表③	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	12	グループ研究発表④	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	13	グループ研究発表⑤	レジュメ・パワポ作成、振り返り
14	キャリアガイダンス	ワークシート（感想）	
15	まとめ・到達度の確認・春休みの目標設定	授業の振り返り	
16	予備日		
テキスト・参考文献・資料など			
※1回目のオリエンテーションにて説明します。 参考文献：『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』橋本修ほか、三省堂（2008） 『大学生のための日本語表現トレーニング ドリル編』安部朋世ほか、三省堂（2010）			
学びの手立て			
① 欠席する場合は必ず事前に連絡をすること。（無断欠席は厳禁） ② 欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は単位を与えません。 ③ 基本的に対面授業ですが、オンラインに切り替わる際には各クラスの担当教員の連絡に注意して下さい。			
評価			
授業への取り組み、提出物80%・平常点20%			

学びの継続	次のステージ・関連科目 （1）関連科目【上位科目】アカデミック・ライティング（2年次・前期）ゼミナール入門（2年次・後期）ゼミ（3年次から）（2）次のステージ アカデミック・ライティングでは、文章表現法や調査分析方法を学び、レポート報告を行う。各専門分野を学ぶ上で前提となる基礎的な思考力、言語運用能力、情報検索能力などのアカデミックスキルを習得してほしい。
-------	--

※ポリシーとの関連性

学科カリキュラムポリシー1（各専門分野を学ぶ上で前提となるアカデミックスキルを習得するための「基礎科目」を設置）に関連。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	リテラシー入門Ⅱ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安 志那	1年	授業終了後に、教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「リテラシー入門Ⅰ」での学習を発展させ、情報収集・整理力、分析力、思考力、批判力、発表力（プレゼンテーションスキル）、文章記述力などの「アカデミック・スキル」の習得を目的とする。環境問題やキャリアをテーマとする講座を実施するとともに、グループごとの研究発表を行い、各自が共に学び合うことの大切さを理解し、日本文化学に関する研究手法の基礎的能力の習得を目指す。	大学で必要とされる「アカデミックスキル」を学ぶための、基礎的な科目です。「リテラシー入門Ⅰ」の深化・発展科目として、文献の引用方法を学び、それを活かしたレジュメ作成、グループによる協同研究発表の力を身につけて下さい。
到達目標	課題に即したレジュメ・パワーポイントを、文献を元に作成し、発表することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	クラス開き・受講者の確認・教員紹介	テーマを考える
	2	研究発表の方法・テーマ、グループの決定	テーマに関する文献調べ
	3	レジュメの書き方・まとめ方	テーマに関する文献調べ
	4	文章の引用方法、著作権	引用箇所を決める
	5	プレゼンセミナー	プレゼン方法の復習
	6	環境意識を育てるためのガイダンス	レジュメ作成の準備
	7	研究発表の方法・テーマの提示、グループの決定	レジュメ・PowerPoint作成
	8	研究発表の見本（模擬発表）・PowerPointの作成方法	レジュメ・PowerPoint作成
	9	グループ研究発表①	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	10	グループ研究発表②	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	11	グループ研究発表③	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	12	グループ研究発表④	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	13	グループ研究発表⑤	レジュメ・パワポ作成、振り返り
14	キャリアガイダンス	ワークシート（感想）	
15	まとめ・到達度の確認・春休みの目標設定	授業の振り返り	
16	予備日		
テキスト・参考文献・資料など			
※1回目のオリエンテーションにて説明します。 参考文献：『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』橋本修ほか、三省堂（2008） 『大学生のための日本語表現トレーニング ドリル編』安部朋世ほか、三省堂（2010）			
学びの手立て			
① 欠席する場合は必ず事前に連絡をすること。（無断欠席は厳禁） ② 欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は単位を与えません。 ③ 基本的に対面授業ですが、オンラインに切り替わる際には各クラスの担当教員の連絡に注意して下さい。			
評価			
授業の取り組み、提出物80%・平常点20%			

学びの継続	次のステージ・関連科目 （1）関連科目【上位科目】アカデミック・ライティング（2年次・前期）ゼミナール入門（2年次・後期）ゼミ（3年次から）（2）次のステージ アカデミック・ライティングでは、文章表現法や調査分析方法を学び、レポート報告を行う。各専門分野を学ぶ上で前提となる基礎的な思考力、言語運用能力、情報検索能力などのアカデミックスキルを習得してほしい。
-------	--



※ポリシーとの関連性

学科カリキュラムポリシー1（各専門分野を学ぶ上で前提となるアカデミックスキルを習得するための「基礎科目」を設置）に関連。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	リテラシー入門Ⅱ	後期	水 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	葛綿 正一	1年	授業終了後に、教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「リテラシー入門Ⅰ」での学習を発展させ、情報収集・整理力、分析力、思考力、批判力、発表力（プレゼンテーションスキル）、文章記述力などの「アカデミック・スキル」の習得を目的とする。環境問題やキャリアをテーマとする講座を実施するとともに、グループごとの研究発表を行い、各自が共に学び合うことの大切さを理解し、日本文化学に関する研究手法の基礎的能力の習得を目指す。	大学で必要とされる「アカデミックスキル」を学ぶための、基礎的な科目です。「リテラシー入門Ⅰ」の深化・発展科目として、文献の引用方法を学び、それを活かしたレジュメ作成、グループによる協同研究発表の力を身につけて下さい。
到達目標	課題に即したレジュメ・パワーポイントを、文献を元に作成し、発表することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	クラス開き・受講者の確認・教員紹介	テーマを考える
	2	研究発表の方法・テーマ、グループの決定	テーマに関する文献調べ
	3	レジュメの書き方・まとめ方	テーマに関する文献調べ
	4	文章の引用方法、著作権	引用箇所を決める
	5	プレゼンセミナー	プレゼン方法の復習
	6	環境意識を育てるためのガイダンス	レジュメ作成の準備
	7	研究発表の方法・テーマの提示、グループの決定	レジュメ・PowerPoint作成
	8	研究発表の見本（模擬発表）・PowerPointの作成方法	レジュメ・PowerPoint作成
	9	グループ研究発表①	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	10	グループ研究発表②	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	11	グループ研究発表③	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	12	グループ研究発表④	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	13	グループ研究発表⑤	レジュメ・パワポ作成、振り返り
14	キャリアガイダンス	ワークシート（感想）	
15	まとめ・到達度の確認・春休みの目標設定	授業の振り返り	
16	予備日		
実践	テキスト・参考文献・資料など ※1回目のオリエンテーションにて説明します。 参考文献：『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』橋本修ほか、三省堂（2008） 『大学生のための日本語表現トレーニング ドリル編』安部朋世ほか、三省堂（2010）		
学びの手立て	① 欠席する場合は必ず事前に連絡をすること。（無断欠席は厳禁） ② 欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は単位を与えません。 ③ 基本的に対面授業ですが、オンラインに切り替わる際には各クラスの担当教員の連絡に注意して下さい。		
評価	授業への取り組み、提出物80%。平常点20%。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 （1）関連科目【上位科目】アカデミック・ライティング（2年次・前期）ゼミナール入門（2年次・後期）ゼミ（3年次から）（2）次のステージ アカデミック・ライティングでは、文章表現法や調査分析方法を学び、レポート報告を行う。各専門分野を学ぶ上で前提となる基礎的な思考力、言語運用能力、情報検索能力などのアカデミックスキルを習得してほしい。
-------	--

※ポリシーとの関連性

学科カリキュラムポリシー1（各専門分野を学ぶ上で前提となるアカデミックスキルを習得するための「基礎科目」を設置）に関連。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	リテラシー入門Ⅱ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	1年	ytaba@okiu.ac.jp（田場裕規）1年次後期のアカデミック・アドバイザーです。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	「リテラシー入門Ⅰ」での学習を発展させ、情報収集・整理力、分析力、思考力、批判力、発表力（プレゼンテーションスキル）、文章記述力などの「アカデミック・スキル」の習得を目的とする。環境問題やキャリアをテーマとする講座を実施するとともに、グループごとの研究発表を行い、各自が共に学び合うことの大切さを理解し、日本文化学に関する研究手法の基礎的能力の習得を目指す。	大学で必要とされる「アカデミックスキル」を学ぶための、基礎的な科目です。「リテラシー入門Ⅰ」の深化・発展科目として、文献の引用方法を学び、それを活かしたレジュメ作成、グループによる協同研究発表の力を身につけて下さい。
到達目標	課題に即したレジュメ・パワーポイントを、文献を元に作成し、発表することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	クラス開き・受講者の確認・教員紹介	テーマを考える
	2	研究発表の方法・テーマ、グループの決定	テーマに関する文献調べ
	3	レジュメの書き方・まとめ方	テーマに関する文献調べ
	4	文章の引用方法、著作権	引用箇所を決める
	5	プレゼンセミナー	プレゼン方法の復習
	6	環境意識を育てるためのガイダンス	レジュメ作成の準備
	7	研究発表の方法・テーマの提示、グループの決定	レジュメ・PowerPoint作成
	8	研究発表の見本（模擬発表）・PowerPointの作成方法	レジュメ・PowerPoint作成
	9	グループ研究発表①	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	10	グループ研究発表②	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	11	グループ研究発表③	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	12	グループ研究発表④	レジュメ・パワポ作成、振り返り
	13	グループ研究発表⑤	レジュメ・パワポ作成、振り返り
14	キャリアガイダンス	ワークシート（感想）	
15	まとめ・到達度の確認・春休みの目標設定	授業の振り返り	
16	予備日		
テキスト・参考文献・資料など			
※1回目のオリエンテーションにて説明します。 参考文献：『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』橋本修ほか、三省堂（2008） 『大学生のための日本語表現トレーニング ドリル編』安部朋世ほか、三省堂（2010）			
学びの手立て			
① 欠席する場合は必ず事前に連絡をすること。（無断欠席は厳禁） ② 欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合は単位を与えません。 ③ 基本的に対面授業ですが、オンラインに切り替わる際には各クラスの担当教員の連絡に注意して下さい。			
評価			
授業への取り組み、提出物、発表内容、出席状況などをもとにして総合的に判断します。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 （1）関連科目【上位科目】アカデミック・ライティング（2年次・前期）ゼミナール入門（2年次・後期）ゼミ（3年次から）（2）次のステージ アカデミック・ライティングでは、文章表現法や調査分析方法を学び、レポート報告を行う。各専門分野を学ぶ上で前提となる基礎的な思考力、言語運用能力、情報検索能力などのアカデミックスキルを習得してほしい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	琉球芸能史	後期	水 1	2
	担当者 我部 大和	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	h.gabu★okiu.ac.jp (★を@に変更してください)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では、現在も継承されている地域の祭祀芸能から始まり、おもろやキューナなどの歌謡などにみられる古琉球の芸能、薩摩侵攻以降の江戸立や組踊成立以降の近世琉球の演劇や舞踊、琉球処分以降の商業演劇にみられる方言せりふ劇や雑踊り、沖縄戦以降から現代に至る芸能の状況などを通史的に紐解いていき、外交・内政などの「歴史」と「芸能」が如何に関わったのかなどを考える。	琉球芸能は様々なジャンルが形成されています。本講義では歴史史料や関連文献、研究論文などを通して、琉球芸能が生まれた歴史的背景などを講義します。また、琉球芸能について琉球・沖縄が歩んだ「歴史」を踏まえながら、琉球芸能の「過去・現在」を見据え、「未来」に如何につなぐかを多角的に考えながら議論していきましょう。
	到達目標	
	①琉球・沖縄の芸能について琉球・沖縄史の歴史的背景を踏まえながら体系的に理解できるようになる。 ②琉球・沖縄の芸能について歴史史料・文献、研究論文を踏まえながら考察することが出来る。 ③琉球・沖縄の芸能について歴史史料・文献、研究論文を踏まえながら、自らの言葉で表現できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション及び琉球芸能史の概説	琉球史と琉球芸能について調べよう
	2	沖縄の祭祀芸能①(祭祀歌謡)	歌謡に関連する祭祀を調べよう
	3	沖縄の祭祀芸能②(イザイホーで歌われる歌謡)	イザイホーを調べよう
	4	古琉球の芸能①(異国・異域のオモロと継承されているオモロ)	オモロについて調べよう
	5	古琉球の芸能②(組踊以前の冠船芸能)	冊封使録(訳注本)で調べてみよう
	6	近世琉球の芸能①(江戸立と琉球音楽)	羽踊・組踊について調べよう
	7	近世琉球の芸能②(江戸立と端踊・組踊)	冊封儀礼について調べてみよう
	8	中間試験	これまでの講義の整理
	9	近世琉球の芸能③(冊封儀礼のなかの組踊)	「冠船躍方日記」について調べよう
	10	近世琉球の芸能④(王国末期の冠船芸能の準備過程)	近代沖縄史について調べよう
	11	近代沖縄の芸能①(琉球処分から市井の芸能へ)	芝居小屋の芸能について調べよう
	12	近代沖縄の芸能②(移民と琉球芸能)	戦時中の沖縄芸能の状況を調べよう
	13	近・現代沖縄の芸能(戦時下の沖縄と芸能/沖縄諮詢会と琉球芸能)	終戦直後の劇団について調べよう
14	現代沖縄の芸能(本土復帰後と琉球芸能)	琉球芸能の復興について調べよう	
15	総括—琉球芸能のこれまでとこれから—	これまでの講義の整理をしよう	
16		試験の準備	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	テキスト：講義はパワーポイントに基づいて進める。適宜、資料などを配付します。パワーポイントの内容に関しては配付せず、毎回講義の内容や質問を書くためのメモを用意する。全てのジャンルを含んでいる訳ではありませんが、下記の参考書も参照して学んでください。  参考書：大城學『沖縄芸能史概論』砂子屋書房、2000年。講義中にも参考文献を適宜紹介します。

学びの実践	学びの手立て
	①「履修の心構え」 ・欠席回数が授業回数の3分の1を超えた場合、単位は認めません。 ・講義終了後、リアクションペーパーを提出してもらった上で出席とします。 ・リアクションペーパーの記入内容も評価の対象です。 ②「学びを深めるために」 ・本講義は理解度が重要です。講義中に疑問点や不明な点に関して、終了後に質問するか講義メモに書いてください。次回講義中あるいはリアクションペーパー内などで回答します。積極的に琉球・沖縄の歴史・民俗・言語など多角的に学んでほしいです。

学びの実践	評価
	・授業参加や発表(40%) (RPの記入内容や質問事項など) 主に到達目標①・②に対する評価 ・中間試験(20%) 主に到達目標③に対する評価 ・期末レポート(40%) 主に到達目標③に対する評価

学びの継続	次のステージ・関連科目
	・琉球文学について学びたい方は「琉球文学概論」(「琉球芸能史」と同時履修をおすすめします!) ・おもろについて深く学びたい方は「琉球文学を読む」 ・組踊について深く学びたい方は「琉球文学特講Ⅰ・Ⅱ」

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	琉球語会話Ⅰ	前期	木2	2
	担当者 -仲原 穰	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	授業終了後に教室で受け付けるほか、Teamsの個人用チャットでも質問に答えます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>琉球語の一つ、沖縄語を中心にテキストと補助プリントを用いて学んでいく。発音の訓練や練習問題などを解きながら沖縄語に慣れ親しみ地域の高年層との会話ができる基礎を身につける。なお、沖縄語の具体例として首里方言をとりあげるが、他の琉球語についても折に触れて紹介する。</p>	<p>琉球語は危機的状況に陥っている。しかし、世界の危機言語のなかには、教育をはじめとする様々な取り組みにより、危機を脱した実例がある。本講義で沖縄語の基礎を身につけると高年層のことばをある程度聞き取れるようになり、家庭や地域で本格的に習得する土台作りにはしてほしい。</p>
	到達目標	
	<p>1. 琉球語、なかでも沖縄語に関する知識を習得し、発音の特徴や文の作り方を他人へ説明できる力を身につける。                  2. 沖縄語で話された高年層の会話を6割程度は理解することができる。                  3. 自己紹介や簡単なあいさつ文、使って覚える文などを覚えて使用することができる。                  4. 単語を覚え、発音の特徴や文の作り方を身につけることにより、単文を作れるようになる。                  ※なお、遠隔での特例授業が続く場合は2の「理解度」を5割程度に下げ、授業計画も教科書の5課までに進度をゆるめる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	シラバスの確認／琉球語とは一名称・範囲・下位区分・現状―／世界の危機言語のとりくみ	シラバスとプリントを読み返す
	2	ハ行音の歴史―日本語と琉球語―／琉球語の多様性／単語、文の読み比べ	プリントを読み、文章を覚える
	3	三母音の原則【第1課】／沖縄語の挨拶文化	教科書プリントを読み、問題を解く
	4	母音連続の変化と子音の口蓋化①【第1課】	教科書プリントを読み、問題を解く
	5	助詞「～が」の区別と代名詞【第1課】／1拍語の特徴【第2課】	教科書プリントを読み、問題を解く
	6	サ形容詞①（終止形、連体形、ヌ形）と動詞①（終止形）【第2課】	教科書プリントを読み、問題を解く
	7	動詞②（否定形、命令形、禁止形）とラ行動詞の禁止形【第2課】	教科書プリントを読み、問題を解く
	8	語中「～り」、「イとイイ、ウとウウ」の区別、助詞「ヤ」の音変化【第3課】	教科書プリントを読み、問題を解く
	9	動詞③（連体形と終止形〔復習〕）、係り結び①、助詞「～を」【第4課】	教科書プリントを読み、問題を解く
	10	助詞「～に」、動詞④（志向形、勧誘表現）、疑問文の作り方【第4課】	教科書プリントを読み、問題を解く
	11	声門閉鎖音による単語の区別、aとalに挟まれた子音wの変化【第5課】	教科書プリントを読み、問題を解く
	12	「ヤン」と「ヤイピン」、サ形容詞②（丁寧形）、動詞⑤（連用形）【第5課】	教科書プリントを読み、問題を解く
	13	動詞⑤（尾略形【第5課】）、テ形、依頼表現【第6課】	教科書プリントを読み、問題を解く
	14	動詞⑥（過去形、継続形）、サ形容詞③（過去形）【第6課】	教科書プリントを読み、問題を解く
15	ナ形容詞の活用、助詞「～で」、助詞「ナー」、人称代名詞【第6課】／これまでのまとめ	教科書と配布した全プリントで復習	
16	期末試験		

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>教科書（テキスト） 『沖縄語の入門（CD付改訂版）―たのしいウチナーグチ―』 西岡敏・仲原穰〔著〕、中島由美・伊狩典子〔協力〕（白水社、2006〔2000〕年）</p> <p>参考文献                  『沖縄語辞典』国立国語研究所〔編〕（大蔵省印刷局 1963年）                  『初級 沖縄語』花園悟〔著〕、国吉朝政〔協力〕、西岡敏・仲原穰〔監修〕（研究社 2020年）                  『沖縄語辞典―那覇方言を中心に―』内間直仁・野原三義編〔編著〕（研究社 2006年）</p>
----	--

学びの手立て	<p>この講義は半期という短い期間で琉球語（特に沖縄語）の基礎について週1回の講義で学ぶ（他の語学では週2回講義が基本）。よって、1回の講義内容で多くのことを学ぶため、欠席すると講義について行けなくなる可能性もある。体調不良など、やむを得ない場合を除き、できるだけ毎回出席してほしい。また、高年層のことばは、現代の若年層のことばとかなり異なっており、普段身の回りで話したり聞いたりしていることばだから簡単だろうなどとは思わずに「第2外国語を習得するぐらいの気持ち」で受講するとよい。</p> <p>なお、プリントは毎時間配布するので、配られた順にファイリングし、毎時間持参してほしい。</p>
--------	--

評価	<p>期末試験（75%）＋授業への参加度（コメント・シートの提出）（25%）によって評価する。（コメント・シートについては、授業後、48時間以内を目安にwebで提出してもらう）                  ※授業日数の3分の1以上の欠席がある場合は、単位を取得できない。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本講義受講後は「琉球語会話Ⅱ」を受講することを勧める。「琉球語会話Ⅰ」だけでは、入門～初級レベルの内容だが、「琉球語会話Ⅱ」まで学ぶと中級レベルまで学ぶことができる。                  「琉球語会話Ⅱ」は「琉球語会話Ⅰ」で身につけた内容の確認（復習）を行った後、教科書『沖縄語の入門』の第7課以降について学びを進める。また、生活に必要な単語や長文（特に民話など）なども取り扱う。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	琉球語会話Ⅱ	期別	曜日・時限	単位
	担当者	-仲原 穰	後期	木2	2
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	授業終了後に教室で受け付けるほか、Teamsの個人用チャットでも質問に答えます。	

学びの準備	ねらい	前期に引き続き、琉球語の一つ、沖縄語を中心にテキストと補助プリントを用いて学んでいく。「琉球語会話Ⅰ」で学んだ発音の特徴や文の作り方を定着させ、更に「敬意表現」や「複雑な表現」など、新たに学ぶ内容の発音練習や練習問題に取り組み、高年層との会話ができる基礎を身につける。なお、沖縄語の例として首里方言をとりあげるが、必要があれば他の琉球語も適宜紹介する。	メッセージ	琉球語は危機的状況に陥っている。しかし、世界の危機言語のなかには、教育をはじめとする様々な取り組みにより、危機を脱した実例がある。本講義で沖縄語の基礎を確認し、応用まで学び、高年層のことばの多くを聞き取れるようになってほしい。また、家庭や地域で本格的に習得するための土台作りと捉え、受講生それぞれの「しまくとぅば」を学ぶ素地としてほしい。
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 琉球語、なかでも沖縄語に関する知識を習得し、発音の特徴や文の作り方を他人へ説明できる力を身につける。</li> <li>2. 沖縄語で話された高年層の会話を8割程度は理解することができる。</li> <li>3. 高年層の話す内容を理解し、簡単な会話のキャッチボールをすることができる。</li> <li>4. 発音の特徴や会話文の作り方、生活に必要な単語、長文読解力を身につける。</li> <li>5. 自己紹介や昔話など、短めの文章を覚え、一人語りができるようになる。</li> </ol>		

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義概要、基礎の確認①（琉球語会話Ⅰのふりかえり・前半）	プリントを読み、問題を解き直す
	2	基礎の確認②（琉球語会話Ⅰのふりかえり・後半）	プリントを読み、問題を解き直す
	3	動詞①（丁寧形）【第7課】／単語①（身体語彙）	教科書プリントを読み、問題を解く
	4	動詞②（アンとウン、継続形の丁寧形、アーニ形）【第7課】／単語①の確認	教科書プリントを読み、問題を解く
	5	条件文【第7課】、動詞③（不規則動詞、継続・過去形）【第8課】／単語②（数詞）	教科書プリントを読み、問題を解く
	6	動詞④（第2過去形、決意表明）、助詞「〜で」【第8課】／単語②の確認	教科書プリントを読み、問題を解く
	7	促音で始まる単語【第8課】、単語③（親族語彙、人間関係）【第9課】／民話①	教科書プリントを読み、問題を解く
	8	「〜の」、年中行事と祖先崇拝【第9課】／単語③の確認	教科書プリントを読み、問題を解く
	9	サ形容詞①（否定形）【第10課】／単語④（時間・季節、空間）	教科書プリントを読み、問題を解く
	10	動詞④（継続・否定形）、「〜しに」「〜すると」【第10課】／単語④の確認／民話②	教科書プリントを読み、問題を解く
	11	受身文と使役文【第10課】／単語⑤（住居）／民話③	教科書プリントを読み、問題を解く
	12	数量文（動詞⑤推量形）、助動詞【第10課】／単語⑤の確認／民話④	教科書プリントを読み、問題を解く
	13	敬語①（尊敬語）、助詞「カイ」「カラ」【第11課】／単語⑥（衣服）／民話⑤	教科書プリントを読み、問題を解く
	14	沖縄語と日本語のmとnの関係、敬語②（謙譲語）【第12課】／単語⑥の確認／民話⑥	教科書プリントを読み、問題を解く
15	これまでのまとめ	教科書と配布した全プリントを復習	
16	期末試験		

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>教科書（テキスト） 『沖縄語の入門（CD付改訂版）—たのしいウチナーグチ—』 西岡敏・仲原穰[著]、中島由美・伊狩典子[協力]（白水社、2006[2000]年）</p> <p>参考文献          『沖縄語辞典』国立国語研究所[編]（大蔵省印刷局 1963年）          『初級 沖縄語』花園悟[著]、国吉朝政[協力]、西岡敏・仲原穰[監修]（研究社 2020年）          『沖縄語辞典—那覇方言を中心に—』内間直仁・野原三義編[編著]（研究社 2006年）</p>
----	--

学びの手立て	<p>この講義は半期という短い期間で琉球語（特に沖縄語）の基礎～応用について週1回の講義で学ぶ（他の語学では週2回講義が基本）。よって、1回の講義内容で多くのことを学ぶことになる。そのため、欠席すると講義について行けなくなる可能性もある。体調不良など、やむを得ない場合を除き、できるだけ毎回出席してほしい。また、高年層のことばは、現代の若年層のことばとかなり異なっており、普段身の回りで話したり聞いたりしていることばだから簡単だろうなどとは思わずに「第2外国語を習得するぐらいの気持ち」で受講するとよい。なお、プリントは毎時間配布するので、配られた順にファイリングし、毎時間持参してほしい。</p>
--------	---

評価	<p>期末試験（75%）＋授業への参加度（コメント・シートの提出）（25%）によって評価する。（コメント・シートについては、授業後、48時間以内を目安にwebで提出してもらう）          ※授業日数の3分の1以上の欠席がある場合は、単位を取得できない。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本講義は「琉球語会話Ⅰ」や沖縄関連科目群「沖縄の言語」の後継にあたる講義であるため、「琉球語会話Ⅰ」あるいは「沖縄の言語」の単位取得後に受講してほしい。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	琉球語学概論	前期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	下地 賀代子	2年	5-401(研究室) kshimoji@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業では、琉球各地の方言—奄美、沖縄北部、沖縄南部、宮古、八重山—をその地域ごとに概説していきます。講義の後半では、近年メディアでも話題とされている「危機言語」の問題について取りあげ、グループディスカッションとプレゼンテーションを行います。琉球語をとりまく現状を知り、その継承の必要性や問題点、可能性について考えていきましょう。	今私たちの暮らしている「沖縄・琉球」のことばのことをどのくらい知っていますか。琉球語（琉球方言）はとても多様な言語です。で講義内容も広範囲になります。興味と意欲と問題意識をもって、積極的な姿勢で受講してほしいと思います。
到達目標	”・「琉球語」「沖縄方言」「ウチナーグチ」といった各”術語”の定義について適切に説明できる。 ・琉球各地の方言（琉球語の下位方言）について、それぞれの言語的特徴、違いを理解している。 ・琉球語のおかれている「危機」について現状を把握し、自らの意見を述べるができる。”	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、授業の進め方について	シラバスを読み授業に備える
	2	琉球語とは—方言と言語—	授業の復習（資料）
	3	奄美のことば	授業の復習（資料）
	4	沖縄のことば(1)—北部	授業の復習（資料）
	5	沖縄のことば(2)—中南部(1)	授業の復習（資料）
	6	沖縄のことば(3)—中南部(2)	授業の復習（資料）
	7	宮古のことば(1)	授業の復習（資料）
8	宮古のことば(2)—多良間方言	授業の復習（資料）	
9	八重山のことば	授業の復習と中間レポート資料収集	
10	与那国のことば、グループワークについて	授業の復習とレポートの作成	
11	危機言語とは：「危機に瀕した」琉球語、レポート提出	ディスカッションの事前リサーチ	
12	琉球語をとりまく諸問題(1)：概説	振り返りと補足リサーチ	
13	琉球語をとりまく諸問題(2)：ディスカッション1	まとめとプレゼン資料の作成	
14	琉球語をとりまく諸問題(3)：ディスカッション2	まとめとプレゼン資料の作成	
15	琉球語をとりまく諸問題(4)：プレゼンテーション	試験範囲の復習	
16	期末試験	試験の振り返り	
テキスト・参考文献・資料など	テキスト・参考文献・資料など ・テキストは使用しません。講義内において資料を配布します。 ・参考文献（ほんの一部です） 中本正智1981『図説琉球語辞典』力富書房、岡村隆博2007『奄美方言』南方新社、名護市史編さん委員会編2006『名護市史本編10 言語』、西岡敏・仲原穰（2006 [2000]）『沖縄語の入門（CD付き改訂版）』白水社、野原三義2005『うちなあぐちへの招待』沖縄タイムス社、平山輝男他1967『琉球先島方言の総合的研究』明治書院、呉人恵[編]（2011）『日本の危機言語—言語・方言の多様性と独自性』北海道大学出版会、など		
学びの手立て	【履修の心構え】 ・出席日数が講義全体（15回）の3分の2に満たない場合、原則として単位を認めません。 【履修上の注意事項】 ・この科目では「GoogleClassroom」も用います（初回にクラス登録を行います）。具体的な授業の進め方については初回のガイダンスで説明します。 【学びを深めるために】 ・事前に参考文献に目を通しておくと講義への理解が深まります。		
評価	期末試験30%、中間レポート30%、リフレクションシート・課題20%、グループワーク10%、平常点10%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 琉球語についてさらに深く学んでいきたい人へ。 関連科目：「琉球語会話Ⅰ・Ⅱ」「琉球語学特講Ⅰ・Ⅱ」
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	琉球語学特講 I	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-狩俣 繁久	3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい この授業では「今日は何を食べるの」「明日も海に行く」等の簡単な日本語の例文を両親祖父母、隣近所のおじさん、おばさんに方言に翻訳してもらい1回1時間の4回程度の調査を行った結果発表し、質疑応答の結果を踏まえてレポートとして提出します。このレポートを基に後期ではシマクトゥバ継承のための初歩的なテキスト作りを行います。	メッセージ 指定された日本語の例文の調査を通して琉球語と日本語との違いを学び、さらにそれを活用してシマクトゥバを継承するためのテキスト作りの基礎を学ぶ。受講生の活動が消滅の危機に瀕しているといわれる琉球各地のシマクトゥバを継承させられる可能性をもっていることを考えてもらいた
	到達目標 ・「琉球語」の定義を正確に説明することができる。 ・シマクトゥバの音声や文法の基礎を身に付ける。 ・シマクトゥバを調査し、その成果をまとめ、入門的なテキスト作りの方法を身に付ける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、レポートの課題について	シラバスを読み授業に備える
	2	琉球語概説（1）琉球諸語の多様性	授業の復習
	3	琉球語概説（2）消滅の危機に瀕する琉球諸語	同上
	4	琉球語概説（3）シマクトゥバという概念	同上
	5	調査票の解説（1）調査票のねらい	調査地点の選定、授業の復習
	6	調査票の解説（2）調査方法、フィールドワークの意義	同上
	7	調査票の解説（3）記入方法1	調査データの整理、授業の復習
	8	調査票の解説（4）記入方法2	同上
9	調査票の解説（5）まとめ	同上	
10	調査結果の中間報告と質疑応答（1）	同上	
11	調査結果の中間報告と質疑応答（2）	同上	
12	調査結果の中間報告と質疑応答（3）	レポートの作成	
13	調査結果の中間報告と質疑応答（4）	同上	
14	調査結果の中間報告と質疑応答（5）	同上	
15	調査結果の中間報告と質疑応答（6）	同上	
16	レポート提出	授業の振り返り	
実践	テキスト・参考文献・資料など 教科書は使用しません。教員が作成したオリジナルの資料を配布してテキストにします。参考文献は、必要に応じて講義内で適宜紹介します。		
	学びの手立て 履修の心構え ・出席日数が講義全体（15回）の3分の2に満たないばあい、原則として単位を認めません。 ・中間報告および発表の日程は、登録人数、および、授業の進みぐあいによって変わることがあります。 ・「琉球語学概論」「琉球語会話」のいずれかを受講済みか、あるいは並行して受講していることが望ましい。		
	評価 中間報告30%、発表30%、最終レポート30%、平常点（質疑応答の態度等を評価）10%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 近年琉球語への関心は高まっています。実際のフィールドワークを通して得た知識・技能のさらなる向上を目指してください。 関連科目：「琉球語学特講Ⅱ」
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	琉球語学特講Ⅱ	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-狩俣 繁久	3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	前期の授業を発展させて、受講生が自分で選んだ地域のシマクトゥバの初歩的なテキスト作りを行います。コトバの学習だけでなく、地域の地理や文化、固有の行事なども一緒に学べるような、若い人の感性を盛り込んだものを目指します。結果発表し、質疑応答の結果を踏まえてレポートとして提出します。	受講生には学期末までに10課程度のテキストを作成する課題として設定する。そのことを通して、シマクトゥバの体系性を学ぶとともに、テキスト作りの基礎を学ぶ。受講生の活動が消滅の危機に瀕しているといわれる琉球各地のシマクトゥバを継承するため何が必要かを考えてもらいたい。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>「琉球語」の定義を正確に説明することができる。</li> <li>シマクトゥバの音声や文法の基礎を身に付ける。</li> <li>シマクトゥバを調査し、その成果をまとめ、入門的なテキスト作りの方法を身に付ける。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、レポートの課題について	シラバスを読み授業に備える
	2	入門テキストの例示と解説（1）	授業の復習
	3	入門テキストの例示と解説（2）	同上
	4	入門テキストの構想発表（1）簡単な報告	同上
	5	入門テキストの構想発表（2）ブラッシュアップした構想発表	同上
	6	入門テキストの発表と質疑応答（1）	テキスト案の作成、授業の復習
	7	入門テキストの発表と質疑応答（2）	同上
8	入門テキストの発表と質疑応答（3）	同上	
9	入門テキストの発表と質疑応答（4）	同上	
10	入門テキストの発表と質疑応答（5）	同上	
11	入門テキストの発表と質疑応答（6）	同上	
12	入門テキストの発表と質疑応答（7）	同上	
13	入門テキストの発表と質疑応答（8）	レポートの作成	
14	入門テキストの発表と質疑応答（9）	同上	
15	入門テキストの発表と質疑応答（10）	同上	
16	レポート提出	授業の振り返り	
テキスト・参考文献・資料など	教科書は使用しません。教員が作成したオリジナルの資料を配布してテキストにします。参考文献は、必要に応じて講義内で適宜紹介します。		
学びの手立て	履修の心構え ・出席日数が講義全体（15回）の3分の2に満たないばあい、原則として単位を認めません。 ・中間報告および発表の日程は、登録人数、および、授業の進みぐあいによって変わることがあります。 ・「琉球語学特講Ⅰ」を受講していることが望ましい。		
評価	中間報告30%、発表30%、最終レポート30%、平常点（質疑応答の態度等を評価）10%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 近年、琉球語に対する社会的な関心、ニーズが高まっています。入門テキストの作成するという作業を通して得た言語学的な知識をさらに深めるとともに、新たな技能にも挑戦してみてください。 関連科目：「琉球語会話ⅠⅡ」
-------	---



科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	琉球語学入門	前期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	1年	研究室番号：5402 E-mail：nishioka@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 琉球語について大学一年生を対象に入門的な知識を学び、これからの琉球語学の基礎とする。	メッセージ 琉球語諸方言を学ぶためにはこれまで琉球語がどのように研究されてきたのか、その結果、どのようなことが明らかになったかを知る必要があります。その基礎的な部分を学んでいきましょう。
	到達目標 ・琉球列島の地域について地名等が正しく言える。 ・琉球語諸方言の研究者について知っている。 ・琉球語諸方言の区画について知っている。 ・琉球語諸方言で起こった音変化について説明できる。 ・琉球語諸方言の簡単な単語について知っている。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	講義準備
	2	琉球諸語の区画—総説—	講義復習・区画を覚える
	3	沖縄語の他の言語との距離	講義復習・他の言語と比較する
	4	沖縄語の音声的特徴と語彙	講義復習・音声学について
	5	沖縄語の助詞（主格・連体格・対格）	講義復習・助詞について
	6	沖縄語の助詞（与格・具格・処格）	講義復習・助詞について
	7	沖縄語の「ヤ」が付くときの音変化	講義復習・音変化について
	8	沖縄語の動詞の活用（終止形・連体形・テ形）	講義復習・動詞活用について
	9	沖縄語の動詞の活用（中止形・過去形）	講義復習・動詞活用について
	10	沖縄語の形容詞	講義復習・形容詞活用について
	11	沖縄語の地域差	講義復習・各地域の特徴を知る
	12	屋取集落の言語	講義復習・各地域の特徴を知る
	13	沖縄古語：おもろさうしの言語	講義復習・オモロについて
	14	沖縄古語：琉歌と組踊	講義復習・沖縄近世語について
	15	近代における沖縄語	講義復習・近代の沖縄語について
	16	期末試験	関連文献読書
	テキスト・参考文献・資料など 西岡敏・仲原穰、伊狩典子・中島由美〔協力〕『沖縄語の入門』（白水社） 沖縄大学地域研究所〔編〕『琉球諸語の復興』（芙蓉書房出版） 波照間永吉〔監修〕『新編 沖縄の文学』（沖縄時事出版）		
	学びの手立て オンラインにおける出席申告の日数が3分の2に満たない者は原則として単位を与えない。 LMS（学習管理システム）としてMoodleを使用する。 琉球語のみならず、琉球の歴史・文学・芸能などについても関心を持ってほしい。		
	評価 期末試験（70%）、平常点（30%）によって評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 琉球文化論（1年次）、琉球語学概論（2年次）、琉球語会話Ⅰ・Ⅱ（2年次）、琉球語学特講（3年次）。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	琉球文化特別講義	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-島村 幸一	2年	授業終了後に受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>歌謡を中心に、村落の文学と王府の文学から成り立つ琉球文学を講義します。村落の神歌の特徴は、神話が散文としてではなくウタとしてあることです。それを奄美から宮古の事例で論じます。次に、『おもろさうし』を中心にする王府の文学を講義して、オモロの特徴、また村落のウタとも繋がるオモロの表現を講義していきます。琉球文学はウタが豊富にあることが特徴です。</p>	<p>私（島村）は本土の大学で琉球文学を講じている者です。73年から6年間沖縄に住み大学で学びました。沖縄は大きく変化していると感じます。授業の合間には私が暮らしていた当時の沖縄と現在の沖縄との違い、あるいは変わらないもの等の話しができればと思います。</p>
到達目標	琉球文学お概要とその特徴が理解できるようになる。特に、琉球文学の特徴である神話がウタとしてある村落のウタの特徴と王府の文学である『おもろさうし』の特徴がわかるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	琉球文化、琉球文学の範囲・概要	配布資料1 琉球文学
	2	語られる神話 奄美シャーマンの呪詞	配布資料2 オモイ松金
	3	語られる神話 奄美シャーマンの呪詞	配布資料3 シマ建てしんご
	4	語られる神話 村落（沖縄本島）の神歌	配布資料4 シバサシのウムイ
	5	語られる神話 村落（沖縄本島）の神歌	配布資料5 たきねーいぬうむい
	6	語られる神話 村落（宮古島狩俣）の神歌	配布資料6 狩俣の神歌、タービ
	7	語られる神話 村落（宮古島狩俣）の神歌	配布資料7 狩俣の神歌フサ
	8	琉球王府の文学『おもろさうし』	教科書P 1 2 9から1 3 5
	9	琉球王府の文学『おもろさうし』	教科書P 9から7、1 2から2 1
	10	琉球王府の文学『おもろさうし』	教科書P 2 2から2 9
	11	琉球王府の文学『おもろさうし』	教科書P 3 0から3 9
	12	琉球王府の文学『おもろさうし』	教科書P 4 0から4 7
	13	琉球王府の文学『おもろさうし』	教科書P 7 6から8 5
	14	琉球王府の文学『おもろさうし』	教科書P 8 6から8 9
15	まとめ	配布資料と教科書のまとめ	
16	試験		

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>島村幸一『コレクション日本歌人選 おもろさうし』笠間書院、2012年、1200円を教科書にします。事前に購入してください。</p>
-------	--

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>①履修の心構えについて。琉球文化・文学に関心を持つ意欲のある受講生を望みます。遅刻については、15分を越えた場合は欠席扱いになります。</p> <p>②学びを深めるためには、事前に指定した教科書を一通り読んでおいて下さい。そして、授業内容に関する質問を積極的にしてください。</p>
-------	--

学びの実践	<p>評価</p> <p>集中講義終了後の試験60%、出席、質問等の授業に取り組む姿勢40%</p>
-------	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目、上位科目は「琉球文学概論」「琉球芸能史」「琉球文学を読むⅠ」「琉球文学を読むⅡ」「琉球文学特講」です。</p> <p>(2) 次のステージは、さらに琉球文学を日本文学との関連で位置付けるための科目の履修を望みます。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	琉球文化論	前期	月4	2
	担当者 我部 大和	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1年	h.gabu★okiu.ac.jp (★を@に変更してください)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>琉球・沖縄の言語文化においては、昔話・伝説・歌謡・芸能・舞踊・演劇などが生まれました。こうした琉球・沖縄の言語文化は如何にして形成されたのでしょうか。歴史的な背景や様々な地域の民俗などを関連づけながら講義します。琉球・沖縄の言語文化とその周縁にある歴史・民俗などに関する基礎的な知識を習得できるようにしましょう。</p>	<p>琉球・沖縄の言語文化においては、史料や文献などが残されていません。また、歌謡や芸能・演劇などは沖縄本島のみならず様々な地域で見られます。本講義では歴史史料や文献などから、そうした琉球・沖縄の文化を紹介します。また、映像資料なども「見る」、時には動きや所作などを「体感する」ことも行います。琉球文化を言語・歴史・地域の民俗など多様な視点から考えていきましょう。</p>
	到達目標	
	<p>①琉球・沖縄の言語文化に関する特徴などの基礎的な内容を理解できるようになる。 ②琉球・沖縄の言語文化について琉球王国時代の歴史的背景や各地域の民俗などを関連づけながら体系的に理解することができるようになる。 ③琉球・沖縄の言語文化について自らの言葉でその特徴などを説明できるようになる。 ④琉球・沖縄の言語文化について積極的に調べた上で考察し、それをさらに自らの言葉で表現できるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	琉球史と文化について調べる
	2	昔話	沖縄の昔話について調べる
	3	伝説・神話	沖縄の伝説・神話について調べる
	4	歌謡①（儀礼でのウタ）	沖縄の呪禱歌謡について調べる
	5	歌謡②（儀礼や日常で歌われるウタ）	沖縄の叙事歌謡について調べる
	6	琉球王国時代に編纂された歌謡集『おもろさうし』	『おもろさうし』の特徴を調べる
	7	琉歌	琉歌の句や音数律について調べる
	8	中間試験	琉球古典音楽と沖縄民謡を調べる
	9	琉球・沖縄の音楽（古典音楽・民謡）	老人踊と若衆踊を観てみよう
	10	琉球舞踊①（老人踊・若衆踊）	女踊と二歳踊を観てみよう
	11	琉球舞踊②（女踊・二歳踊）	雑踊とは何か調べよう
	12	琉球舞踊③（雑踊）	組踊の作品について調べよう
	13	組踊	沖縄の狂言について調べよう
	14	狂言	沖縄芝居とは何か調べてみよう
15	沖縄芝居	これまでの講義の整理	
16			

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：講義は講義資料に基づいて進める。適宜、資料などを配付します。</p> <p>参考書：外間守善『沖縄の歴史と文化』中央公論新社、1986年、700円＋税。三隅治雄『原日本・沖縄の民俗と芸能史』沖縄タイムス社、2011年など、講義中にも適宜参考文献を紹介します。</p>
-------	---

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>①「履修の心構え」 ・欠席回数が授業回数の3分の1を超えた場合、単位は認めません。・毎回RPを配付します。 ・講義終了後にRP提出することで出席とします。・RPの記入内容も評価の対象です。</p> <p>②「学びを深めるために」 ・本講義は理解度が重要です。講義中に疑問点や不明な点に関して、終了後に質問するかRPに書いてください。 次回講義中あるいはリアクションペーパー内などで回答します。 ・積極的に琉球・沖縄の歴史・民俗・言語なども学んでほしいです。</p>
-------	---

学びの実践	<p>評価</p> <p>・RPの記載内容（40%）（講義メモの記入内容や質問事項など）主に到達目標①・②に対する評価 ・中間試験（20%）主に到達目標③・④に対する評価 ・期末レポート（40%）主に到達目標③・④に対する評価</p>
-------	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「琉球文学」について深く学びたい場合は「琉球文学概論」</li> <li>・『おもろさうし』に興味・関心がありより深く学びたい場合は「琉球文学を読むⅠ・Ⅱ」</li> <li>・「組踊」の歴史・表現・技術に興味・関心があり深く学びたい場合は「琉球文学特講Ⅰ・Ⅱ」</li> </ul>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	琉球文学概論	後期	木 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	我部 大和	2年	h.gabu★okiu.ac.jp ★を@に変えてください。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では、琉球文学にはどのようなものがあるか。どのように関連しているかを考える内容である。琉球文学は、祭祀歌謡やオモロなどがあり、それぞれが様々な要素をはらんで連関している。これらのジャンルがどのような構造や内容が歌われているのかなども含めて一緒に考え、学ぶものである。	「琉球文学」ってなんか遠いイメージがもたれているかもしれませんが。まずは、琉球文学とはどのようなジャンルがあるのか。そしてどのような作品があるのかを講義していきます。一緒に学んでいきましょう！
到達目標	①琉球文学のジャンルについて、どのようなものがあるかを理解することが出来る。 ②琉球文化の各ジャンルについて、どのような作品があり、それぞれどのように関係しているかを理解することができる。 ③①・②の理解を整理し、自ら考えて文章化し説明することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	呪禱歌謡とは何か調べよう
	2	祭祀歌謡①（呪禱歌謡）	叙事歌謡とは何か調べよう
	3	祭祀歌謡②（叙事歌謡）	首里とオモロの関わりを考えよう
	4	おもろ①（オモロの概説）	地方とオモロの関わりを考えよう
	5	おもろ②（王府オモロ・地方オモロ・特殊オモロ）	琉歌とは何か調べよう
	6	琉歌①（四季と琉歌）	琉歌の恋歌について調べよう
	7	琉歌②（恋と琉歌）	中間試験の準備
	8	中間試験	琉球の開闢神話について調べよう
	9	説話文学（琉球における開闢神話）	玉城朝薫について調べよう
	10	組踊①（朝薫五番・組踊観賞）	田里朝直について調べよう
	11	組踊②（田里朝直以降の組踊と現在）	琉球歌劇について調べよう
	12	沖縄芝居①（琉球歌劇・方言せりふ劇）	方言せりふ劇について調べよう
	13	沖縄芝居②（沖縄芝居のビデオ鑑賞）	琉球と漢文学について調べよう
14	琉球漢文学	琉球と和文学について調べよう	
15	琉球和文学	これまでの講義の整理	
16	期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	参考書：高教組教育資料センター編 波照間永吉監修『新編 沖縄の文学』沖縄時事出版、2008年。 (初心者向けのテキストですのでかなりおすすめです。) その他、適宜、講義資料等で紹介します。		
学びの手立て	【履修上の注意】 ①出席数が2/3に満たない者は「不可」といたします。(欠席する際は事前に連絡するようお願いします。) ②毎回配布するRPの記載内容などからどのように講義に参加したかを評価します。 【学びを深めるために】 ★琉球文学のみならず、琉球・沖縄の言語・歴史・民俗などで多角的に知ることを心がけましょう。 ★可能であれば、「琉球芸能史」と同時履修することをおすすめします。		
評価	・平常点 (40%) (毎回の課題内容の提出、講義の理解度と参加度) 到達目標①・② ・中間試験 (20%) 到達目標③に対する評価 ・期末試験 (40%) 到達目標③に対する評価		

学びの継続	次のステージ・関連科目 おもろについて専門的に深めたい方は「琉球文学を読むⅠ・Ⅱ」 組踊について深く学びたい方は「琉球文学特講Ⅰ・Ⅱ」
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	琉球文学特講 I	前期	水 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮城 茂雄	3年	ptt566@oku.ac.jp	

学びの準備	ねらい 琉球文学において戯曲として位置づけられる組踊は、玉城朝薫によって創作され以後多くの作品が誕生した。また、現在まで上演され続けている琉球芸能の一つでもある。本講義では、組踊の表現をさまざまな視点から理解することを目的とする。	メッセージ 組踊は、琉球時代の思想や風景が描かれています。琉球語の音の響きや、セリフや歌、所作に込められた琉球の人々の思いを、皆で考えていきたいと思えます。
	到達目標 ①組踊の誕生、その歴史を理解する。②組踊の表現方法（セリフ・歌・所作・衣装・楽器・舞台演出方法など）を理解する。③組踊や琉歌の表記法を理解し、声に出してすらすらと音読できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	ガイドダンス	シラバスを読む
	2	組踊の誕生と歴史	組踊誕生の歴史背景について
	3	組踊の表現「せりふ・音楽・所作」	せりふや歌、所作について理解
	4	作品研究「執心鐘入」①映像鑑賞・音読担当割振り	音読の自主練習
	5	「執心鐘入」②台本講読・音読発表	執心鐘入の内容理解
	6	「執心鐘入」③台本講読・音読発表	同上
	7	「執心鐘入」④台本講読	同上
	8	衣装小道具解説、組踊の演技体験	衣装や小道具、演技について理解
	9	「二童敵討」①映像鑑賞・音読担当割振り	音読の自主練習
	10	「二童敵討」②台本講読・音読発表	二童敵討の内容理解
	11	「二童敵討」③台本講読・音読発表	同上
	12	「花売の縁」①映像鑑賞・音読割振り	音読の自主練習
	13	「花売の縁」②台本講読・音読発表	花売の縁の内容理解
	14	「花売の縁」③台本講読・音読発表	同上
15	「花売の縁」④台本講読	同上	
16	試験	試験の振り返り	
実践	テキスト・参考文献・資料など 教科書は指定しません。解説プリントや台本を配布します。		
	学びの手立て 受講にあたって、以下を注意してください。①組踊の詞章（せりふや歌）を音読します。②板書のほかに口頭での解説も多くなります。各自ノートやプリントに記録してください。③組踊の映像鑑賞を予定しています。④組踊についてのレポートを予定しています。		
	評価 学期末課題60%、課題レポート20%、せりふ音読等の授業参加度20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ユネスコの世界無形文化遺産としても注目されている「組踊」に関心を持ち、琉球文学及び琉球芸能の研究に役立てる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	琉球文学特講Ⅱ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮城 茂雄	3年	ptt566@okiu.ac.jp 授業終了後教室でも受け付けます	

学びの準備	ねらい 琉球文学において戯曲として位置づけられる組踊は、玉城朝薫によって創作され以後多くの作品が誕生した。また、現在まで上演され続けている琉球芸能の一つでもある。本講義では、「琉球文学特講Ⅰ」に続いて、組踊の表現をさまざまな視点から理解することを目的とする。	メッセージ 組踊は、琉球時代の思想や風景が描かれています。琉球語の音の持つ魅力や、セリフや歌に込められた琉球の人々の思いを、皆で考えていきたいと思ひます。
	到達目標 ①組踊の誕生、その歴史を理解する。②組踊の表現方法（セリフ・歌・所作・衣装・楽器・舞台演出方法など）を理解する。③組踊や琉歌の表記法を理解し、声に出してすらすらと音読できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスを読む
	2	組踊の誕生と歴史	組踊の歴史を理解
	3	組踊の表現「せりふ・音楽・所作」	セリフや歌、所作の表現方法を理解
	4	作品研究「銘苺子①」映像鑑賞・音読担当割り振り	音読の自主練習
	5	「銘苺子」②台本講読・音読発表	銘苺子の内容理解
	6	「銘苺子」③台本講読・音読発表	同上
	7	「銘苺子」④台本講読	同上
	8	「万歳敵討」①映像鑑賞・音読担当割り振り	音読の自主練習
	9	「万歳敵討」②台本講読・音読発表	万歳敵討の内容理解
	10	「万歳敵討」③台本講読・音読発表	同上
	11	「雪払い」①映像鑑賞・音読担当割り振り	音読の自主練習
	12	「雪払い」②台本講読・音読	雪払いの内容理解
	13	「雪払い」③台本講読・音読	同上
	14	「雪払い」④台本講読	同上
15	まとめ	上記3作品のまとめ	
16	試験	試験の振り返り	
テキスト・参考文献・資料など 教科書は指定しません。台本や資料を配布します。			
学びの手立て 受講にあたって、以下を注意してください。①組踊の詞章（せりふ・歌）を音読します。②板書にあわせて口頭での解説も多くなります。各自ノートやプリントに記録してください。③組踊の映像鑑賞を予定しています。④組踊のレポートを予定しています。			
評価 試験60%・レポート20%・せりふ音読等の授業参加度20%			

学びの継続	次のステージ・関連科目 ユネスコの世界無形文化遺産としても注目されている「組踊」に関心を持ち、琉球文学及び琉球芸能の研究に役立てる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	琉球文学を読むⅠ	前期	金3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-仲原 伸子	2年	授業終了後に教室で受け付ける	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、琉球文学の中から『おもろさうし』を取り上げる。『おもろさうし』は首里王府によって編纂された沖縄最古の神歌集である。各巻の代表するオモロを取り上げ、『おもろさうし』の基礎知識やオモロの世界観を学び、オモロを鑑賞する。</p>	<p>「オモロ」という言葉は一般的になってきたが、実際にその意味内容を知らない人がほとんどだと思ふ。琉球文学の中でもとりわけ重要である『おもろさうし』に触れて興味を持ってほしい。</p>
到達目標	『おもろさうし』の基礎知識と世界観を学び、最終的には自分でオモロを調べて理解することができるようにする。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	琉球文学の中の『おもろさうし』	配付資料の読み返し
	2	『おもろさうし』概説「『おもろさうし』への誘い」①	〃
	3	『おもろさうし』概説「『おもろさうし』への誘い」②	〃
	4	『おもろさうし』概説「『おもろさうし』への誘い」③	〃
	5	『おもろさうし』概説「『おもろさうし』への誘い」④	〃
	6	オモロ鑑賞①	〃
	7	オモロ鑑賞②	〃
8	オモロ鑑賞③	〃	
9	オモロ鑑賞④	〃	
10	オモロ鑑賞⑤	〃	
11	オモロ鑑賞⑥	〃	
12	オモロ鑑賞⑦	〃	
13	オモロ鑑賞⑧	〃	
14	オモロ鑑賞⑨	〃	
15	王府おもろ「五曲六節」	〃	
16	期末試験（レポート）		
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト：なし。プリントを配布する。 参考文献：『おもろさうし』上・下（外間守善校注・ワイド版岩波文庫・2015年）、『琉球の歴史と文化－『おもろさうし』の世界－』（波照間永吉編・角川選書・2007年）、『おもろと琉歌の世界－交響する琉球文学－』（嘉手苺千鶴子・森話社・2003年）</p>		
学びの手立て	<p>・毎回出席を取るの遅刻した者は授業終了後に必ず申し出ること。欠席した者は後日欠席届を提出すること。</p>		
評価	出席状況（30%）、期末試験（レポート70%）		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「琉球文学を読むⅠ」で基礎知識を学んだ後に「琉球文学を読むⅡ」を受講しオモロの世界観を深めてほしい。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	琉球文学を読むⅡ	後期	金3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-仲原 伸子	2年	授業終了後に教室で受け付ける	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、琉球文学の中から『おもろさうし』を取り上げる。『おもろさうし』は首里王府によって編纂された沖縄最古の神歌集である。各巻の代表するオモロを取り上げ、『おもろさうし』の基礎知識やオモロの世界観を学び、オモロを鑑賞する。</p>	<p>「オモロ」という言葉は一般的になってきたが、実際にその意味内容を知らない人がほとんどだと思ふ。琉球文学の中でもとりわけ重要である『おもろさうし』に触れて興味を持ってほしい。</p>
到達目標	『おもろさうし』の基礎知識と世界観を学び、最終的には自分でオモロを調べて理解することができるようにする。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	琉球文学の中の『おもろさうし』	配付資料の読み返し
	2	琉球文学への誘いー『おもろさうし』の魅力①	嘉手苺2003 : p. 86~88
	3	琉球文学への誘いー『おもろさうし』の魅力②	嘉手苺2003 : p. 89~95
	4	琉球文学への誘いー『おもろさうし』の魅力③	嘉手苺2003 : p. 95~103
	5	琉球文学への誘いー『おもろさうし』の魅力④	嘉手苺2003 : p. 104~111
	6	オモロ鑑賞①	配付資料の読み返し
	7	オモロ鑑賞②	〃
8	オモロ鑑賞③	〃	
9	オモロ鑑賞④	〃	
10	オモロ鑑賞⑤	〃	
11	オモロ鑑賞⑥	〃	
12	オモロ鑑賞⑦	〃	
13	オモロ鑑賞⑧	〃	
14	オモロ鑑賞⑨	〃	
15	王府おもろ「五曲六節」	〃	
16	期末試験（レポート）		
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト：なし。プリントを配布する。                  参考文献：『おもろさうし』上・下（外間守善・ワイド版岩波文庫・2015年）、『琉球の歴史と文化ー『おもろさうし』の世界』（波照間永吉編・角川書店・2007年）、『おもろと琉歌の世界ー交響する琉球文学』（嘉手苺千鶴子・森話社・2003年）、その他講義内で紹介する。</p>		
学びの手立て	<p>・毎回出席を取るので遅刻した者は授業終了後に必ず申し出ること。欠席した者は後日欠席届を提出すること。</p>		
評価	出席状況（30%）、期末試験（レポート70%）		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「琉球文学を読むⅠ」で基礎知識を学んだ後に「琉球文学を読むⅡ」を受講しオモロの世界観を深めてほしい。</p>
-------	--